令和６年度

紀伊風土記の丘年報

第52号

目　　次

Ⅰ　施設の概要　・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　博物館活動　・・・・・・・・・・・　2
　１　展示　・・・・・・・・・・・　2
　２　普及活動　・・・・・・・・・・・　15
　３　研修・実習等　・・・・・・・・・・・　18
　４　広報活動　・・・・・・・・・・・　23
　５　ボランティア活動　・・・・・・・・・・・　24
　６　管理運営・環境整備　・・・・・・・・・・・　26
　７　特別史跡岩橋千塚古墳群保存修理事業　・・・・・・・・・・・　27
　　（１）保存修理事業
　　（２）調査報告
　８　紀伊風土記の丘再編整備　・・・・・・・・・・・　34

Ⅲ　入館者の動向　・・・・・・・・・・・　37

Ⅳ　紀伊風土記の丘協議会　・・・・・・・・・・・　38

Ⅴ　調査・研究　・・・・・・・・・・・　39

Ⅰ　施設の概要

当館は、特別史跡「岩橋千塚古墳群」の保全と公開活用を図るため、1971 年（昭和 46）８月１日に設置された、県立の考古・民俗系博物館施設である（登録博物館 1972 年（昭和 47）６月 20 日）。総面積 672,988 ㎡（特別史跡 629,944 ㎡）の園内には、約 500 基の古墳や移築民家、万葉植物園、資料館などを整備している（令和６年３月 31 日段階）。

①古墳群

園内には約 500 基の古墳が分布している。石棚と石梁のある特徴的な構造を持った横穴式石室や、竪穴式石室、箱式石棺など 14 基の古墳の内部施設を見学できるように公開している。園内は、幹線園路と散策路をともなっており、自然に触れながら文化財に親しめるよう整備している。特別史跡の面積は 629,944 ㎡（令和６年３月 31 日時点）、管理団体は和歌山県である。

②移築民家

園内には県内各地より移築された重要文化財「旧柳川家住宅　主屋・同前蔵」及び「旧谷山家住宅」、県指定有形文化財「旧谷村まつ氏住宅」及び「旧小早川梅吉氏住宅」を保存・公開展示している。重要文化財２件は日時を定めて床上の公開やイベント等を実施、県指定有形文化財の２件は体験学習の場として活用し、茅葺屋根の保全のため日常的にカマドやイロリを使った燻蒸を実施している。

③和船収蔵施設

館蔵の県指定有形民俗文化財「日高地域の地曳網漁用具及び和船」の一部は、屋外の和船収蔵施設で保存展示し、その他の有形民俗資料や文献史料は資料館内収蔵庫にて保管（非公開）している。

④万葉植物園

万葉植物を中心とした植物園で、紀伊国と関連ある四季折々の万葉植物が鑑賞できる。万葉集に歌われた約 170 種の植物のうち約 80 種を植栽し公開している。敷地面積は 1,650 ㎡、万葉歌碑５基を設置している。

⑤復元竪穴住居

和歌山市鳴神の音浦遺跡で検出された古墳時代の竪穴住居跡をモデルに平成８年に復元し、古代体験学習の場として活用している。木造茅葺で、面積は 23.40 ㎡である。

⑥資料館

弥生時代の高床倉庫をイメージして建てられた資料館では、岩橋千塚古墳群や県内で出土した遺物を中心に考古資料及び民俗資料を常設展示し、季節ごとに開催する企画展・特別展で考古学・民俗学に関するテーマ展示を実施している。また、モノづくり体験などの体験学習の場としても供している。鉄筋コンクリート平屋一部地階で、延面積 1,592.50 ㎡（展示室面積 517.6 ㎡）である。

紀伊風土記の丘に関連する指定文化財　一覧

特別史跡	岩橋千塚古墳群	面積　629,944 ㎡		
重要文化財	旧柳川家住宅　主屋	木造瓦葺２階建	131.7 ㎡	海南市内より移築
	前蔵	木造瓦葺２階建	62.5 ㎡	
	旧谷山家住宅　主屋	木造瓦葺２階建	89.25 ㎡	海南市内より移築
	倉部分	木造瓦葺平屋建	19.2 ㎡	
	和歌山県大日山 35 号墳出土品　一括			大日山 35 号墳より出土
県指定有形文化財	旧谷村まつ氏住宅	木造瓦葺平屋建	62.2 ㎡	有田川町内より移築
	旧小早川梅吉氏住宅	木造瓦葺平屋建	38.4 ㎡	日高川町内より移築
	有本銅鐸	１点		和歌山市内より出土
	小松原銅鐸	１点		御坊市内より出土
	立野遺跡出土品	532 点		すさみ町内より出土
県指定有形民俗文化財	日高地域の地曳網漁用具及び和船　用具 87 点　文献資料３点　和船１艘			日高町内より寄贈
	保田紙の製作用具	用具 54 点		有田川町内より寄贈

Ⅱ　博物館活動

１　展示

（１）企画展および特別展

①春期企画展「黒江・商家のくらしと漆器」

期　　間：令和６年３月 16 日（土）～６月１６日（日）

会　　期：80 日

内　　容：海南市黒江は、江戸時代の初期から職人や商人が集まり、紀州藩の保護を得て渋地椀や折敷などの漆器を盛んに製造した。黒江塗は、庶民が日常生活で手軽に使える器を大量に生産したことを特色とし、そのため黒江では一つの町の中でさまざまな職人が漆器づくりの工程を分業した。また、漆器問屋など商人が海を通じて江戸や上方、四国、九州などに広範囲に販路を開拓し、さらに明治時代以降には、海外向けの輸出漆器やライフスタイルの変化に応じた漆器を創造した。

当館には、重要文化財「旧柳川家住宅」が黒江から移築保存され、伝統的な漆器問屋の佇まいを伝えるとともに、柳川家で取り扱った商品としての漆器や、同家で実際に使用された生活用具から商家のくらしぶりを垣間見ることができる。本展覧会では、「つくる」･「あきなう」･「くらす」をテーマに、黒江の町で行われる漆器づくりの道具と製品、商家の生活用具を通じて、江戸期から昭和期にかけての黒江における仕事、商い、くらしの変遷を紹介した。

入館者数：5,340 人

昭和 30 ～ 40 年代の黒江漆器製品

椀木地製造用具

名　称	点数	時　代	内　容	所　蔵
プロローグ　　漆器のまち・黒江				
紀州雛	2	平成時代	昭和８年考案の創作雛。寺下幸四郎製	館蔵
第１章　「つくる」―黒江の漆器づくり―				
木地工程見本	6	平成 13 年：2001	芯を中心にしたタツ挽き椀木地の工程	館蔵
チョウナ	1	昭和時代	小丸太の表皮や外周部を削る	海南市立黒江小学校
押し切り	1	昭和時代	椀の台部分（コジリ）を削る	海南市立黒江小学校
カンナ	10	昭和時代	ろくろ挽きで椀を削る刃物	海南市立黒江小学校
ろくろ削り台	1	昭和時代	ろくろ挽きでカンナを支える台	海南市立黒江小学校
木地椀（半製品）	1	昭和時代	ろくろ挽きの作業途中	海南市立黒江小学校
仲間議定帳	1	文久４年：1864	椀木地仲間の取り決め事項を記す	海南市立黒江小学校
木地籠	1	昭和時代	出来あがった木地椀を運搬する竹籠	館蔵
木地椀（八十椀）	8	平成時代	八十椀の木地	館蔵
木地高杯	2	平成時代	木地の高杯。神棚にこのまま使う例も	館蔵
紀伊国名所図会	1	江戸時代	五之巻「黒江椀さいく」図	海南市立黒江小学校
ヘラ	6	昭和時代	下地固めや上塗りに用いる木ベラ	館蔵
塗師包丁	1	昭和時代	ヘラ板を削る包丁	館蔵
ツキトリ	1	昭和時代	下地の歪みを削る道具	館蔵
砥石	2	昭和時代	塗り下地を平滑にする砥石	館蔵
朴炭	1	昭和時代	上塗りのつやを出す研ぎ炭	館蔵

ヘラ（精製用）	2	昭和時代	漆の粘り具合を調整する木ベラ	館蔵
漆桶	1	明治 32 年：1899	漆を精製するための木桶	館蔵（柳川家関連資料）
漆桶	3	昭和時代	精製漆を貯蔵しておく木桶	館蔵
うるし屋看板	1	年代不詳	漆を製造・販売するうるし屋の看板	海南市立黒江小学校
くろめ鉢	1	昭和時代	生漆の水分を飛ばす大きな木鉢	海南市立黒江小学校
混ぜ櫂	3	昭和時代	生漆をかき混ぜ、粘りを均一にする櫂	海南市立黒江小学校
柄杓	1	昭和時代	精製漆を汲むための柄杓	海南市立黒江小学校
塗り工程見本	6	昭和時代	吸物椀の塗り工程（6 種類）	館蔵
敷板	6	昭和時代	小品の漆器を乾かすための板	館蔵
練り鉢	1	昭和時代	色漆を練るための木鉢	館蔵
練り棒	1	昭和時代	色漆を練るための練り棒	館蔵
定盤	1	昭和時代	塗師の作業机、箱に道具や材料を収納	館蔵
漆茶碗	2	昭和時代	使用する漆を貯めおく陶器鉢	館蔵
漆桶（蓋付）	1	昭和時代	製品の精製漆を納める木桶	海南市立黒江小学校
塗り刷毛	3	昭和時代	漆を塗る刷毛。色や形で道具を替える	館蔵
刷毛（小）	1	昭和時代	椀の高台など縁を塗る刷毛	館蔵
ツカミ	1	昭和時代	塗面に触らず椀を塗るための補助具	紀州漆器協同組合
乾燥台	2	昭和時代	皿や盆を乾かすための棚台	紀州漆器協同組合
粉箪笥　道具一式	1	昭和時代	蒔絵や青貝塗の道具や材料を収納	紀州漆器協同組合
加飾図案帳	2	大正８年：1919	蒔絵図案品評会の作品集	紀州漆器協同組合
第２章　「あきなう」―黒江漆器の製品と流通―				
帳場机	1	年代不詳	店舗で帳付けをする机	海南市立黒江小学校
帳場格子	1	年代不詳	帳場を囲う立て格子。「結界」とも	海南市立黒江小学校
銭箱	1	江戸時代	日銭を入れておく木箱	館蔵（柳川家関連資料）
算盤	1	嘉永３年：1850	5 つ玉のそろばん	館蔵（柳川家関連資料）
荷物積出帳	1	明治 31 年：1898	船積時代の漆器荷物帳面	紀州漆器協同組合
雇賃銭控帳	1	明治 30 年：1897	積出に関する雇賃の帳面	紀州漆器協同組合
八十椀（箱入）	10	明治時代	飯椀、汁椀、壷椀、平椀の 4 種	館蔵（柳川家関連資料）
木具膳	1	明治時代	黒塗りの高膳。脚は角透かし	館蔵（柳川家関連資料）
菓子椀	1	文政６年：1823	菓子器や煮物椀として使用	館蔵（柳川家関連資料）
木具膳	2	明治時代	食器を置く膳。脚は角透かし	館蔵（柳川家関連資料）
木具膳	2	明治時代	食器を置く膳。脚は松型透かし	館蔵（柳川家関連資料）
木具膳	5	明治時代	食器を置く膳。脚は猪の目透かし	館蔵（柳川家関連資料）
会席膳	2	明治 39 年：1906	会席料理を出す脚の無い黒塗膳	館蔵
丸盆	2	昭和時代	合成樹脂の塗り盆	館蔵
丸盆	2	昭和時代	合成樹脂の塗り盆	紀州漆器協同組合
丸盆（風車塗）	1	昭和時代	漆にタチウオ皮を混ぜて模様を創作	紀州漆器協同組合
スリートレイセット	1	昭和時代	海外輸出用の 3 種トレイセット	紀州漆器協同組合
茶櫃	2	昭和時代	茶器を入れておく丸櫃	紀州漆器協同組合
ポット台	1	昭和時代	ポットと茶器を収納する可動式棚	紀州漆器協同組合
第３章　「くらす」―黒江のくらしの道具―				
松竹梅蒔絵重箱	1	年代不詳	梅を中心に蒔絵を施した四段重箱	館蔵（柳川家関連資料）
七ツ入子重	7	安政５年：1858	大きさの異なる食物容器。さかえ重とも	館蔵（柳川家関連資料）
すし皿	1	天保２年：1831	肥前磁器の中皿。寿司皿に使用	館蔵（柳川家関連資料）
猫足膳	1	年代不詳	宴会用の赤塗り膳	館蔵（柳川家関連資料）
雑煮椀	1	明治時代	吸物用の塗り椀	館蔵（柳川家関連資料）
銅火鉢	1	年代不詳	来客用の銅製手火鉢	館蔵（柳川家関連資料）
燭台	1	年代不詳	銅製のロウソク立て	館蔵（柳川家関連資料）
丸行燈	1	年代不詳	燈明皿を吊るした行燈	館蔵（柳川家関連資料）
金柑絵銘々盆	20	天明８年：1788	柳川家資料最古年銘のある菓子皿	館蔵（柳川家関連資料）
煙草盆	3	嘉永６年：1853	煙管を吸うための火入れと灰落し	館蔵（柳川家関連資料）
茶道具	4	年代不詳	茶碗、棗、茶釜、蓋置	館蔵（柳川家関連資料）
弁当重	1	明治時代	青塗り、沈金を施した重箱	館蔵（柳川家関連資料）
鉄漿箱	1	江戸時代	お歯黒を施す材料と用具入れ	館蔵（柳川家関連資料）
らんびき	1	明治 23 年：1890	炭火で沸かす家庭用の蒸留器	館蔵（柳川家関連資料）
貼交ぜ棚下屏風	1	明治時代	床脇の天袋下に収まる高さの屏風	館蔵（柳川家関連資料）
エピローグ　黒江の町のうつろい				
桐下駄	1	昭和時代	男物の下駄	海南市立黒江小学校
塗り下駄	3	昭和時代	女物の塗り下駄	海南市立黒江小学校
こっぽり	1	昭和時代	娘用の塗り下駄	館蔵

②夏期企画展「和歌山フェイクアワードー考古学におけるフェイクの世界ー」

期　　間：令和６年７月 13 日（土）～９月８日（日）

会　　期：50 日

内　　容：古資料には、様々な“フェイク”＝“本物ではないもの”が作成された。フェイクには、偽物、模造品、模型、模倣品、贋作、レプリカといった様々な種類があり、それぞれの持つ意味も異なる。

フェイクの始まりは先史時代までさかのぼり、当初は祭祀の道具や身代わりであり、本物とは異なる素材で作られた。また、産業の発達とともに、陶磁器の模倣品や写しが盛んに生産された。その後、近代以降には、骨董的価値の追求から考古学の専門家たちの目を欺くほど精巧な贋作が作られ、その一部は現在も伝えられる。

一方、博物館展示や学習用教材では、理解促進やハンズオンとして利用を目的としてレプリカや模造品が用いられ、近年では復元や記録としての高精細レプリカの価値も見出されている。

展示構成は、第１章では、フェイクの歴史を示し、製作技術や製作背景について実物と比較しながら紹介した。また、第２章では、模造や３次元計測、型取り、復元などによる、最新のフェイク技術と活用事例を紹介した。展示では、さまざまなフェイクを展示し、その製作に係る技術や背景に迫るとともに、来館者の投票をもとに和歌山フェイクアワードを決定した。

フェイクアワードには､名草小学校所蔵の昭和の教材･考古資料標本が選ばれ(52 票 /462 票中)、名草小学校へは出前授業及び報告を行った。

入館者数：2,572 人

展示風景　企画展示全景

昭和の教材・考古資料標本（名草小学校蔵）

資料名	遺跡名	員数	所蔵	遺跡所在地	原品の時期
はじめに					
館長室にあった鼎・銅鐸	不明	2	不明	不明	不明
第１章　フェイクの歴史－人はなぜフェイクを作るのか -					
１）祭祀と模造品					
銅鐸形土製品	岡村遺跡	4	和歌山県教育委員会	海南市	弥生時代
鳥形土器	大日山Ⅰ遺跡	1	和歌山県教育委員会	和歌山市	古墳時代
ひしゃく形土製品	綾代遺跡	1	田辺市教育委員会	田辺市	弥生時代
ひしゃく（木製品）	立野遺跡	1	和歌山県教育委員会	すさみ町	
鏃・鏡・勾玉	崎山 20 号墳、北田井遺跡、西庄遺跡	3	和歌山県教育委員会	印南町・和歌山市	古墳時代
鏡・剣・玉の模造品	西庄遺跡	11	和歌山県教育委員会	和歌山市	古墳時代中期
	磯間岩陰遺跡	10	田辺市教育委員会	田辺市	
石包丁	北田井遺跡	2	和歌山県教育委員会	和歌山市	弥生時代
貝包丁	岩屋谷岩陰遺跡	1	田辺市教育委員会	和歌山市	
古代の祭祀具　人形・鏃形	稲成遺跡	2	和歌山県教育委員会	田辺市	奈良・平安時代
古代の祭祀具　馬形・斎串	秋月遺跡	2	和歌山県教育委員会	和歌山市	
２）模倣・模造の産業					
中国製磁器　染付皿、青磁碗・梅瓶・皿	根来寺遺跡	4	和歌山県教育委員会	岩出市	戦国時代
国産陶器　志野丸皿、瀬戸小皿／ 中国製磁器　染付皿	藤倉城跡・川関遺跡	5		那智勝浦町	

国産磁器　肥前磁器染付皿・碗、三田焼皿	和歌山城跡	3	和歌山市	和歌山市	江戸時代
和歌山産の塩の入った「堺湊」の焼塩壺	和歌山城跡	3	和歌山市	和歌山市	江戸時代
	和歌山市内表採	1	当館	和歌山市	
3）横行する贋作づくり					
縄文土器壺　亀ヶ岡式土器	不明	1	当館	不明	不明
銅鐸	伝日高地方出土	1	個人	和歌山市	不明
陶質土器　一部復元	伝花山	1	当館	和歌山市	不明
陶質土器	不明	1	当館	和歌山市	不明
陶質土器器台	不明	1	当館	不明	不明
圭頭大刀　一部復元	伝岩橋千塚古墳群	1	当館	和歌山市	不明
銅鏡　変形鏡／　滑石製臼玉	不明	2	田辺市教育委員会	和歌山市	不明
銅鏡　虺龍文鏡	伝岩橋千塚古墳群	1	和歌山大学寄託	和歌山市	不明
勾玉　一部模造	箕島２号墳（野丁古墳）	1	個人	有田市	古墳時代
4）学校教材としてのレプリカ					
戦前の郷土教育教材和歌山県師範学校旧蔵考古資料模型	各遺跡	16	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	全国	大正時代
太田・黒田遺跡出土銅鐸の兄弟銅鐸　太田・黒田遺跡出土銅鐸／レプリカ、解説文、箱	太田・黒田遺跡	8	和歌山市、和歌山市立広瀬小学校、和佐小学校、山口小学校、名草小学校	和歌山市	弥生時代・昭和50年代
昭和時代の教材考古資料標本	不明	1	和歌山市立名草小学校	和歌山市	昭和57年
第２章　博物館におけるフェイク　ーレプリカは本物を超えられるかー					
1）模造によるレプリカ					
隅田八幡神社人物画象鏡		1	当館	橋本市	古墳時代後期
鹿角製釣り針、鉄製釣り針、鹿角装剣	磯間岩陰遺跡	4	田辺市教育委員会	田辺市	古墳時代中期
馬冑、馬具	大谷古墳	4	当館、和歌山市	和歌山市	古墳時代中期
2）剥ぎ取りによるレプリカ					
土層断面剥ぎ取り	大池遺跡	2	和歌山市	和歌山市	旧石器時代
半地下式倉庫（一部）剥ぎ取り	根来寺遺跡	1	和歌山県教育委員会	岩出市	戦国時代
3）型取りによるレプリカ					
青磁皿／青磁皿型／着色前	根来寺遺跡	3	和歌山県教育委員会	岩出市	戦国時代
画文帯同向式神獣鏡／型／着色前レプリカ	和泉黄金塚古墳	3	大阪府立弥生文化博物館	和泉市	古墳時代
文字瓦（人名瓦）	大野寺土塔	2	大阪府立狭山池博物館	堺市	奈良時代
軒丸瓦／着色前レプリカ／シリコン型	根来寺遺跡	3	和歌山県教育委員会	岩出市	戦国時代
両面人物埴輪触れるパズル／シリコン型	大日山35号墳	2	当館	和歌山市	古墳時代
狭山池重源改修碑	狭山池	1	大阪府立狭山池博物館	大阪狭山市	鎌倉時代
4）３次元計測によるレプリカ					
山地銅戈	有田市山地	2	有田市教育委員会	有田市	弥生時代
佐波理鋺／佐波理鋺レプリカ／着色前	佐野寺跡	3	かつらぎ町教育委員会	かつらぎ町	平安時代
翼を広げた鳥形埴輪レプリカ	大日山35号墳	1	当館	和歌山市	古墳時代
5）復元としてのレプリカ					
縄文美人　鳴神貝塚４号人骨／人骨復元／複顔	鳴神貝塚（鳴神Ⅳ遺跡）	3	和歌山市／和歌山市立博物館	和歌山市	縄文時代
弥生犬　亀井１号犬「海渡」／骨格レプリカ	亀井遺跡	2	大阪府立弥生文化博物館	八尾市	弥生時代
鴟尾／鴟尾レプリカ	佐野寺跡	2	個人	かつらぎ町	平安時代
6）記録としてのレプリカ					
通論考古学		2	当館		大正11年
佐山伝衛門所蔵銅鐸	不明	1	高山寺	不明	弥生時代
小松原銅鐸	御坊市小松原	1	和歌山県教育委員会	御坊市	弥生時代
牛馬童子レプリカ／牛馬童子頭部／着色前レプリカ	熊野参詣道中辺路	3	田辺市教育委員会／和歌山県立博物館	田辺市	明治時代
おわりに					
勾玉と図面	不明	2	田辺市教育委員会／個人	不明	不明

③秋期特別展「数多の古墳を築くー群集墳からよむ古墳時代ー」

期　　間：令和６年 10 月５日（土）～ 12 月８日（日）

会　　期：56 日

内　　容：岩橋千塚古墳群は、和歌山平野東部に位置する岩橋丘陵に築かれた国内有数の大規模群集墳である。４世紀末から７世紀まで総数約 900 基が築造され、大型前方後円墳の周辺に多数の小型円墳などが累々と築かれる群集墳の景観は、６世紀に形成された。

近畿地方では６・７世紀に、畿内型横穴式石室などを埋葬施設とする約 100 基から 1000 基以上の小型円墳が密集して、大規模群集墳が形成されるが、これらは中間層の人びとが力を伸ばしたことや、ヤマト王権が地域支配を強化したことを背景に出現したとする見解が示されている。

本展では、岩橋千塚古墳群とともに、６・７世紀に近畿地方各地で成立した大規模群集墳や近接して立地する大型古墳を紹介し、古墳時代後半期に群集墳が出現した歴史的背景と和歌山県域の特色を考古資料から探った。

入館者数　3,662 人

平林古墳出土品展示風景

岩橋千塚古墳群出土品展示風景

一須賀古墳群出土品展示風景

遺跡名	資料名	所蔵・保管	市町村	時代
第１章　数多の古墳を築く				
ホリノヲ２号墳	水晶製勾玉・天河石製勾玉・ガラス小玉・水晶製切子玉	奈良県立橿原考古学研究所付属博物館	奈良県天理市	６世紀
岩屋大塚古墳	須恵器　子持器台		奈良県天理市	６世紀
龍王山 C-3 号墳	単鳳環頭大刀刀装具・辻金具・耳環		奈良県天理市	６世紀
	飾金具・須恵器　蓋杯・短頸壺・瓶・子持壺	奈良県立橿原考古学研究所	奈良県天理市	６世紀
寺口忍海古墳群 H-16 号墳	鉄鏃･鉄鉗･鉄槌･鉄床･鉄斧　鉈･刀子・U 字型鋤先（ミニチュア）	奈良県立橿原考古学研究所付属博物館	奈良県葛城市	６世紀
石光山８号墳	花弁形杏葉・鞍飾金具・碧玉製管玉・ガラス製管玉		奈良県御所市	６世紀
石光山 40 号墳	円筒埴輪		奈良県御所市	６世紀
石光山 20 号墳	U 字型鋤先		奈良県御所市	６世紀
平林古墳	須恵器　杯蓋・杯身・　有蓋高杯・器台		奈良県葛城市	６世紀
	馬具　辻金具・雲珠・心葉形杏葉・楕円形鏡板・障泥釣金具			
	画文帯四仏四獣鏡			
巨勢山 408 号墳	須恵器　壺・器台・広口壺・短頸壺	御所市教育委員会	奈良県御所市	６世紀
	ミニチュア炊飯具形土器　竈			
巨勢山 75 号墳	須恵器 杯蓋・杯身・瓶・高杯	御所市教育委員会	奈良県御所市	６世紀
	土師器　高杯			
	剣菱形杏葉			
條ウル神古墳	須恵器　高杯	御所市教育委員会	奈良県御所市	６世紀
	石棺石材			

大石古墳	鍔付大刀　銀象嵌鍔　馬具　鞍	八尾市立歴史民俗博物館	大阪府八尾市	6 世紀
	須恵器　配像高杯形器台・有蓋高坏・瓶			
郡川 16 号墳	須恵器　杯蓋、ミニチュア炊飯具形土器　鍋・竈、韓式系土器平底鉢、土師器　甕、耳環【八尾市指定文化財】	八尾市立歴史民俗博物館	大阪府八尾市	6 世紀
郡川西塚古墳	円筒埴輪、家形埴輪、須恵器杯身	八尾市	大阪府八尾市	6 世紀
郡川東塚古墳	須恵器　杯身・杯蓋	八尾市	大阪府八尾市	6 世紀
	円筒埴輪			
一須賀古墳群 I 支群 6 号墳	須恵器　脚付有蓋壺・耳付有蓋短頸壺・短頸壺	大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府南河内郡河南町・太子町	6 世紀
一須賀古墳群 I 支群 19 号墳	須恵器　広口壺		大阪府南河内郡河南町・太子町	6 世紀
	ミニチュア炊飯具形土器　甕・鉢・竈・甑			
	銀製釵子			
一須賀古墳群 WA 支群 6 号墳	須恵器　子持器台・杯身・脚付有蓋壺・装飾付須恵器蓋		大阪府南河内郡河南町・太子町	6 世紀
	ミニチュア炊飯具形土器　甕・竈・甑			
一須賀古墳群 A 支群 9 号墳	須恵器　子持器台・高杯・台付長頸壺		大阪府南河内郡河南町・太子町	6 世紀
平尾山古墳群平野・大県第 10 支群 1 号墳	須恵器　子持器台・高杯	柏原市立歴史資料館	大阪府柏原市	6 世紀
	土師器　台付椀			
	ミニチュア炊飯具形土器　甕・鉢・鍋・竈・甑			
	銀製指輪			
第２章　岩橋千塚と紀伊の群集墳				
花山 45 号墳	須恵器　有蓋高杯・蓋杯	和歌山市	和歌山市	5 世紀末
	鶏形埴輪			
大谷山 6 号墳	円筒埴輪　馬形埴輪	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	須恵器　壺・蓋杯・器台			
	土師器　杯			
大谷山 28 号墳	円筒埴輪　土師器　壺	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	須恵器　瓶・蓋杯			
花山 6 号墳	鶏形埴輪	和歌山市	和歌山市	6 世紀
	ガラス製小玉・碧玉製管玉・金製空玉・銀製垂飾			
花山 33 号墳	馬具　鉸具・引手・銜　鉄鉾	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	ガラス製管玉・碧玉製管玉			
井辺前山 36 号墳	馬具　轡	和歌山市	和歌山市	6 世紀
	鉄鏃			
大谷山 22 号墳	須恵器　台付壺・有蓋高杯・蓋杯	和歌山市	和歌山市	6 世紀
	双脚輪状文形埴輪　鶏形埴輪　人物埴輪に装着された胡籙　人物埴輪に装着された靫			
	馬具　剣菱形杏葉			
	装飾付須恵器　小像	和歌山県教育委員会		
	円筒埴輪			
大日山 35 号墳	巫女埴輪【重要文化財】	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	双脚輪状文形冠帽を被った男子埴輪【重要文化財】			
	武人埴輪【重要文化財】			
	両面人物埴輪（複製品）			
	装飾付須恵器　小像	和歌山県教育委員会		
	ガラス製丸玉・銀製空玉・梔子玉・碧玉製平玉・管玉			
大日山 43 号墳	円筒埴輪	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	鉄刀　刀子　鋤先			
大日山 1 号墳	大刀形埴輪	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀

大日山 70 号墳	陶質土器　壺　須恵器　壺・短頸壺・蓋杯	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	鉄刀・鍛冶具・鉄斧・鉄鏃			
前山 A58 号墳	石見型埴輪・円筒埴輪・人物埴輪	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	土師器　小型壺			
	須恵器　蓋杯・壺・蓋			
	鉄鏃　砥石　玉類　馬具　轡			
井辺前山 6 号墳	馬具　雲珠・杏葉	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	ガラス製勾玉　碧玉製管玉　ガラス製小玉　丸玉（トンボ玉）			
井辺八幡山古墳	双脚輪状文形埴輪･人物埴輪（角杯を背負う人物）・円筒埴輪	和歌山市蔵・同志社大学歴史資料館保管	和歌山市	6 世紀
	須恵器　配像高坏形器台・配像耳杯・装飾付壺			
	須恵器　有蓋高杯・無蓋高杯・蓋坏	和歌山市		
天王塚古墳	ガラス製丸玉・小玉・粟玉	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	滑石製臼玉・瑪瑙製切子玉・銀製空玉・銀製魚型歩揺・胡籙金具・鉄鏃・新羅系土器・装飾付須恵器　小像			
将軍塚古墳	ガラス製丸玉・小玉・水晶製平玉・銀環	和歌山市	和歌山市	6 世紀
寺内 18 号墳	須恵器　器台	和歌山市	和歌山市	6 世紀
	鉄鎌			
寺内 18 号墳	滑石製勾玉（後円部石室出土）・碧玉製管玉（前方部石室玄室出土）			
前山 A46 墳	新羅系陶質土器　有蓋高杯	和歌山市	和歌山市	6 世紀
前山 B101 号墳（竪穴式石室出土）	須恵器　蓋杯・壺　鉄鏃・刀子	和歌山市	和歌山市	6 世紀
前山 B101 号墳（横穴式石室出土）	須恵器　台付長頸壺・蓋杯・短頸壺	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	土師器　杯			
	鉇・鉄鏃・碧玉製管玉・水晶製切子玉			
前山 B220 号墳	ガラス製小玉　土製丸玉	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	玉類（ガラス製丸玉・ガラス製管玉・重層ガラス玉・滑石製臼玉）			
山東 22 号墳	鍔付大刀　銀象嵌鍔	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	鉄鏃			
	玉類（水晶製切子玉・碧玉製管玉・ガラス製小玉・丸玉（トンボ玉））			
前山 A2 号墳	土師器　坩・把手付椀・壺	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	須恵器 壺・杯蓋・短頸壺			
井辺 1 号墳	土師器　台付壺・壺	和歌山市	和歌山市	6 世紀末～ 7 世紀初頭
	須恵器 脚付長頸壺・瓻			
大谷古墳	金銅装鏡板付轡（複製品）	和歌山市（原品重要文化財文化庁）	和歌山市	5 世紀末
	鉄板飾壺鐙（複製品）			
	馬冑（複製品）			
晒山 2 号墳	須恵器　壺・有蓋短頸壺・蓋杯		和歌山市	5 世紀末～ 6 世紀初頭
	鉄斧			
	鉇			
晒山 10 号墳	水晶製三輪玉・有段空玉・ガラス製小玉	和歌山市	和歌山市	6 世紀
	須恵器　蓋杯・無蓋高杯・装飾付須恵器（小像）			
	鞆形埴輪・男子埴輪（脚部・男性器）・家形埴輪（基部）・円筒埴輪			

鳴滝 6 号墳	砥石・鉄鎌・刀子・鎹・馬具轡	和歌山県教育委員会	和歌山市	5 世紀末
	須恵器　短頸壺			
	土師器　直口壺			
鳴滝 1 号墳	単鳳環頭大刀　刀装具	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	子持勾玉・環座金具			
	馬具　雲珠・辻金具・杏葉・引手・鏡板			
園部円山古墳	圭頭大刀　馬具　杏葉	和歌山市	和歌山市	6 世紀
明楽 4 号墳	須恵器　高杯・杯蓋	和歌山市	和歌山市	6 世紀
明楽 3 号墳	須恵器　提瓶・横瓶・壺・蓋坏	個人	和歌山市	6 世紀
	鍔付大刀・鉄刀			
明楽 5 号墳	土師器　高杯	和歌山市	和歌山市	6 世紀
	鉄刀・兵庫鎖			
小倉 8 号墳	鉄鏃	和歌山市	和歌山市	6 世紀
西庄 4 号墳	須恵器　瓶・長頸壺・提瓶	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀
	土師器　杯・製塩土器			
	玉類・棒状石製品・鉄斧			
黒土古墳	装飾付大刀・飾金具	和歌山県教育委員会	紀の川市	6 世紀
	銀製梔子玉・銀製有段空玉・耳環			
船戸山 3 号墳 2 号石室	須恵器　有蓋高杯・無蓋高杯・台付壺・蓋杯	和歌山県教育委員会	岩出市	6 世紀
	銅製・銀製釧・耳環・銀製空玉・ガラス製丸玉・土製丸玉			
	ミニチュア炊飯具形土器（甑・甕・竈）			
船戸山 3 号墳 1 号石室	馬具　辻金具・鏡板・鐙	岩出市立岩出中学校	岩出市	6 世紀
船戸山 6 号墳	ミニチュア炊飯具形土器　鍋・甕	和歌山県教育委員会	岩出市	6 世紀
	須恵器　平瓶・高杯・提瓶・蓋杯・瓶			
	銅釧　耳環			
船戸箱山古墳　5 号石室	土師器　長頸壺	和歌山県教育委員会	岩出市	6 世紀
	須恵器　装飾付壺・子持器台・有蓋台付鉢・蓋・提瓶・短頸壺・壺・無蓋高杯			
	土師器　壺・台付壺・把手付鉢・杯			
	鉄刀・刀子・刀装具・鉄鏃・鉄斧・魚形歩揺・器台形埴輪・人物埴輪			
船戸箱山古墳	瑪瑙製勾玉・碧玉製勾玉・ガラス製勾玉・水晶製切子玉	和歌山県教育委員会	岩出市	6 世紀
高尾山 2 号墳	須恵器　短頸壺	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀の川市	6 世紀
	家形埴輪			
	鉄鏃			
高尾山 4 号墳	須恵器　高杯・杯身・壺	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀の川市	6 世紀
山崎山 11 号墳	須恵器　蓋杯・瓶	和歌山県教育委員会	海南市	6 世紀
	土師器　杯			
山崎山 14 号墳	須恵器　壺・短頸壺・高杯・蓋杯	和歌山県教育委員会	海南市	6 世紀
	土製丸玉・ガラス製小玉・鉄鎌			
山崎山 1 号墳	須恵器　蓋杯	海南市教育委員会	海南市	6 世紀
	耳環・ガラス製小玉・U 字形鋤先・鉄刀・石突			
室山 5 号墳	碧玉製管玉	海南市教育委員会	海南市	6 世紀
	須恵器　壺・杯蓋・蓋			
	鉄鏃	和歌山県教育委員会		

箕島 1 号墳	須恵器　有蓋高杯・有蓋脚付短頸壺	有田市教育委員会	有田市	6 世紀
	ガラス製小玉			
	土製丸玉			
	須恵器　装飾付壺	常楽寺		
向山 4 号墳	須恵器　壺・蓋杯・提瓶	日高町教育委員会	日高町	6 世紀
	製塩土器			
	刀子・鉄鏃・鉄斧・馬具（辻金具・鏡板）			
	土製丸玉・ガラス製小玉			
吹上 2 号墳	須恵器　長頸壺・有蓋脚付壺・横瓶・無蓋高杯・短頸壺・提瓶・蓋杯	御坊市教育委員会	日高川町	6 世紀
	滑石製臼玉・ガラス製小玉・碧玉製管玉・土製丸玉・鉄刀・刀子・鉄鏃			
岩内 9 号墳	須恵器　鉢・瓶・蓋杯	御坊市教育委員会	御坊市	6 世紀
天田 28 号墳	須恵器　蓋杯	御坊市教育委員会	御坊市	6 世紀
	鎌・砥石・鑿・鉄斧・鋤先・鉄鏃			
秋葉山 1 号墳	須恵器　蓋杯・高杯・短頸壺・提瓶	御坊市教育委員会	御坊市	6 世紀
	製塩土器			
	刀子・鉄鏃・鉄刀・銀製空玉・耳環			
祓井戸 6 号墳	須恵器　長頸壺・瓶・提瓶・蓋杯	御坊市教育委員会	御坊市	6 世紀
	製塩土器・鉄刀鍔・鉄鏃・刀子			
	玉類（ガラス製小玉・碧玉製管玉・水晶製切子玉・土製丸玉）			
祓井戸 9 号墳	鉄刀	御坊市教育委員会	御坊市	6 世紀
	ガラス製小玉・水晶製切子玉			
祓井戸 17 号墳	銀環	御坊市教育委員会	御坊市	6 世紀
祓井戸 18 号墳	須恵器　高杯	御坊市教育委員会	御坊市	6 世紀
中村古墳群　内部主体 1（土坑墓）	須恵器　短頸壺・蓋杯（貝類・製塩土器片）	御坊市教育委員会	御坊市	6 世紀
	製塩土器・刀子・鉄鏃			6 世紀
中村古墳群　内部主体 3（土坑墓）	須恵器　短頸壺・蓋杯	御坊市教育委員会	御坊市	6 世紀
	製塩土器			6 世紀
	鉄鏃・刀子			6 世紀
	玉類（碧玉製管玉・水晶製切子玉）			6 世紀
崎山 14 号墳（切目崎の塚穴）	須恵器　蓋杯・提瓶・平瓶・台付鉢	印南町教育委員会	印南町	6 世紀
	碧玉製勾玉・琥珀製勾玉・水晶製切子玉・碧玉製管玉			
	耳環・鉄鏃・刀子・針状鉄製品鉄釘			
	製塩土器			
崎山 20 号墳	須恵器　蓋杯	和歌山県教育委員会	印南町	6 世紀
	鉄鎌			
オリフ古墳	須恵器　有蓋高杯・無蓋高杯・蓋杯	田辺市教育委員会	白浜町	6 世紀
	鉄鏃・刀子・鉄製釣針・耳環			
	玉類（ガラス製小玉・水晶製丸玉・碧玉製管玉）			
第３章　群集墳の時代の終焉				
三ツ塚古墳群 8 号墳	須恵器　高杯・壺・蓋杯	奈良県立橿原考古学研究所	奈良県葛城市	7 世紀
	土師器　杯			
	銙帯金具　鉸具・巡方			
平尾山古墳群雁多尾畑第 49 支群 10 号墳	須恵器　蓋杯	柏原市立歴史資料館	大阪府柏原市	7 世紀
	土師器　杯			
	鉄釘			

平尾山古墳群雁多尾畑第 49 支群 1 号墓	須恵器　骨藏器（台付短頸壺）・平瓶	柏原市立歴史資料館	大阪府柏原市	8 世紀
	土師器　杯			
	和同開珎銀銭			
大谷山 38 号墳	鉄釘	和歌山県教育委員会	和歌山市	7 世紀
	銅銭（冨壽神寶）			9 世紀
	須恵器　壺			9 世紀
寺内 32 号墳	須恵器　蓋杯	和歌山市	和歌山市	7 世紀
寺内 35 号墳	須恵器　短頸壺・蓋杯	和歌山県教育委員会	和歌山市	7 世紀
鳴滝 2 号墳	須恵器　蓋杯・短頸壺・無蓋高杯・脚付長頸壺	和歌山県教育委員会	和歌山市	6 世紀末～ 7 世紀初頭
	土師器　長頸壺			
	須恵器　蓋杯・長頸壺・骨藏器			7 世紀
鳴滝 10 号墳	須恵器　短頸壺・蓋杯	和歌山県教育委員会	和歌山市	7 世紀
	土師器　杯			
小倉 1 号墳	須恵器　蓋杯・蓋	和歌山市	和歌山市	7 世紀
	水晶製算盤玉・滑石製臼玉			
	ガラス製小玉・土製丸玉			
寺山 1 号墳	耳環	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	和歌山市	7 世紀
寺山 2 号墳	須恵器　蓋杯			
寺山 12 号墳	須恵器　杯身			
寺山 13 号墳	須恵器　短頸壺・提瓶			
寺山 14 号墳	須恵器　壺			
寺山 15 号墳	須恵器　高杯・蓋杯			
七ツ塚 8 号墳	須恵器　高杯・蓋杯	紀の川市教育委員会	紀の川市	7 世紀
具足壺 2 号墳	須恵器　蓋杯	個人	紀の川市	7 世紀
具束壺 3 号墳	須恵器　蓋杯	個人	紀の川市	7 世紀
岩内 1 号墳	銀装大刀・棺飾金具　鉄釘【和歌山県指定文化財】	御坊市教育委員会	御坊市	7 世紀
後口谷 1 号墳	須恵器　杯身	田辺市教育委員会	田辺市	7 世紀
	ミニニチュア炊飯具形土器竈・甕・鍋			
	土師器　甕・杯			
	鉄釘・鉄鏃			

④冬期企画展「たがやす」

期　　間：令和７年１月１８日（土）～２月 24 日（月・祝）

会　　期：33 日間

内　　容：紀の川流域では、江戸時代以降、畿内の商業経済の発達を背景にして、農地で栽培する作物から得る収益を高めるため、夏場の水田稲作とともに、裏作として冬場には田んぼを畠に替えて、麦や菜種などを栽培する「二毛作」が盛んに行われた。

砕土器：トンビ（和歌山市木ノ本）

農業が機械化する昭和 40 年代まで、田んぼや畠の耕作には牛が必要となり農家では牛を大事に育てた。田植えの前には、犁（カラスキ）を使って田んぼの土を掘り起こし、馬鍬（カイガ）を使って土のかたまりを細かく砕き、稲の苗を植えるために水田をならした。

稲刈りが済み、畠作りの季節になると、田んぼを再び耕し、土を砕いて畠の畝を立て、畝土に筋を付けて種を蒔き、苗を植え付けた。また、麦畠では冬場に中耕や除草も必要となり、さまざまな器具を牛に曳かせて効率よく畠を管理した。また明治時代以降には、農作業の効率化を目的として近代化した農耕具が全国的に普及していくだけでなく、当地域のニーズにあった新しいか

たちの農耕具も生み出されていった。本展示では、紀の川流域で行われた昔の二毛作の様子を、耕す道具を通して振り返り、牛とともにあった農家の仕事や農業の工夫について紹介した。

入館者数：900 人

名　称	点数	地域	内　容	所　蔵
第１章　紀の川流域における二毛作の歴史				
風呂鍬	1	和歌山市	両手で打ち込み、土を耕し、整える	当館蔵
鋤	1	不明	足をかけて踏み込み、固い土を起こす	当館蔵
牛つなぎ柱	1	和歌山市上野	牛小屋の柱の一部	当館蔵
首木（オナグラ）	1	和歌山市和佐中	牛の首にかけて農具を曳く	当館蔵
尻枷（シリガイ）	1	和歌山市和佐中	牛の後ろに着けて農具を曳く	当館蔵
飼い葉桶	1	和歌山市上野	牛のえさを入れる桶	当館蔵
鼻木	1	和歌山市新庄	牛の鼻に通して操る	当館蔵
口籠（クツゴ）	1	和歌山市新庄	畑の作物を牛が食べないように口にかぶせる	当館蔵
牛の沓	1	和歌山市	牛のひづめを守るわらじ	当館蔵
第２章 田んぼを耕す―むかしの稲作				
長床犁（カラスキ）	1	和歌山市岩橋	牛にひかせて、田んぼを荒起こしする在来耕具	当館蔵
中床犁（カラスキ）	1	和歌山市大垣内	狭い田んぼを耕すのに便利なカラスキ	当館蔵
短床犁（カラスキ）	1	和歌山市西庄	大正時代に熊本県で発明。深く耕すことができる	当館蔵
馬鍬（シロカキカイガ）	1	和歌山市吉礼	水を張った田んぼで水と泥をよくかき混ぜる	当館蔵
風呂鍬（オオグワ）	1	和歌山市	人の手で土に打ち込み、深く起こすためのクワ	当館蔵
鋤	1	不明	足をかけて踏み込み、固い土を起こす	当館蔵
土塊割り（クレ打ち）	1	和歌山市小豆島	固まった田畑の土のかたまりを木槌で打って割る	当館蔵
除草具（田打車）	1	不明	田植え後に、稲株の間を押して雑草を取り除く	当館蔵
踏み車	1	和歌山市松原	明治 9 年製。水車を踏み回し、用水の水を田んぼに揚げる	当館蔵
第３章　畠を耕す―水田での裏作				
両用犁（カラスキ）	1	和歌山市西庄	手元のレバーを動かしてすき先の方向を変える	当館蔵
歯減らし馬鍬（ヤツゴ）	1	和歌山市上野	長い歯で畝替えの畑土を深く耕す	当館蔵
車馬鍬（マイケンガ）	1	和歌山市上野	荒起こしした土を細かく砕く。江戸時代発明	当館蔵
砕土機（カニケンガ）	1	和歌山市上野	荒起こしした土を細かく砕く	当館蔵
溝切り機（ズーキリ）	1	和歌山市上野	畝の上に種まきの溝を切る	当館蔵
車馬鍬（マイケンガ）	1	和歌山市上野	幅を狭くして、畝間の中耕にも使用	当館蔵
畝間除草具（ヨツゴ）	1	和歌山市鳴神	明治 2 年製。ハザ（畝と畝の谷間）を耕し雑草を除く	当館蔵
畝間除草具（ミカヅキ）	1	和歌山市鳴神	ハザの土を削って生えた草を取る	当館蔵
中耕具（ハラカキ）	1	海南市七山	ハザの土を削りながら崩れを整える。V 字型	当館蔵
中耕具（ハザウチ）	1	和歌山市秋月	小さな歯が回転して、ハザや畝の上の土を細かく砕く	当館蔵
畝間除草器	1	海南市七山	カルチベーターを参考にした除草具	当館蔵
谷揚整畝機（トンビ）	1	和歌山市	ハザの草を取り、崩れた土を畝に揚げる西洋式カラスキ	当館蔵
源五兵衛犁（マエビキ）	1	和歌山市打越	後ろ向きで曳く、畑の畝作り耕具	当館蔵
株切り	1	和歌山市朝日	稲刈り後の株を切り崩す	当館蔵
股鍬	1	不明	土の塊を細かく砕く	当館蔵
備中鍬	1	和歌山市津秦	土の塊を細かく砕く。中耕にも使用	当館蔵
唐鍬（トンガ）	1	岩出市曽屋	苗の植え付けに使う	当館蔵
草かき	1	岩出市曽屋	除草用のクワ	当館蔵
草削り（ミカヅキ）	1	和歌山市南畑	ハザの草を削る	当館蔵
穴あけ	1	紀の川市丸栖	畝の上を転がし、等間隔に穴をあける	当館蔵
中耕器（ハザウチ）	1	和歌山市秋月	麦の株と株の間の中打ちを行う	当館蔵
砕土器（トンビ）	1	和歌山市木ノ本	大正 15 年新調。粉河で発明された整畝器	当館蔵
砕土機（カニケンガ）	1	和歌山市梶取	荒起こしした土を細かく砕く	当館蔵
砕土機（カニケンガ）	1	和歌山市岩橋	和歌山市手平にあった金星農機具株式会社製	当館蔵
短床犁（カラスキ）	1	和歌山市小豆島	和歌山市手平にあった金星農機具株式会社製	当館蔵
エピローグ 牛耕からトラクターへ				
砕土機（カニケンガ）	1	和歌山市上野	トラクター導入直前のカニケンガ	当館蔵

（２）企画展・特別展以外の展示

①ミニ展「和歌山市立西和佐小学校作品展　「町の幸福論」と岩橋千塚古墳群」

期　　間：令和６年３月 28 日（木）～４月 14 日（日）

会　　期：18 日（令和６年度分）

内　　容：和歌山市立西和佐小学校６年生の児童が国語科「町の幸福論」単元において、地域住民間の交流する場として当館及び特別史跡岩橋千塚古墳群を活用し、古墳群の価値を周知する方法を子供たちが提案する取り組みを実施した。

ミニ展　「町の幸福論」と岩橋千塚古墳群　展示風景

②ミニ展「学校×遺跡　あしもとに遺跡発見！」

期　　間：令和６年８月 24 日（土）～９月 16 日（月・祝）

会　　期：24 日

内　　容：令和６年度博物館学芸員実習及びインターンシップの一環として、実習生が主体となり展示作業を行った。展示実習では、当館が所蔵する考古資料のうち、県内各地の学校の敷地内にあった遺跡から出土した遺物を取り上げ、地域の学校と、その地下に眠る遺跡との知られざる関係について展示・紹介した。

実習生の集合写真

実習生制作の展示チラシ

③ミニ展「ジュニア学芸員養成講座成果」

期　　間：令和６年７月 27 日（土）～８月 18 日（日）

会　　期：23 日

内　　容：令和６年７月 26 日（金）に開催した「令和６年度　ジュニア学芸員養成講座」において、博物館や考古学・民俗学に関心をもつ小学生・中学生を対象に、学芸員による講座や、考古資料・民俗資料の観察、書籍による調査研究などの博物館業務の体験を実施した。ミニ展示では、参加した小学生８名、中学生１名が各々の調査成果としてまとめた「調査報告シート」を掲示した。

子供たちの成果報告に学芸員がアドバイス

本物に触れながら資料調査を体験

④ミニ展「ジュニア学芸員研究応募作品展」

期　　間：令和６年 12 月 17 日（火）～令和７年１月 12 日（日）

会　　期：23 日

内　　容：令和６年８月１日から 11 月 12 日にかけて社会科歴史分野に関する小学生及び中学生の自由研究作品を募集した。令和６年度 「チャレンジ！ジュニア学芸員」について､応募作品全 11 点（小学生個人の部５点、中学生個人の部３点：中学生団体の部３点）を展示した。

⑤パネル展「全長 88 m！天王塚古墳を復元せよ－岩橋千塚最大の古墳復活プロジェクト－」

期　　間：令和７年３月２日（日）～令和７年４月 13 日（日）

会　　期：37 日

内　　容：令和４年度から実施している天王塚古墳整備工事について、パネル展示を開催した。令和８年度の墳丘整備完了、令和 10 年の石室整備完了と公開に向けて、滞りなく整備が進んでいる天王塚古墳整備工事について、整備内容に関するパネル展を開催し、整備の進捗状況を示した。

展示チラシ

展示パネル

２　普及活動

（１）ものづくり体験

タイトル	実施日	参加人数
勾玉づくり（学校・団体）	春秋遠足等	1,696
埴輪づくり（学校・団体）	春秋遠足等	1,347
合計		3,043

（２）催しもの

タイトル			実施日	参加人数
展示	春期企画展	黒江・商家のくらしと漆器	3/16(土)～6/16(日)	5,642
	夏期企画展	和歌山フェイクアワード	7/13(土)～9/8(日)	2,573
	秋期特別展	数多の古墳を築く	10/5(土)～12/8(日)	3,662
	冬期企画展	たがやす	1/18(土)～2/23(日)	826
	春期企画展	古代人のよそおい	3/15(土)～6/15(日)	393
講座	特別展関連講座①		10/13（日）	15
	特別展関連講座②		10/20（日）	15
	特別展関連講座③		11/3（日）	18
	特別展シンポジウム		11/17（日）	65
	展示講座①	春期企画展	4/14（日）	10
	展示講座②	夏期企画展	9/1（日）	8
	展示講座③	冬期企画展	2/9（日）	5
	学芸員講座②	岩橋千塚㉔	7/7（日）	20
	学芸員講座③	岩橋千塚㉕	9/8（日）	20
	学芸員講座⑥	岩橋千塚㉖	1/19（日）	18
	学芸員講座①	高野①	6/30（日）	27
	学芸員講座④	高野②	9/22（日）	16
	学芸員講座⑤	高野③	3/9（日）	21
	館長講座①	古記録からみる平安時代の貴族社会①さまざまな夫婦のかたち	7/6（土）	20
	館長講座②	古記録からみる平安時代の貴族社会②暴力をふるう女たち	11/9（土）	13
	館長講座③	古記録からみる平安時代の貴族社会③受領はつらいよ	3/1（土）	16
	ジュニア学芸員養成講座		7/26（金）	9
	ボランティア養成講座①		1/25（土）	1
	ボランティア養成講座②		2/8（土）	1
	ボランティア養成講座③		2/22（土）	1
	ボランティア養成講座④		3/8（土）	1
フィールドワーク	古墳ガイドツアー①	前山A17号墳・A47号墳・A65号墳・A67号墳・A8号墳・A100号墳・A111号墳	4/21（日）	20
	古墳ガイドツアー②	前山A2号墳・A23号墳・A24号墳・A99号墳・B134号墳	1/26（日）	25
	古墳公開	天王塚古墳	3月2日	149
	古墳公開	前山B71号墳・B191号墳	2/1(日)	91
	民家ガイドとくらし体験		6/2（日）	5
	風土記の植物①		4/29（月・祝）	20
	風土記の植物②		6/29（土）	16
	風土記の植物③		10/26（土）	8
	風土記の植物④		3/22（土）	15
	風土記の昆虫①		5/18（土）	22
	風土記の昆虫②		7/20（土）	21
体験	風土記まつり		10/27（日）	1,924
	ＧＷものづくり体験	ハニワ（HANI-1選手権兼ねる）	5/3（金・祝）	80
		ハニワ（HANI-1選手権兼ねる）	5/4（土・祝）	80
		ハニワ（HANI-1選手権兼ねる）	5/5（日・祝）	72
		勾玉	5/6（月・祝）	60

タイトル			実施日	参加人数
体験	夏休みモノづくり体験	ハニワ（1回／日）	7/24（水）	30
		ハニワ（2回／日）	7/27（土）	147
		ハニワ（2回／日）	7/28（日）	136
		ハニワ（2回／日）	8/3（土）	142
	夏休みモノづくり体験	ハニワ（2回／日）	8/4（日）	148
		ハニワ（1回／日）	8/7（水）	40
		勾玉（1回／日）	7/31（水）	27
		勾玉（2回／日）	8/17（土）	148
		勾玉（1回／日）	8/20（水）	32
	第15回HANI-１選手権	①	5/12（日）	39
		②	5/19（日）	35
ワークショップ	ふどきっず	①田植え	5/26（日）	28
		②シュロのバッタ	7/14（日）	22
		③稲刈り＋クイズ	10/6（日）	26
		④かりうち	12/1（日）	20
		⑤土器炊飯	12/8（日）	27
	実物大の埴輪を作ろう	①	6/15（土）	6
		②	7/13（土）	7
	鋳造体験	銅鐸	8/18（日）	18
	塩づくり体験		9/15（日）	14
	ジュニア学芸員研究発表		12/15(日)	28
	ボランティア研究発表会		2/2(日)	27
	埴輪づくり	①～⑫	10/5・19、11/16 12/7・21、1/4・18 2/1・15、3/1・15（土） ※11/2は荒天のため中止	149
	オンラインツアー 紀伊風土記の丘		2/18（火）	89

【主な催しものの内容】

①特別展関連講座・シンポジウム

・令和６年度特別展シンポジウム「畿内と紀伊の群集墳からよむ古墳時代社会」

開催日：令和６年11月17日（日）13:00～16:30　65人参加

内　容：講演「群集墳と古墳時代社会」太田宏明（河内長野市教育委員会）

講　演「副葬品からみた群集墳の被葬者像－畿内地域を中心に－」絹畠　歩（奈良県立橿原考古学研究所）

報　告「紀伊地域における６・７世紀の群集墳の展開」萩野谷正宏（当館）

討論司会　仲辻慧大（和歌山県教育庁）

・関連講座①

開催日：令和６年10月13日（日）13：30～15：00

内　容：「葛城山麓の群集墳ー寺口忍海古墳群を中心にー」神庭　滋（葛城市歴史博物館）

・関連講座②

開催日：令和６年10月20日（日）13：30～15：00

内　容：「高安山麓の群集墳」藤井淳弘（八尾市魅力創造部観光・文化財課）

・関連講座③

開催日：令和６年11月３日（日）13:30～15:00

内　容「群集墳と土器使用儀礼」仲辻慧大（和歌山県教育庁）

②チャレンジ！ジュニア学芸員

趣　旨：考古学に関する小中学生の研究成果を募集・表彰し、その成果を発表する場を設けることで、小中学生が考古学の楽しさを知るとともに、資料をまとめプレゼンテーションをする力をつけるなどの研究活動を推奨する機会とした。

内　容：和歌山県内の考古学や歴史学など社会科歴史的分野に関係する研究成果で、学校外で未発表のもの。レポート・作品・歴史新聞など形態は問わない。

対　象：和歌山県内の小学校・中学校および特別支援学校の小学部または中学部のいずれかに在籍する児童・生徒、または和歌山県在住の児童・生徒。

応募点数：11 点

【個人研究部門・小学生の部】

最優秀賞　１点「気候と日本列島と大陸の民族移動」河野日香（和歌山市立川永小学校５年）

優秀賞　　１点「古墳新聞」　垣本晃奈（和歌山市立三田小学校６年）

奨励賞　　３点「はにわしんぶん」　八重橋望実（橋本市立柱本小学校３年）

「仏教について～浄土宗の教え～」　武田悠慎（有田川町立石垣小学校４年）

「学芸員ってどんな仕事？」　佐藤暖真（白浜町立西富田小学校６年）

【個人研究部門・中学生の部】

最優秀賞　１点「縄文犬と弥生犬」　河野仁宥（智辯学園和歌山中学校１年）

優秀賞　　１点「中世の宗教港湾都市・新宮－新宮下本町遺跡について－」

寺地絢星（近畿大学付属新宮中学校１年）

奨励賞　　１点「銅鐸っておもしろい！！」　岡村青依（智辯学園和歌山中学校２年）

【団体研究部門・中学生の部】

最優秀賞　１点「難攻不落！？和歌山城の守りの堅さ」　智辯学園和歌山中学校　２年Ｃ組

優秀賞　　１点「道成寺七不思議・闘鶏神社」　智辯学園和歌山中学校　２年Ｂ組

奨励賞　　１点「古代の日本の暮らしや貨幣」　智辯学園和歌山中学校　２年Ａ組

・関連イベント：第８回「チャレンジ！ジュニア考古学」優秀作品表彰式及び研究発表会

日　時：令和６年 12 月 15 日（日）　13：30 ～ 15：30

場　所：紀伊風土記の丘資料館　研修室

作品展示：令和６年 12 月 17 日（火）～令和７年１月 12 日（日）

研究発表会の様子（中学生の部）

受賞者集合写真

３　研修・実習等

（１）博物館実習

・令和６年度博物館学芸員実習

期　間：令和６年８月 20 日（火）～８月 24 日（土）

参加者：５名（他インターンシップ１名、計６名で実施）

京都橘大学１名、奈良女子大学１名、大阪大谷大学３名

内　容：紀伊風土記の丘の博物館活動（講義）　岩橋千塚古墳群の整備事業、資料館展示、写真撮影実習

展　示：展示資料の調査（学校敷地から出土した資料）、展示企画・立案

展示（ミニ展示「学校×遺跡」）８月 24 日（土）～９月 16 日（月・祝）

（２）職場体験実習（インターンシップ）・職場体験学習

当館では、「中学生職場体験学習」及び「和歌山県教育庁等におけるインターンシップ」による中・高校生対象の実習の受け入れを行った。

職場体験

和歌山市立紀ノ川中学校	期日	令和６年９月２５日（水）～ 27 日（木）	対象	中学２年生３名
	内容	園内の維持管理業務、資料整理業務		
和歌山大学教育学部附属特別支援学校	期日	令和６年 11 月１２日（火）～１４日（木）	対象	中等部３年生５名
	内容	園内の維持管理業務、火おこし体験		
和歌山市立高積中学校	期日	令和６年 11 月 14 日（木）～ 15 日（金）	対象	中等部２年生３名
	内容	園内の維持管理業務、資料整理業務		
県立和歌山盲学校	期日	令和６年 11 月 21 日（木）～ 22 日（金）	対象	中学１・２・３年生３名
	内容	園内の維持管理業務		
県立紀伊コスモス支援学校	期日	令和６年 12 月４日（水）～５日（木）	対象	中学３年生 28 名
	内容	園内の維持管理業務		

高校生インターンシップ

県庁等インターンシップ	期日	令和６年７月 24 日（水）～ 26 日（金）	対象	高校１年生１名、高校２年生４名
	内容	園内の維持管理業務、資料整理業務		
和歌山大学教育学部附属特別支援学校	期日	令和６年７月 26 日（水）～ 28 日（金）	対象	高等部１年生１名、２年生１名
	内容	園内の維持管理業務、資料整理業務		

大学生インターンシップ

近畿大学	期日	令和６年８月 20 日（火）～ 24 日（土）	対象	大学３回生１名
	内容	博物館実習と同内容　※上記（１）参照		

（３）教員対象の研修

当館の学校向けプログラム等の理解を図るため、教員対象の研修（中堅教諭等資質向上研修：教育センター学びの丘と連携、地域社会体験研修）を受け入れた。

教員対象の研修

中堅教諭等資質向上研修	期 日	令和６年８月 27 日（火）、28 日（水）
	対 象	在職期間が原則 10 年に達した県内小・中・高・特別支援学校教諭 8 月 27 日：15 名、8 月 28 日：15 名、計 30 名参加。
	内 容	「紀伊風土記の丘における新しい体験活動」をテーマに、資料館展示･施設、教育普及、博学連携活動等の問題の洗い出しと、その改善策の検討を行い、併せて博物館施設の活用の在り方を検討した。

（４）ミュージアムボランティア

和歌山大学教育学部・和歌山県教育委員会連携協議会の地域連携事業として、和歌山大学ミュージアムボランティアを受け入れた。

参加者：２名

内　容：小中学校の遠足における体験活動（埴輪づくり、勾玉づくり、昔のくらし体験）の指導補助、体験学習に係る準備作業

（５）博学連携

当館では、古墳、民家、展示室及び広い園内の見学や考古・民俗資料を利用した古代生活体験及び昔のくらし体験などの幅広い学習活動を行っている。

また、当館に来館できない学校へ職員が赴き、地域の歴史や昔のくらしの解説、昔のくらし体験・モノ作り体験の指導を移動博物館（出前授業）として行っている。このほか、オンライン授業で遠隔地の小学校と当館学芸室とをつなぎ、当館の展示や仕事を紹介する「オンラインツアー」を試験的に開始した。

①来館校数、来館者数

来館校数は 90 校、来館者数は 4,081 人（引率教員 418 人を含む）。校種別では小学校が 76 校と 84.4％を占める。また、月別来館校数では５月に 28 校（31.1％）、６月に 15 校（16.7％）、11 月に 19 校（21.1％）、10 月に９校（10.0％）と続き、春（４、５、６月）、秋（10、11 月）の遠足シーズンで 79 校と全体の約９割近くを占める。

来館校数・来館者数

（校種別来館校数・来館生徒数）

校種	校数	割合（%）	来館生徒数	割合（%）
幼稚園・保育所・こども園	6	6.7%	365	8.9%
小学校	76	84.4%	3,454	84.6%
中学校	2	2.2%	126	3.1%
高等学校	1	1.1%	28	0.7%
特別支援学校	4	4.4%	73	1.8%
短大・大学・専修学校	1	1.1%	35	0.9%
計	90	100%	4,081	100%

（月別来館校数）

月	幼・保	小学校	中学校	高等学校	特別支援	短大・大学	計	割合（%）
４月	2	6					8	8.9%
５月		26	1		1		28	31.1%
６月		15					15	16.7%
７月		1					1	1.1%
８月							0	0.0%
９月	1						1	1.1%
10 月	2	5	1		1		9	10.0%
11 月		16		1	1	1	19	21.1%
12 月		2			1		3	3.3%
１月		1					1	1.1%
２月	1	3					4	4.4%
３月		1					1	1.1%
計	6	76	2	1	4	1	90	100%
割合（%）	6.7%	84.4%	2.2%	1.1%	4.4%	1.1%	100%	

②小学校等の活動内容

来館校とは事前に打合せを行い、古墳めぐり（オリエンテーリング）、民家・展示見学及び園内や考古・民俗資料を利用した各種の活動プログラムを組み合わせて、発展段階に応じて様々なねらいや内容を設定した学習を提供している。

・資料館展示や古墳・民家の見学　ドングリ拾いや植物観察などの園内散策、モノ作り体験。

・教科書に対応した体験学習　（小学校６年生の古代生活体験、３・４年生の昔のくらし体験など）

・「総合的な学習の時間」でのグループ学習他。

６～７月は小学校６年生の社会科に対応した古代生活体験、モノづくり体験を、10 ～１月は小学校３・４年生の社会科に対応した「昔のくらし」体験学習を行う学校が多い。

【古代生活体験のプログラム】

・古代学習：資料館の展示や古墳の見学、火おこしや竪穴住居での体験をとおして、古代の人々の生活について学ぶ。

・古墳めぐり：古墳群をめぐり、古墳の大きさや形、多さ、石室の中の広さや暗さ、体感温度などを実際に肌で感じる。

・風土記の丘オリエンテーリング：紀伊風土記の丘の園内にある古墳と江戸時代の移築民家をグループ行動で見学し、調べ学習を実施する歴史体験学習。

【モノづくり体験】

・モノづくり体験：モノづくりの歴史や方法などの解説を聞きながら、石や粘土から勾玉やハニワを作る体験をする。

【昔のくらし体験学習のプログラム】

・昔のしごと体験：センバコキで米の脱穀、背負子や天秤棒で物を運ぶ、石臼できな粉を挽くなどを体験する。

・民家見学・体験：園内に移築された民家で、昔の生活の場の見学及びカラウス搗きの体験をする。また、遠足・社会見学では古代生活体験・古墳めぐりなどフィールド活動やモノ作りに重点を置き、後日に移動博物館（出前授業）として、学校周辺の遺跡等を単元とした講義を実施する場合もある。

モノづくり体験の受け入れ状況

主な活動プログラムの利用状況一覧

	考古・歴史学習			民俗・民家学習
	古代生活体験	モノづくり体験		昔のくらし体験
	火おこし	勾玉	埴輪	（民家見学・体験ワークショップ、昔のしごと、遊び体験）
4月	1	3	3	
5月	12	7	14	
6月	8	9	6	
7月	1			
8月				
9月			1	
10月	1	2	1	2
11月	9	8	5	2
12月	2	1	1	1
1月	1			
2月	2	1	1	2
3月				1
計	37	31	32	8

岩橋千塚古墳群を広く周知したい当館としては、体験学習と講義を合わせた系統的な学習となり、効果的なプログラムとして位置づけている。

令和６年度の来館校の活動プログラムの利用状況は、一覧表のとおりである。

来館団体一覧

来館日	団体名称	人数	来館日	団体名称	人数	来館日	団体名称	人数
4月12日	みどり幼稚園	75	6月4日	松江小学校	92	11月1日	調月小学校	10
4月19日	根来小学校	65	6月6日	和佐小学校	12	11月1日	黒江小学校	42
4月19日	中央小学校（岩出）	80	6月6日	三百瀬小学校	8	11月1日	南部小学校	41
4月20日	岡崎保育園	100	6月6日	山野小学校	4	11月2日	奈良教育大学	35
4月25日	応其小学校	47	6月6日	江川小学校	9	11月12日	中津小学校	16
4月26日	大谷小学校	19	6月7日	高松小学校	93	11月12日	慶風高等学校	28
4月26日	和佐小学校	62	6月11日	浜宮小学校	68	11月14日	和大附属特別支援学校	12
4月26日	長田小学校	32	6月12日	野崎西小学校	64	11月15日	宮原小学校	49
5月1日	高野口小学校	51	6月13日	貴志小学校	64	11月15日	三田小学校	77
5月2日	学文路小学校	30	6月19日	川辺西小学校	29	11月19日	湯川小学校（御坊）	43
5月2日	城山小学校	54	6月20日	小倉小学校	54	11月19日	楠見東小学校	63
5月2日	加茂川小学校	42	6月26日	きのくに子どもの村小学校	19	11月21日	印南小学校	39
5月2日	西部小学校（橋本）	26	6月27日	西脇小学校みらい分校	5	11月21日	岩代小学校	17
5月2日	笠田小学校	40	6月27日	西脇小学校	67	11月21日	社会福祉法人いこいつむぎ共同作業所自立訓練 You-me	7
5月2日	渋田小学校	34	6月28日	由良小学校	38			
5月2日	橋本小学校	50	7月6日	紀の国森社中	22	11月22日	津木小学校	12
5月8日	山崎北小学校	126	7月11日	雑賀小学校	29	11月22日	簑島小学校	43
5月9日	恋野小学校	8	7月23日	ほうかごキッズ（岩出）	17	11月22日	切目小学校	25
5月9日	あやの台小学校	51	7月30日	和歌山県立仙渓学園	11	11月27日	わかやまシュタイナー学園	5
5月10日	名草小学校	50	7月30日	ほうかごキッズ（岩出）	9	11月27日	ほほえみ・それいゆ	12

5月10日	野崎小学校	30
5月10日	信達小学校（泉南）	83
5月10日	芦原小学校	15
5月14日	新南小学校	41
5月16日	田中小学校	94
5月17日	太田小学校	55
5月17日	直川小学校	46
5月21日	砂山小学校	62
5月22日	智辯学園和歌山小学校	140
5月23日	四箇郷北小学校	55
5月23日	金光八尾中学校（八尾）	91
5月24日	貴志南小学校	45
5月24日	有功小学校	50
5月30日	安原小学校	102
5月30日	和歌山さくら支援学校	26
5月31日	八幡台小学校	78

8月1日	プラスリー（和歌山）	41
8月8日	ダックチャイルド校	8
8月16日	プラスリー（和歌山）	27
8月25日	ボーイスカウト那賀第４団	28
9月7日	くろすはうす	31
9月12日	西和佐幼稚園	29
10月11日	大東小学校	37
10月11日	御坊市教育支援センターメイト	13
10月11日	中野上小学校	39
10月16日	まことなるたきこども園	62
10月18日	明和中学校	35
10月23日	和田小学校	22
10月24日	たちばな幼稚園	83
10月24日	たちばな支援学校	16
10月24日	初島小学校	25
10月29日	小川小学校（有田）	22

11月28日	清流小学校	33
11月29日	岡崎小学校	92
12月3日	大新小学校	20
12月6日	紀伊コスモス支援学校	19
12月20日	紀伊小学校	81
1月31日	美山小学校	15
2月7日	西和佐小学校	48
2月11日	ケアステーションみなと	17
2月12日	ひまわり園	15
2月13日	西和佐保育所保護者会	16
2月14日	西和佐小学校	28
2月16日	フォレスト	13
2月27日	安楽川小学校	43
3月6日	三栖小学校（田辺）	68
3月16日	紀の国森社中	19

③移動博物館（出前授業）

遠方の学校や交通機関を利用しての来館が困難な学校、遠足で古墳めぐりを実施後に講義を希望する学校、カリキュラムにおいて時間数確保のため来館して学習することが困難な学校や団体等を対象として、「移動博物館（出前授業）」を実施している。

職員が直接出向き、モノ作りや昔のくらし体験活動を行う他、「和歌山の歴史」「学校周辺の歴史」など「ふるさと学習」に係る講義や本物の土器や装身具に触る体験など、学校のニーズに応じて学習支援を行っている。また、小学校のＰＴＡ・育友会・子どもセンター学童保育等の活動や公民館・資料館等の生涯学習活動においてもモノ作り体験等を実施している。

実施にあたり、県内公立学校の教育課程に位置づけた学習については、県教育委員会総務課の「エキスパート職員派遣事業」を活用している。依頼の時期や地域によっては直接相談に応じている。

移動博物館（出前授業）の利用状況

伏虎義務教育学校区子どもセンター	期日	令和６年６月１日（土）	対象	小学生75名、幼児２名、その他21名
	内容	勾玉づくり体験		
岩出市立岩出小学校	期日	令和６年６月14日（金）	対象	小学生57名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
和歌山市立湊小学校	期日	令和６年６月25日（火）	対象	小学生10名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
根来公民館	期日	令和６年６月29日（土）	対象	小学生40名
	内容	勾玉づくり体験		
かつらぎ町立渋田小学校	期日	令和６年７月２日（火）	対象	小学生30名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
紀の川市立西貴志小学校	期日	令和６年７月５日（金）	対象	小学生53名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
和歌山市立雑賀小学校	期日	令和６年７月17日（水）	対象	小学生26名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
和歌山市立松江小学校	期日	令和６年７月18日（木）	対象	小学生80名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
和歌山県仙渓学園	期日	令和６年７月20日（土）	対象	中学生５名
	内容	縄文時代の生活に関する講義		
放課後等デイサービスらん	期日	令和６年７月25日（木）	対象	高校生１名、中学生３名、小学生４名、その他５名
	内容	勾玉づくり体験（出張まなび講座事業）		
一般社団法人クリエーターズ	期日	令和６年８月12日（月・祝）	対象	障害者５名、その他２名
	内容	埴輪づくり体験（出張まなび講座事業）		
放課後等デイサービスらん	期日	令和６年８月28日（水）	対象	障害者11名、その他５名
	内容	埴輪づくり体験（出張まなび講座事業）		

湯浅町立湯浅小学校	期日	令和６年９月５日（木）	対象	小学生４名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
和歌山市立楠見中学校	期日	令和６年９月 10 日（火）	対象	中学生 10 名
	内容	埴輪づくり体験（出張まなび講座事業）		
社会福祉法人和福祉会	期日	令和６年９月 18 日（水）	対象	障害者等 28 名
	内容	勾玉づくり体験（出張まなび講座事業）		
社会福祉法人いこいつむぎ共同作業所自立支援 You-me	期日	令和６年９月 19 日（木）	対象	障害者６名、その他３名
	内容	埴輪づくり体験（出張まなび講座事業）		
みどり幼稚園	期日	令和６年９月 20 日（金）	対象	幼児 68 名
	内容	埴輪づくり体験		
海南市立歴史民俗資料館	期日	令和６年９月 21 日（土）	対象	一般８名、小学生 39 名
	内容	勾玉づくり体験		
県立紀伊コスモス支援学校中学部	期日	令和６年 10 月８日（火）	対象	中学生 14 名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
一般社団法人クリエーターズ	期日	令和６年 10 月 14 日（月）	対象	障害者３名
	内容	勾玉づくり体験（出張まなび講座事業）		
社会福祉法人いこいつむぎ共同作業所自立支援 You-me	期日	令和６年 10 月 18 日（金）	対象	障害者６名
	内容	勾玉づくり体験（出張まなび講座事業）		
和歌山市立東山東小学校	期日	令和６年 10 月 31 日（木）	対象	小学生８名
	内容	勾玉づくり体験（出張まなび講座事業）		
みらいてらす	期日	令和６年 11 月８日（金）	対象	障害者 12 名、その他４名
	内容	埴輪づくり体験（出張まなび講座事業）		
なかよしキッズ	期日	令和６年 11 月 10 日（日）	対象	一般 12 名、高校生２名、中学生３名、小学生 27 名
	内容	勾玉づくり体験		
県立紀北支援学校	期日	令和６年 12 月４日（水）	対象	小学生 20 名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
伏虎義務教育学校区子どもセンター	期日	令和６年 12 月 14 日（土）	対象	一般２名、小学生 50 名、幼児２名
	内容	埴輪づくり体験		
和歌山市立八幡台小学校	期日	令和６年 12 月 17 日（火）	対象	小学生 47 名
	内容	埴輪づくり体験（エキスパート職員派遣事業）		
和歌山市立八幡台小学校	期日	令和７年１月 21 日（火）	対象	小学生 23 名
	内容	埴輪づくり体験		
印南町立切目小学校	期日	令和７年１月 24 日（金）	対象	小学生６名、その他３名
	内容	昔のくらし体験（エキスパート職員派遣事業）		
紀の川市立池田小学校	期日	令和７年２月４日（火）	対象	小学生 58 名、その他３名
	内容	昔のくらし体験（エキスパート職員派遣事業）		
こばと保育所保護者会	期日	令和７年２月５日（水）	対象	幼児 43 名
	内容	手形づくり体験		
紀の川市立池田小学校	期日	令和７年２月 21 日（金）	対象	一般１名、小学生 10 名、その他３名
	内容	昔のくらし体験（エキスパート職員派遣事業）		
美浜町立和田小学校	期日	令和７年３月４日（火）	対象	小学生 20 名、その他４名
	内容	昔のくらし体験（エキスパート職員派遣事業）		

④オンラインツアー紀伊風土記の丘

遠方に所在し来園が容易でない西牟婁・東牟婁に所在する小学校を対象として、学芸員が紀伊風土記の丘や各地域の歴史・文化財を開設するオンライン授業を令和５年度より開催している。令和６年度は４校からの申し込みがあった。授業の内容や進行については、担当教員との打ち合わせにより決定し実施した。

オンライン授業の利用状況

田辺市立東部小学校	期日	令和７年２月 18 日（火）	対象	小学６年生
	内容	紀伊風土記の丘の紹介と安宅の歴史		
上富田町立市ノ瀬小学校	期日	令和７年２月 18 日（火）	対象	小学６年生 21 名
	内容	紀伊風土記の丘の紹介と市ノ瀬の歴史		
串本町立古座小学校	期日	令和７年２月 20 日（木）	対象	小学６年生 11 名
	内容	古座周辺の歴史と文化遺産		
白浜町立安宅小学校	期日	令和７年３月７日（金）	対象	小学５・６年生３名
	内容	田辺地域の歴史と文化遺産		

⑤他組織イベントへの参加

・サマー遊 ing（和歌山県立図書館文化情報センター）

令和５年７月 25 日（火）：勾玉づくり体験

・夏休み宿題応援ワークショップ大集合（森と水の源流館：奈良県川上村）

令和５年７月 17 日（月・祝）：勾玉づくり体験

・むきばんだフェスタ（鳥取県立むきばんだ史跡公園）

令和５年 10 月 15 日（日）：火おこし体験

４　広報活動

①資料提供（展示やイベント毎にチラシ等の資料を提供）

・県教育記者クラブへの資料提供数　19 件

・新聞等記事等掲載数　７件

② 情報提供（定期刊行物に展示やイベント等の情報を提供）

・「県民の友」（毎月発行：和歌山県広報課）

・和歌山文化情報誌「ワカピー」（隔月発行：和歌山県 編集：一般財団法人和歌山県文化振興財団）

・「わかやま探検ミュージアム」（隔月発行：白光印刷株式会社）

・「輝く！紀の国の教育」（年２回：和歌山県教育広報紙：和歌山県教育庁教育総務局総務課）

・「教育ラジオ番組　はばたく紀の国」（和歌山県教育庁教育総務局総務課）

③情報提供（不定期）

・「読売新聞和歌山版」（読売新聞社）

・「毎日新聞和歌山版」（毎日新聞社）

・「紀伊民報」（紀伊民報）

④インターネット・データによる情報提供

・「ホームページの公開」（http://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp）

・「インターネットミュージアム」（https://www.museum.or.jp/）（株式会社丹青社インターネットミュージアム）

・「いこまい」（https://travel-ikomai.com）（株式会社 EML）

・「わかやま歴史物語」（http://wakayama-rekishi100.jp）（和歌山県地域振興部観光局観光振興課）

・「The KANSAI guide」（https://www.the-kansai-guide.com）（関西観光本部）

・「るるぶ.com、JTB サイト「るるぶ観光データベース」（http://rurubu.com）

・「まっぷる観光ガイド」（http://www.mapple.net）（株式会社昭文社）

・「イベントバンクプレス」（https://www.eventbank.jp/）（株式会社ｲﾍﾞﾝﾄﾊﾞﾝｸ）

・「ウォーカープラス」（https://www.walkerplus.com/spot/ar0730s55855/）（角川マガジンズ）

・「和歌山県公式観光サイト」（https://www.wakayama-kanko.or.jp/）（公益社団法人和歌山県観光連盟）

⑤テレビ・ラジオによる情報提供

・テレビ和歌山「ニュース」令和６年４月下旬（春期企画展）

・ＮＨＫ「ニュース」令和６年４月 16 日（春期企画展）

・ＮＨＫ「時事公論」令和６年４月 26 日（天王塚古墳・３次元計測）

・和歌山放送「ＷＡ！ＥＲＡ」令和６年５月４日（ＧＷものづくり、HANI-1 選手権）
・ＮＨＫ「ニュース」令和６年５月８日（春期企画展）
・テレビ和歌山「きのくに２１」令和６年５月 12 日（春期企画展）
・ＮＨＫ「ニュース」令和６年７月下旬（夏期企画展）
・テレビ和歌山「ニュース」令和６年８月 28 日（夏期企画展）
・テレビ和歌山「６ＷＡＫＡイブニング」令和６月８月 28 日（夏期企画展）
・Ｊ：ＣＯＭ「Ｊ：ＣＯＭ地域ニュース」令和６年８月 31 日（夏期企画展・鋳造体験）
・朝日放送ラジオ「竹内弘一のなにがナンでも！」令和６年９月１日（夏期企画展）
・テレビ和歌山「ニュース」令和６年９月 15 日（塩づくり体験）
・和歌山放送「ラジオでお届け！県政最前線」令和６年 10 月 15 日（秋期特別展）
・和歌山放送「しそまるの全開！金曜日」令和６年 10 月 18 日（秋期特別展）
・ＮＨＫ「歴史探偵」令和６年 10 月 23 日（竪穴住居のカマド）
・和歌山放送「県庁だより」令和６年 10 ～ 12 月の不定期（秋期特別展）
・テレビ和歌山「きのくに２１」令和６年 11 月 10 日（秋期特別展）
・テレビ和歌山「教育の窓」令和６年 11 月 12 日（秋期特別展）
・和歌山放送「県庁だより」令和７年３月の不定期（春期企画展）
・テレビ和歌山「県民チャンネル」令和７年３月の不定期（春期企画展）

⑥パンフレット・チラシ等による情報提供

・令和６年度イベントガイドの配布
・各イベントのチラシの配布（随時、学校・各種団体等へ持ち込み）
・ホテルグランヴィア和歌山ロビースペースにおけるパネル展示・チラシ配架（令和６年７～８月）

⑦その他

・和歌山市中学校長会説明（令和６年５月７日）
・海南市、岩出市校長会説明（令和６年５月８日）
・和歌山市小学校校長会説明（令和６年６月６日）
・紀の川市小中学校長会説明（令和６年６月 12 日）
・聖地リゾート！和歌山モバイルスタンプラリー『わかやま歴史物語 100』への参加
（和歌山県観光局観光振興課）

５　ボランティア活動

紀伊風土記の丘ボランティア（平成 23 年４月設置）は、利用者に対して園内の古墳・民家・万葉植物園等の解説や、資料館の展示解説、学校遠足や体験教室における補助・助言・指導等の活動を行っている。令和６年度のボランティア登録者数は 37 名である。

令和６年度に実施したボランティア関連事業及びボランティア活動は、以下のとおりである。

ボランティアによる古墳ガイドの活動状況

令和６年度　事前申込みガイド実績（団体等）

活動日	活動内容	申込み者	申込者所在地	参加人数	対応人数
4 月 7 日	資料館ガイド	万葉集友の会	和歌山市	23	2
5 月 11 日	古墳・資料館ガイド	和歌山ハングル学校	和歌山市	10	3
6 月 16 日	古墳・資料館ガイド	健康長寿つれもていこら歩こう会	紀の川市	14	4
7 月 26 日	古墳・資料館ガイド	電友会和歌山支部 四季を愛でる歩こう会	和歌山市	15	1
7 月 30 日	古墳・資料館ガイド	和歌山県立仙渓学園	紀の川市	11	3
8 月 18 日	古墳ガイド	兵庫県私立中学高等学校 社会科研究会	兵庫県	16	1
8 月 25 日	古墳ガイド	ボーイスカウト那賀第４団 ビーバー隊	紀の川市	28	4
9 月 25 日	古墳・資料館ガイド	岬ふる里歴史研究会	大阪府	10	3
10 月 13 日	古墳・資料館ガイド	株式会社日本旅行	アメリカ（ハワイ州）	21	7
10 月 18 日	資料館ガイド	和歌山市市民大学	和歌山市	11	2
11 月 3 日	古墳ガイド	田尻町スポーツ協会 レクリエーション連盟	大阪府	28	8
11 月 6 日	古墳・資料館ガイド	堺市博物館ボランティア	大阪府	38	5
11 月 7 日	資料館ガイド	句楽きのくに川柳教室	和歌山市	18	2
11 月 16 日	古墳・資料館ガイド	あおい会	和歌山市	22	5
11 月 19 日	古墳ガイド	広陵町文化財ガイドの会	奈良県	13	3
11 月 23 日	古墳ガイド	川永地区公民館	和歌山市	19	5
11 月 27 日	古墳・資料館ガイド	県高等学校退職教員協議会 第 4 支部	白浜町	12	3
12 月 4 日	古墳・資料館ガイド	古墳を巡る会	奈良市	5	2
12 月 8 日	古墳・資料館ガイド	わかやま NPO 交流会	和歌山市	17	4
3 月 16 日	資料館ガイド	手話サークルリボン	橋本市	19	1
3 月 29 日	資料館ガイド	田尻町国際クラブ	田尻町	45	12
合計		19 件		395 名	80 名

令和６年度　事前申込みガイド実績（小中学校の校外学習）

活動日	活動内容	申込み者	申込者所在地	参加人数	対応人数
5 月 1 日	古墳ガイド	橋本市立高野口小学校	橋本市	51	6
7 月 11 日	古墳・資料館ガイド	和歌山市立雑賀小学校	和歌山市	29	7
11 月 15 日	古墳・民家ガイド	有田市立宮原小学校	有田川市	49	5
11 月 28 日	古墳ガイド	印南町立清流小学校	印南町	33	5
12 月 3 日	古墳・資料館ガイド	和歌山市立大新小学校	和歌山市	20	2
合計		5 件		182 名	25 名

令和６年度　資料館待機ガイド実績（個人等）

活動日	活動内容	申込み者	所在地	参加人数	対応人数
4 月 7 日	資料館ガイド	個人	和歌山市他	6	2
5 月 5 日	資料館ガイド	個人	東京都	1	1
5 月 10 日	古墳ガイド	個人	海南市、和歌山市	3	1
5 月 12 日	資料館ガイド	個人	和歌山市、京都府	2	4
5 月 21 日	古墳・資料館ガイド	個人	アメリカ合衆国	3	1
5 月 26 日	資料館ガイド	個人	兵庫県他	2	3
6 月 16 日	資料館ガイド	個人		3	3
6 月 23 日	資料館ガイド	個人	奈良県	6	3
7 月 14 日	資料館ガイド	個人	タイ王国他	7	3
8 月 11 日	資料館ガイド	個人		6	4
8 月 18 日	資料館ガイド	個人		6	1
9 月 1 日	民家ガイド	個人		1	2
9 月 8 日	資料館ガイド	個人	和歌山市、大阪府、神奈川県	5	2
9 月 22 日	資料館ガイド	個人	大阪府	9	2
10 月 10 日	資料館ガイド	個人	香川県	4	1
10 月 13 日	資料館ガイド	個人		3	1
11 月 2 日	資料館ガイド	奈良教育大学留学生	奈良県	35	1
11 月 10 日	古墳・園内ガイド	個人	大阪府他	3 以上	3
12 月 1 日	古墳・資料館ガイド	個人	大阪府・京都府	複数	3
12 月 15 日	古墳・資料館ガイド	個人	京都府他	3	2

2 月 1 日	古墳・資料館ガイド	個人	大阪府	5	7
2 月 16 日	古墳・資料館ガイド	個人	広島県	2	2
2 月 23 日	古墳・資料館ガイド	個人	大阪府・和歌山県	7	2
合計		20 件		119 名他	54 名

（１）ボランティア養成講座

・日程：令和７年１月 25 日（土）、２月８日（土）、２月 22 日（土）、３月８日（土）全４回

・内容：毎回 13:30 ～ 15:30　研究室及び園内で講習

（２）ボランティア研究発表会

・日程：令和７年２月２日（日）　13:30 ～ 15:30

・内容：①「紀伊風土記の丘の植物」　六川智佐子会員

②「紀伊風土記の丘のガイドブック大谷山編」　木村健会員

（３）ボランティア研修会

・令和６年７月 13 日（土）　令和６年度夏期企画展に係る展示ガイド研修（参加者 12 名）

・令和６年 10 月５日（土）　令和６年度秋期特別展に係る展示ガイド研修（参加者 12 名）

・令和７年１月 18 日（土）　令和６年度冬期企画展に係る展示ガイド研修（参加者 10 名）

（４）ボランティア活動

①古墳・資料館等ガイド解説

古墳ガイドの申込者、資料館等の待機ガイドを別表のとおり行った。

②学校遠足・体験教室における補助等

ゴールデンウィークモノづくり体験（５月）、夏休みモノづくり体験（７月～８月）、学校遠足（４～６月、10 月）、ふどきっず（５月、７月、10 月、11 月、12 月）、風土記まつりの体験補助・指導・助言を行った。

③その他

古墳ガイドツアー①（４月 21 日／竪穴系埋葬施設）、古墳ガイドツアー②（１月 26 日／小規模横穴式石室）の運営、民家ガイドとくらし体験（６月２日）、古墳公開（３月２日／天王塚古墳）において、運営サポートを実施した。また、風土記まつりにおいては、競技会やブース等の運営を実施した。

ボランティア有志による曜日別勉強会（水曜日・土曜日）、ガイド用教材の作成を行った。

（５）ボランティア活動 10 年継続者の表彰

【令和６年度対象者（平成 27 年度：第５期ボランティア登録者）】該当者１名

６　管理運営・環境整備

（１）文化財の維持管理

特別史跡「岩橋千塚古墳群」周辺の整備及び重要文化財民家等の維持管理

①古墳群周辺の整備

・園内笹草等除去処分業務（1,925 千円）

公園内の最高所にある将軍塚古墳をはじめ、公開古墳の周辺や小古墳群が見学できる地域及び周辺などを入園者を安全かつ快適に利用できるように面積 100,000 ㎡の笹草除去を業者委託により行った。

②重要文化財民家等維持管理

・民家防虫防除等（220 千円）

重要文化財民家（旧柳川家、旧谷山家）、県指定文化財民家（旧小早川家、旧谷村家）、復元竪穴住居に薬剤処理を行った。（令和７年１月）

（２）資料館及び史跡公園内の管理・環境整備

来館者・来園者の安全、快適性・利便性を確保するため、職員による進入路、園路の補修、樹木剪定、草刈り・落ち葉清掃等史跡公園内の管理環境整備を行っている。また、業務委託により警備、清掃、防火設備管理等資料館及び公園内の維持管理並びに危険木伐採等の補修整備を行っている。

①史跡公園内の管理・環境整備

・幹線園路及び公開古墳の清掃、園内周辺の落ち葉清掃及び芝草刈り、樹木の剪定
・園内の倒木の撤去、排水路の浚渫
・移築民家４軒及び和船展示施設の管理、茅葺き民家と竪穴住居の燻蒸、防火用水の管理、石垣・竹垣の管理補修
・進入路、万葉植物園等の植物への水遣り及び万葉植物園の竹柵等設置
・毛虫発生時の殺虫剤散布、ハチの巣駆除

②資料館及び園内の施設・維持管理

・資料館及び園内の警備業務委託（4,785 千円）
・資料館清掃及び園内トイレ清掃の業務委託（1,848 千円）
・電気保安管理、浄化槽維持管理、防火設備管理及び貯水槽清掃の業務委託（513 千円）
・建築基準法 12 条に基づく定期点検業務（53 千円）

③資料館及び園内の主な修繕整備

・園路修繕（974 千円）（６月）
・前山 A46 号墳、前山 A13 号墳石室照明修繕（226 千円）（７月）
・資料館自動ドア開閉装置取替修繕（396 千円）（８月）　・給水漏水修繕（763 千円）（９月）
・大駐車場トイレ給水管修繕（348 千円）（12 月）　・電気設備修繕（2,167 千円）（１月）
・重要文化財旧柳川家住宅襖貼替修繕（999 千円）（３月）

７　特別史跡岩橋千塚古墳群保存修理事業

（１）保存修理事業

①特別史跡岩橋千塚古墳群歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業（国庫補助事業）

事業費　51,617,030 円（国庫補助金 25,808,000 円）

・天王塚古墳整備工事　（工事請負費）　・天王塚古墳覆屋撤去業務委託　（委託費）

天王塚古墳の前方部及び後円部北側墳丘盛土、透湿防止シート敷設、法面張芝、園路整備を工事請負で実施した。また、後円部の埋葬施設保護のため設置した覆屋について後円部の墳丘整備工事のため委

託により撤去を実施した。

・竪穴系埋葬施設整備工事　（工事請負費）

竪穴系埋葬施設である前山Ａ 47 号墳の整備工事として、墳丘盛土及び雨水対策整備を行い、石室侵入路のコンクリート床の撤去、排水路設置を工事請負で実施した。工事では、落枝・落葉の原因となるクスノキの整枝・剪定、石室への雨水流入抑制のための墳丘上の保護盛土の設置を行った。

・古墳修景工事　（工事請負費）

前山Ｂ 71 号墳及び前山Ｂ 191 号墳の石室等を保護するため、軽量盛土（EPS）を用いて盗掘坑及び横穴式石室を埋め戻し、真砂土及び植生シートによる古墳保存修景工事を行った。

・特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備施工監理業務　（委託費）

・整備検討会議他　（旅費、謝金、消耗品費）

整備検討会議の構成（所属は当時）

氏　名	所　属　等	専　門　等
小野　健吉	大阪観光大学 特任教授	遺跡整備
禰宜田　佳男	大阪府立弥生文化博物館 館長	考古学
森下　章司	大手前大学 教授	考古学
福永　伸哉	大阪大学大学院 教授	考古学
和田　晴吾	立命館大学　名誉教授	考古学
増渕　徹	当館　館長	遺跡整備

②特別史跡岩橋千塚古墳群歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業（石垣調査）（国庫補助事業）

事業費：3,290 千円（国庫補助金 1,645 千円）

本事業では、安全管理が特に必要な横穴式石室として天井石まで残る横穴式石室のうち来園者が内部に入る可能性がある前山 A2 号墳（17 ㎡）、前山 A32 号墳（46 ㎡）、前山 A56 号墳（40 ㎡）の横穴式石室を対象にフォトグラメトリ（Sfm/MVS）による 3 次元計測およびオルソ画像作成を委託により実施した。また、石室実測図の更新が実施できていなかった郡長塚古墳（前山 B112 号墳）横穴式石室の図化作業を実施した。また、令和３年度～６年度に実施した事業成果をとりまとめた報告書を作成した。

③地域の特色ある埋蔵文化財活用事業（国庫補助事業）

事業費：5,868 千円（国庫補助金 2,934 千円）

本事業では、重要文化財大日山 35 号墳出土品のうち埴輪８点について SfM/MVS で３次元デジタルデータを委託して取得した。また、その他、88 件についてはデジタルデータ取得用機器を賃借し、直営で３次元デジタルデータの取得や高精細写真の撮影を行った。取得したデジタルデータは、ポータルサイト及び和歌山県立紀伊風土記の丘ホームページで公開した。また、和歌山県立紀伊風土記の丘収蔵品データベース（https://jmapps.ne.jp/wakayamakiifudoki/index.html）へと委託で移行・整備し、活用を促進した。データベースへ移行したデータは和歌山県立紀伊風土記の丘ホームページと接続し、公開を行った。

安全上の観点から、限定公開としている横穴式石室２基（天王塚古墳・大谷山 22 号墳）について、立体視ディスプレイで視聴可能な VR コンテンツを制作した。

④重要文化財　和歌山県大日山 35 号墳出土品美術工芸品保存修理事業

総事業費：11,612 千円（令和４～６年度）

令和６年度事業費 3,847 千円（国庫補助金 1,923 千円）

重要文化財和歌山県大日山 35 号墳出土品（平成 28 年 8 月 17 日指定、埴輪 25 点、須恵器６点、附（埴輪残欠 10 点、須恵器残欠２点）のうち、一部の埴輪に接着剤や補填材の劣化による破損や剥落が危惧され

る個体が複数認められるため、抜本的な修理に着手する。

令和４～６年度は、３分割焼成の家形埴輪（切妻屋根１点、寄棟屋根・身舎１点、高床部・基部１点）、胡籙形埴輪１点の保存修理を実施した。令和４年度に解体、クリーニング、強化処置、令和５年度に接合、一部復元、保管台座及び支持具設計を実施した。令和６年度は復元、補彩、保管台座及び支持具制作を実施し、対象資料の保存修理を完了した。

⑤他機関関連事業（古代歴史文化協議会）

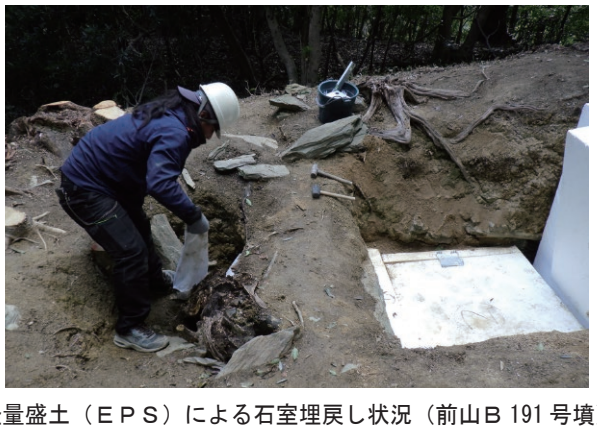
個々の地域的な研究だけでは見えにくかった日本の大きな古代史の流れを解明するため、古代歴史文化にゆかりの深い 14 県で連携し、平成 26 年度から共同調査を実施。第３期（令和５～６年度）からは、体制を８県（埼玉県・鳥取県・島根県・岡山県・奈良県・和歌山県・佐賀県・宮崎県）に改め「古墳時代の中央と地域」をテーマとし共同研究を実施した。

天王塚古墳　墳丘北側盛土施工状況

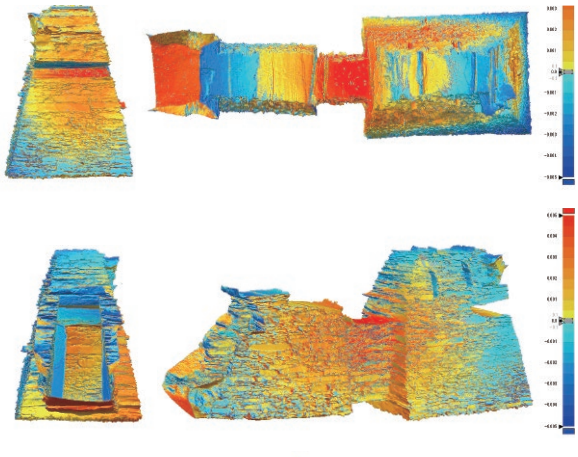
天王塚古墳　工事完了状況

墳丘盛土（真砂土舗装）施工状況（前山Ａ 47 号墳）

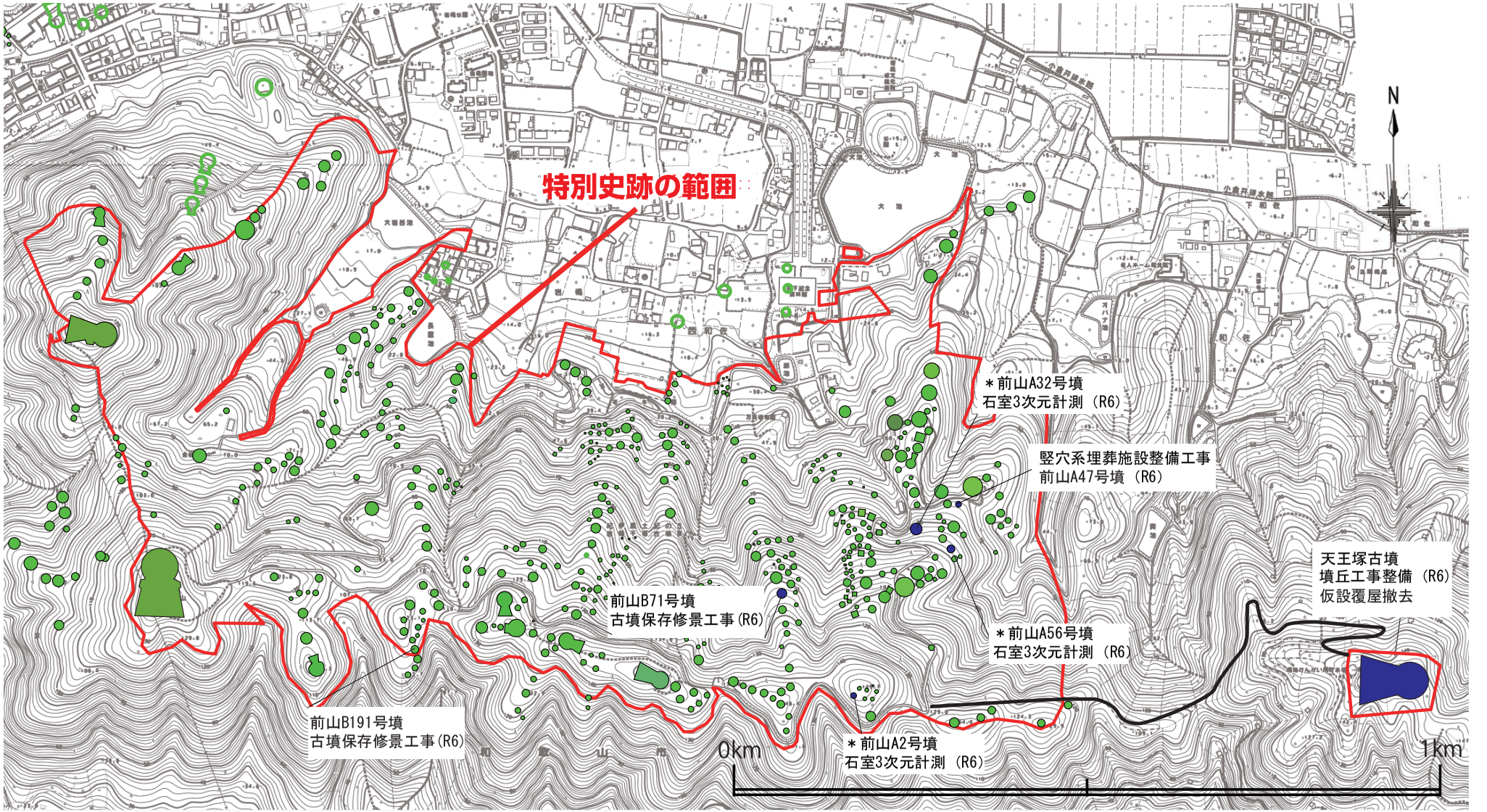
工事完了状況（前山 A47 号墳）



軽量盛土（ＥＰＳ）による石室埋戻し状況（前山Ｂ 191 号墳）



石室に変異が生じた場合を仮定したパラメーターマップ



令和６年度　特別史跡岩橋千塚古墳群保存修理事業位置図 S=1/7000

（２）調査報告

古墳保存修景工事に係る石室実測調査報告（前山 B71 号墳・前山 B191 号墳）

①調査の目的

特別史跡岩橋千塚古墳群では、過去の盗掘による石積みの崩落及び経年劣化による土砂の流出により毀損が進む古墳を対象として、墳丘及び埋葬施設の保存目的の整備として古墳保存修景工事を実施している。

令和 6 年度は前山 B71 号墳及び前山 B191 号墳を対象とし、工事を実施した。

古墳保存修景工事は、埋葬施設の清掃の後、その内部を養生砂及び軽量盛土（工業用発泡スチロール・EPS）で埋戻しを行う。さらに、墳丘の凹凸を真砂土の盛土で修景し、地表面に植生マットを敷設することにより、保存と修景を両立させている。そこで、埋戻しに先立ち埋葬施設の清掃後の記録作成を目的として両古墳の測量調査を行った。

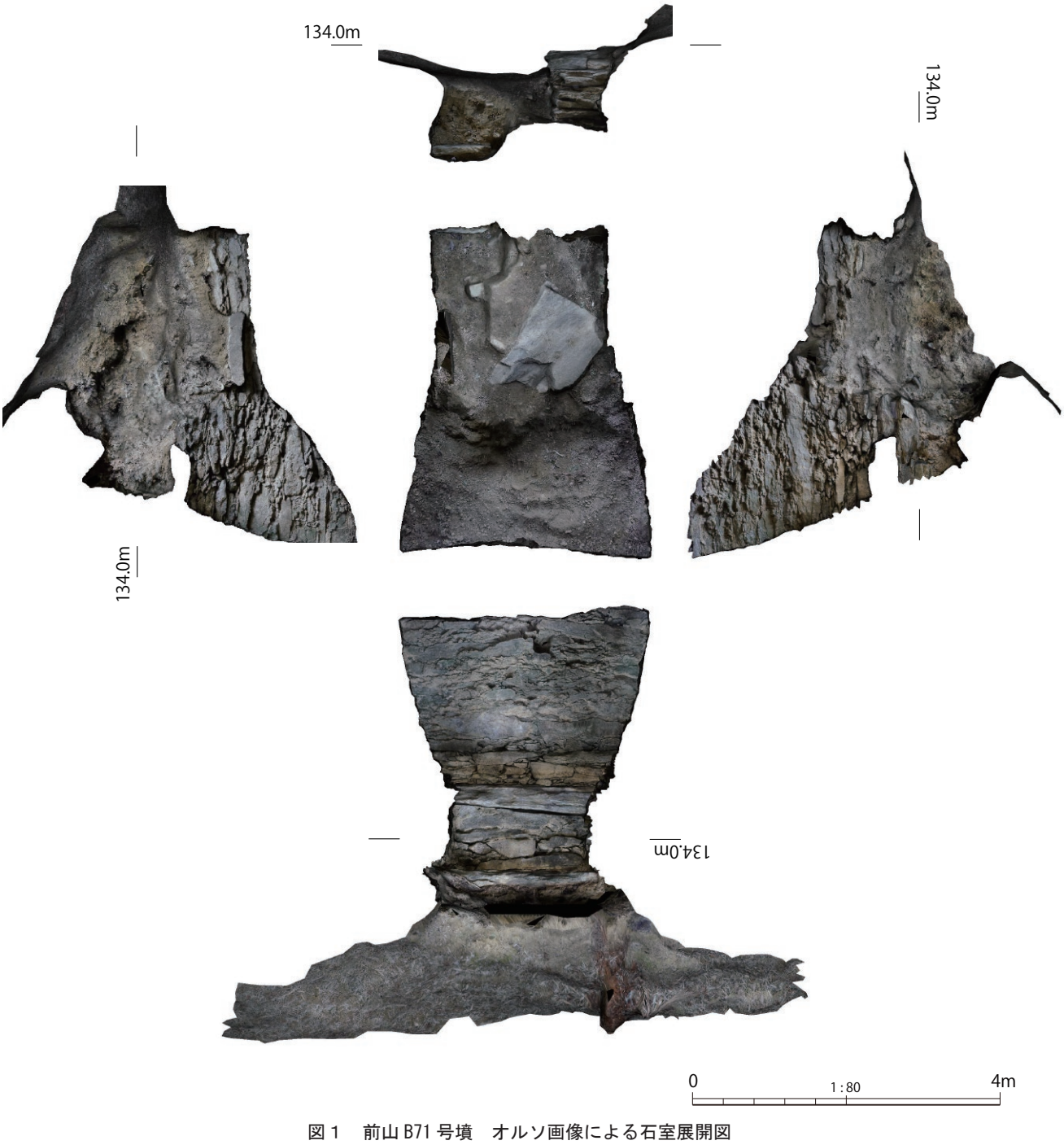


図１　前山 B71 号墳　オルソ画像による石室展開図

②既往の調査と周辺の環境

前山 B71 号墳は、前山 B 地区の丘陵主稜線上に立地する知事塚古墳（前山 B67 号墳）から北側へ派生する尾根筋上に位置する。古墳の墳丘南側は、紀伊風土記の丘園内の主園路に接しており、南側墳丘裾が削平を受けている。『特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画』（和歌山県教育委員会 2019）掲載の古墳一覧では石棚を伴う両袖式の横穴式石室を埋葬施設にもつ円墳とされる。

前山Ｂ 191 号墳は、前山Ｂ地区西側の丘陵主稜線上から南へ派生する尾根筋上に位置し、前出の古墳一覧では、南東に開口する両袖式横穴式石室を埋葬施設にもつ円墳とされる。同一の尾根筋上には前山 B130・131・132・133・134・135・137・190・251 号墳などの円墳が密集して分布しており、このうち近隣の前山 B131 ～ 134 号墳は「T 字形石室」の平面形態をとる。前山 B71 号墳、前山 B191 号墳ともに、発掘調査は実施されていない。

③調査の方法

実測調査は、埋葬施設の内部の流入土除去及び支障木伐採、露出石材の清掃の後、記録作成を行った。

記録作成の方法については、従来は手作業による図化と写真撮影を実施したが、令和４年度からフォトグラメトリ（SfM/MVS）により作成した３次元データからオルソ画像を生成し、このオルソ画像を用いた図化と写真撮影を行っている。これにより記録作成に係る作業時間の短縮を図った。本報告では、このうちオルソ画像を用いた石室展開図を示す（図１・図２）。

④調査の成果

ア）前山 B71 号墳

前山 B71 号墳は、南側墳丘裾が削平を受けているため南北方向の規模は不明であるが、東西方向で直径 10.8 ｍの円墳である。横穴式石室は、北方向に開口する。石室の天井石は、玄室南側を除き後世の乱掘により除去され、玄室は両側壁の石積みが大きく崩落し、北側に流入土が堆積する。羨道は墳丘の北側に位置するが、現状では視認できず残存状況は不明である。

本調査で清掃及び現況の詳細観察を実施した結果、横穴式石室は両袖式であることが明らかとなった。玄室は、現状で、奥壁幅 2.0 ｍ、玄室主軸で推定長約 2.7 ｍである。奥壁における天井高は 2.2 ｍである。奥壁は、石材の小口積みを主体とし、一部に平積みとみられる横長の石材を併用しながら壁面が構築され、床面から高さ 1.35 ｍの位置に石棚が架構される。石棚の厚さは主軸付近で 0.19 ｍあり、板状の石材を用いる。石棚の直上は、大型の板状石材を平積みにするが、その上部は小口積みと平積みにより天井までの壁面を構築しており、明確な一段一石積みは確認されない。天井石は厚さ 0.1 ｍ、幅 1.25 ｍ板状石材である。奥壁側の現状の床面には川原石である円礫が多数確認されることから、本来の床面に近いと推定される。前壁側では、右袖部及び左袖部の石積みの一部を確認した。いずれも、袖幅約 0.4 ～ 0.5 ｍ以上の横長の石材を用い、平積みにより構築されるとみられる。床面は確認範囲よりもさらに約 0.8 ～ 1.1 ｍ下部に位置すると推測される。以上から、玄室前壁の中央に玄室前道・羨道が接続する両袖式石室と考えられる。

前山 B71 号墳は、岩橋型横穴式石室の平面形態や、奥壁の石棚以上の石積みに一段一石積みが顕著ではないなどの特徴から、６世紀中葉頃に構築されたものと考えられる。遺物の出土は認められなかった。

イ）前山 B191 号墳

前山 B191 号墳の墳丘は、南北直径 8.6 ｍ、東西直径 8.0 ｍ、墳丘高 2.5 ｍの円墳である。横穴式石室は南東方向に開口する。横穴式石室は、玄室及び羨道の天井石が後世の乱掘により除去されており、周辺には石室石材が散乱する。玄室は露出した状態であり、内部は側壁と奥壁の石積みが大きく崩落するとともに、

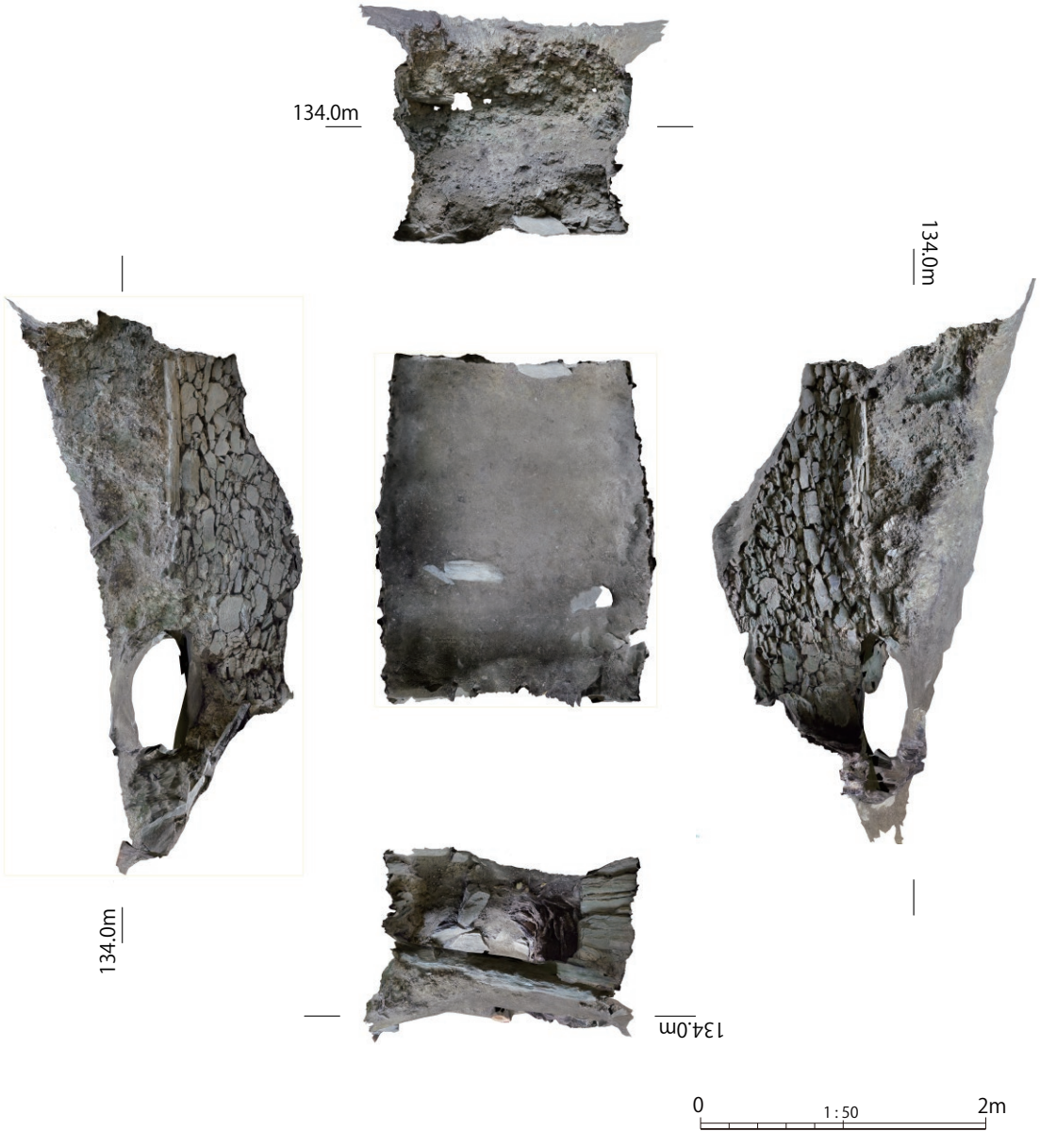


図２　前山 B191 号墳　オルソ画像による石室展開図

流土が堆積した状態である。特に奥壁側は崩落が著しく、視認範囲ではその可能性のある石積みを下部で確認したにすぎない。

本調査で清掃及び現況の詳細観察を実施した結果、横穴式石室は両袖式であることが明らかとなった。玄室は、流入土で下部が埋没した現状で、前壁幅 1.75 m、玄室主軸で長さ 2.25 mである。袖部は、0.35 ～ 0.45 m以上の横長の石材を用い、平積みにより構築される。玄室前道は現状で幅 0.9 mである。以上から、玄室前壁の中央に玄室前道・羨道が接続する両袖式石室と考えられ、構築時期は６世紀中葉から後半と考えられる。遺物の出土は認められなかった。

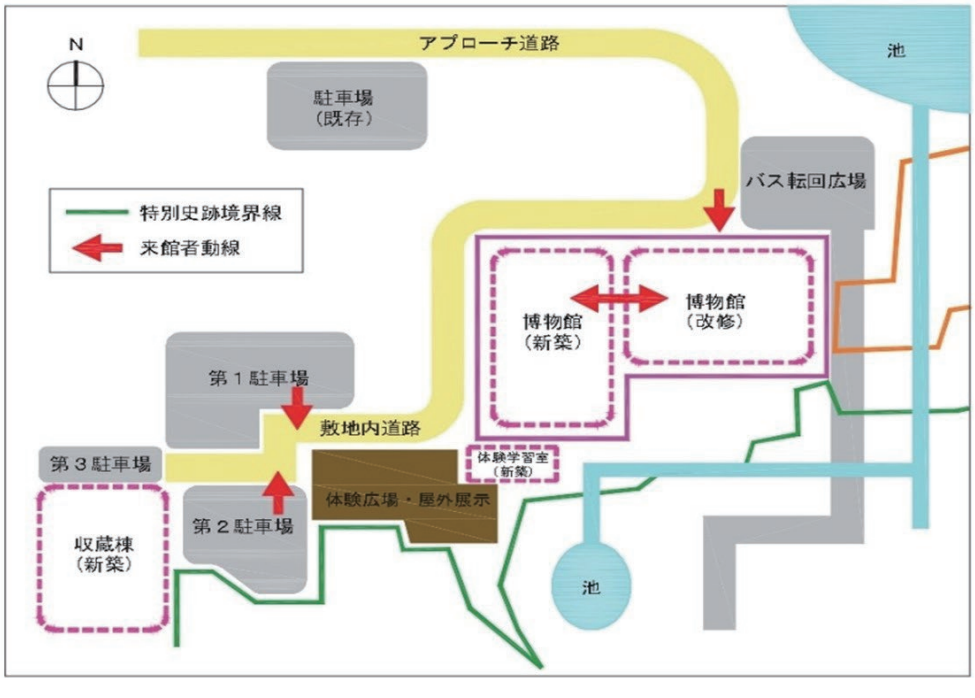
８　和歌山県立紀伊風土記の丘再編事業

（１）経緯

和歌山県は平成 29 年４月に和歌山県長期総合計画（2017 年度～ 2026 年度）を策定し、このうち「文化遺産の保存と活用」に係る主な施策の中で「県立紀伊風土記の丘資料館を考古博物館に再編し、特別史跡「岩橋千塚古墳群」出土遺物を中心とした県内の考古資料の保存と活用を図ります。」と記載した。また、平成 30 年３月に策定された和歌山県教育振興基本計画（2018 ～ 2022 年度）でも同様に、「文化遺産の保存の活用と推進」に係る施策の中で「特別史跡岩橋千塚古墳群の整備・活用及び紀伊風土記の丘の再編整備」について明記している。

これに基づき、上記の施策を実現するために現資料館の再編整備について検討することとなり、平成 30 年度に有識者の指導、助言を得ながら「和歌山県立考古民俗博物館（仮称）基本構想」を策定した。また、令和元年度には「和歌山県立考古民俗博物館（仮称）基本計画」策定のため、和歌山県立考古民俗博物館（仮称）基本計画有識者会議を開催して理念、事業活動、展示、施設、運営に係る計画内容を検討して同基本計画素案としてまとめた。その後、展示計画の修正を経て令和３年度に同基本計画を策定した（令和４年度に施設計画修正に伴い改訂を実施）。

以上に基づき、和歌山県立考古民俗博物館（仮称）の造成工事、展示・収蔵設備工事、博物館（新築・改修）・収蔵棟・体験学習棟建築工事に係る各基本設計業務を令和４年度に実施し、さらに各実施設計業務を令和５年度に実施した。



敷地配置図

（２）工事計画

和歌山県立考古民俗博物館（仮称）は、令和 10 年度下期の開館を目標とし、以下の計画で工事を実施する。造成工事は、令和６年度には下記（３）のとおり造成第１期工事を実施したほか、令和９年度に造成第２期工事に着手する予定である。

建築工事は、令和７年度から９年度にかけて、博物館（新築）建設工事、博物館（改修）建設工事、収蔵棟・体験学習等建設工事について、各々建築・電気・機械設備工事を実施するほか、建築工事施工監理・設計意図伝達業務をおこなう。

展示・収蔵設備工事は令和７年度から 10 年度に実施するほか、収蔵棟什器製作設置をおこなう。

（３）造成第１期工事（造成部分）

○受注業者　　株式会社東組

○当初契約金額　200,486,000 円（第１回変更後契約金額：237,823,300 円）

○当初工期　　令和６年７月 13 日～令和７年６月 30 日

（変更後工期　令和６年７月 13 日～令和７年７月 31 日）

○予算額　　令和６年度：166,537 千円（令和７年度：128,779 千円）

○工事概要　　和歌山県立考古民俗博物館（仮称）の建築に向けた取得用地及び駐車場用地の造成、既存アプローチ道路の拡幅（2 車線化）、バス転回広場の新設、クスノキ巨木及び覆屋移設、雨水貯留施設等の設置、アプローチ道路の市道西和佐 62 号線交差部より南側の水道管更新（新設）を実施した。

土工：博物館棟、体験学習棟、収蔵棟、バス転回広場及び新設駐車場用地造成のための掘削、盛土並びに法面整形を実施した。

地盤改良工:アプローチ道路、造成地内道路及び建設用地における地盤改良（路床安定処理）を実施した。

擁壁工：バス転回広場の造成のため、重力式擁壁及びプレキャスト擁壁の設置並びにクスノキ巨木屋外展示場所の移設、既設浄化槽床板の鉄筋補強を実施した。

排水構造物工：アプローチ道路及び造成地内における側溝工街渠側溝、PU 側溝、自由勾配側溝及び集水桝の新設並びに雨水対策のための雨水貯留施設として大型貯留槽２基を新設駐車場用地内に設置した。

構造物撤去工：拡幅前のアプローチ道路内に設置していた防護柵（ガードレール）撤去、アスファルト舗装破砕運搬処理、コンクリート破砕運搬処理を実施した。

舗装工：拡幅後のアプローチ道路及びバス転回広場におけるアスファルト舗装、減速対策のため大駐車場付近及び市道西和佐 62 号線交差部にカラー舗装ハンプを設置した。

縁石工：拡幅後のアプローチ道路の両端への縁石を新設した。

区画線工：アスファルト舗装後のアプローチ道路及びバス転回広場における区画線を新設した。

道路付属施設工：大駐車場から市道西和佐 62 号線交差部までの直線区間における減速対策として、車線分離標を新設した。

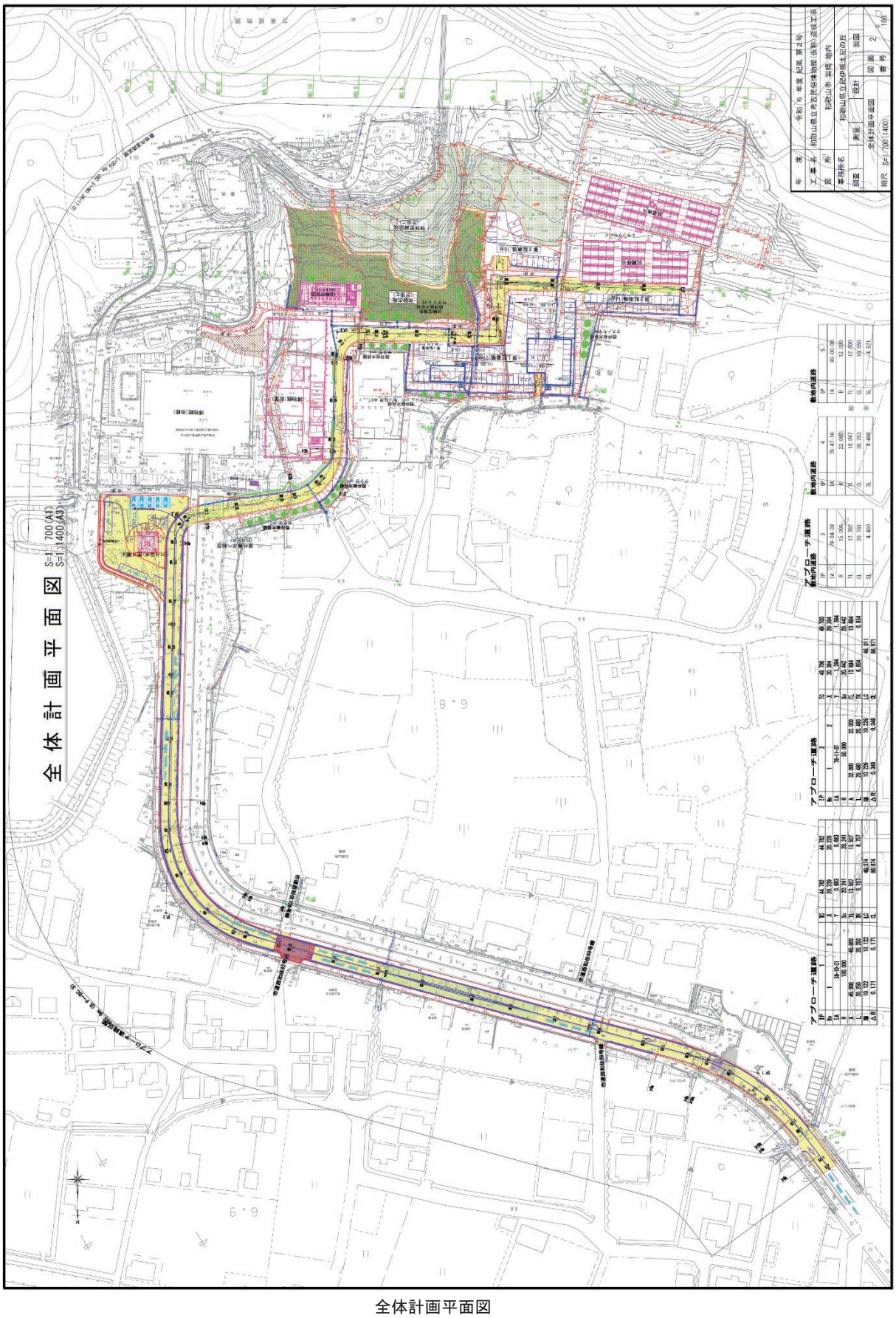
植栽維持工：拡幅前のアプローチ道路の植樹帯に植生していた樹木のうち、移植可能な樹木を造成地内敷地へ移植した。

伐木除根工：新館等建設敷地造成のため、敷地内における雑木林の伐木、伐竹及び除根整地並びに集積処分を実施した。

水道工：バス転回広場造成のため、既存水道メーターからバス転回広場付近の既設水道管の撤去新設を実施した。

博物館（新築・改修）外観イメージ（模型）【北から】

博物館（新築・改修）外観イメージ【南東から】


全体計画平面図
S=1/700(A1)
S=1/1400(A3)
令和6年度 記号 第2号
和歌山市立名草台保育所(仮称)造成工事
和歌山市 吉礼 地内
和歌山市立名草台保育所
全体計画平面図
S=1/700(1400)
1/05
アプローチ道路
駐車場内道路
アプローチ道路
駐車場内道路
アプローチ道路

全体計画平面図

Ⅲ　入館者の動向

年度別資料館入館者及び園内利用者数（令和６年３月 31 日）

年度	（年目）	開館日数	資料館入館者							園内利用者	
			有料			無料			合計		
			個人	団体	小計	個人	団体	小計			
46	1	199	48,684	23,825	72,509			0	72,509		
47	2	301	42,409	27,003	69,412			0	69,412		
48	3	305	26,924	26,038	52,962			0	52,962		
49	4	293	22,950	26,937	49,887			0	49,887		
50	5	295	19,878	30,365	50,243			0	50,243		
51	6	294	14,937	24,339	39,276			0	39,276		
52	7	295	12,334	29,302	41,636			0	41,636		
53	8	291	10,870	24,200	35,070			0	35,070		
54	9	303	9,667	25,231	34,898			0	34,898		
55	10	304	10,831	27,300	38,131			0	38,131		
56	11	294	10,262	22,140	32,402			0	32,402		
57	12	292	8,760	21,687	30,447			0	30,447		
58	13	295	8,021	21,065	29,086			0	29,086		
59	14	295	8,386	23,343	31,729			0	31,729		
60	15	263	7,428	23,782	31,210			0	31,210		
61	16	294	6,313	18,245	24,558			0	24,558		
62	17	295	5,993	15,998	21,991			0	21,991		
63	18	291	5,629	14,533	20,162			0	20,162		
1	19	295	6,244	16,559	22,803			0	22,803		
2	20	296	6,409	13,987	20,396			0	20,396		
3	21	293	6,216	14,209	20,425			0	20,425		
4	22	296	6,615	11,723	18,338			0	18,338		
5	23	290	5,883	11,153	17,036			0	17,036		
6	24	290	4,370	10,498	14,868	800		800	15,668		
7	25	288	3,966	8,809	12,775	3,621		3,621	16,396		
8	26	297	5,457	8,220	13,677	3,112		3,112	16,789		
9	27	305	5,670	8,169	13,839	3,773		3,773	17,612		
10	28	296	5,524	8,355	13,879	4,256		4,256	18,135		
11	29	296	4,520	7,606	12,126	3,988		3,988	16,114		
12	30	281	3,817	8,121	11,938	3,454		3,454	15,392		
13	31	306	4,963	8,733	13,696	4,182		4,182	17,878		
14	32	305	4,530	8,266	12,796	3,606		3,606	16,402		
15	33	307	4,741	8,448	13,189	3,991		3,991	17,180		
16	34	300	3,555	364	3,919	6,452	13,243	19,695	23,614	3,173	（民家利用者数）
17	35	122	2,052	156	2,208	5,649	11,621	17,270	19,478	15,006	（民家利用者数）
18	36	290	3,688	60	3,748	6,625	11,321	17,946	21,694	12,125	（民家利用者数）
19	37	309	3,017	535	3,552	6,212	10,795	17,007	20,559	11,292	（民家利用者数）
20	38	308	3,756	380	4,136	5,986	11,388	17,374	21,510	208,074 3,260	（園内利用者数） （民家利用者数）
21	39	307	3,128	297	3,425	5,426	10,289	15,715	19,140	210,235 2,730	（園内利用者数） （民家利用者数）
22	40	308	4,667	236	4,903	7,173	9,142	16,315	21,218	206,579 3,058	（園内利用者数） （民家利用者数）
23	41	301	3,326	346	3,672	4,683	11,182	15,865	19,537	210,368 2,395	（園内利用者数） （民家利用者数）
24	42	301	3,580	392	3,972	5,280	9,613	14,893	18,865	209,743 2,519	（園内利用者数） （民家利用者数）
25	43	300	3,580	302	3,882	5,152	10,402	15,554	19,436	208,844	（園内利用者数）
26	44	300	3,758	184	3,942	5,356	8,774	14,130	18,072	195,303	（園内利用者数）
27	45	300	3,140	87	3,227	4,930	8,255	13,185	16,412	198,511	（園内利用者数）
28	46	300	3,791	180	3,971	5,929	8,113	14,042	18,013	186,367	（園内利用者数）
29	47	300	4,026	143	4,169	6,492	8,715	15,207	19,376	191,821	（園内利用者数）
30	48	302	3,073	93	3,166	5,363	7,544	12,907	16,073	187,899	（園内利用者数）
元	49	302	3,515	49	3,564	7,082	7,245	14,327	17,891	197,181	（園内利用者数）
2	50	297	1,963	29	1,992	2,797	3,119	5,916	7,908	194,419	（園内利用者数）
3	51	300	2,742	61	2,803	4,045	4,432	8,477	11,280	195,188	（園内利用者数）
4	52	298	2,816	38	2,854	3,985	5,399	9,384	12,238	197,696	（園内利用者数）
5	53	298	3,198	78	3,276	3,925	5,288	9,213	12,489	176,024	（園内利用者数）
6	54	290	3,390	173	3,563	5,094	4,895	9,989	13,552	170,504	園内利用者数
合計		15,483	425,572	582,199	1,007,771	143,325	175,880	319,205	1,326,976		

＊無料入館者　平成６年 11 月３日から、65 歳以上及び障害者等を無料とする。平成 16 年４月１日から、高校生以下を無料とする。平成 16 年度から高校生以下の団体の人数は「無料」の人数に含む。

＊園内利用者　平成 16 年 10 月 20 日から民家（文化財民家４棟および復元竪穴住居）の利用者を集計（19 年度で終了）。
平成 20 年４月１日から自動利用カウンターにより、紀伊風土記の丘全体の園内利用者の集計を開始。
平成 20 年度以降の民家利用者数は、行ったイベント参加者を集計した。

Ⅳ　紀伊風土記の丘協議会

和歌山県博物館協議会条例に基づき、紀伊風土記の丘の博物館運営に関し、館長の諮問に応じ、館長に意見を述べる機関として設置している。令和６年度は２回開催した。

①開催状況

・令和６年度　第１回紀伊風土記の丘協議会
期　日：令和６年７月 30 日（火）
会　場：紀伊風土記の丘　研修室
議　題：（１）会長及び副会長の選出並びに評価部会委員の指名について
（２）令和５年度事業実施報告
（３）令和６年度事業予定
（４）紀伊風土記の丘再編整備事業

・令和６年度　第２回紀伊風土記の丘協議会
期　日：令和７年２月 14 日（金）
会　場：紀伊風土記の丘　研修室
議　題：（１）令和６年度の事業進捗状況（報告）
（２）令和７年度の事業計画（案）（議事）

②紀伊風土記の丘協議会

紀伊風土記の丘協議会　名簿（所属・役職等は令和６年度末時点）

氏　　名	所属・役職等
小野　健吉	大阪観光大学　特任教授
酒井　千佳	元和歌山市立広瀬小学校　校長
千森　督子	和歌山信愛大学　教授
川端　真理	和歌山県事業承継・引継支援センター　承継コーディネーター
田中　いずみ	前和歌山市宮小学校校長
中村　浩道	大阪大谷大学名誉教授
成田　佳代	公立財団法人和歌山県観光連盟　事業課長
禰宜田　佳男	大阪府立弥生文化博物館　館長
森下　章司	大手前大学　教授　大手前大学史学研究所所長
森　　隆男	元関西大学　教授
山神　達也	和歌山大学　准教授
山田　みゆき	株式会社テレビ和歌山　報道制作本部 制作部長待遇 アナウンサー

Ⅴ　調査・研究

（１）考古資料等の収集・調査に関すること

①資料の寄贈・寄託

＊岸晃司氏より寄贈（令和６年５月 15 日寄贈）和歌山市関戸遺跡（和歌山市所在）出土　土器片一括

＊岸清子氏より寄贈（令和６年５月 17 日寄贈）西風山遺跡（紀の川市）出土　縄文土器片 11 点　西風山遺跡（紀の川市）出土　石片１点　高津子山古墳（和歌山市）出土　円筒埴輪１点

＊岸廸夫氏より寄贈（令和６年５月 17 日寄贈）南紀男山焼窯跡（広川町）出土　陶片・窯道具片 45 点

＊寄託資料１件の新規受託、寄託資料 230 件の期間更新を実施した。

②調査研究活動

＊佐々木宏治

〇執筆等

・『特別史跡岩橋千塚古墳群横穴式石室緊急調査事業報告書』和歌山県教育委員会　田中元浩・上田緑・佐々木宏治・木村日向子と共著（３月 31 日）

＊萩野谷正宏

〇執筆等

・『令和６年度特別展　数多の古墳を築く－群集墳から読む古墳時代－』 和歌山県立紀伊風土記の丘（10 月５日）

・「紀伊地域における６・７世紀の群集墳の展開」『シンポジウム「畿内と紀伊の群集墳からよむ古墳時代社会」予稿集』紀伊風土記の丘（11 月 17 日）

・「前山 A87・88 号墳の横穴式石室とその構造」『研究紀要第 13 号』 和歌山県立紀伊風土記の丘（３月 31 日）

・「雑賀崎の漁業史（３）－一本釣漁師の四国出漁－」『研究紀要第 13 号』 和歌山県立紀伊風土記の丘 池田佳祐と共著　（３月 31 日）

・「シンポジウム「畿内と紀伊の群集墳から読む古墳時代社会」討論記録」『研究紀要第 13 号』和歌山県立紀伊風土記の丘　太田宏明・絹畠 歩・仲辻慧大と共著（３月 31 日）

・『特別史跡岩橋千塚古墳群横穴式石室緊急調査事業報告書』和歌山県教育委員会 田中元浩・上田緑・佐々木宏治・木村日向子と共著（３月 31 日）

〇発表等

・令和６年度シンポジウム「紀伊地域における６・７世紀の群集墳の展開」於：和歌山県立紀伊風土記の丘（11 月 17 日）

・高槻古代史友の会「数多の古墳を築く－群集墳から読む古墳時代－」 於：高槻市生涯学習センター（11 月 25 日）

＊田中元浩

〇執筆等

・「海浜集落の研究視点」『紀伊考古学研究』第 27 号　紀伊考古学研究会　pp １－４（８月 31 日）

・「「伝統的第Ⅴ様式」土器の実像」『紀伊考古学研究』第 27 号　紀伊考古学研究会 pp37-58（８月 31 日）

・「布留式以前の布留遺跡」『布留遺跡の考古学－物部氏隆盛の地－』金沢大学　pp109-119　（８月 31 日）

・「レプリカと云う勿れ」『古代学研究』241 号　古代学研究会　pp １－２（10 月 31 日）

・「畿内地域における布留形甕の出現」『古墳出現期土器研究』XI　古墳出現期土器研究会　pp ３-24（12 月 31 日）

・「布留系甕の様相」『西新町遺跡出土品再整理事業報告書 - 西新町遺跡３・12 ～ 15・17・20・22 次出土品総括報告』九州歴史資料館　pp41-60　（３月 31 日）

・「土器製塩に関する実験考古学的研究 - ワークショップ古墳時代の塩づくりに基づく実験・分析・観察 - 」『和歌山県立紀伊風土記の丘研究紀要』第 13 号　和歌山県立紀伊風土記の丘　pp １-18　（３月 31 日）石丸 彩・岩﨑郁実・佐藤純一・仲辻慧大・中西瑠花・馬場彩加・沼野月子・山田望海と共著

・『特別史跡岩橋千塚古墳群横穴式石室緊急調査事業報告書』和歌山県教育委員会（３月 31 日）上田緑・萩野谷正宏・佐々木宏治・木村日向子と共著

○発表等
・連続講座岩橋千塚第 26 回「天王塚古墳と小規模古墳の整備」　於：和歌山県立紀伊風土記の丘（1 月 19 日）
・名草小学校出前授業「名草小学校にあるたからもの」　於：名草小学校（9 月 27 日）
・夏期企画展展示講座　「和歌山フェイクアワード」　於：和歌山県立紀伊風土記の丘（9 月 1 日）

＊上村　緑
○執筆等
・「近畿地方の大型群集墳」『数多の古墳を築く - 群集墳からよむ古墳時代 - 』図録　和歌山県立紀伊風土記の丘（10 月 5 日）
・「龍の考古学」『季刊わかやまの子供と教育』第 94 号　国民教育研究所（12 月 1 日）
・「埋葬施設からみた紀伊地域の中央・周辺関係」『第 7 回古代歴史文化講演会資料集』古代歴史文化協議会（12 月 8 日）
・「考古学からみた原始・古代のよそおい」『季刊わかやまの子供と教育』第 95 号　国民教育研究所（3 月 1 日）
・「伝花山 10 号墳出土品 - 須恵器、埴輪、土師器 - 」『紀伊風土記の丘研究紀要』 第 13 号　金澤舞、仲辻慧大と共著（3 月 31 日）
・「宮田啓二『昭和二七年秋冬　岩橋千塚古墳群　調』- 前山・西和佐地区編 - 」『紀伊風土記の丘研究紀要』第 13 号　石丸彩、金澤舞、瀬谷今日子、冨永里菜、中西瑠花、仲原知之、馬場彩加と共著（3 月 31 日）
○発表等
・「岩橋千塚古墳群について - 日本最大級の古墳群 - 」令和 6 年度第 1 回歴史講座　於：岩出市民俗資料館（6 月 22 日）
・「郷土史家・宮田啓二氏の記録からひもとく岩橋千塚古墳群」令和 6 年度学芸員講座「連続講座　岩橋千塚」　和歌山県立紀伊風土記の丘（7 月 7 日）
・「学芸員のお仕事」（公財）和歌山県文化財センター談話会～文化財にまつわるお仕事ってどんなコト？　於：和歌山県立紀伊風土記の丘（8 月 25 日）
・「埋葬施設からみた紀伊地域の中央・周辺関係」第 7 回古代歴史文化講演会　於：明治大学アカデミーホール（12 月 8 日）

＊木村日向子
○執筆等
・『特別史跡岩橋千塚古墳群横穴式石室緊急調査事業報告書』和歌山県教育委員会　田中元浩・上田緑・佐々木宏治・萩野谷正宏と共著（3 月 31 日）
・「石杵等に付着した赤色顔料の分析結果」『和歌山県文化財センター研究紀要』第 3 号　公立財団法人和歌山県文化財センター（3 月 31 日）

（2）民俗資料等の収集・調査に関すること

①資料の寄贈

＊みなべ町教育委員会より寄贈（令和 6 年 12 月 18 日寄贈）製炭関係資料　・かたげうま 1 点　・くべまた 1 点　・木づくり台 1 点・灰かけ 1 点　・（不明品）1 点　計 5 件 5 点
＊竹内正晴氏より寄贈（令和 6 年 12 月 18 日寄贈）　・建て網 3 点　・櫂 1 点　・艪 1 点　・竿 3 点　・ミカン採り籠 1 点　　計 5 件 9 点
＊泉中條子氏より寄贈（令和 6 年 12 月 18 日寄贈）　・すし箱 1 点　・半切 1 点　・羽釜　1 点　計 3 件 3 点
＊関本幸弘氏より寄贈（令和 7 年 1 月 22 日寄贈）　・イカガタ（未製品）　計 1 件 5 点
＊戸山岩夫氏より寄贈（令和 7 年 1 月 22 日寄贈）　・イカガタ（青）1 点　・イカガタ（黒）1 点　・イカガタ（橙）1 点　・カキダシ　1 点　・カイノミ　1 点　・フクロ（大）1 点　・フクロ（薄赤）1 点　・フクロ（薄赤）1 点　・竹串（ウツボ干し）6 点　・ハラダル　1 点　　計 10 件 15 点
＊林康廣氏より寄贈（令和 7 年 3 月 12 日寄贈）　・ハサミ 2 点　・ドンゴロス 2 点　・テボ 1 点　・ハ

ンドドリル１点　・鉈１点　　計５件７点
＊平田光彦氏より寄贈（令和７年３月 28 日寄贈）　・モリ１点　・ワカメガマ１点　・ワカメトリ１点　・イケス１点　　・コモ３点　　計５件７点
＊松村徳夫氏より寄贈（令和７年３月 28 日寄贈）　・ワカメトリ１点　・コモ３点　計２件４点

②調査研究活動

＊蘇理剛志

〇執筆等

・「和歌山県における民俗学の歴史と現状」『日本民俗学』第 320 号 日本民俗学会（11 月 30 日）
・「周作人「童謡論資」注釈（その二)」『歌謡 研究と資料』第 16 号　歌謡研究会
王蘭・牛承彪・宋天鴻・韓寧爛・永池健二と共著　(12 月）
・「第５報告　御坊祭（和歌山県・2014 年)」　村上忠喜・川村清志・真柄　侑・東城義則編『集積型映像記録の検証　映像による民俗誌の叙述に関する総合的研究－制作とアーカイブスの実践的方法論の検討－』国立歴史民俗博物館発行（３月）
・「『日本漁民事績略』にみる紀州漁民の活動」『紀伊風土記の丘研究紀要』第 13 号　和歌山県立紀伊風土記の丘（３月 31 日）

〇発表等

・令和６年度学芸員講座「高野」（第１回）「高野山信仰とくらしの諸相」　於：紀伊風土記の丘（６月 30 日）
・令和６年度学芸員講座「高野」（第２回）「花園の仏の舞と法華経信仰」　於：紀伊風土記の丘（９月 22 日）
・日本遺産「鯨とともに生きる」ガイド養成研修「祭りの中の鯨文化」　於：太地町立くじらの博物館
熊野灘捕鯨文化継承協議会（11 月 20 日）
・冬期企画展展示講座「たがやす」　於：紀伊風土記の丘（２月９日）
・和歌山地方史研究会第 155 回例会「高野山麓のおこない行事の特色」　於：和歌山県立博物館（２月 16 日）

職員名簿（令和６年度）

職　名		氏　名
館　　長		増　渕　　徹
副　館　長		西　口　治　伸
主　　幹　学芸課長事務取扱		佐々木　宏　治
課　名	職　名	氏　名
総　務　課	総務課長	藤　井　達　也
	主　査	川　﨑　康　弘
	主　査	西　川　　潤
	主　事	山　本　蒼　大
	主　事	藪　野　太一郎
	公園内環境整備職員（会計年度任用職員）	青　木　一　法
	清掃作業員（会計年度任用職員）	岩　上　宏　子
	移築民家管理等職員（会計年度任用職員）	大久保　善　博
	受付窓口業務員（会計年度任用職員）	奥　山　容　子
	業務補助職員（会計年度任用職員）	桂　　誠　志
	業務補助職員（会計年度任用職員）	雑　賀　　陽
	移築民家管理等職員（会計年度任用職員）	佐　藤　眞　一
	公園整備員（会計年度任用職員）	松　本　　誠
学　芸　課	学芸課長	佐々木　宏　治
	主任学芸員	萩野谷　正　宏
	主査学芸員	蘇　理　剛　志
	主　査	竹　内　夫　美
	主査学芸員	田　中　元　浩
	学芸員	上　村　　緑
	技師兼学芸員	木　村　日向子
	体験学習補助員（会計年度任用職員）	植　松　裕　太
	業務補助職員（会計年度任用職員）	大　川　赳　司
	埋蔵調査員（会計年度任用職員）	立　岡　瑞　穂
	埋蔵整理作業員（会計年度任用職員）	玉　井　朱　美
	埋蔵整理作業員（会計年度任用職員）	谷　口　敦　子
	園内植物管理員（会計年度任用職員）	松　下　　太

紀伊風土記の丘研究紀要
第 14 号

【研究ノート】

宮田啓二『昭和二七年秋冬 岩橋千塚古墳群 調』
－郡長塚古墳（前山 B112 号墳）、鳴神貝塚、その他岩橋千塚古墳群について－
石丸 彩・金澤 舞・瀬谷今日子・冨永里菜・中西瑠花・仲原知之・馬場彩加 ・・・1

花山８号墳出土鏡の推定 森下章司 ・・・17

紀伊半島における漁網土錘の研究１ 集成・分布編 田中元浩 ・・・21

和歌山県の漁撈習俗について（１） 研究史の整理と少しの事例報告 藤森寛志 ・・・37

【活動報告】

重要文化財和歌山県大日山 35 号墳出土埴輪修理報告 三分割焼成の家形埴輪・胡籙形埴輪保存修理報告
和歌山県立紀伊風土記の丘・公益財団法人元興寺文化財研究所 ・・・47

執筆者一覧

萩野谷 正宏	和歌山県立紀伊風土記の丘 学芸課長	考古学
藤 森 寛 志	和歌山県立紀伊風土記の丘 主任学芸員	民俗学
瀬谷今日子	和歌山県立紀伊風土記の丘 主任学芸員	考古学
田 中 元 浩	和歌山県立紀伊風土記の丘 主査学芸員	考古学

＜外部執筆者　五十音順＞

石 丸　彩	公益財団法人和歌山県文化財センター埋蔵文化財課 副主査	考古学
江 野 朋 子	公益財団法人元興寺文化財研究所　主任研究員	保存科学
岡 田 一 郎	公益財団法人元興寺文化財研究所　研究員	保存科学
金 澤　舞	和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課 主査	考古学
冨 永 里 菜	和歌山市産業交流局文化スポーツ部文化振興課 主査	考古学
中 西 瑠 花	有田市教育委員会 主事	考古学
仲 原 知 之	公益財団法人和歌山県文化財センター埋蔵文化財課長	考古学
森 下 章 司	大手前大学　教授　大手前大学史学研究所　所長 紀伊風土記の丘協議会　委員	考古学
馬 場 彩 加	田辺市教育委員会生涯学習課 事務員	考古学

＜研究ノート＞

宮田啓二『昭和二七年秋冬　岩橋千塚古墳群　調』
－郡長塚古墳（前山 B112 号墳）、鳴神貝塚、その他岩橋千塚古墳群について－

石丸彩・金澤舞・瀬谷今日子・冨永里菜・中西瑠花・仲原知之・馬場彩加

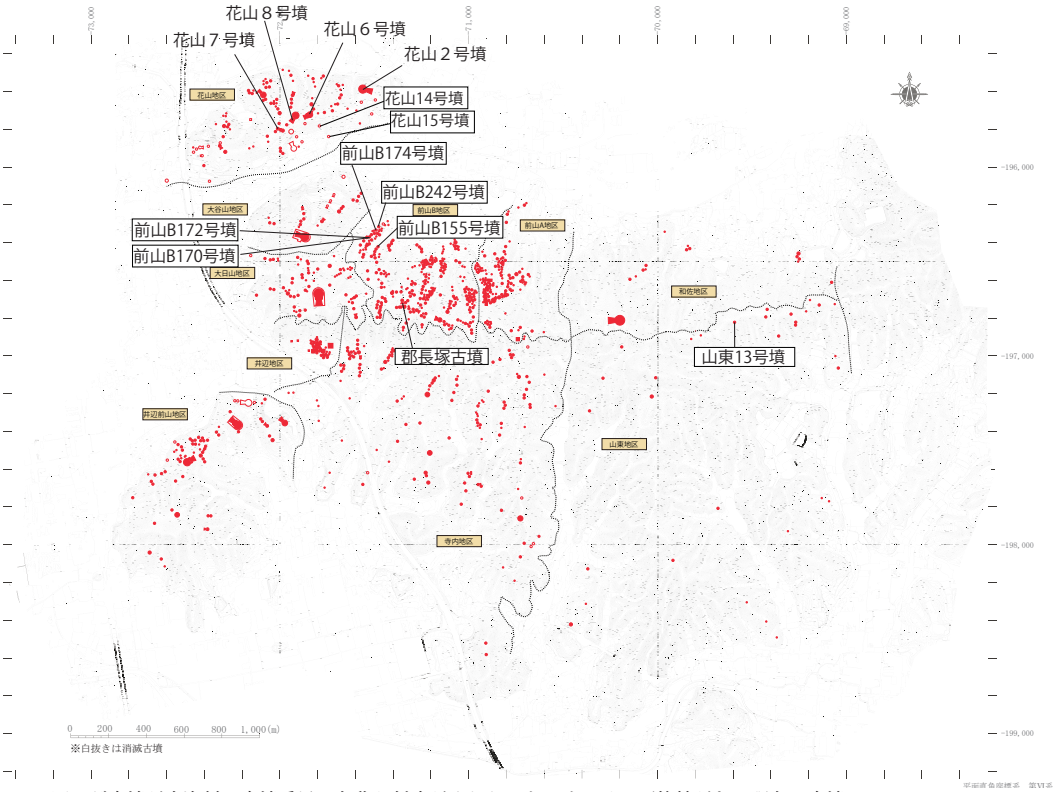
はじめに

『昭和二七年秋冬 岩橋千塚古墳群 調』(以下､｢当資料｣という。）は、和歌山県の郷土史家である宮田啓二氏が昭和 24 ～ 29 年（1949 ～ 1954）に岩橋千塚古墳群などの踏査や聞き取りの記録を書き留めたものである。当時やそれ以前の岩橋千塚古墳群などの状況を知ることができる大変貴重な資料であることから、令和２年度より有志で当資料の書き起こしを行っている。令和２年度には花山地区、令和３年度には大谷山地区、令和４年度には大日山地区の一部、令和５年度には大日山・前山Ｂ地区の一部、令和６年度は前山・西和佐地区の書き起こしと考察を行った（石丸ほか 2021・2022・2023・2024・2025)。

本稿では、郡長塚古墳（前山 B112 号墳)、鳴神貝塚、そして岩橋千塚古墳群について記載した梅原末治あての手紙草稿などについて記載する 129、142、144・145、158・ 159、163 ～ 182 頁の書き起こしを掲載し、内容について若干の考察を行った。なお、１の書き起こしは執筆者全員で、はじめに・２は金澤が、３は瀬谷が執筆を行い、全体編集は金澤が行った。

書き起こしは、およそ各頁数に分けて掲載し、旧字やくずし字[註1]、誤字もすべて原文のままとした。文字が判別できないものは、『□』と表記し、補足が必要と思われる箇所には、注記《＊ 》を付記した。

なお、当資料に記載されている古墳番号・名称



※□で囲んだ古墳が当資料の古墳番号・名称と対応が取れた、もしくはその可能性がある現在の古墳

図１　本稿と関係する現在の古墳位置図（和歌山県教育委員会 2025 に加筆）

には、現在把握されている古墳名称（和歌山県教育委員会 2019・和歌山県教育委員会 2025）と異なるものがある。記載内容をわかりやすくするため、当資料の古墳番号・名称と現在の古墳名称との対応関係を先に示す（表１）。このうち、対応が確定的でないものについては「？」を付記している。

また、当資料の古墳番号・名称と対応が取れた、もしくはその可能性がある現在の古墳については、位置を図１に示した。なお、古墳名称は現在のものを使用している。

当資料の書き起こしは本稿が最終稿となる。全体頁とこれまでに書き起こした頁との対応関係は表２のとおりである。書き起こしていない残りの頁は、既存の論文の写しなど、その必要がないと判断したものである。

表１　当資料掲載古墳と現在の古墳との対応関係

当資料古墳番号等	現古墳名称	当資料記載概要	備考
郡長塚	郡長塚古墳 （前山B112号墳）	**耳環2個、直径約18.18㎝の鏡、管玉？ 6、70個、勾玉、瑪瑙製玉2個出土**。	
（Ⅰ）/(1)	前山B242号墳		
（Ⅱ)/(2)	前山B174号墳	市真砂町住**沼氏所蔵鏡出土**。ただし、聞き取り等から当資料で宮田氏は最終的に花山出土とするのが今のところ妥当と判断。	
(Ⅲ)/(3)	前山B172 号墳		
(Ⅳ)/(4)	前山B170 号墳	西和佐**沼氏所蔵装飾付台付壺出土**。	
御殿山東稜中池上×印	―	主体埋葬施設は存在しないが、その側に**竪穴式石室**あり。石棺内から**直径15～18㎝程度の朱付き鏡一面出土**。	現在消滅古墳か。大谷山16号墳南西に隣接して立地。
花山分布下腹部に所在する未調査墳	花山14/15号墳？	**武田伊三朗氏所蔵鏡出土。幅約9.09㎝、長さ約60.6㎝の鉄製品１個、約9.09㎝の金製品2個、三葉を鎖端にもつ耳飾、冠辺とみられる金色の棒状のものを多数垂下する資料が出土。**出土品は190円にて売却。	
長尾池西辺谷間巨石直上墳	前山B155号墳？	**埋葬施設は横穴式石室**で、玄室4/5 程度埋没。	
天王塚矢田峠間六墳内 第五号	山東13号墳？	天王塚古墳と矢田峠間中間に位置。埋葬施設は**横穴式石室**。	立地と埋葬施設から推測。
大塚山古墳	不明	位置図のみ掲載。	対応関係不明。

表２　当資料全体頁と書き起こし済み頁との対応関係

※書き起こし終了頁はグレー塗りとした

表題	頁
大日北嶺(御殿山)図	1-3
大日北嶺調査　昭和27.1.13午后	4-17
大日北嶺第Ⅰ稜実調　昭和27.1.26	18-24
花(植山)山古墳実調　昭和271.27	25-42
花山古墳調査　昭和27.2.9(土)	43-48
大日南嶺第Ⅱ稜　7号墳	49-55
昭和27.1.7午后実調　寒冷地	56-60
大日南嶺　第Ⅱ稜　昭和27.1.9午后3時出ー日没迄調査	61-63
昭和27.1.5　午前中調査	64-68
大日山略図　第Ⅱ稜調査	69-70
昭和26.12.25午后調　晴後曇細雨	71-78
大日南嶺第Ⅱ稜　昭和27.1.4午后　3号墳	79-86
大日南嶺第Ⅲ稜　昭和27.1.10午后調査	87-88
午前中寒冷午后□《＊稍?》緩ム	89-96
大日山北嶺古墳分布図　昭和26.12.20調	97-101
大日山南嶺　第Ⅰ稜調査	102-109
昭和26.12.13日調　花山古墳調査ﾒ書抄 NO.1	110-113
西和佐古墳調査　昭和27.1.4午后	114-118

表題	頁
昭和27.1.5午前　長尾山にて書抄	118-119
○○○○○氏書抄　昭和27.1.12午后	120-124
山城の古墳	125-126
昭和29.6.11日(金)午后5時	127-130
参考　地理と古墳文化　藤岡謙次郎	131-132
大日南嶺　第Ⅲ稜　昭和27.1.7午后	133
昭和29.5.30(日曜)	134-138
29.7.2　No.1《＊前山地区の聞き取り》	139
《＊宮田氏の岩橋千塚における問題意識？》	140
鳴神貝塚　西和佐古墳　和歌山考古學会	143
昭和甘五.十一.十九見學	143
《＊大日山北嶺》	146-149
第三伸《＊花山古墳》	150-157
《＊梅原末治あて手紙草稿》	158-159
須佐入江の範囲	160-162
《＊花山古墳分布図等》	－
《＊梅原末治あて手紙草稿》	163-182
《＊羯磨正信氏から宮田啓二あてのはがき》	－
和歌山大学祭　考古学展示記	－

１．宮田啓二『昭和二七年秋冬　岩橋千塚古墳群調』書き起こし

【129 頁】

大池の上の郡長塚《＊現郡長塚古墳（前山 B112 号墳)》から耳環 2、鏡径 6 寸（土のついたまゝで出す）

エンピツ太いの玉《＊管玉？》6、70 個　勾玉瑯玕《＊硬い玉》メノ―《＊瑪瑙》玉二個

【142 頁】

鳴神貝塚　西和佐古墳　和歌山考古学研究会　昭和廿三《二十三》. 十一. 十九見学

鳴神貝塚

一、縄文中期文化遺址　地積三反餘《＊ 3,000 ㎡余》　畿内唯一

二、明治廿八《＊二十八》年七月　人類學雑誌に紹介さる

三、明治卅八《＊三十八》大正九　鳥居龍蔵氏ニ依る調査

【144・145 頁】

岩橋千塚

岩橋千塚は西和佐村南方より西方鳴神村附近に亘り千数町間の山腹山頂に築かれた一大古墳群で概数五百基以上あり。東方山頂の天王塚と俗称される前方後圓墳《＊現天王塚古墳》を除きこれより西数町《＊一町約 109.09 m》間の大谷・小谷及楠谷といふ地域は全山村有林にして古墳群各所に散在し先づ実地踏査によれば總数百四十基に余り多く荒廃したれども尚封土石室共に完存せるもの甚少しとせず、その残存せるものも発掘の厄に遭遇したるもの多く未だ発掘せられず猶完存せりと推測せらるゝものは僅に二十基前後を算ふるに過ぎない　その封土石室の略完存せるものも多くは土壌に埋まり直ちに石室内部に入りて構造様式を調査すること不可能なりしも大正七年黒板勝美博士岩井武俊・田沢金吾氏等の発掘調査《＊岩橋千塚第一期調査》せるものは凡廿七《＊二十七》基あるも今これを挙げ得ざるにより実地につき臨地説明にゆづり出土品の一部を紹介して参考資料とす

一、西和佐村沼平助氏蔵品

鏡鑑　一　三神三獣鏡

勾玉　三　棗玉　四　管玉　二一

小玉　一一

金環　三　銀環　銅鏃　二

石製模造品　二　直刀　一

釧　一　動物装飾台付坩　一

其他斎瓮土器坏・高坏平瓶・提瓶・坩等多数

動物浮彫飾台付坩図

二　清水清氏蔵品

五鈴鏡　一　径二寸七分《＊約 8.2 ㎝》

勾玉　一　管玉　三四　切子玉　五　小玉　二五七

金環　六　銅環　二　直刀　一　刀子　一　雲珠　一

紡錘車　一　埴輪土偶　一　埴輪圓筒

玉類動物装飾付子持台付坩　杯　九　髙杯　六

瓲三　提瓶　二　平瓶　一

三、西和佐村　岩橋常雄蔵品

金環　銀製鉱《＊鍍》金具　棗玉

小玉　鉄製鉱《＊鍍》金々具　髙坏

四、西和佐　武田伊三郎氏蔵品

鏡鑑・釧・斧頭、刀子

石製模造斧頭　土製勾玉

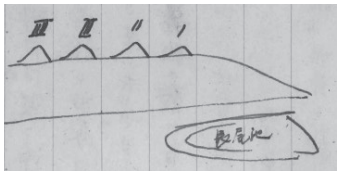
【173 ～ 182 頁】

昨日は態ゝ御光来賜はり却つて結構な御品頂戴いたし恐縮に存じます　御話を相承するのみにて大変愉快ニ有之　迎春の記念すべき一時をすごさせていたゞきました。職につながる会合酒□様ゝなれど多くは駄弁鬱散の類に有之　生来の機に相触るゝこと一刻□宵と存上候

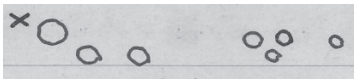
旧臘廿七日《＊去年の 12 月 27 日》長尾池南南東ニ於て背后より登り来る野□ありて例の如く話かけたる□《＊度？》當人は⊙⊙⊙⊙《＊個人名。以下同様の人名は同じ伏字とする》と申す仁にて前山管理人なる由、依而枯草を籍き語るうち　実は先達□の花山古式墳《＊現花山 8 号墳》の発掘者○○氏《＊個人名》が発掘跡を更に十の字に発掘したるはこの人にて東西に自分は掘つてみたが何もなく玉一個を得たと申し居り、この了は○○氏南より掘り初めの言を確証するものにて本墳は南

北を主軸とすること　正ニ確實です更二其の地点については　この位置よりの写影×印、即ち分布図 ○○氏より聞き漏したところ幸にこの仁に依り補足出来たこと意外の収穫です　したがって○○氏その西隣の墳にて仝じく粘土槨　黒水銀鏡出土とあるのは 墳即ち写影○印かも知れません。いづれ実地即き調査します　つまりこの位置は花山中央部最高所にあり政治的にはすでに附近平地を舞台とする権威が示す初期墳としては　格好の位置の様に思はれます

　ついで先便オイワ谷尾稜墳（北面よりすればこの名称寧ろ南面長尾谷尾稜墳とする方可）《＊当資料69頁大日山第Ⅱ稜》の中（Ⅱ）《＊現前山　B174号》より市眞砂丁《＊現和歌山市真砂か》住沼氏所蔵鏡出土、(Ⅳ)《＊現前山B170号墳》より先般

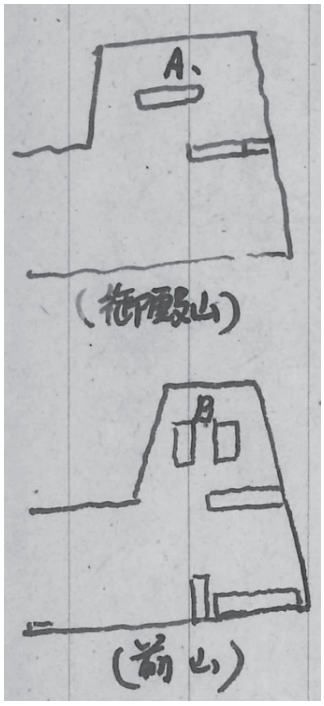


西和佐沼氏所蔵鹿の飾付ある髙坩出土せること本人の発掘関与するところに於いて確実です。つまりこの長尾谷南北両面は沼氏所有にて沼、清水両氏は共に濫掘流行裏ニ自家所有山林につき人を役して掘らしめたるものを大体に於て所有する模様にて　先般沼氏の鏡の如きは◎◎氏も出所を知らざる由、当家祖母なる人心ありし人故買入たりと想像するとの話に有りて、但し○○氏ゟ書抄中沼氏所蔵中に本墳出土の混入するとあるより花山出土とするのが今のところ妥当でせう。更ニ分布図中御殿山《＊大谷山地区一帯の丘陵》東稜中　池の上に位置する×印　この尾稜《＊第三稜》中主墳にて石槨はすでに附



近畑地に轉用、存在しないがその側に箱式の小積石墳附随してこの中より五.六寸位《＊15～18㎝程度》の朱塗鏡一面出土　これは海草郡紀伊村ナンゴの酒屋の所持山にて仝じく人を役して掘らしめたる中に◎◎氏あり　恐らくは当家に所持すべしとの話。故　存否を調査します。尚◎◎氏の言ニ依り花山分布下腹部 とした□実地未調のものは例の武田氏所蔵鏡（散逸）出土の墳にて濫掘当時この墳を◎◎氏ら数人の手に依り発掘　鉄錆して巾三寸《＊約9.09㎝》長さ二尺《＊約60.6㎝》位の のもの三寸《＊約9.09㎝》位の 金の二片を得たるところ封土崩落を感じて退散。直后崩壊して再び発掘せず上記二品は一九〇円にて売却　但しこの墳には必らず他に埋存あるべしとの話。□□《＊小生？》にはこのいきさつについで或程度諒察出来るので、つまりこの際放棄した墳は武田＋＋＋歯に朱を残す五寸《＊約15.15㎝》位の白銅色の□《＊鎧？鎖？鏡？》一面　西域に□《＊余？全？》影を曳く鎖端に三葉を附する耳飾、冠立飾と想像される□《＊渡？》金細片を棒状のものに多数垂下するもの（□□《＊小生？》実見小学校にて紛失のもの）を出土した墳に相違なしと考えられます。この冂は縁者なる人が存在故日を追つて明瞭すると思います　要は花山墳中注目すべき一墳であることを意識し　現状については精査するつもりです　絶体に出土品にすぐれ金製品の多いことは　前山との間に時代的、乃至副葬配置に於て推移あること勿論乍ら今少しく隠れた例証を綜合したいと思います　◎◎氏□　ニ依り仝山最東端にも四墳の存在は確実（既畑地）です　察するところ、頂上古式二墳は引つゞき 形のものに又 三基に□移していつた様に思はれるが（地形的に）最近私は床底礫石に注目致し居り　総括的には海浜細礫を布くものは川原石を布くものに比し先行する模様にて　その精撰度は石槨の精工度と比例する様に考えられ　□いて生前の地位に関係する様にも考えられます　但しこれは時代の一風習でせう。前山に至つては海浜細礫を布く風は全く跡を絶ち中央頂前方後円（前方部）の髙さ四、二〇の精工復室墳にして為五～十五糎《＊㎝》大の川原石を布き四六号《＊現前山A46号墳》附近一群に於ても仝様です。大日頂墳《＊現大日山　35　号墳》は残存一部より見れば精撰の海礫です（南北五五メートル前方後円形、後円未掘）相対する御殿頂墳《＊現大谷山　22号墳》は 形は石槨構造に於て略類似し乍ら一〇糎《＊㎝》大川原石を布く　こゝに両墳前后関係が型通り移行したとすればある訳ですが、前山甎築形《＊現前山A46号墳》と御殿山墳頂《＊現大谷山22号墳》とは石梁使用

の A、B の間にすでに特色があり、御殿山墳《＊現大谷山 22 号墳》は川原石使用墳中先行する様見受けられることです。



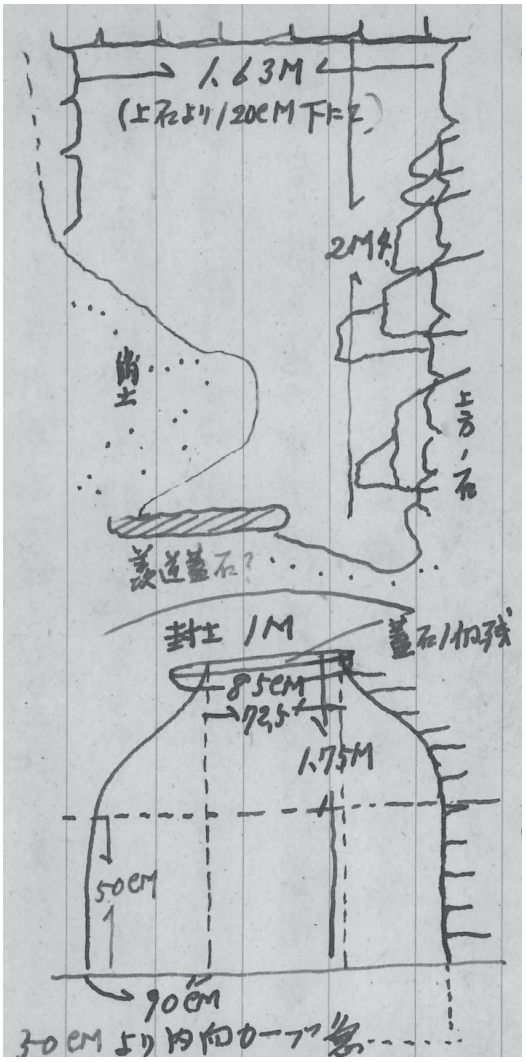
外形上 の局限されたこの地域の前后関係については例えば花山頂稜に位置する 形二墳《＊現花山７号墳と花山６号墳》は前記の如く古式墳《＊現花山８号墳》に位置接してかく発展し来りし如く見受けられるけども これも一概に早断する訳にも行かない様に思はれることです 形が各時代通じて存在する中に 形も花山 御殿山 前山と存在する訳ですが先便にて抄報の花山 形中 形石槨は、本□中唯一例と考え居りしところ、昭和廿七《＊二十七》年調査の資料に依れば

（イ）分布、長尾池西辺谷間に 巨石直上にある墳《＊前山 B155 号墳？》

（前）後壁を 以つて左右壁を囲む形（交互右□ニ非ず）2.4M《＊m》は実長とは考えがたし

構造□雑

左右壁軟弱の如くなれどもこの四隅モタセ手法極めて堅緻なることを証し 且ツ高さは埋没の若干加算すべく床石未見 あらかじめ設計意図を看取 4/5 程度埋没（玄室床面奥壁下すぐ）



Ⅱ 昭和三十年十二月十二日調 天王塚矢田峠間六墳内 第五号（中間ニ位置）《＊山東 13 号墳？》

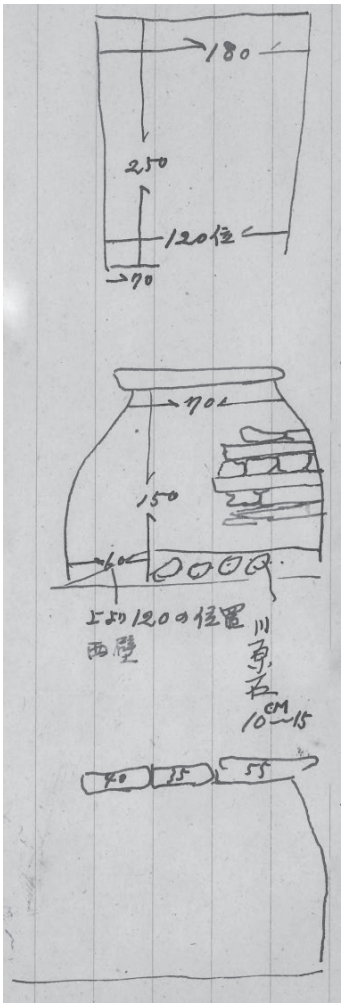
○東北隅の石組上より四○糎《＊cm》の位置にて東壁の石を一つ奥に入れる

○西北隅〃上より五○糎《＊cm》のところ以上は西壁を奥壁に突き入れる（カーブ急なるにつれてこの手法 大体に於て左右壁を奥壁にもたせかける形をとる

（１）の場合下方偏差 90CM《＊cm》は実測に當つて多少不合理もある而に思ふ姑らく記す

概要上記の三例ですが 少数例乍ら一つの伝統がある様にも思はれます

その一ツに花山 がありこれは隅石は交互差入をなし床石は白黒の海石を布き 類例の少いモタセカケの手法はとつていない



右は杏葉《＊172頁七．下右図の遺物のことか？》関し大日墳《＊現大日山35号墳》出土と先便に書きましたが、全く之は虚伝に有之

実はすべて花山出土なる了当主より直〆するところです。馬具と察しますが　私にはこれを綜合する知見を持ち合せません。いづれにして技術精工にして黄金豊かに被葬上層のもつイメージを感じますこの調査に依り□□氏より〆く井辺惣光寺谷《＊井辺総綱寺谷のことで現在の寺内地区内》の実状を知りこれは大収穫と思つています

即ち千塚南辺回大日南麓にあたる密集墳の存在にてこれは我々の想像もせず、恐らく土地少数者の知るとこでせう。同家先代藩の御用□□栽培にて開墾の際　ゝに供養一碑をたて（既存）更ニ同氏少年期その上方開墾の際一小地域に十墳以上を記憶して依り　既存その周辺に多数ある模様にていづれ精査します　神崎山林中に尚十墳位はある模様です。つまり埴輪ある主塚の南麓です　こゝに知る分布は明らかに井辺周辺土器に関係するものと考えられ徐々に分明してくる様思はれるのです　教□有之

○うつぶして図面を□《＊ひ？》けば羨道に差し入る入日一筋にさす

○時折は驚くばかり音をたてゝ冬の風すぐ玄室の外

○小さき塚　前と後にもたかくと声なきものに対□て侍□り

○頂墳の上にオーバの襟をたて橈むが如く風中に□り

○自から我のコースはさ□□りて　池に映れる墳を見てすぐ

○相対ふ巓と巓とに凭り立てば群集墳が持てるかなしさ

○我らより□きかなしこと地に染めて墳なき民らいづらにゆきし

今日は雨天につき□来この文を書き、只今より決闘厳流島を観る所存です。駄弁以上　御返信お気まかせに今后共願い上げます

皆ゝ様□めて御健勝　御多幸御祈り致します

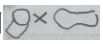
昭和三十一年正月日　宮田

梅原先生　侍史

【158・159頁】《＊180～182頁とほぼ同じ内容であるが、時期的な前後関係など詳細は不明》

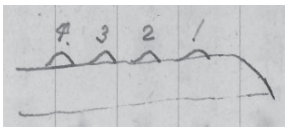
昨日は態ゝ御光来賜はり　却つて結構なる御品頂戴致　恐縮に存じます　御話を相承いたすのみにて大変愉快に有之迎春の記念すべき一時をすごさせていただきました　職につながる会合　所謂酒□様々なれど多くは駄弁府の散々有之生来の機に相触るゝこと一刻□□と存じ上候。

旧臘廿七日《＊去年12月27日》長尾池尾陵登欅中背后より登り来る野□りて、例の如く話しかけたる□《＊度？》当人は⊙⊙⊙⊙と申す仁にて前山管理人なる由　依而枯草を藉き語るうち、実は先達ての花山古式墳《＊現花山８号墳》の発掘者○○氏が発掘の跡を更に十の字に発掘したのはこの人にて　東西に自分は掘って見たが何もなく玉を

一個を得たと申し□り、この了は〇〇氏の南より掘り初めの言を確証するものにて　本墳は南北主軸であつた了正ニ確実です。更にその位置については　この位置よりの写影の×印即ち分布図  にて〇〇氏より字き偏したところを幸にこの仁に依り補足出来たこそ意外の収穫です。したがつて〇〇氏のその西隣の墳にて仝じく粘土槨　黒水銀鏡出土とあるは 印した墳即ち写影〇印かも知れません。いづれ実地にあたつて見ます

つまりこの位置は花山中央部最高所にあり、政治的にはすでにこの附近平地を舞台とする権威が示す初期墳とし格好の位置の様に思われます

ついで　先便にてオイワ谷尾稜墳（これは北面から見れば左様になるので、南面の谷の名　長尾谷尾稜墳とした方適当かと思います）の中　（２）《＊現前山 B174 号墳》より市眞砂町沼氏所蔵鏡出土、（４）《＊現前山 B170 号墳》よりは先般の沼氏所蔵品中鹿の飾付ある髙坩を出土せること本人の発掘関与するところに於て確実です。つまり　この長尾谷南北両面の山は沼氏所有にて沼、清水両氏は自家所有の山地を人を役して掘らしめたるものを大体ニ於て所蔵する模様です　但し、沼氏所蔵の（先般採拓《＊採択？》）の鏡出所については⊙⊙氏は不明の由で、当家祖母なる人心ある人なり故買入たりと想像すとの話、



但し、〇〇氏

【172 頁】《＊頁が離れているが、158・159 頁に続く文章の可能性がある》

に見解承り□く候

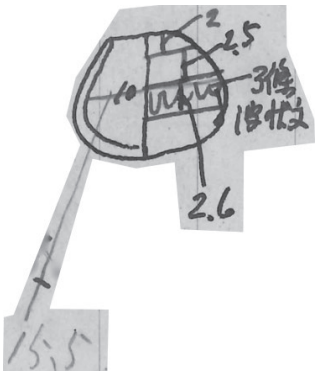
前記　⊙⊙　氏　□　 　はその賣先井辺＠＠《＊個人名》氏に有之　年来同氏を訪問　同氏は井辺に於ける名門にて　同氏の父君古癖ありて一応は出土品はこゝを通過したる

□様　64　才没、故にこの人を失う了は千塚出土の概要を窺う上に實に恨るに有之　當主❖❖氏も痛切にこの了に触れ居り候、只今同家所蔵数点あり右《＊下》の通りです

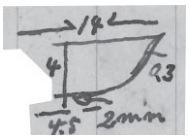
以下 CM《＊以下、図面の単位はcm》

一、底径十五糎《＊cm》高さ二三糎《＊cm》にて欠の細形円筒埴輪

二、井辺惣光寺谷《＊寺内地区内》墳出土　土師（黄朱色）



三、須恵

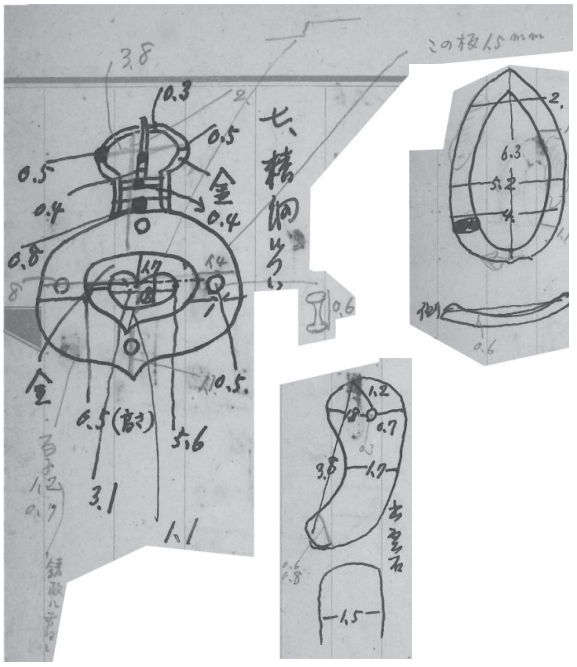


四、□《＊璢？》　　五、大型須恵器上部

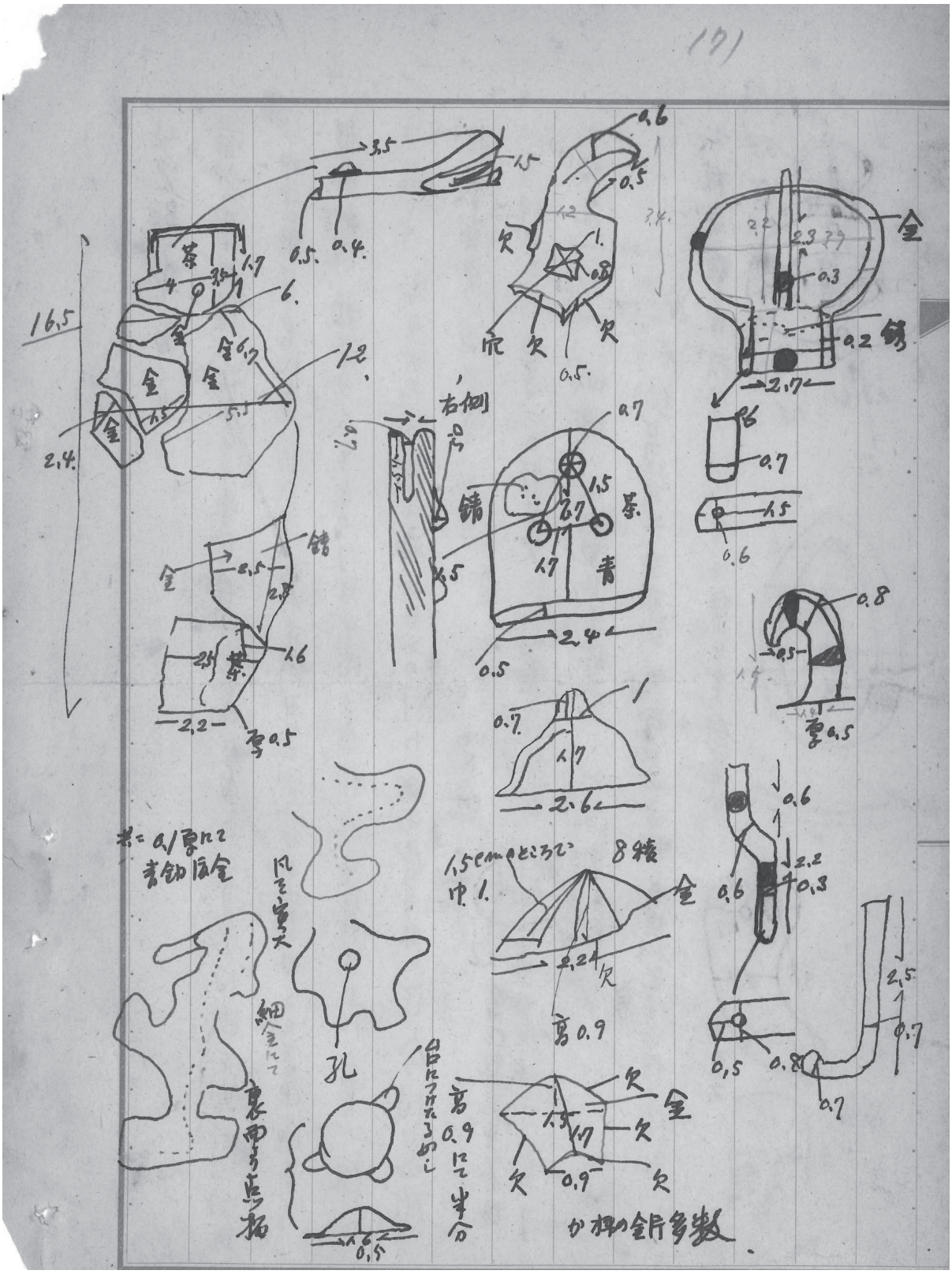
六　弥中？土器底

（六）は井辺東辺分布図×印に出土の由、古墳以前よりの住居を認

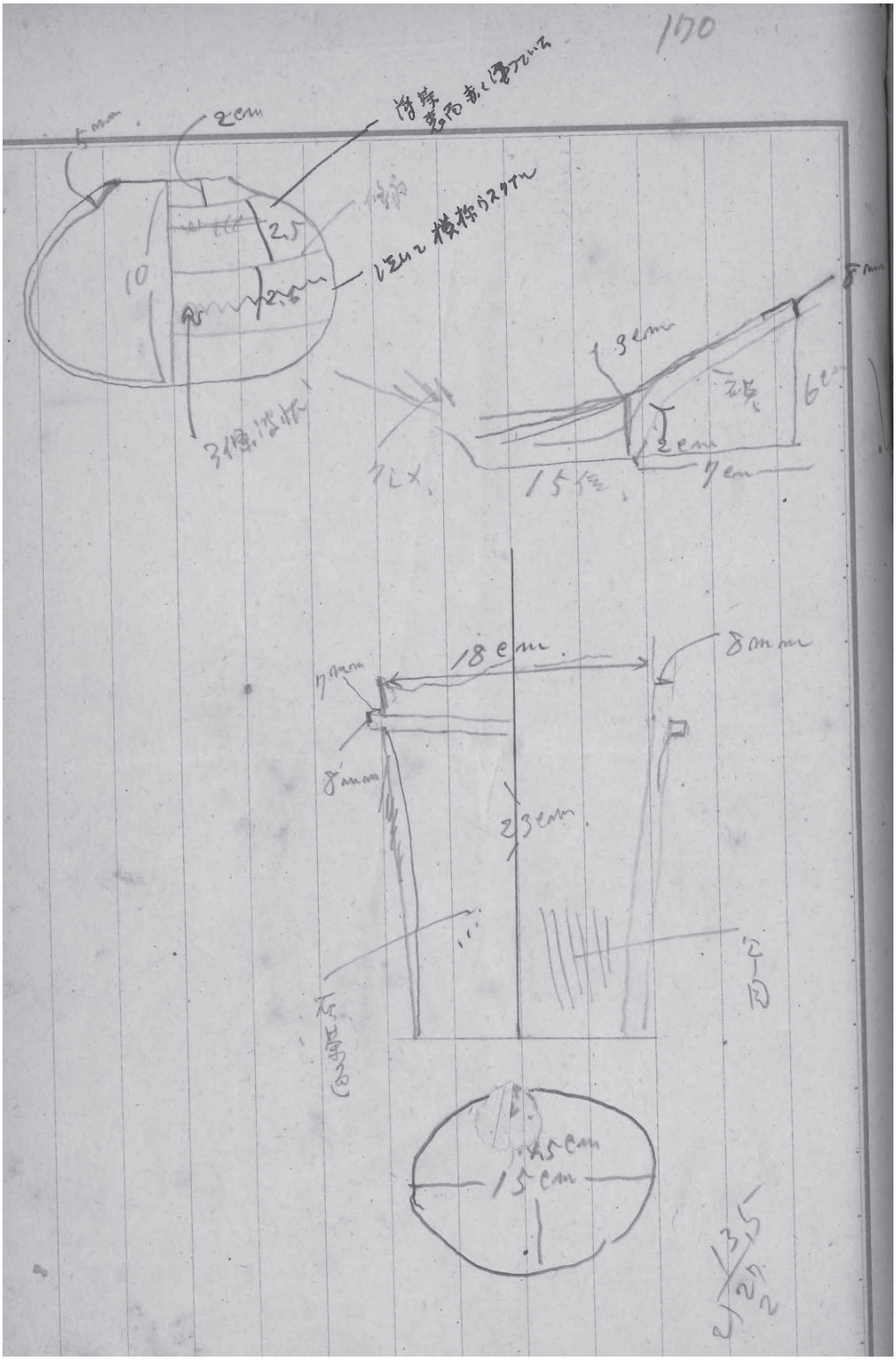
七、精細については機会調整を待つとして概要、



【171 頁】

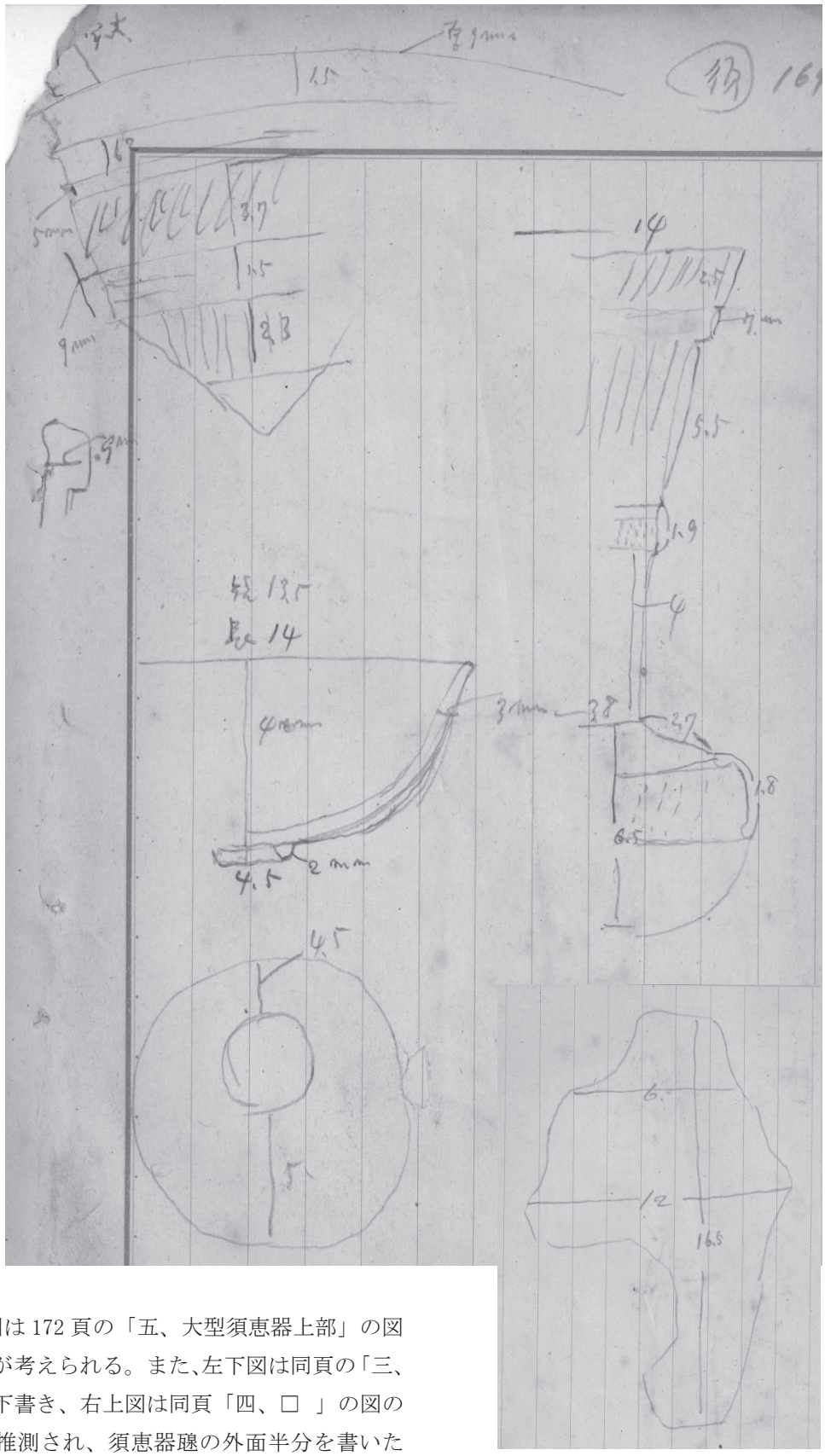


【170 頁】



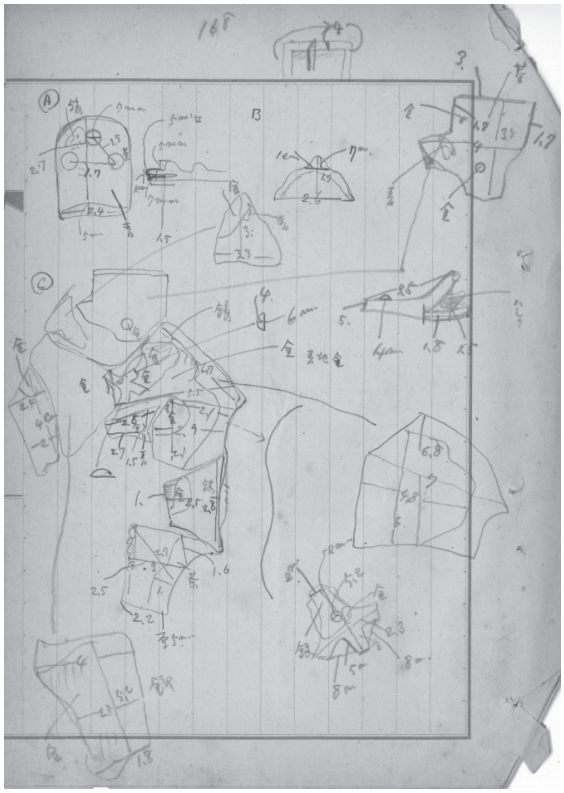
《＊左上の土器図は 172 頁「二、井辺惣光寺谷墳出土　土師（黄朱色）」の下書きとみられる。また、右上図は同頁の「六　弥中？土器底」の可能性が考えられ、右下円筒埴輪図は同頁「一、底径十五糎高さ二三糎にて欠の細形円筒埴輪」の図とみられる》

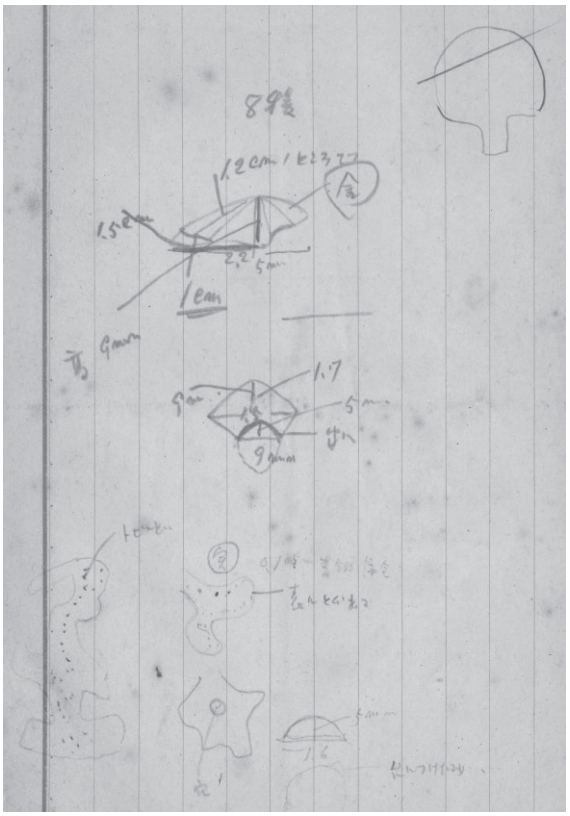
【166・169 頁】



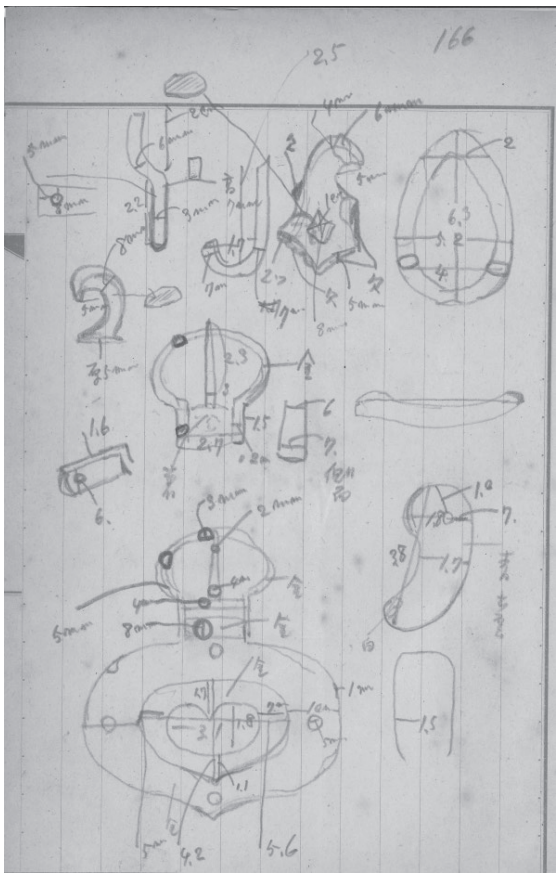
《＊左上図は 172 頁の「五、大型須恵器上部」の図の可能性が考えられる。また、左下図は同頁の「三、須恵」の下書き、右上図は同頁「四、□ 」の図の可能性が推測され、須恵器瑳の外面半分を書いた図である》

【168 頁】《＊ 171 頁の下書きとみられる》





【165・166 頁】《＊ 171・172 頁の下書きとみられる》



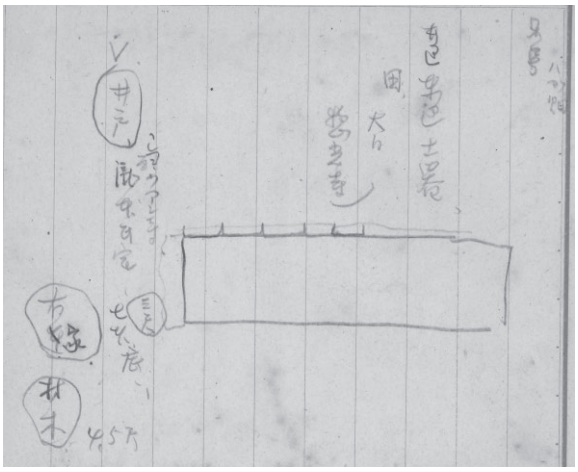
【164 頁】

八が□ □号

井辺東辺土器

図 大□《＊日 ?》

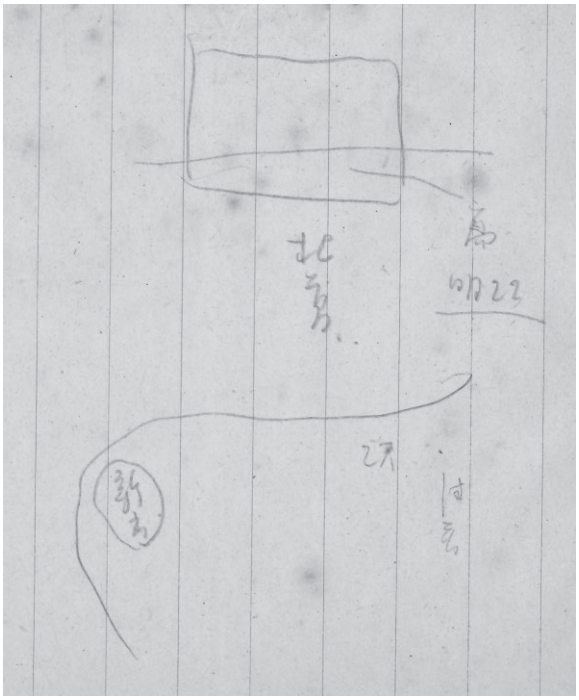
惣光寺



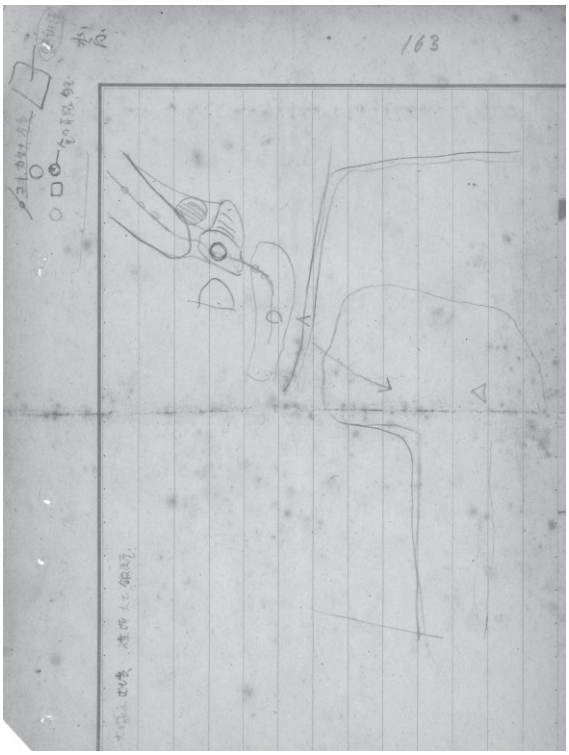
《＊上記図面は、96 頁（石丸ほか 2023）掲載の 10 号墳《＊大日山 79 号墳》の図と類似するが、寸法が異なるため別古墳のメモ書きなどか》

V 井戸□□少アレ寺 &&《＊個人名》氏宅

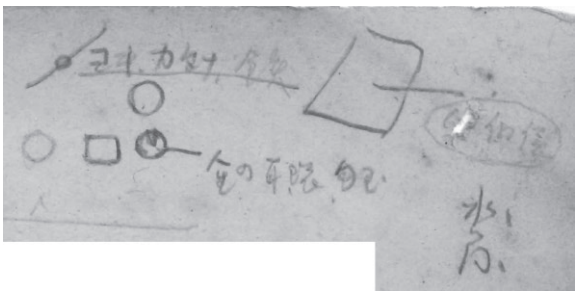
○筋永七、



【163 頁】
大塚山古墳　礫墳大工鍛冶屋 《＊現在の古墳との対応関係不明》



□キ、カタナ、□《＊鉄？》



金の耳環、勾玉

《＊上記図は 163 頁左上の図を拡大した図である。埋葬施設内での遺物の出土位置を示すようであるが、これが大塚山古墳のものを示すか他の古墳を示すものであるか定かでない》

《＊ 163・164 頁下図（○筋永七、下図）は調査メモかもしくは何かしらの下書きとみられるが、当資料内に完全に該当する図はみあたらない》

２．まとめと考察

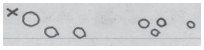
以上のように、郡長塚古墳（前山 B112 号墳）及び鳴神貝塚の記録、梅原末治あてに岩橋千塚古墳群について書いた手紙草稿などについて、書き起こしを行った。このうち、特に重要な記載事項について、まとめや考察を行う。なお、当資料掲載古墳のうち、現在のものと対応もくしくはその可能性が高い古墳の名称は現在のものを用いている。

郡長塚古墳（前山 B112 号墳）出土品　当古墳は、岩橋千塚山塊の東西方向主軸稜線から北に張り出した尾根上（標高 140.4 m）に位置し、６世紀中葉に築造された墳長 30.5 m の前方後円墳である。これまでに出土品は、後円部の横穴式石室流入土内出土の須恵器（坏、壺、器台）、土師器（台付壺）、馬具（絞具）、両頭金具、羨道攪乱土出土のサヌカイト製石鏃、その他出土地など詳細は不明だが装飾付須恵器、鉄刀、玉類などが知られていた（関西大学文学部考古学研究室編 1967・和歌山県教育委員会 2025）。

今回当資料により、耳環２点、直径約 18.18 ㎝の鏡が出土していたことが新たに判明した。また、玉類には管玉とみられる玉 6、70 点、勾玉、メノ

ウ製玉類２点があることが明かとなった。

花山８号墳西隣の古墳　当古墳は、当資料 123・124 頁において、埋葬施設が粘土槨で、そこから玉類が出土した可能性があるほか、黒水？小？銀鏡が一面出土したとある。石丸ほか 2021 では、花山８号墳に隣接すると言えるほど近しい位置に古墳が確認できないことから、方位が異なるものの、粘土槨とみられる花山８号墳前方部埋葬施設をその可能性として挙げていた。しかし、今回書き起こしを行った当資料 181・182 頁から、宮田氏はこの古墳を「花山８号墳西側の前方後円墳、写影〇印かもしれない」と認識していたことが新たに判明した。当資料には写影の掲載がなく、〇印の位置が不明であるため、宮田氏が認識していた該当古墳の正確な位置は不明確である。しかし、当資料に掲載された内容や位置関係から、宮田氏が前方後円墳と認識し、かつ花山８号墳の西隣と認識しうる可能性が最も高い古墳は、花山７号墳である。したがって、花山８号墳西隣は、花山８号墳前方部埋葬施設ではなく、この古墳である蓋然性がより高いと考えられる。ここで石丸 2021 の考察結果を訂正しておきたい。

大谷山 16 号墳南西側隣接墳　当古墳は当資料 180 頁において、「分布図御殿山東稜中　池上に位置する×印  この尾根中主墳にて石槨はすでに附近畑地に轉用、存在しない」とある。御殿山は当資料 69 頁分布図（石丸ほか 2023 参照）などから大谷山地区の丘陵一帯をさすことがわかっており、その東稜とは当資料１頁分布図の記載（石丸ほか 2022 参照）、また当資料上記図面における古墳分布位置と現在の古墳分布位置（図２）とのおおよその合致から、大谷山 12 ～ 16 号墳が立地する尾根をさすと考えられる。

したがって、当古墳は大谷山 16 号墳の南西に隣接して所在する、もしくはかつて所在した古墳で、現在未把握の古墳、もしくはすでに消滅した古墳とみられる。また、当資料から主体埋葬施設はすでに周辺の畑地に転用されて存在せず、また後述の附随埋葬施設の存在が記されていることから、主体埋葬施設は竪穴式石室又は横穴式石室と

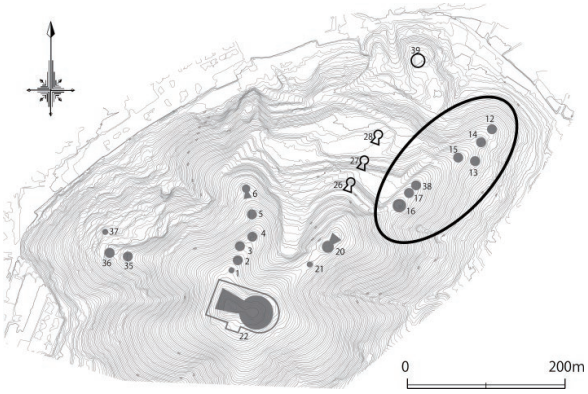


図２　岩橋千塚古墳群大谷山地区の古墳分布図

※大谷山 12 ～ 16 号墳は〇部分

想定される。ただし、当資料中に埋葬施設の石材が転用されたと宮田氏が把握した経緯は示されていない点は注意を要する。当資料では、上記に加え、主体埋葬施設の側に「箱式の小積石墳」が附随し、中から直径 15 ～ 18 ㎝程度の「朱塗鏡一面出土」とある。箱式とみなす程の規模で「積石」との認識から、埋葬施設は小型の竪穴式石室（竪穴式石室系石棺測され、石室内には赤色顔料が付着した鏡一面が副葬されていたことも、今回新たに判明した事柄である。

花山分布下腹部墳　当資料では、 に位置する未調査の古墳で、散逸した武田伊三朗氏所蔵鏡が出土した古墳とされる。また、かつて幅約 9.09 ㎝、長さ約 60.6 ㎝の鉄製品、約 9.09 ㎝の金２片が出土したほか、約 15.15 ㎝の白銅色の鎧？鎖？鏡？一面、三葉を鎖端にもつ耳飾、冠片とみられる金色の棒状のものを多数垂下する資料が出土したとされる。位置図が掲載されていないため厳密な古墳の場所は不明確であるが、当資料 25 頁の花山地区古墳分布図（石丸ほか 2022 参照）の 17・13 南側に類似したマークが鉛筆書きされており（図３）、この位置にある古墳であるとするならば、花山 14・15 号墳の可能性が考えられる。なお、花山 14 号墳は直径 15 ｍの円墳で、埋葬施設は横穴式石室（石棚１、石梁１（垂直）をもつ）をもち、須恵器壺が出土している古墳である。また、花山 15 号墳は円墳で、埋葬施設は横穴式石室と伝わる古墳である（和歌山県教育委員会 2025）。当資料により、確定的ではないものの、新たに古墳と紐づく可能

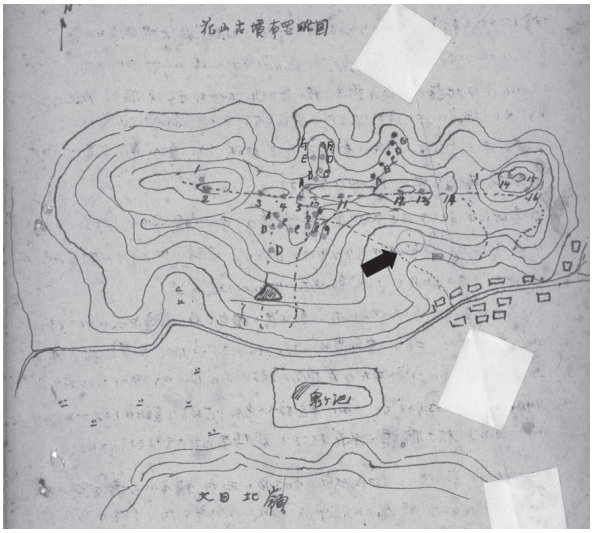


図３　当資料 25 頁の花山地区古分布図

※矢印は鉛筆書きマークの位置

性がある出土遺物の情報が判明した。

岩橋千塚古墳群における鏡出土地　以上の４古墳では、いずれもこれまでに知られていなかった鏡の出土が新たに判明し、前稿（石丸ほか 2025）で集成した鏡出土地一覧にさらに事例を加えるものとなった。これに加え、これまでに岩橋千塚古墳群で、当資料検討以前から出土が知られていた鏡出土地も含めると表３のとおりとなる。なお、当資料が知られる以前から鏡出土地として知られていたのは、「花山８号墳」「大日山山頂の東方隣接地」のみである。鏡の出土傾向は前稿（石丸ほか 2025）で示したものに大きく変更はなく、出土古墳の築造時期は４世紀以前[註2]と６世紀代に分かれ、後者が多くみられる。

沼平助氏所蔵装飾付台付壺　当資料 144・145 頁の沼氏所蔵の動物装飾台付坩（＝動物浮彫飾台付坩）は、これまで詳細な出土地が不明瞭であったことから、伝岩橋千塚古墳群出土品として扱われてきた装飾付台付壺である。しかし、今回当資料により、宮田氏は沼氏が発掘調査に関与した事実から、前山 B170 号墳より出土したことを確実視していたことが新たに判明した。前山 B170 号墳は、６世紀前葉に築造された直径 15 ｍの円墳で、玄室長 2.5 ｍ、幅 1.55 ｍの左袖傾向の強い横穴式石室と竪穴式石室あるいは箱式石棺を埋葬施設にもつとみられる。出土遺物は、これまに円筒埴輪、須恵器片が知られる（和歌山県立紀伊風土記の丘 2015）。

岩橋千塚古墳群における装飾付須恵器を検討した仲辻慧大氏の検討によると、岩橋千塚古墳群におけるこうした土器は、大谷山 22 号墳（墳長約 68 ｍ）や大日山 35 号墳（墳頂約 86 ｍ）、天王塚古墳（墳長 88 ｍ）などの前方後円墳や前山 A46 号墳（直径約 27 ｍ）の大型円墳など、上位階層の古墳から

表３　岩橋千塚古墳群における鏡出土地一覧

出土地※1	墳形※2 規模(m)	時期	出土 位置※3	出土鏡の概要	備考
花山8号墳	方円 52	4世紀 以前	後円部 粘土槨内	直径約25㎝の鏡二面、約18㎝の鏡二面、計4面出土。後者のうち一面は神像鏡。	粘土槨その他出土:玉類、滑石製刀子。 伝花山出土三角縁神獣鏡出土古墳か。
花山8号墳西隣の古墳			粘土槨内？	黒小?水?銀色を呈する鏡一面出土。	花山7号墳か。 粘土槨その他出土:玉類。
花山6号墳	方円 49	6世紀 初頭	横穴玄室?	直径約18㎝の鏡一面出土。	大阪商人へ売却。
花山2号墳	方円 67	6世紀 前半	横穴玄室	直径約18㎝の黒小?水?銀色を呈する鏡一面出土。	玄室その他出土:人骨、土器、剣。 大阪商人へ売却。
花山分布下腹部墳	円	6世紀		鋸歯文に朱を残す約15.15㎝の白色銅の鏡？一面出土。	武田伊三朗氏所蔵鏡出土古墳。三葉を鎖端にもつ耳飾、冠辺とみられる金色の棒状のものを多数垂下する資料が出土。 花山14もしくは15号墳か。
大谷山16号墳南西隣接墳			竪穴式石室	直径15～18㎝の朱塗鏡一面出土。	現在すでに消滅した古墳か。
46号墳やや上組合石棺		6世紀 初頭以降?	石棺内	石棺内頭部付近で出土。	棺内その他:直刀、土器。
郡長塚古墳 (前山B112号墳)	方円 30.5	6世紀 中葉	石室内	直径約18.18㎝の鏡出土。	耳環 2点、管玉とみられる玉6、70点、勾玉、メノウ製玉も同時に出土。
大日山山頂の東方隣接地			石室内	－	昭和7年(1932)8月8日工事中に石室と遺物発見し、鏡等が出土。

※１　当資料の古墳のうち、現在の古墳と対応がとれた古墳は、現在の古墳番号・名称を用いている。
※２　方円は前方後円墳であることを示す。　※３　横穴は横穴式石室であることを示す。

出土する傾向が指摘されている（仲辻 2016）。それに比べれば前山 B170 号墳は、やや見劣りする感は否めず、これは墳形や規模だけでなく石室規模や現在知られる出土遺物を加えて検討しても、その評価は揺るがない。そのため、現在の研究状況から宮田氏の記載を補強できる要素は見出し難く、あくまで出土候補地として取り扱うに留めておくのが穏当と考える。

前山 B155 号墳？・山東 13 号墳？　当資料では、これらの古墳について、横穴式石室の図とともに石室の観察所見についても記載されている。前山 B155 号墳は直径 17 mの円墳、また、山東 13 号墳は直径 11 mの円墳で、いずれも埋葬施設に横穴式石室をもつことが知られる（和歌山県教育委員会 2025）。しかし、両古墳の石室に関する実測図や写真はこれまでに確認されておらず、当資料との対応関係が確認を明確に確認することは難し。しかし、仮に対応していた場合、今回初めてその構造や寸法が判明したことになる。特にどちらの横穴式石室も花山 6 号墳と同様、持ち送りがきつくドーム状を呈すると指摘されている点は注目される。

井辺の名門@@《＊個人名》家所蔵資料　岩橋千塚古墳群では、かつての盗掘により多くの資料が散逸したことが知られるが、周辺の人々の善意により散逸を免れ、個人で保存されてきた資料が存在する。保管してきた方々については、当資料 144・145 頁及び『岩橋千塚第一期調査　和歌山県史蹟調査報告書１』に掲載されているため、これまでもよく知られてきたが、当該@@家はこれらの資料に掲載されておらず、今回当資料により初めて岩橋千塚古墳群の出土品を所蔵することが判明した。

所蔵品は当資料 167 ～ 172 頁に掲載されているが、刀剣装具や馬具、鉄鏃、須恵器、埴輪、土師器、弥生土器など多様で、図とともに寸法が描き込まれている。今後の岩橋千塚古墳出土資料の調査や収集にあたって、極めて重要な情報である。

３．当資料の意義

以上が宮田啓二氏による『昭和二七年秋冬　岩橋千塚古墳群　調』の書き起こしである。

当資料は宮田氏が昭和 24 ～ 29 年（1949 ～ 1954）に岩橋千塚古墳群などの踏査や聞き取りの記録を書き留めたものである。

岩橋千塚古墳群は、大正期に学術調査が行われた前山 A 地区を中心に昭和 27 年（1952）3 月 29 日に特別史跡に指定された一方で、指定範囲外であった花山地区や大谷山地区（現在は特別史跡地内）では昭和 30 年（1955）頃から宅地造成や土取り工事によって、大型前方後円墳を含む複数の古墳が消滅している。昭和 38 年には和歌山市教育委員会が関西大学と同志社大学の協力を得て古墳群の総合調査を実施したが、その時点ですでに消滅していた多くの古墳についてはその詳細は明らかではなかった。宮田氏の調査記録は、開発によって古墳が次々と消滅する直前の時期であったことから、岩橋千塚古墳群でこれまでその詳細が明らかでなかった古墳の実態を明らかにするものとなった。

またこの調査記録には、現地踏査の記録に加えて、多くの聞き取り調査の成果が記録されていた。岩橋千塚古墳群では、明治期から大正期にかけて多くの古墳が開墾や盗掘等によって掘り起こされたものの、その際に出土した資料の多くが散逸し、その詳細についてもほとんど記録が確認されていない。そうした中、宮田氏の聞き取り調査により得られた情報は、これまで出土地点が不明とされていた出土品の出土地点や詳細、あるいはその存在がこれまで把握されていなかった出土品についても記録されており、古墳の築造年代や出土品の把握において重要な記録と言える。なお、宮田氏の記録に「28 年 10 月すでに他界している…（中略）…西和佐古墳発掘の唯一の生存者であった」等の記載から、昭和 26 ～ 29 年の宮田氏による聞き取り調査時期が明治期から大正期にかけての岩橋千塚古墳群の調査について知る最後の機会であったことからも、この時期に聞き取り調査が行われたことは意義深い。

最後に、この調査が行われた昭和 26 ～ 27 年（1951 ～ 1952）当時、宮田氏は 43 歳で和歌山市内の中

学校に勤務されていた。本業の一方で、調査記録に残された日時から、年末年始や休日を中心に岩橋千塚古墳群の現地調査に取り組んでいたことがわかる。この調査により現在では知ることができない岩橋千塚古墳群の貴重な記録が残されていたことについて、 あらためて宮田氏の高い問題意識と行動力に敬意を表したい。

【註】

1) 旧字やくずし字などで特に難しいものについては、現代の日本語との対応を示す。「冂」は事、「后」は後、「ゝ」「〻」 はひらがなを繰り返すときに用いる記号「々」、「仝」は「同」、「當」は「当」に対応する。

2) 『岩橋千塚古墳群総括報告書Ⅰ』で、後円部の埋葬施設から出土した鏡に製作年代が３世紀後葉に遡る三角縁神獣鏡（福永編年舶載Ｄ段階）を含とみられることから、築造時期が４世紀以前に遡る可能性が指摘された（福永 2024）ことに伴い、これまでの古墳築造年代（４世紀末）を修正したため（和歌山県教育委員会 2025)、本稿もそれに従った。

【参考文献】

石丸彩・金澤舞・瀬谷今日子・冨永里菜・仲原知之 2021 「宮田啓二著『昭和二七年秋冬岩橋千塚古墳群調』－花山地区編－」『紀伊風土記の丘 研究紀要』第９号 和歌山県立紀伊風土記の丘

石丸彩・金澤舞・瀬谷今日子・冨永里菜・中西瑠花・仲原知之・馬場彩加 2022「宮田啓二著『昭和二七年秋冬岩橋千塚古墳群 調』－大谷山地区編－」『紀伊風土記の丘 研究紀要』第 10 号 和歌山県立紀伊風土記の丘

石丸彩・金澤舞・瀬谷今日子・冨永里菜・中西瑠花・仲原知之・馬場彩加 2023「宮田啓二著『昭和二七年秋冬岩橋千塚古墳群 調』－大日山地区編①－」『紀伊風土記の丘 研究紀要』第 11 号 和歌山県立紀伊風土記の丘

石丸彩・上村緑・金澤舞・瀬谷今日子・冨永里菜・中西瑠花・仲原知之・馬場彩加 2024「宮田啓二著『昭和二七年秋冬岩橋千塚古墳群 調』－大日山地区編②－」『紀伊風土記の丘 研究紀要』第 12 号 和歌山県立紀伊風土記の丘

石丸彩・上田緑・金澤舞・瀬谷今日子・冨永里菜・中西瑠花・仲原知之・馬場彩加 2025「宮田啓二著『昭和二七年秋冬岩橋千塚古墳群 調』－西和佐地区編－」『紀伊風土記の丘 研究紀要』第 13 号 和歌山県立紀伊風土記の丘

金澤舞 2023「岩橋千塚古墳群における竪穴式石室について」『邂逅の考古学－木許守さん還暦記念論文集－』ナベの会考古学論集 第３集 ナベの会

関西大学文学部考古学研究室編 1967『岩橋千塚』和歌山市教育委員会

仲辻慧大 2016「紀伊の首長と須恵器生産」『岩橋千塚とその時代－紀ノ川流域の古墳文化』和歌山県立紀伊風土記の丘

福永伸哉 2024「古墳時代研究の進展と岩橋千塚古墳群」『シンポジウム 特別史跡の古墳群を語る－岩橋千塚・

埼玉・西都原の価値と魅力－資料集』和歌山県教育委員会

和歌山県 1921『岩橋千塚第一期調査 和歌山県史蹟調査報告書１』（『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第１輯所収）

和歌山県教育委員会 2019『特別史跡 岩橋千塚古墳群保存活用計画』

和歌山県教育委員会 2025『岩橋千塚古墳群総括報告書Ⅰ』

和歌山県立紀伊風土記の丘 2015『特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・保存整備事業報告書』和歌山県教育委員会

＜研究ノート＞

花山８号墳出土鏡の推定

森下章司

はじめに

本誌第９号（2021 年発行）に掲載された「宮田啓二『昭和二七年秋冬　岩橋千塚古墳群　調』－花山地区編－」は、実に興味深い資料紹介であった（金澤編 2021）。宮田氏は和歌山市内の中学校で教鞭をとる傍ら、県内の遺跡など文化財の調査研究・保存活動を進められた人物である。紀伊風土記の丘に寄贈された氏の記録のうち、岩橋千塚古墳群花山地区の古墳に関する部分を書き起こし、編集したものである。

そこには花山地区の古墳について、自らの調査記録と共に過去の盗掘状況についての丹念な聞き書きが記されている。今では確認できない埋葬施設や副葬品に関する記述が多くあり、本古墳群の失われた情報に関する貴重な資料となる。

後期古墳が著名な岩橋千塚古墳群中にあって、花山地区に前期～中期前半と推定される古墳が複数存在することは早くから注目されてきた。宮田氏も「初期形式、少なくともこの群中に粘土槨墳の発掘あるより推察することが出来る」と指摘する。宮田氏記録には、その中でも古い時期の古墳と目される花山８号墳（現在の古墳番号、宮田氏の記録では「第 11 号墳」）に関する盗掘者からの聞き取り内容をふくむ。私はその記述を通じて本墳から４面もの鏡が出土していたことを知り、さらに簡単ながら出土鏡の大きさや文様に触れた証言があることに関心を抱いた。この情報から、そのうちの１面については鏡式を限定できるのではないかと考えた。

宮田氏記録における過去の発掘情報の多くは、掘り出した人物からの聞き取りによる間接的な内容である。出土品は売却などによって散逸したものがほとんどである。花山８号墳出土鏡に関しても自身が実見できたのではなく、写真や図もない。発掘時期は明治 30 年代に遡り、宮田氏が聴取をおこなった昭和 26 ～ 29 年との間には懸隔がある。伝聞情報に基づく検討であるから、以下の論は推測の域を出ない。しかし貴重な記録を活用し、不明な点も多い花山地区の古墳群を評価する一助としたい。

１．花山８号墳の記録

古墳の概要および宮田氏記録の該当部分についてまとめる。

花山８号墳が前方後円墳であることは宮田氏調査の段階で判明していたが、昭和 39 年度の関西大学考古学研究室の測量・発掘調査により、墳長 52 ｍであること、後円部と前方部の双方に埋葬施設のあることが明らかにされた（井藤 1967）。後円部の埋葬施設は大きく破壊されていたが、前方部の粘土槨が調査され、鉄剣や玉類が出土している。後円部の埋葬施設から過去の盗掘時に鏡が出土したという伝承も報告に記されている。この発掘時やその後（河内 2001）に埴輪も採取されている。岩橋千塚古墳群でも古い時期に遡る前方後円墳として知られ、最近では「４世紀以前」とされている（瀬谷・藤井 2025）。

宮田氏記録の花山８号墳に関する記述は、自身の踏査記録と後円部の埋葬施設の盗掘に関するものである。記述は４箇所に分かれてある。調査記録の【36 頁】は現地の踏査記録であり、古墳の位置や立地に関する記述、前方後円墳の略測図もある。【123・124 頁】は「花山古墳三例」の中の「Ⅱ例」として、「この古墳発掘に関係ある同氏」からの聞き取った発掘状況を記す。「粘土棺」と出土した石製刀子の略図や玉類の法量表を掲載する。【129 頁】には出土鏡に関する簡単な記述がある。【158 頁】に「聞書抄」（昭和 27. 1. 2）として「この墳発掘者」の語った内容を記す。こちらでは「粘土槨」として説明する。これらの記述内容は同じ事柄に関し

てはおおむね一致するが、一箇所にのみ記されている情報もある。以下、「聞書抄」の記述を中心としつつ、まとめてみる。

発掘状況について「この墳発掘者である氏は」、「普通の円墳であるけれども」「一向に石槨なく南面より掘り初めて羨道の如き扉あらはれ　それをとり除くと土の硬軟に依りて粘土槨であること」が知られた。続いて充満する土を除くにしたがって、「青石片」（この地の通有岩質緑泥片岩）が槨中に敷かれた形になっていたという。最初勾玉５個を発見し、ついで「径八寸の鏡の上に　径六寸の鏡が重ねてありその一つは馬車にのりたるアチラ人二人乗りの文《様》をめぐらし最高価にて大阪商人に売却。前后是に比するなし。」（《様》は編者補足）とする。「更に八寸六寸　これは重ねずに発見す更に青瑯玕二個を発見」とある。そこから「土色異るに依りその線に沿つて掘りすゝみ北辺にて石製模造刀子　長さ七センチ許り幅二・五センチ程のもの十五個を発見す」とある。

「羨道」「粘土槨」「石製模造刀子」など宮田氏が置き換えた用語も使用されているようだが、掘り進めた順の記述となっているのは、当事者の言にふさわしい。宮田氏記録で明らかにされた石製刀子の副葬という情報は重要であり、埋葬施設の構造なども合わせて、古墳の年代はおおむね前期後葉～中期前半に位置づけられるだろう。なお【129頁】では鏡について「花山　鏡　二頭馬車　アチラ人二人乗る　きれでつゝんでいた」とある。

２．馬車にのりたるアチラ人二人乗りの文様

花山８号墳の後円部粘土槨からは４面の鏡（八寸、六寸、八寸、六寸）が出土していたことになるが、文様についての情報は１面のみである。その鏡は高価な金額で売却された。また発掘者が図像について記憶していたことからみて、文様が鮮明な優品であったと推察される。

「馬車」の図像があったという情報が重要である。古墳に副葬される鏡で明確に車馬像が表される鏡式は、中国製画像鏡と三角縁陳氏作神獣車馬鏡（京大三角縁神獣鏡目録 13 ～ 15　樋口編 2006　48 ～ 55 頁）に限られる。他の三角縁神獣鏡（京大目録１）や獣帯鏡の一部にもみられるが、小さい図像なので認識されたとは考えがたく、候補から除外できる。

神人車馬画像鏡という名称もあるように、画像鏡では車馬は一般的な図像である（図１・2）。内区の大きな部分を占めており、銅鏡文様に知識のない人にも十分認識しうる。三角縁陳氏作神獣車馬鏡は、そうした画像鏡を模倣したものであり、同様の車馬像を表す。ただし車と馬を分割して表したものもある（図３　京大目録 15）。

宮田氏記録 129 頁には「二頭馬車」とあるが、引馬が２頭なのか、あるいは２台の車馬が表されていたのか迷う。画像鏡や三角縁神獣鏡の車馬像は、一頭立てから六頭立てまで各種ある。しかし馬同士が重なって表されており、数の判別はややむずかしかったはずである。

「二人乗り」の解釈も困難である。銅鏡文様の車馬像は乗車部分を遮蔽して表すのが通例であり、乗者の姿は表さない（図１）。林巳奈夫は画像鏡の車馬を西王母・東王父の往来用とみて、天駟という星座を表したとする（林 1982）。図２の画像鏡（孔震・沈楽平編 2024　44 頁　54 頁鏡も）や近出の「王昭君出塞」画像鏡は御者と乗者の２名を表す例外的な鏡であるが、像は小さく、「アチラ人」と認識できる表現ではない。「アチラ人」という言は、中国風の衣装・姿が十分認識できる大きさの像であったと理解する。それは、おそらく中心的な図像の西王母・東王父像を指すのであろう。神仙と車馬像という内区の主要図像を結びつけて、「二人乗り」と見立てたのではないだろうか。

なお三角縁陳氏作神獣車馬鏡はいずれも銘文をもつが、発掘者は文字の存在に触れていない。銘文があれば、売却の際に価格を高める要素となることも多い。また三角縁陳氏作神獣車馬鏡の神像は小さくて粗雑な表現であり、「アチラ人」と明確には認識しにくいかもしれない。

径に関しては「八寸」と「六寸」のどちらが本鏡を指すのか、また数値の正確性がどの程度なのか不明である。八寸（26cm 前後）とすれば画像鏡

図１　神人車馬画像鏡
上海博物館蔵　径 21.1 ㎝

図２　孟氏作神人車馬青龍画像鏡　孔震氏蔵　径 21.7 ㎝

図３　三角縁陳氏作神獣車馬鏡
大岩山古墳　径 25.7 ㎝

では大型の部類で希少であり、三角縁陳氏作神獣車馬鏡は京大目録番号 14 が径 25.8 ㎝、15 が径 25.7 ㎝と近い値となる。

説明しきれないところも残るが、車馬像が明確に認識された点から中国製神人車馬画像鏡を第一候補としてあげ[1)]、図像認識のむずかしさ、文字への言及がないことから、三角縁陳氏作神獣車馬鏡（京大目録番号 13 ～ 15）を第二候補としておく。いずれにしても漢鏡ないし三角縁神獣鏡という前期古墳副葬鏡の代表的な鏡式が、花山８号墳に副葬されていたことになる。

３．出土鏡と花山８号墳の評価

文様情報がない他の３面の鏡についても、大きさが注目される。発掘者が「八寸」と見当した鏡が、少なくとも１面はある。26 ㎝前後の鏡となると古墳出土中国鏡では内行花文鏡の大型品、三角縁神獣鏡では先の陳氏作神獣車馬鏡をふくめた数種類に限定される。倭製鏡では内行花文鏡や鼉龍鏡など前期の大型鏡が候補となる。残りの２面も「六寸」あり、径 20 ㎝前後以上の大型鏡が４面も副葬されていたことになる[2)]。

中小型鏡が増加する前期後葉の一般的な副葬鏡構成とは異なっており、三角縁神獣鏡があった可能性も含めて、長期保有鏡が主体であったのかもしれない。紀伊では前期前半の古墳が希薄であることも注意される（藤井 2012）。同様に前期前半の古墳が少なく、前期後葉に登場する古墳に長期保有鏡を多く副葬する和泉地域（三好 2016）と類似する。

鏡以外の要素として、埋葬施設の構造にも注意しておきたい。宮田氏の推察通り粘土槨であった可能性が高いことに加え、底には「青石」が敷き詰められていたという。古墳時代の竪穴系の埋葬施設を総合的に分析した上田直弥によると、「基底部構造において礫敷を採用するものは、全体の中で平面規模が大きい傾向」が認められる（上田 2022　182 ～ 188 頁）。結晶片岩と推定される「青石」敷と通常の礫敷とは区別する必要があるかもしれないが、入念なつくりの埋葬施設であったことは疑いない。加えて両端に板石を立てるという構造も例をみないものである[3)]。

前方後円墳、埴輪と粘土槨の採用、大型鏡副葬など花山８号墳には畿内の古墳とのつながりを示す要素が多く認められた。岩橋千塚古墳群の形成を考えるうえで重要な材料となりうる。

【註】

１）日本出土品で車馬を表した画像鏡は、山口県竹島御家老屋敷古墳鏡（径 17.6 ㎝　後藤 1942・図版 70-5）、大分県鑑堂古墳鏡（径 21.1 ㎝　後藤 1942・図版 70-4）、魏鏡の可能性がある奈良県佐味田宝塚古墳鏡（径 21.0 ㎝　樋口編 2006　Ⅸ -6）がある。いずれも一頭立て車馬を１台のみ表す。

２）伝岩橋千塚出土鏡として、三角縁波文帯三神三獣鏡（京大目録 130　径 22.1㎝　田澤編 1921）と三角縁獣文帯三神三獣鏡（京大目録 116　径 24.1㎝）が古くに紹介されている。出土古墳の候補として花

山８号墳があげられてきた（河内 2006、瀬谷・藤井 2025　162-163 頁）。これらの鏡は「六寸」「八寸」の径に該当する。

３）寺内 63 号墳（円墳　径 20 m）の粘土槨小口に、一部立石状の石積みが認められている（薗田編 1972 63-75 頁）。

【引用・参考文献】

井藤　徹　1967 「花山８号墳」『岩橋千塚』関西大学文学部考古学研究紀要第２冊関西大学文学部考古学研究室　148-155 頁

上田直弥　2022 『古墳時代の葬制秩序と政治権力』大阪大学出版会

金澤舞（編）・石丸彩・瀬谷今日子・冨永里奈・仲原知之　2021 「宮田啓二『昭和二七年秋冬　岩橋千塚古墳群　調』―花山地区編－」『紀伊風土記の丘研究紀要』第 9 号　和歌山県紀伊風土記の丘　41-60 頁

河内一浩　2001 「紀伊における埴輪の受容と拡散」『紀伊考古学研究』第 4 号　紀伊考古学研究会 35-49 頁

河内一浩　2006 「伝岩橋千塚の三角縁神獣鏡－紀伊の古墳時代前半期の古墳研究１－」『紀伊考古学研究』第 9 号　紀伊考古学研究会　43-54 頁

京都大学文学部考古学研究室　1989 『椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡』

孔震・沈楽平（編）　2024 『含氣飡英　止斎蔵両漢鏡銘』 上海書画出版社

後藤守一　1942 『古鏡聚英』 大塚工藝社

末永雅雄（編）　1967 『岩橋千塚』関西大学文学部考古学研究紀要第 2 冊　関西大学文学部考古学研究室

瀬谷今日子・藤井幸司　2025 『岩橋千塚古墳群総括報告書』Ⅰ　和歌山県教育委員会

薗田香融（編）　1972 『和歌山市における古墳文化』関西大学文学部考古学研究室紀要第 4 冊　関西大学文部考古学研究室

田澤金吾（編）　1921 「和歌山縣史蹟調査報告第一（岩橋千塚第一期調査）」『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査会報告書』第一輯（覆刻）　図版 39

林巳奈夫　1982 「画象鏡の図柄若干について－隅田八幡画象鏡の原型鏡を中心として－」『考古学論考』平凡社　947-976 頁

樋口隆康（編）　2006 『３次元デジタルアーカイブ古鏡総覧』 学生社

藤井幸司　2012 「近畿周辺」『古墳時代の考古学』2 古墳出現と展開の地域相　同成社　155-165 頁

三好　玄　2016 「和泉地域」『集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化』 六一書房 161-188 頁・285-288 頁（シンポジウム記録）

【挿図出典】

図１：陳佩芬（編）1987『上海博物館蔵青銅鏡』上海書画出版社　59、図２：孔震・沈楽平（編）2024　44 頁、図３：三木文雄 1966『日本原始美術』6、講談社　181 頁 5

【追記】

入稿後、田中元浩氏より、伝岩橋千塚古墳出土の三角縁獣文帯三神三獣鏡（京大目録 116）の現在の所有者から、鏡の由来などに関して近年聞き取りをされた内容について、ご教示を得た。それによれば当該鏡および別の方が所有されているらしい三角縁波文三神三獣鏡（京大目録 130）が、花山８号墳出土鏡である可能性はさらに高まった。両者は三角縁神獣鏡の編年では新段階に位置付けられる。車馬を表した鏡が三角縁陳氏作神獣車馬鏡であったとすれば、古段階に属するので、８号墳には新古の三角縁神獣鏡が副葬されていたことになる。

田中氏と各種の教示をいただいた瀬谷今日子氏に御礼申し上げます。

＜研究ノート＞

紀伊半島における漁網土錘の研究１
集成・分布編

田中元浩

はじめに

紀伊半島は日本列島の中央に位置し、三方を海に囲まれた国内最大の半島である。ゆえに紀伊半島の人々は古くから海と深いかかわりをもってきた。海との関係が深い漁労活動に関する研究は、考古学においては和田晴吾、大野佐千夫、真鍋篤行、内田律雄らの総合的な研究があるが（和田 1982、大野 1991、真鍋 1994、内田 2009）、弥生・古墳時代における研究は依然低調であり、地域の漁労活動の検討が進んでいるとはいいがたい。

こうした状況は和田晴吾がすでに指摘するように（和田 1982）、弥生・古墳時代研究における漁労活動に対しては、評価が極めて低く、この時代の研究が農耕社会を前提とした農耕生産の発展に重きを置いた結果といえる。また、漁労活動に関する考古資料が断片的であり、魚類遺存体や民俗資料との比較が十分でない研究段階では、捕獲対象魚種や漁法の具体的な漁労活動の姿が描けなかった。さらには、漁労活動が貢納や生産といった王権や政治とのかかわりが想定されるのにもかかわらず、その具体的な資料が存在しなかったことも研究が進まなかった原因だと筆者は考える。

その課題を克服する上で、紀伊半島北西部に所在する西庄遺跡からは、自家供給を大幅に上回る魚類遺存体とともに多数の漁労具が出土している（久保 2003）。これらの資料からは、捕獲対象魚種と、漁法、環境としての漁場の関係を検討でき、漁労活動と王権や首長との貢納や生産という関係に迫ることが可能である。ただし、これらの資料を評価するためには、地域における漁労活動の実態を示す必要がある。漁労活動には釣漁・刺突漁・網漁・潜水漁・陥穽漁があるが、本稿ではこの中でも操業規模や漁獲量、魚種の多様性の点で、重要な位置を占める網漁を取り上げる。

網や浮子といった遺物は、有機物であるため遺存状況に左右され、出土資料はごくわずかである。一方、沈子（錘）に用いられる土錘や石錘は遺存しやすく、普遍的に存在することから漁網の実体を示す考古資料であるといえる。このため、本稿では土錘を対象として集成を行い、種別や時期別の分布を検討することで、網漁に関する基礎的研究を進めたい。

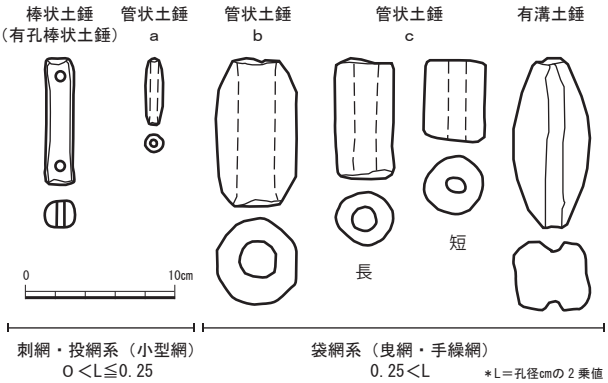


図１　土錘の分類（S=1/5）

１．土錘の集成

集成　紀伊半島のうち和歌山県内から出土した土錘を対象とし、全 1799 点の集成作業を行った。時期は、弥生時代から江戸時代までを対象とし、最も古いもので弥生時代中期、新しいもので江戸時代後期の帰属となる。出土単位を対象とし、遺構の時期についても留意した（表１）。分布に関しては、これまで出土遺跡のみが分布の対象とされてきた。しかし、１点のみの出土では漂着や混在などの可能性もあるため、数量の把握に努めた。

分類　概括的な種類や時期別の分布を検討するため、形態を基に土錘の分類を行う（図１）。分類では、網の用途を規定する操業規模（人数）を把握する指標として、網の強度（抗張力）を反映する網の綱（沈子綱）の太さ＝土錘の径に着目した真鍋篤行の研究成果に基づき（真鍋 1994）、孔径の２乗値Ｌが０＜Ｌ≦0.25（㎝）で、長さを最大

径で除した数値Ｐが１＜Ｐ＜7.0の土錘を刺網・投網系とし、0.25＜Ｌで１＜Ｐ＜3.0の土錘を曳網系とする。さらに形態に基づくこれまでの分類名を用い、前者の刺網・投網系は棒状土錘（有孔棒状土錘）、管状土錘ａに、後者の曳網系は管状土錘b･ｃ、有溝土錘に分類する。中でも円柱形を呈し、縦断面形が方形となる管状土錘ｃは孔径が大きく、操業規模の拡大が認められる。

集成の結果、棒状土錘が615点（34.3%）、管状土錘ａが815点(45.3%)、管状土錘ｂが178点(9.9%)、管状土錘ｃが88点（4.9%）、有溝土錘が98点（5.4%）、その他が５点（0.2%）となる。

２．土錘の分布

土錘の分布は、海水の海水面（海面）とともに淡水の内水面（湖沼・河川）も併せて対象とし、紀ノ川河口など旧地形の復元が行われている範囲では詳細図に基づき（和歌山平野研究グループ2025）、分布を検討した。分布は1点以上10点未満、10点以上80点未満、80点以上をドットの大きさで区別した。

１）種別の分布（図２・３）

棒状土錘　棒状土錘は、南は串本町笠嶋遺跡にまで分布するが、分布の主体は紀伊水道となる。紀伊水道は南限となる日ノ御埼付近までが水深80ｍ未満の浅海域となり、以南は陸棚斜面となり水深が急激に深くなってゆく。また、棒状土錘は紀伊水道の中でも紀ノ川河口に集中し、西庄遺跡、和田岩坪遺跡、井辺遺跡などは、砂堆や孤島によって外海から画された古和歌浦湾の内側に分布する。これらの遺跡周辺の海底は浅海域で、砂地または砂泥地となり、その周囲には岩礁地帯が分布する。現在でも砂底漁場では底刺網が、岩礁漁場では磯建網などが行われている。西庄遺跡でも棒状土錘の網種を出土魚種から、エソ・ハモ・コチ・カサゴ類は底刺網、イワシ・サバ・アジ類などは浮刺網が想定している（久保2003）。一方、内水面では紀ノ川上流の市脇遺跡でも11点が竪穴建物の床面から一括で出土した。紀ノ川ではアユを対象とした投げ刺し網である小鷹網漁が伝統的に行われており、投網と関連するものと考えられる。

管状土錘ａ　管状土錘ａは棒状土錘とは異なり、海水面である沿岸、内水面である主要河川や河口に広く分布し、棒状土錘の分布よりも広くなる。また、紀ノ川河口では内海に面した旧河口に分布している。特に太田・黒田遺跡や田屋遺跡、西田井遺跡での分布が顕著であり、棒状土錘とは対照的な分布を示す。

管状土錘ｂ・ｃ、有溝土錘　紀伊半島の沿岸に分布し、主に海水面で使用されたと考えられる。棒状土錘の分布よりも広く、棒状土錘と管状土錘ａの分布の両者を合わせた形となり、特に外海に面した沿岸に分布する。有溝土錘は古代～中世を主体とする関戸遺跡での出土数が多く認められる。

２）時期別の分布（図４・５）

弥生時代中期　紀ノ川河口の太田・黒田遺跡市48次調査では、弥生時代中期後葉のSD04より91点の管状土錘ａが折り重なった状態で一括出土している。網そのものは遺存していないが、網装着であったと想定されている。遺構周辺からはプラントオパールが検出され、生産域とみられることから内水面での刺網が想定される。

弥生時代後期後半～古墳時代前期　後期後半から庄内式、布留式前半期が主な時期である。この段階から土錘の分布範囲が拡大し、紀伊水道を中心に、紀ノ川・有田川・日高川・会津川・熊野川河口で分布が認められる。土錘の多くは棒状土錘であり、土錘の展開に棒状土錘の出現が大きく関わっている。棒状土錘の分布の中心は、和田岩坪遺跡県１次・2次調査や井辺遺跡といった古和歌浦湾に面した紀ノ川河口と、加太遺跡などの紀淡海峡周辺を中心とした紀伊水道である。和田岩坪遺跡では自然流路から多数の棒状土錘・管状土錘ｃが出土し、小孔をもつ浮子とみられる木製品も出土している。

紀伊水道以南では棒状土錘は減少し、熊野川流域での出土は認められない。笠嶋遺跡では棒状土錘１点とともに網端として報告される木製の浮子が出土している。また内水面では紀ノ川上流に棒状土錘の分布が認められる。海水面の棒状土錘の

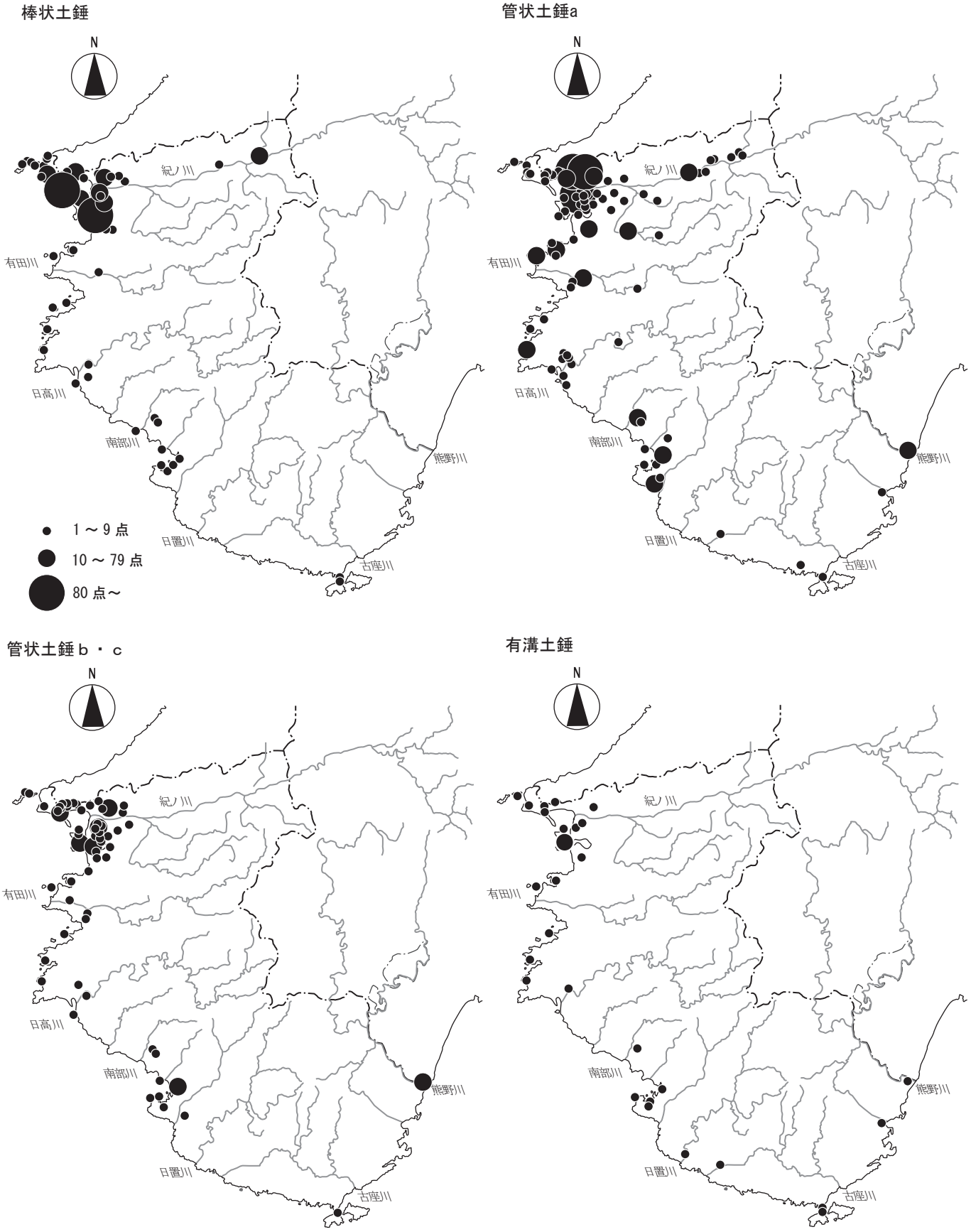

棒状土錘
管状土錘a
管状土錘ｂ・ｃ
有溝土錘
N
紀ノ川
有田川
日高川
南部川
熊野川
日置川
古座川
1～9点
10～79点
80点～

図２　種別分布図（全時期）

分布と重複するのが、脚台式製塩土器の分布であり、紀伊水道を中心とし田辺湾沿岸まで広く分布する。一方、棒状土錘とともに展開する管状土錘ｃの分布は和田岩坪遺跡と紀淡海峡周辺の遺跡のみで、数は少ない。

古墳時代中期～後期　土錘の分布は前段階のものものと大きく変わらず、紀伊水道を中心に分布する。しかし、古和歌浦湾に面した砂堆上に位置する西庄遺跡では古墳時代中期から後期にかけて集落が存続しており、多量の土錘の出土が認められる。報告資料だけで 238 点の棒状土錘が出土し、突出した分布を示す。未報告資料も含めるとさらに数量が増加する見込みである。同様の傾向は加太遺跡など、紀淡海峡周辺の遺跡でも認められ、伊喜利良信氏の表採資料の中には弥生時代後期から古墳時代の棒状土錘が多く含まれる。

西庄遺跡からは５号竪穴住居跡から 31 点の棒状土錘が集中して出土しており、漁網の一単位とみられる。久保和士・禎子らの研究によれば、西庄遺跡の棒状土錘は太さと重さで調節された複数種類のものがあり、それぞれが網種の違いを示すものとしている（久保 2003）。また、Ⅲｂ層から管状土錘ｂ・ｃがまとまって出土し、棒状土錘による刺網とともに曳網も行われていた。この時期になると管状土錘ｂ・ｃも増加し、棒状土錘の分布と重なる。

内水面では、旧紀ノ川河口に位置する田屋遺跡や西田井遺跡では管状土錘ａが多数分布する。田屋遺跡では竪穴建物の多くから管状土錘ａが数点出土する。棒状土錘が出土する遺跡とは立地が異なり、内水面での投網や刺網などの小規模な網漁が想定される。この時期になると紀伊水道を中心とした海水面では棒状土錘による刺網が盛んに行われた。また、管状土錘ｂ・ｃ用いられ、曳網による地引網などが行われたとみられる。また、内水面では管状土錘ａが用いられ、棒状土錘とは明

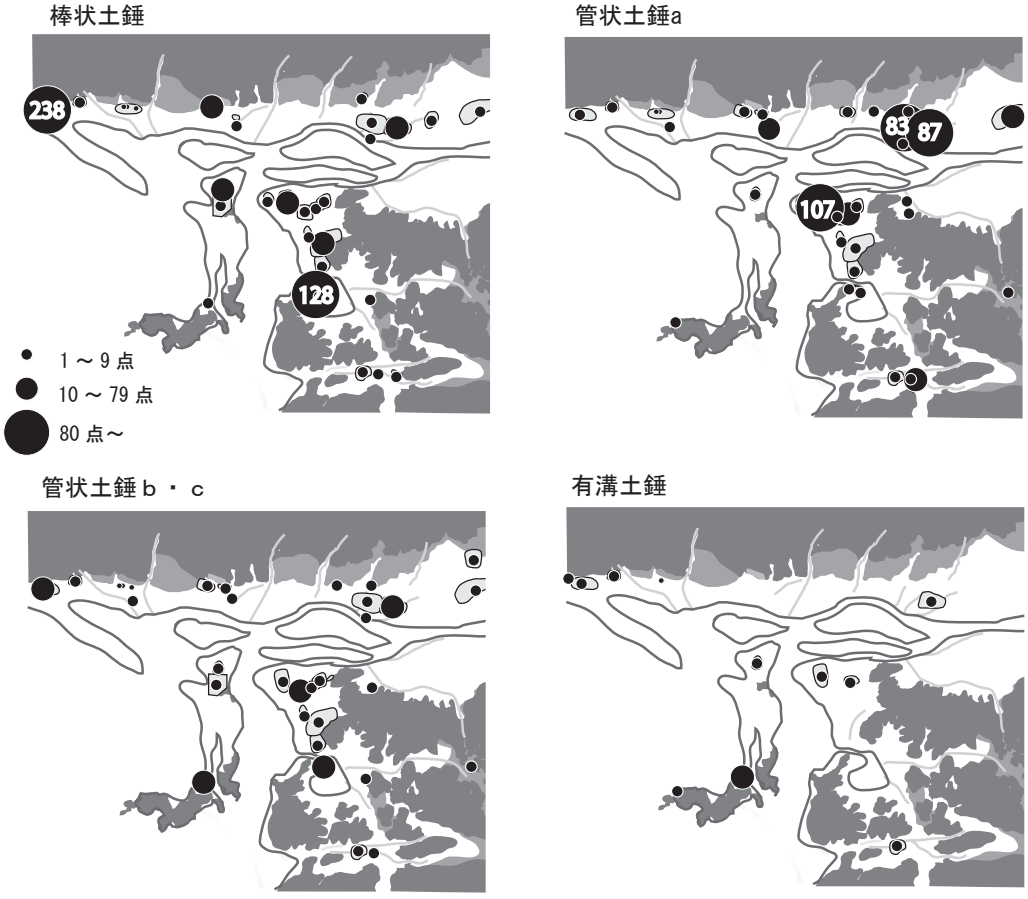


図３　紀ノ川河口　種別分布図（全時期）
（ベースマップは和歌山平野研究グループ 2025　古代前半をもとに作成）

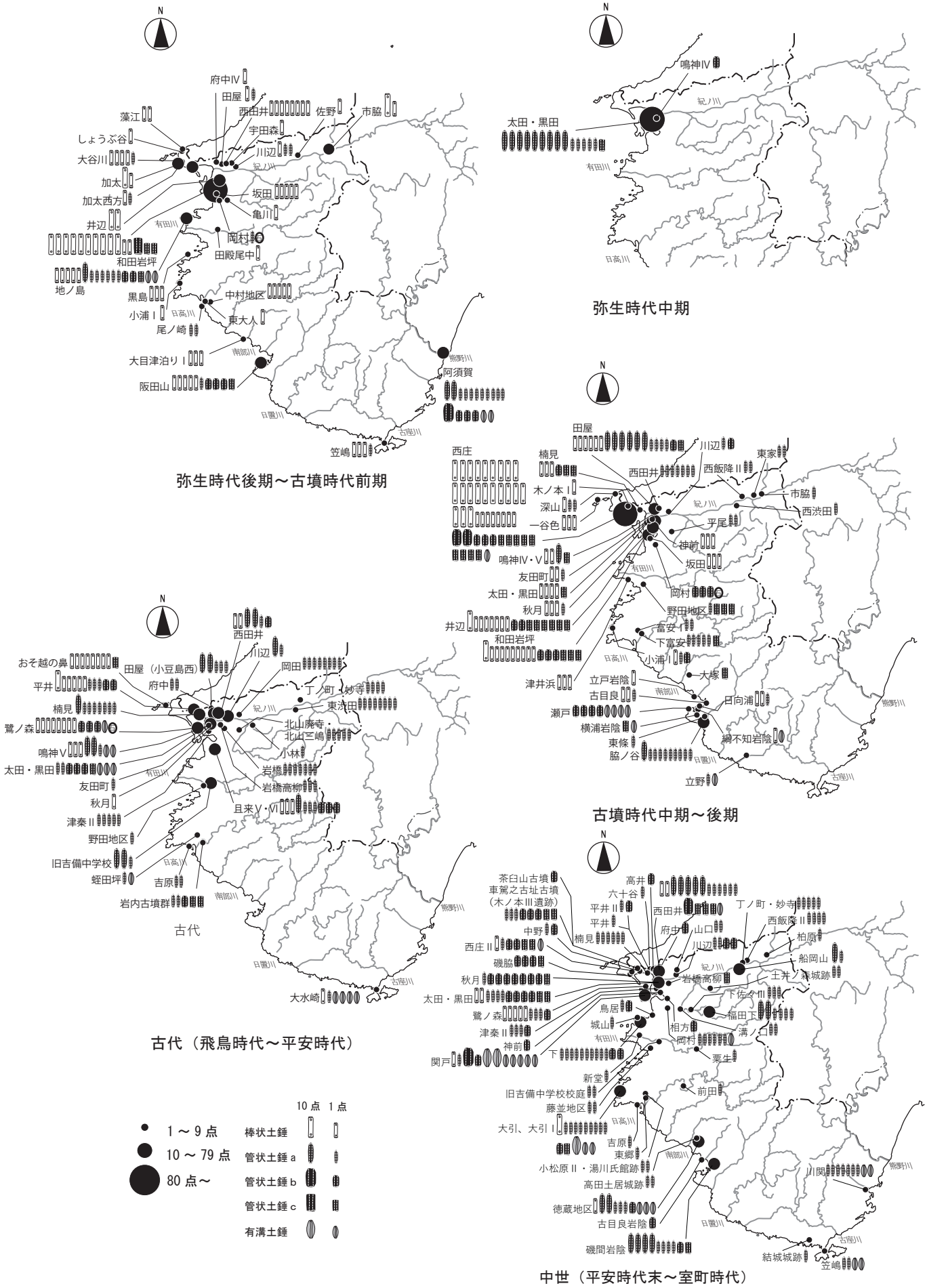

弥生時代後期～古墳時代前期
弥生時代中期
古墳時代中期～後期
古代
古代（飛鳥時代～平安時代）
中世（平安時代末～室町時代）
1～9点
10～79点
80点～
10点
1点
棒状土錘
管状土錘a
管状土錘b
管状土錘c
有溝土錘

図４　時期別分布図

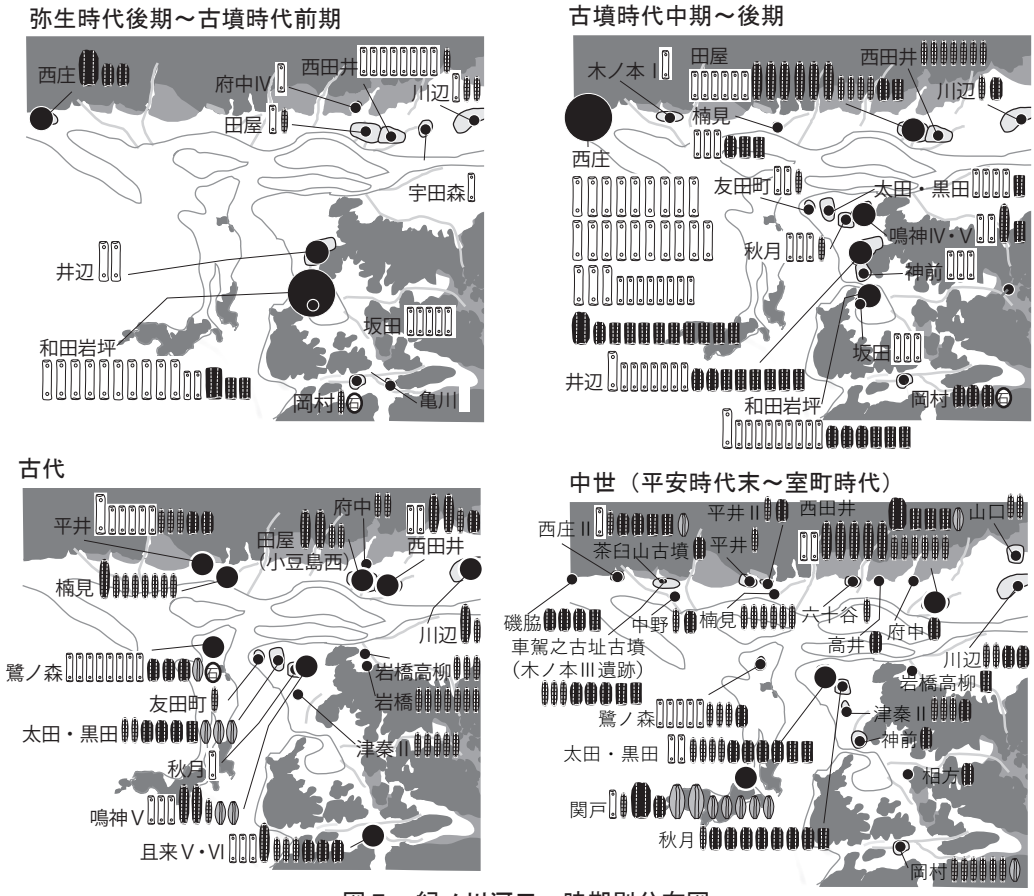


図５　紀ノ川河口　時期別分布図
（ベースマップは和歌山平野研究グループ 2025 をもとに作成）

確な分布差を示す。前段階に出現した土錘がさらに広がり、各地の状況に合わせて土錘が選択されることを示す。

古代（飛鳥時代～平安時代）　棒状土錘の分布は激減し、紀ノ川河口と紀淡海峡周辺の一部のみとなる。曳網系の管状土錘ｂ・ｃ、有溝土錘は、沿岸で認められる。また、内水面での土錘の出土が増加し、管状土錘ａの出土が各河川で認められる。田屋遺跡の南部に位置する小豆島西遺跡では、流路 18 から 20 点の管状土錘ａが木片とともに出土しており、一括品とみられる。この時期の特徴としては、棒状土錘による刺網の顕著な減少であり、これに対応するように集約的な土器製塩は行われなくなり、沿岸で点々とした土器製塩が認められる。

中世（平安時代末～室町時代）　各地での土錘の出土が最も多い時期であり、紀ノ川河口では管状土錘ｂと有溝土錘の出土が目立つ。関戸遺跡は土錘が多数出土しており、曳網系の土錘が主体である。棒状土錘はほぼ消滅したとみられ、遺物包含層から数点が出土するのみである。海水面では、刺網・投網系の管状土錘ａと曳網系の管状土錘ｂと有溝土錘の組み合わせとなる。内水面では依然として管状土錘ａの出土が顕著である。

３．まとめ

分布の特徴　漁網土錘の基礎的研究として、集成及び分布について検討した。弥生時代中期以降に認められる土錘の展開としては、弥生時代後期から古墳時代前期においては棒状土錘の出現と各地への展開がある。棒状土錘は太平洋沿岸にも点々と分布し、東限は東京湾の市原市五所四反田遺跡まで分布が認められる。粗密はあるものの棒状土錘の展開については、漁労民の移動が想定されるのがこの時期の特徴である。

また、古墳時代中期・後期においては、その延長として、紀伊水道を中心とした棒状土錘による刺網の拡大と内水面での管状土錘ａの利用が挙げ

られる。特に西庄遺跡における集約的かつ多面的な刺網は特筆できる。さらに古代以降、棒状土錘は低調となり姿を消すが、管状土錘ｂや有溝土錘が各地へ広がり、操業規模の拡大した曳網漁が行われる。また、中世以降は紀ノ川河口の沖積作用が進み、海水面の土錘出土遺跡がより現在の沿岸に近くなるとみられる。

画期の評価　これらの画期は１）弥生時代後期、２）古墳時代中期、３）古代の３つの画期であり、若干の差はあるものの、これまで指摘されてきた時期と一致する（和田 1982、積山 2012)。

しかし、２つ目の画期である古墳時代中期については、これまでと異なる評価も可能である。西庄遺跡の棒状土錘の出土数は紀伊半島においても突出し、土器製塩とともに複数種類の刺網により多角的な漁場開発が行われ、稼働率が格段に向上したとみられる。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器製塩と棒状土錘の拡大は、塩による魚肉の保存性の向上を真鍋は指摘する（真鍋 1994)。しかし、この時期の西庄遺跡については、石敷製塩炉による飛躍的な塩生産の拡大と、刺網漁による多角的な漁場開発という漁撈活動の拡大が認められ、前段階から製塩・漁労生産の規模が拡大することから、真鍋の想定する塩による魚肉の保存性の向上は、この時期こそ極大となる。さらに、瀬戸内地域、河内湖周辺での棒状土錘は、この時期には激減し（乗松 2007、大庭・丸山 2017)、和泉地域と紀伊水道に棒状土錘が集中する。西庄遺跡の拡大に王権の関与が想定されることから（田中 2024 ほか)、棒状土錘の偏在についても、こうしたの動向の中で漁労活動の活発化の中で位置づけられたと推測される（乗松 2025)。漁労活動の拡大が王権や政治と関連する時期として改めて評価できる。

紀伊半島における網漁土錘の研究は未だ研究の途上にある。今後は形態・法量・製作技法などに基づき、地域の特質や変遷を明らかにしたい。

【参考文献】

内田律雄 2009『古代日本海の漁撈民』ものが語る歴史 17　同成社
大野左千夫 1980「有孔土錘について」『古代学研究』93　古代学研究会
大野佐千夫 1991「漁労」『古墳時代の研究』４　雄山閣
大庭重信・丸山真史 2017「大阪地域における先史・古代の漁撈活動の変遷と難波宮下層遺跡の評価」『ヒストリア』第 246 号
大庭孝夫 2023『古代玄界灘における漁労活動の考古学的研究』九州歴史資料館
久保禎子 2003「西庄遺跡における漁労活動」『西庄遺跡　都市計画道路西脇山口線道路改良工事に伴う発掘調査報告書』
積山　洋 2012「塩業と漁業」『講座日本の考古学』８　古墳時代下　青木書店
田中元浩 2024「海浜集落の検討視点」『紀伊考古学研究』第 27 号　紀伊考古学研究会
乗松真也 2007「備讃瀬戸の古墳時代漁業生産体制」『古墳時代の海人集団を再検討する』第 56 回埋蔵文化財研究集会実行委員会
乗松真也 2025「瀬戸内の漁具からみた弥生～古墳時代の交流」『古墳時代の海をめぐる交流の諸相』予稿集　和歌山県立紀伊風土記の丘
真鍋篤行 1994「弥生時代以降の瀬戸内地方の漁業の発展に関する考古学的考察」『瀬戸内海歴史民俗資料館紀要』第７集　瀬戸内海歴史民俗資料館、
和歌山平野研究グループ 2025『新しい、和歌山平野の成り立ち』研究講演会資料集
和田晴吾 1982「弥生・古墳時代の漁具」『考古学論考』平凡社

付記　脱稿後、公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 2026『津秦遺跡第 19 次発掘調査報告書－和歌山市文化スポーツ振興財団発掘踏査報告書　第 32 集』が刊行された。中世の 110-SD からは、457 点の管状土錘ａ・管状土錘ｃが出土している。曳網系の土錘も出土しているため、海水面又は喫水面での漁労が想定できる。

表１　土錘集成表

遺跡番号	遺跡名	次数	掲載番号	番号	時期	棒状土錘	大型棒状	管状土錘a	管状土錘b	管状土錘c	有溝土錘	石錘	その他・備考	市町村	報告書番号
1	市脇遺跡	第6次	第１・２層	19	古墳時代中期			1						橋本市	1
1	市脇遺跡	県調査	1号住居址	20～31	庄内式	11							83.62、一括で出土、投網（小鷹網）で復元	橋本市	2
2	柏原遺跡	県調査1・6区	第4層	261	鎌倉時代			1						橋本市	3
3	東家遺跡・東家館跡	市調査Ⅲ区	SI－5	85・86	古墳時代中期			2						橋本市	4
4	佐野遺跡	Ⅲ（町調査）	第10号住居址の北	3	弥生時代後期	1							四角い	かつらぎ町	5
5	丁ノ町・妙寺遺跡	県調査	溝３	49	平安時代前期			1						かつらぎ町	6
5	丁ノ町・妙寺遺跡	県調査	掘立柱建物２	91	鎌倉時代			1						かつらぎ町	6
5	丁ノ町・妙寺遺跡	県調査	掘立柱建物３	172	平安時代前期			1						かつらぎ町	6
5	丁ノ町・妙寺遺跡	県調査	包含層第3層	259・260	平安時代			2						かつらぎ町	6
6	西飯降Ⅱ遺跡	町調査	整地土・SR01	11～14	平安時代～中世			4						かつらぎ町	7
6	西飯降Ⅱ遺跡	県調査	6170？竪穴	69－32	古墳時代後期			1						かつらぎ町	8
6	西飯降Ⅱ遺跡	県調査	3100竪穴	75－27	古墳時代後期			1						かつらぎ町	8
7	西渋田遺跡	県調査	遺構98	34	古墳時代中期～後期			1						かつらぎ町	9
8	東渋田遺跡	町調査	第Ⅵ層	124～131	奈良時代			8						かつらぎ町	10
9	船岡山遺跡	県調査	落ち込み状地形	T77～T87	鎌倉・室町時代			11						かつらぎ町	11
10	土井ノ森城跡	第2・3次	石積遺構、他	20・41	鎌倉時代			2						紀の川市	12
11	小林遺跡	県調査	遺構24	30	奈良時代後期～平安時代前期			1						紀の川市	13
12	北山廃寺 ・北山三嶋遺跡	1-2区	11土坑・包含層・207溝・222井戸	476・710	平安時代			5					瓦質	紀の川市	14
13	岡田遺跡	Ⅲ	SD22・SD23	320～324	奈良時代			5						岩出市	15
13	岡田遺跡	G地区	SD4	72～74	飛鳥時代			3						岩出市	15
14	下佐々Ⅲ遺跡	町調査	建物・包含層	79～102	平安時代～室町時代			24					瓦質混在	紀美野町	16
15	福田下遺跡	町調査	55年度・57年度・試掘	22・11・5	平安時代～室町時代			3						紀美野町	17
16	平尾遺跡	市調査	SB11	41、42	古墳時代中期			2						和歌山市	18
17	山口遺跡	県2次	3層	197	中世				1					和歌山市	19
17	山口遺跡	1984年和歌山市	溝②	未報告	中世				1					和歌山市	20
18	川辺遺跡	市33次	４層	4	中世			1						和歌山市	21
18	川辺遺跡	市４・５次	SB07	13	庄内式	1								和歌山市	22
18	川辺遺跡	市４・５次	第4層	28	奈良時代			1						和歌山市	22
18	川辺遺跡	Ⅰ・Ⅱ区	SK373	588	江戸時代			1						和歌山市	23
18	川辺遺跡	Ⅷ区	SD21	1930	飛鳥時代			1						和歌山市	23
18	川辺遺跡	Ⅴ区	SK11	2031	鎌倉時代			1						和歌山市	23
18	川辺遺跡	Ⅶ区	包含層	2034					1					和歌山市	23
18	川辺遺跡	市11次	SD13	130～135	飛鳥時代（Ⅴ）			5						和歌山市	24
18	川辺遺跡	県2次		134・135				2						和歌山市	25
18	川辺遺跡	Ⅵ区	包含層	2032・2033				1	1					和歌山市	23
18	川辺遺跡	Ⅰ・Ⅱ区	SK384・506	553・555	中世				2					和歌山市	23
18	川辺遺跡	Ⅰ・Ⅱ区	包含層	556～591	古墳時代～中世	1		26	2	1				和歌山市	23
18	川辺遺跡	Ⅰ・Ⅱ区	SK97・111・114・212	567・574・577・578	飛鳥時代			4						和歌山市	23
18	川辺遺跡	Ⅲ区	SD55	569・570	弥生時代後期			2						和歌山市	23
18	川辺遺跡	Ⅰ・Ⅱ区	SI90	571・572	古墳時代後期			1	1					和歌山市	23
19	宇田森遺跡	市7次	溝１	30	後期後半	1							古相	和歌山市	26
20	西田井遺跡	市3・4次	SD12	138	鎌倉時代～室町時代				1					和歌山市	27
20	西田井遺跡	県第Ⅱ区	包含層	1026～1033	庄内式～古墳時代	8								和歌山市	28
20	西田井遺跡	県第Ⅱ区	SK243・SK239・SK502	1034～1041	古墳時代中期			7					包含層（庄名式～）と遺構（古墳時代中期で明確に時期が分かれる）	和歌山市	28
20	西田井遺跡	市3・4次	SD11	111～113	平安時代			3						和歌山市	27
20	西田井遺跡	市７次	215・208・201・190柱穴	114・116・118・125	平安時代			4						和歌山市	30
20	西田井遺跡	市3・4次	第2層	12～15	江戸時代以前	1		3						和歌山市	29
20	西田井遺跡	県第Ⅲ区	SD740・SK787	1661～1674	奈良時代	2		11	1					和歌山市	28
20	西田井遺跡	市3・4次	SD19	171～173	平安時代後期～室町時代			3						和歌山市	27
20	西田井遺跡	県第Ⅱ区	SB290・291・SE417・418	2121～2155	平安時代～鎌倉時代12世紀～13世紀	2		27	2	1	1	1		和歌山市	28
20	西田井遺跡	県第Ⅰ区	SD96・SE91・SB45・SD102・包含層	675～707	平安時代～鎌倉時代			24	7	2				和歌山市	28
20	西田井遺跡	市７次	59溝埋土	68・69	鎌倉時代			2						和歌山市	30
20	西田井遺跡	市７次	136柱穴	86～88	平安時代			3						和歌山市	30
21	田屋遺跡	県調査	SB21	3	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB13	4	古墳時代中期			1					時期問わず管状土錘a主体（単体が多い）	和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB36	6	古墳時代後期			1						和歌山市	31

遺跡番号	遺跡名	次数	掲載番号	番号	時期	棒状土錘	大型棒状	管状土錘a	管状土錘b	管状土錘c	有溝土錘	石錘	その他・備考	市町村	報告書番号
21	田屋遺跡	県調査	SB22	9	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB54	9	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	1・2次	4溝	10				1						和歌山市	32
21	田屋遺跡	県調査	SB32	11	古墳時代後期	1								和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB41	11	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB34	13	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB39	13	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB50	17	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB16	18	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	土坑SK02	20	古墳時代中期				1					和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB29	21	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB43	27	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	土坑SK01	28	古墳時代中期			1						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	土坑SK01	29	古墳時代中期	1								和歌山市	31
21	田屋遺跡	市６次	SX1	82	庄内式	1								和歌山市	33
21	田屋遺跡	市7・8次	SD02	96	古墳時代中期			1						和歌山市	34
21	田屋遺跡	市7・8次	SD-8	128	古墳時代中期			1						和歌山市	34
21	田屋遺跡	市7・8次	SI-3	132	古墳時代中期			1						和歌山市	34
21	田屋遺跡	市7・8次	SI-4	540	庄内式期			1						和歌山市	34
21	田屋遺跡	市7・8次	NR16002	575	古墳時代中期			1						和歌山市	34
21	田屋遺跡	市7・8次	第5層	104・105	古墳時代か	1		1						和歌山市	34
21	田屋遺跡	県調査	SB17	11・12	古墳時代中期			2						和歌山市	31
21	田屋遺跡	市7・8次	SI-2	116～120	古墳時代後期			4						和歌山市	34
21	田屋遺跡	県調査	SB25	13・14	古墳時代中期			2						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB23	15～17	古墳時代中期			3						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB18	16～20	古墳時代中期			5						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	流路18（VI層）	16～36	平安時代（10世紀）			20					一括出土・木製品（浮子・網端か）	和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	土坑SK02	17～19	古墳時代中期			3						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB19	21～23	古墳時代中期			3						和歌山市	31
21	田屋遺跡	3次	67溝	238～240	飛鳥～奈良時代			3						和歌山市	32
21	田屋遺跡	県調査	SB30	24～28	古墳時代中期			5						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	自然流路SD01	24～28	古墳時代中期	1		3		1				和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB26	25～29	古墳時代中期			5						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB53	48～50	古墳時代中期			3						和歌山市	31
21	田屋遺跡	県調査	SB35	6・７	古墳時代後期			2						和歌山市	31
22	府中遺跡	市12次	1溝	10	鎌倉時代				1					和歌山市	35
22	府中遺跡	市６次	建物２	13・15	奈良時代			2						和歌山市	36
23	府中Ⅳ遺跡	市2次	SB01	22	弥生時代後期後半	1								和歌山市	37
24	高井遺跡	市4次	第3層	15	鎌倉時代				1					和歌山市	38
24	高井遺跡	市2次	第5a層、第6層	115,116	古墳時代～鎌倉時代			2						和歌山市	39
26	六十谷遺跡	県調査	落ち込み１	23	鎌倉時代			1						和歌山市	40
26	楠見遺跡	県調査	C192	187	中世			1						和歌山市	41
26	楠見遺跡	県調査	C247	299	中世			1						和歌山市	41
26	楠見遺跡	県調査	第G7b層	329	中世			1						和歌山市	41
26	楠見遺跡	県調査	第G7b層	329	中世			1						和歌山市	41
26	楠見遺跡	関西大学	黒色土層	1～6	古墳時代中期	3			1	2				和歌山市	42
26	楠見遺跡	県調査	C51-2	215・216	中世（鎌倉時代）			2						和歌山市	41
26	楠見遺跡	県調査	C1013	260～263	平安時代			4						和歌山市	41
26	楠見遺跡	県調査	C1014	275～287	平安時代			13						和歌山市	41
27	平井Ⅱ遺跡	第1次	遺物包含層	1244・1249	鎌倉時代～室町時代			1	1					和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	302土坑	452	奈良時代			1						和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	133小穴	488	古墳時代	1								和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	157溝	501	奈良時代	1								和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	341溝	520	古墳時代終末～奈良時代	1								和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	341溝	521	古墳時代終末～奈良時代	1								和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	352溝	542	奈良時代			1						和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	353落ち込み	557	奈良時代	1								和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	上層遺構礫密集帯	568	鎌倉時代			1						和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	遺物包含層第4層	649～654	古墳時代～奈良時代	4		1	1					和歌山市	43
28	平井遺跡	第1次	遺物包含層第3層	718～720	奈良時代	1		1	1					和歌山市	43
28	平井遺跡	第2次	遺物包含層第3層	825～829	古墳時代～奈良時代	5								和歌山市	43
29	木ノ本Ⅰ遺跡	確認調査	第5層		古墳時代か	2								和歌山市	44
30	茶臼山古墳	市3次	第2a層	19	中世				1					和歌山市	45

遺跡番号	遺跡名	次数	掲載番号	番号	時期	棒状土錘	大型棒状	管状土錘a	管状土錘b	管状土錘c	有溝土錘	石錘	その他・備考	市町村	報告書番号
31	釜山古墳	確認調査		2～4層				3	1		1			和歌山市	46
32	車駕之古址古墳（木ノ本Ⅲ遺跡）	市6次	第7a、7c層	109～114	中世			3	1	2				和歌山市	47
32	車駕之古址古墳（木ノ本Ⅲ遺跡）	市４・5次	④b層、⑤⑥層	44、45	平安時代～室町時代				2					和歌山市	48
33	中野遺跡	市2次	SD01	93、94	室町時代			1	1					和歌山市	49
34	西庄Ⅱ遺跡	Ⅱ区	包含層	写真図版	鎌倉時代か	1		1	2	2	1			和歌山市	50
35	西庄遺跡	市11次	3区３a層	13	古墳時代中期	1								和歌山市	51
35	西庄遺跡	市11次	層位不明	16							1			和歌山市	51
35	西庄遺跡	市11次	SI-7	72	古墳時代後期前半	1								和歌山市	51
35	西庄遺跡	表採		10～13	古墳時代	4								和歌山市	52
35	西庄遺跡	市11次	1区３a層	12・14・15	古墳時代中期	3				1				和歌山市	51
35	西庄遺跡	市4次	第3b層、SX7、SX3	64～72	古墳時代	6		2	1					和歌山市	53
35	西庄遺跡	確認調査	4層下層	報告書	古墳時代	1								和歌山市	45
35	西庄遺跡	県調査	包含層	報告書	弥生時代～古墳時代				12					和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	遺構・包含層	報告書	古墳時代中期（TG232）	9								和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	遺構・包含層	報告書	古墳時代中期（TK73）	2								和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	遺構	報告書	古墳時代中期（TK208）	4								和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	遺構	報告書	古墳時代中期（TK23・47）	13			1	2				和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	包含層	報告書	古墳時代中期	61			3	3				和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	遺構	報告書	古墳時代後期（MT15）	1								和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	遺構	報告書	古墳時代後期（MT85）	33							1（紡錘車？）	和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	遺構	報告書	古墳時代後期（TK43）	6								和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	遺構・包含層	報告書	古墳時代後期	2								和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	包含層	報告書	古墳時代中期～後期	52		1	1	2				和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	包含層	報告書	古墳時代中期～飛鳥時代	39		1	4	1				和歌山市	54
35	西庄遺跡	県調査	包含層	報告書	古墳時代～中世			1	2	1				和歌山市	54
36	磯脇遺跡	市2次	第3区8´層、SK2	12・13	鎌倉時代				1	1				和歌山市	55
36	磯脇遺跡	市3次	ピット28・38	12・13	鎌倉時代				2					和歌山市	56
37	深山遺跡	表採	F区	114～116	古墳時代	1		2						和歌山市	57
38	藻江遺跡	表採	D区	105			1						150m沖合、13.2cmの大型品	和歌山市	57
38	藻江遺跡	表採		21、22	弥生後期後半～	2								和歌山市	52
39	藻崎西方遺跡	表採		5、7～9	古墳時代～奈良時代	3					1			和歌山市	52
40	一谷色遺跡	表採	B区	16～18	古墳時代	3								和歌山市	57
41	しょうぶ谷遺跡	表採	S,Nト レンチ	31	弥生後期後半～	1								和歌山市	52
42	大谷川遺跡	表採	H区	139～143	庄内式	4		1					古相	和歌山市	57
43	おそ越の鼻遺跡	表採		1～9	奈良時代	8				1				和歌山市	52
44	平の谷遺跡	表採	L区	488・489	古墳時代～奈良時代	2								和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I９区	213	弥生時代～鎌倉時代				1					和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I16区	280	弥生時代～古墳時代	1								和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I18区	349	弥生時代～古墳時代	1								和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I19区	350	弥生時代～古墳時代	1								和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I20区	375	弥生時代～鎌倉時代	1								和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I23区	404	庄内式	1								和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I24区	407	弥生時代～鎌倉時代	1								和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I4、I７区	181・182	庄内式	2							全体的に後期後半～庄内、製塩土器とともに棒状土錘存在	和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I11区	225・226	弥生時代～鎌倉時代	1					1			和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I15区	251～253	弥生時代～古墳時代	2		1						和歌山市	57
45	加太遺跡	表採	I17区	308～310	庄内式	3								和歌山市	57
45	加太地域	表採		514～519		6								和歌山市	57
45	加太地域	表採		520～528				9						和歌山市	57
45	加太地域	表採		529～533					5					和歌山市	57
45	加太地域	表採		534～536							3			和歌山市	57
46	加太駅北方遺跡・加太Ⅱ遺跡	表採	K3区	456・457	弥生時代～古墳時代	1		1						和歌山市	57
47	岩橋遺跡	市7次	SP106ほか	69～75	奈良時代（8世紀後半）			7						和歌山市	58
48	岩橋高柳遺跡	市2次	溝４	7	江戸時代18世紀			1						和歌山市	56
48	岩橋高柳遺跡	県調査	SK72	40	飛鳥時代Ⅱ			1						和歌山市	59
48	岩橋高柳遺跡	県調査	SD570	122	室町時代15世紀					1				和歌山市	59
48	岩橋高柳遺跡	県調査	SK117	130				1						和歌山市	59
48	岩橋高柳遺跡	県調査	SK575	67・68	飛鳥時代Ⅰ			2						和歌山市	59
49	鳴神Ⅳ遺跡	市4次	SR1第３層	3	弥生時代中期～				1					和歌山市	60
49	鳴神Ⅳ遺跡	県K地区	SD351	4	古墳時代中期			1						和歌山市	61

遺跡番号	遺跡名	次数	掲載番号	番号	時期	棒状土錘	大型棒状	管状土錘a	管状土錘b	管状土錘c	有溝土錘	石錘	その他・備考	市町村	報告書番号
49	鳴神Ⅳ遺跡	市6次	SD8	5	古墳時代中期			1						和歌山市	60
49	鳴神Ⅳ遺跡	県Ⅰ－1地区	SD204	48	古墳時代中期					1				和歌山市	61
49	鳴神Ⅳ遺跡	市6次	SB４・９		古墳時代中期（TK47型式）	1		5						和歌山市	60
50	鳴神Ⅴ遺跡	県A地区	SD007	5	奈良時代	1								和歌山市	61
50	鳴神Ⅴ遺跡	県B地区	SK001・SD002	11	平安時代			1			1			和歌山市	61
50	鳴神Ⅴ遺跡	県B地区	段構成土	15～34	奈良時代	1		17	1		1			和歌山市	61
50	鳴神Ⅴ遺跡	市１・２次		152～155	古墳時代前期～後期	1		3						和歌山市	62
50	鳴神Ⅴ遺跡	県A地区	包含層	31～33	飛鳥時代後半～奈良時代	1		3						和歌山市	61
50	鳴神Ⅴ遺跡	市9次			不明			1						和歌山市	53
51	太田・黒田遺跡	市19次	土坑11	17	弥生時代中期					1			古い	和歌山市	63
51	太田・黒田遺跡	市97次	1313SE	41	平安時代中期			1						和歌山市	64
51	太田・黒田遺跡	市19次	土坑20	77	古墳時代前期（布留式中）					1				和歌山市	63
51	太田・黒田遺跡	市19次	溝１	154	不明	1								和歌山市	63
51	太田・黒田遺跡	市19次	包含層	172	不明	1								和歌山市	63
51	太田・黒田遺跡	市52次	第3層	132,133	弥生時代か			2						和歌山市	65
51	太田・黒田遺跡	市45次	SD06、SK41、第2層	200～205	古墳時代、鎌倉時代	2		3	1				棒状が古墳	和歌山市	66
51	太田・黒田遺跡	市48次	SD04	23～57	弥生時代中期			91					黒斑あり、一括状態で折り重なって出土、叩き石2点共伴、刺網か	和歌山市	67
51	太田・黒田遺跡	市59次	SD01、SK107、SK23、SK05、SK165	261～266	平安時代				3		3		表面に縄目	和歌山市	68
51	太田・黒田遺跡	市59次	SD01・SK32・SD05・SK165・SK107	261～266	平安時代			1	3		3			和歌山市	68
51	太田・黒田遺跡	市55次	SX01	75～78	鎌倉時代			2	2					和歌山市	69
51	太田・黒田遺跡	市範囲確認	7ER23土坑１、７ER25土坑１	８、９	平安時代			1		1				和歌山市	70
51	太田・黒田遺跡	市26次	SD01、第4層	83、84	室町時代			1	1					和歌山市	71
51	太田・黒田遺跡	1968年度	包含層・土坑	未報告	平安時代～中世	2		1	1	2				和歌山市	20
51	太田・黒田遺跡	1968年度	溝・土坑	未報告	古墳時代	4								和歌山市	20
51	太田・黒田遺跡	市48次	SD01、SX3		弥生時代中期			2						和歌山市	72
51	太田・黒田遺跡	市59次	SK122		江戸時代			1						和歌山市	68
51	太田・黒田遺跡	市60次確認	表採					1						和歌山市	46
52	秋月遺跡	県調査	遺構103	16	鎌倉時代				1					和歌山市	73
52	秋月遺跡	市38次	203土坑	62	古墳時代後期TK209	1								和歌山市	74
52	秋月遺跡	市25・26次	6SK	87	古墳時代後期TK10	1								和歌山市	75
52	秋月遺跡	市25・26次	156SD	105	飛鳥時代　飛鳥Ⅲ	1								和歌山市	75
52	秋月遺跡	県危険校舎	SE７	173	鎌倉時代			1						和歌山市	76
52	秋月遺跡	市9次	包含層	291	古墳時代			1						和歌山市	77
52	秋月遺跡	県9次	大土坑他	602	古墳～中世	1								和歌山市	78
52	秋月遺跡	県9次	大土坑他	603	古墳～中世			1						和歌山市	78
52	秋月遺跡	県9次	大土坑他	604	古墳～中世			1						和歌山市	78
52	秋月遺跡	県9次	大土坑他	605	古墳～中世			1						和歌山市	78
52	秋月遺跡	県9次	大土坑他	606	古墳～中世					1				和歌山市	78
52	秋月遺跡	市9次	包含層・遺構	292～297	鎌倉時代～室町時代				6	1			瓦製あり	和歌山市	77
53	友田町遺跡	市13次	5SP	4	古墳時代			1						和歌山市	79
53	友田町遺跡	市13次	62SD	33	飛鳥時代後半～奈良時代			1						和歌山市	79
53	友田町遺跡	第2・3次	包含層	79～83	古墳時代～鎌倉時代			5						和歌山市	80
53	友田町遺跡	第2・3次	包含層	84・85	古墳時代後期か	2								和歌山市	80
54	鷺ノ森遺跡	表採		17	時期不明	1								和歌山市	81
54	鷺ノ森遺跡	市8次	SK599	2971	飛鳥時代				1					和歌山市	82
54	鷺ノ森遺跡	市8次	第8a層	3275	平安時代～鎌倉時代	1								和歌山市	82
54	鷺ノ森遺跡	市11次	第8b層	3477	奈良時代～平安時代							1		和歌山市	82
54	鷺ノ森遺跡	市8次	SP594	2966・2967	飛鳥時代か	2								和歌山市	82
54	鷺ノ森遺跡	市8次	SD138	3037～3042	奈良時代	4		1			1		短い棒状土錘	和歌山市	82
54	鷺ノ森遺跡	市8次	第9層	3189～3193	飛鳥時代～平安時代	2			2		1			和歌山市	82
54	鷺ノ森遺跡	市11次	第7層	3388・3390	中世			1	1					和歌山市	82
54	鷺ノ森遺跡	市11次	第8a層	3420～3425	鎌倉時代	4		2						和歌山市	82
55	和歌山城跡	市34次	3144土坑	1401・1402	江戸時代18世紀				2					和歌山市	83
56	津秦Ⅱ遺跡	市27次	33SD	58					1					和歌山市	84
56	津秦Ⅱ遺跡	市4次	SK234	99	鎌倉時代			1						和歌山市	85
56	津秦Ⅱ遺跡	市9次	1056・1057SD	360	布留式古段階	1								和歌山市	86
56	津秦Ⅱ遺跡	市14次	3b層	491	鎌倉時代				1					和歌山市	86
56	津秦Ⅱ遺跡	市10次	4層	383～387	平安時代				5				一括出土	和歌山市	86
56	津秦Ⅱ遺跡	市10次	1204SD	466・467	鎌倉時代			1	1					和歌山市	86
56	津秦Ⅱ遺跡	市4次	第3層	63～65	室町時代下限			2	1					和歌山市	87

遺跡番号	遺跡名	次数	掲載番号	番号	時期	棒状土錘	大型棒状	管状土錘a	管状土錘b	管状土錘c	有溝土錘	石錘	その他・備考	市町村	報告書番号
57	井辺遺跡	市56次	第2層	6								1		和歌山市	88
57	井辺遺跡	市7次		16	庄内式	1								和歌山市	89
57	井辺遺跡	市56次	53竪穴建物	19	弥生後期後半	1								和歌山市	88
57	井辺遺跡	岡崎団地	C地点	34	弥生時代後期後半	1								和歌山市	90
57	井辺遺跡	市27次	97SK	91	庄内式	1								和歌山市	86
57	井辺遺跡	市56次	210竪穴建物	95	弥生後期後半	1								和歌山市	88
57	井辺遺跡	市62次	24土坑	100	古墳時代前期	1								和歌山市	91
57	井辺遺跡	県2次	3001溝	119	古墳時代前期	1			1					和歌山市	92
57	井辺遺跡	市34次	256SD	174	布留式古段階	1								和歌山市	86
57	井辺遺跡	県2次	3097・4260 溝	285	古墳時代前期	5								和歌山市	92
57	井辺遺跡	市36次	582SD	294	布留式古段階				1					和歌山市	86
57	井辺遺跡	県2次	第3層	1078	古墳時代前期	1								和歌山市	92
57	井辺遺跡	第1次	土器列	1～6	弥生時代後期後半～庄内式	6								和歌山市	93
57	井辺遺跡	市56次	77竪穴建物	173・175	庄内式	2								和歌山市	88
57	井辺遺跡	市6次	SB３、SD11	57～60	弥生後期後半～庄内式	4							古い様相をもつ	和歌山市	94
57	井辺遺跡	市27次	76SD	68～70・74	庄内式～布留式古段階	2		1				1		和歌山市	86
57	井辺遺跡	県2次	4259自然流路		古墳時代前期～中期	8			1	6				和歌山市	92
57	井辺遺跡	市56次	107土坑		弥生後期後半									和歌山市	88
58	神前遺跡	県2次	069土坑	45	室町時代				1					和歌山市	95
58	神前遺跡	県2次	3002溝	213		1								和歌山市	95
58	神前遺跡	県2次	5180土坑	848	古墳時代中期	1								和歌山市	95
58	神前遺跡	県3次	不整形土坑	960	布留式中段階	1								和歌山市	95
58	神前遺跡	表採		未報告	古墳時代			1						和歌山市	
59	相方遺跡	県調査	第8層	182	中世				1					和歌山市	96
60	坂田遺跡	県調査	遺構010	21～25	弥生時代後期後半	5							最古相・四角	和歌山市	97
60	坂田遺跡	県調査	包含層第4層	96・117・118	弥生時代後期～古墳時代後期	3								和歌山市	97
62	雑賀崎台場跡	市2次	第2層・第6層	8・9	江戸時代			2						和歌山市	98
62	雑賀崎台場跡	市1次	第1層・第3層	9～11	江戸時代			3						和歌山市	45
63	関戸遺跡	市1次	第4層	45・46	平安時代～鎌倉時代			1			1			和歌山市	98
63	関戸遺跡	表採	表採	5・6・7	古墳・古代・中世	1		1	1					和歌山市	99
63	関戸遺跡	基礎工事中	貝塚	第3図	平安時代末～鎌倉時代	5			11		24		有溝土錘	和歌山市	100
64	和田岩坪遺跡	県1次	１自然流路、第6層系	180～197	古墳時代か	18				3			棒状土錘大中小あり、管状土錘ｃ多数、30点出土	和歌山市	101
64	和田岩坪遺跡	県2次	100自然流路、第4層	CW1－CW58-2	弥生時代後期後半～古墳時代前期	102				12			棒状土錘大中小あり、管状土錘ｃ多数	和歌山市	102
64	和田岩坪遺跡	1981年和歌山市	包含層	未報告	古墳時代中期	1								和歌山市	
65	溝ノ口遺跡	県調査	包含層	42	鎌倉時代			1						海南市	103
65	溝ノ口遺跡	県調査	区画溝	254	鎌倉時代			1						海南市	103
66	亀川遺跡	A地点	第2号住居址	74	庄内式	1								海南市	104
67	岡村遺跡	№236グリッド	住居址遺構	15	古墳時代前期							有溝		海南市	105
67	岡村遺跡	平成8年市調査	包含層	203	不明				1					海南市	106
67	岡村遺跡	平成9年市調査	包含層	105～107	不明	1		2						海南市	107
67	岡村遺跡	G地点	遺構	28・29	古墳時代中期				2					海南市	108
67	岡村遺跡	平成9年市調査	SD-01・03	97～103	平安時代～鎌倉時代			6			1			海南市	107
67	岡村遺跡	５区	SD31		庄内式			1						海南市	109
67	岡村遺跡	F区	SK03								1	有溝		海南市	109
68	且来Ｖ遺跡	県調査	包含層	39	飛鳥時代～			1						海南市	110
69	且来Ⅵ遺跡	E地点	SK10	83	飛鳥時代				1					海南市	111
69	且来Ⅵ遺跡	県道	SK-19	83	飛鳥時代			1						海南市	112
69	且来Ⅵ遺跡	市調査	包含層	133	不明				1					海南市	111
69	且来Ⅵ遺跡	県道	SK-52	191	飛鳥時代			1						海南市	112
69	且来Ⅵ遺跡	県道	SP-284	230	飛鳥時代	1							棒状土錘の新しい例（形状隅丸）	海南市	112
69	且来Ⅵ遺跡	県調査	2085・包含層	173～177	古墳時代後期～飛鳥時代	2		2	1					海南市	110
69	且来Ⅵ遺跡	県道	包含層	331～333	飛鳥時代			3						海南市	112
69	且来Ⅵ遺跡	県道	SK-06	57～59	飛鳥時代			3						海南市	112
69	且来Ⅵ遺跡	市調査	包含層	67～71					5					海南市	113
70	鳥居遺跡	県調査	SK20・21	112・113	平安時代～鎌倉時代			1	1					海南市	114
71	城山遺跡	昭和36年	表採	54	鎌倉時代～室町時代			1						海南市	115
72	下津二中校庭遺跡	県調査	包含層	18	不明			1						海南市	116
73	下遺跡	4次	包含層	158～168	中世			9	2					海南市	118

遺跡番号	遺跡名	次数	掲載番号	番号	時期	棒状土錘	大型棒状	管状土錘a	管状土錘b	管状土錘c	有溝土錘	石錘	その他・備考	市町村	報告書番号
73	下遺跡	3次	包含層	221～239	古墳時代～室町時代	2		12	1		5			海南市	117
74	粟生遺跡	県調査	SK58	185	中世			1						有田川町	119
75	田殿尾中遺跡	市調査	排土中	410	弥生時代後期～庄内式	1								有田川町	120
76	旧吉備中学校校庭遺跡	第5次	土坑96下層	6	中世			1						有田川町	124
76	旧吉備中学校校庭遺跡	第5次	土坑96	6	飛鳥時代			1						有田川町	123
76	旧吉備中学校校庭遺跡	第1次	溝31	1283	鎌倉時代			1						有田川町	121
76	旧吉備中学校校庭遺跡	第4次	竪穴建物23	470～490、492～494	飛鳥時代			20					一括出土	有田川町	122
77	野田地区遺跡	県調査	４区	61	平安時代（9世紀）			1						有田川町	125
77	野田地区遺跡	町調査	竪穴建物１	30・31	古墳時代前期（布留式）			1		1				有田川町	126
77	野田地区遺跡	県調査	４区	87・88	古墳時代前期（布留）					2				有田川町	125
78	藤並地区遺跡	G地区	G10－T		不明				2					有田川町	125
78	藤並地区遺跡	2006－Ⅱ区	第2層・第3層	214・251	鎌倉時代～			2						有田川町	127
79	新堂遺跡	県調査	遺構58（土坑）	10	鎌倉時代前期				1					有田市	128
80	地ノ島遺跡	昭和46年1971		22～24	庄内式～古墳時代前期	3								有田市	129
80	地ノ島遺跡	有田市	不明		庄内式期～中世	1		16	2	1	2			有田市	130
80	地ノ島遺跡	昭和34年1次			庄内式～古墳時代前期	1								有田市	131
81	津井浜遺跡		包含層		古墳時代中期	3								有田市	
82	鷹島遺跡	町調査	包含層		庄内式・奈良時代	3				1	1			広川町	132
83	衣奈遺跡	町史	不明		古墳時代～中世			5						由良町	133
84	大引遺跡	県調査	黒色Ⅳ		平安時代中期	7		8	1	1	7			由良町	134
84	大引Ⅰ遺跡	町史	不明		平安時代～鎌倉時代	3		1			5			由良町	133
85	黒島遺跡	町史	不明		庄内式期～古墳	3								由良町	133
86	吉原遺跡	都市防災施設	027土坑	19・20	平安時代			2						美浜町	136
86	吉原遺跡	第3区	24		中世			1						美浜町	135
87	前田遺跡	県調査	01溝	21	鎌倉時代			1						日高川町	137
88	小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡	2区	8落ち状遺構	45	庄内式期	1								日高町	138
88	小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡	1区	包含層	24～39	古墳時代・中世			12	1	1	2			日高町	138
88	小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡	2区	包含層	90～92	古墳時代か	1		1	1					日高町	138
89	岩内古墳群	Ⅱ-Ⅵ区	黒褐色土	201～208	古墳時代前期～中世	1		5	2					御坊市	139
89	岩内古墳群	Ⅰ-Ⅳ区	西の谷	65～69	奈良時代			2	1	2				御坊市	140
90	尾ノ崎遺跡	市調査	竪穴住居１	393	庄内式・布留式					1				御坊市	141
90	尾ノ崎遺跡	市調査	竪穴住居３	394・395	庄内式・布留式	2							やや古い	御坊市	141
91	小松原Ⅱ遺跡	県調査	E地区	20	江戸時代			1						御坊市	142
91	小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡	県調査	001b	393	室町時代			1						御坊市	143
92	下富安遺跡	県調査	SZ９他	11～16	古墳時代か			5		1				御坊市	144
93	東郷遺跡	県調査	機械掘削	22	中世？			1						御坊市	145
94	富安Ⅰ遺跡	市調査	竪穴住居５	41・42	古墳時代中期			2						御坊市	146
95	中村地区遺跡	市調査Ⅰ区	SB－13	81～85	庄内式期	5								御坊市	147
96	祓井戸遺跡			12				1						御坊市	148
97	東大人遺跡	市調査	堆積層		庄内式期			2						御坊市	149
98	蛭田坪遺跡	県調査	第14調査区第7層	11・12	古代			1			1			御坊市	150
99	大目津泊りⅠ遺跡	第1次	第5層	3	庄内式～古墳時代前期	1								みなべ町	151
99	大目津泊りⅠ遺跡	第2次	９C2層	75・76	庄内式～古墳時代前期	2						打欠		みなべ町	151
100	高田土居城跡	県調査	堀２	219・220	室町時代			2						みなべ町	152
101	徳蔵地区遺跡	Ⅰ区12－1区	第3層	174	中世			1						みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅱ区13－10区	第3層	436	中世			1						みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅳ区11－1区	第1層	1145	不明	1								みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅳ区13－4区	溝２・３	1195	室町時代			1						みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅳ区13－4区	内堀6-a	1224	室町時代			1						みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅳ区13－4区	土坑16	1347	室町時代			1						みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅴ・Ⅵ区	包含層	101～103	中世			3						みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅰ区11－5区	第3層	143～146	中世			2	1		1			みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅴ区11－4区	第3層	2846～2850	室町時代			3			2			みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅱ区10－2区	第３・４層	470～472	中世			3						みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅰ区10－1区	第3層	84～87	中世			4						みなべ町	153
101	徳蔵地区遺跡	Ⅱ～Ⅳ区	包含層	95・96	中世			2						みなべ町	154
102	大塚遺跡	9区	4層	77	時期不明			1						みなべ町	155
102	大塚遺跡	町道	竪穴建物2	319	古墳時代前期					1				みなべ町	156
103	磯間岩陰遺跡	包含層		1～46	古代～中世			44	1	1				田辺市	157
104	古目良岩陰遺跡	D地区	第2層－1	3	不明	1								田辺市	158
104	古目良岩陰遺跡	C地区	第２層－2	4	古墳時代後期	1								田辺市	158
104	古目良岩陰遺跡	A地区	第1層	8	古墳時代			2						田辺市	158

遺跡番号	遺跡名	次数	掲載番号	番号	時期	棒状土錘	大型棒状	管状土錘a	管状土錘b	管状土錘c	有溝土錘	石錘	その他・備考	市町村	報告書番号
104	古目良岩陰遺跡	F地区	第2層		中世				1					田辺市	158
104	古目良岩陰遺跡	大学調査			古墳時代	1								田辺市	159
105	立戸遺跡	市調査			古墳時代・平安時代	5			2	20	2			田辺市	159
106	立戸岩陰遺跡	市調査			古墳時代後期	1								田辺市	159
107	目座Ⅱ遺跡	県調査	3008	13	不明			1						田辺市	160
108	田ノ口遺跡	県調査	第１・２層	102	不明				1					白浜町	160
109	綱不知岩陰遺跡	浦宏調査	包含層	7	庄内式～古墳時代後期	1					1			白浜町	161
110	東條遺跡			6	古墳時代後期			1						白浜町	162
111	日向浦遺跡（貝殻畠）	浦宏調査	貝塚下層～中層	６～８	庄内式・古墳時代中期	2		1						白浜町	163
112	阪田山遺跡				弥生時代後期～庄内式	5		1	3	1				白浜町	164
113	瀬戸遺跡			8	古墳時代前期				4		5			白浜町	164
113	瀬戸遺跡	昭和54年			古墳時代～中世				2		3			白浜町	165
114	横浦洞穴（串ヶ峯）				古墳時代後期					1	1			白浜町	164
115	脇ノ谷古墳	埋葬施設周辺			古墳時代中期			19						白浜町	166
116	大古Ⅱ遺跡	県調査	4層中央くぼみ	38	不明						1			白浜町	160
117	立野遺跡	１・２区	包含層	32～34	不明			3						すさみ町	167
117	立野遺跡	4－2・5－1	第5層・第4層	337・347	古墳時代後期			1			1			すさみ町	167
118	結城城跡	県調査	第３・４層	16	中世			1						串本町	168
119	大水崎遺跡	県詳細分布	確認調査	29	古墳時代後期～古代						1			串本町	169
119	大水崎遺跡	県詳細分布		30	古墳時代後期～古代						1			串本町	169
119	大水崎遺跡	県詳細分布		31	古墳時代後期～古代						1			串本町	169
119	大水崎遺跡	県詳細分布		32	古墳時代後期～古代						1			串本町	169
119	大水崎遺跡	県詳細分布		33	古墳時代後期～古代	1								串本町	169
119	大水崎遺跡	県詳細分布		34	古墳時代後期～古代			1						串本町	169
120	笠嶋遺跡	県詳細分布	確認調査	11	古墳時代前期（布留）	1								串本町	169
120	笠嶋遺跡	県詳細分布		12	古墳時代前期（布留）	1								串本町	169
120	笠嶋遺跡	遺跡調査会		6・７	庄内式	1					1		網端出土	串本町	170
120	笠嶋遺跡	県調査		64～67	中世				2		2			串本町	171
121	川関遺跡	県調査	包含層・遺構	1886～1890	室町時代			4						那智勝浦町	172
121	川関遺跡	県調査	包含層・遺構	616～620	室町時代			3			2			那智勝浦町	172
122	阿須賀神社遺跡	第2次		１～11	弥生後期後半～中世			9			2		有溝は中世	新宮市	173
122	阿須賀神社遺跡	第3・4・5次		１～34	弥生後期後半～中世			20	13		1		有溝は中世	新宮市	174
	三葛地区	表採	B区表採	89・90	江戸時代				2					和歌山市	175

報告書一覧

1_橋本市遺跡+B402:P558調査会1992『平成3年度市脇遺跡発掘調査概報』
2_和歌山県教育委員会1974『市脇遺跡発掘調査概報』
3_財団法人和歌山県文化財センター－ 2007 『垂井女房が坪遺跡・野口遺跡・北馬場遺跡・柏原遺跡-一般国道24号京奈和自動車道(橋本道路)建設工事に伴う発掘調査報告書-』
4_橋本市遺跡調査会2014『東家遺跡・東家館跡発掘調査報告書-橋本市こども園新築工事に伴う発掘調査-』
5_かつらぎ町教育委員会1980『佐野遺跡発掘調査概報Ⅲ』
6_財団法人和歌山県文化財センター2010『西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡－一般国道２４号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴う第１次・第２次発掘調査報告書－』
7_かつらぎ町教育委員会 2019『西飯降Ⅱ遺跡発掘調査報告書２-町道妙寺48号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-東』和歌山県伊都郡かつらぎ町文化財調査報告書第14集
8_公益財団法人和歌山県文化財センター2012『中飯降遺跡・西飯降Ⅱ遺跡・加陀寺前経塚・大谷遺跡・重行遺跡
－一般国道２４号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴う第２次～第７次発掘調査報告書－』
9_和歌山県文化財センター 2015 『西渋田遺跡・東渋田遺跡-和歌山橋本線道路改良事業に伴う発掘調査報告書-』
10_かつらぎ町教育委員会 2012 『東渋田遺跡発掘調査報告書-かつらぎ町立渋田小学校改築に伴う発掘調査報告-』和歌山県伊都郡かつらぎ町文化財調査報告書3
11_和歌山県教育委員会 1986 『船岡山遺跡発掘調査報告書-紀の川河川改修工事に伴う発掘調査-』
12_紀の川市2023『土井ノ森城跡（第２・３次）-友淵地区複合施設建設に伴う発掘調査報告書-』
13_公益財団法人和歌山県文化財センター2012『和歌山県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業に係る埋蔵文化財関連資料整理概報』－和歌山県内6遺跡の概要報告書－』
14_公益財団法人和歌山県文化財センター－ 2012 『北山廃寺・北山三嶋遺跡-中山間総合整備事業(北山地区)に伴う発掘調査報告書-』
15_岩出市教育委員会1981『岡田・西国分Ⅱ遺跡発掘調査概報-町道岡田西国分バイパス線岡田字中線建設に伴う緊急発掘調査-』
16_野上町教育委員会1985『下佐々Ⅲ遺跡発掘調査概要』
17_美里町教育委員会1983『福田地区遺跡詳細分布調査報告書』
18_財団法人和歌山市文化体育振興事業団1994『平尾遺跡発掘調査概報－市道矢田平尾線建設に伴う調査報告』和歌山市文化体育振興事業団1調査報告書第10集
19_財団法人和歌山県文化財センター2005『山口遺跡・川辺遺跡発掘調査報告書－県道和歌山貝塚線・県道粉河加太線道路改良工事に伴う発掘調査－』
20_埋蔵文化財研究会1986「和歌山県-弥生時代から平安時代まで－」『海の生産用具』資料集2
21_和歌山市教育委員会2017『和歌山市内遺跡発掘調査概報-平成27年度-』
22_財団法人和歌山市都市整備公社2008『川辺遺跡 第4・ 5次発掘調査報告書』和歌山市都市整備公社発掘調査報告書 第1集
23_財団法人和歌山県文化財センター1995『川辺遺跡発掘調査報告書－一般国道24号和歌山バイパス建設に伴う遺跡発掘調査－』
24_財団法人和歌山市都市整備公社2010『川辺遺跡 第10･11･12･13次発掘調査報告書』和歌山市都市整備公社発掘調査報告書 第３集
25_財団法人和歌山県文化財センター2005『山口遺跡・川辺遺跡発掘調査報告書－県道和歌山貝塚線・県道粉河加太線道路改良工事に伴う発掘調査－』
26_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2019『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成28年度（2016年度）－』
27_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2014『西田井遺跡第3・4次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第2集
28_和歌山県文化財センター 1991 『西田井遺跡発掘調査報告書-一般国道24号(和歌山バイパス)建設に伴う発掘調査-』
29_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2014『西田井遺跡第3・4次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第2集
30_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2023『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-令和2年度（2020年度）－』
31_財団法人和歌山県文化財センター1990『田屋遺跡発掘調査報告書－一般国道24号（和歌山バイパス）建設工事に伴う発掘調査報告書－
32_公益財団法人和歌山県文化財センター 2020 『田屋遺跡－紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う発掘調査報告書－』
33_財団法人和歌山市都市整備公社2012『田屋道跡 第6次発掘調査報告書』和歌山市都市整備公社発掘調査報告書 第5集
34_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2014『田屋遺跡第7・8次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第1集
35_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2025『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報－令和4年度（2022年度）－』
36_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2023『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報－令和2年度（2020年度）－』
37_財団法人和歌山市文化体育振興事業団1996『府中Ⅳ遺跡第２次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第15集
38_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2016『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報－平成25年度（2013年度）－

39_財団法人和歌山市文化体育振興事業団2000『高井遺跡第2次発掘調査概報』和歌山市体育振興事業団調査報告書　第23集
40_公益財団法人和歌山県文化財センター2014『六十谷遺跡－都市計画道路西脇山口線（園部・六十谷）道路改良事業に伴う発掘調査報告書－』
41_財団法人和歌山県文化財センター 2006 『楠見遺跡-都市計画道路西脇山口線改良工事に伴う発掘調査報告書-』
42_関西大学1972『和歌山市域における古墳の調査』関西大学考古学研究紀要第4冊
43_公益財団法人和歌山県文化財センター 2017 『平井遺跡、平井Ⅱ遺跡－第二阪和国道建設に伴う発掘調査報告書－』公益財団法人和歌山県文化財センター
44_和歌山市教育委員会2006『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成16年度－』
45_和歌山市教育委員会2009『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成19年度－』
46_和歌山市教育委員会2010『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成20年度－』
47_和歌山市教育委員会2003『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成14年度－』
48_財団法人和歌山市文化体育振興事業団1994『車駕之古址古墳範囲確認調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第9集
49_財団法人和歌山市文化体育振興事業団1998『中野遺跡第２次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第16集
50_和歌山県教育委員会1978『西庄地区遺跡発掘調査概報Ⅰ』
51_和歌山市2022『西庄遺跡第11次発掘調査報告書』
52_和歌山市教育委員会1968『加太・木本地区における古代漁業遺跡調査報告』社会教育資料34
53_和歌山市教育委員会2007『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成17年度－』
54_財団法人和歌山県文化財センター2003『西庄遺跡-都市計画道路西脇山口線道路改良工事に伴う発掘調査報告書-』
55_和歌山市教育委員会2013『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成23年度－』
56_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2015『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報－平成24年度（2012年度）－
57_和歌山市教育委員会2012『和歌山市加太地域の考古資料－伊喜利良信氏表採資料－』
58_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2016『岩橋遺跡第7次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第8集
59_財団法人和歌山県文化財センター2004『岩橋高柳遺跡－井ノ口秋月線道路改良工事に伴う発掘調査報告書』
60_財団法人和歌山市文化体育振興事業団1995『鳴神Ⅳ遺跡発掘調査概報－地方改善施設整備事業鳴神地区道路改良工事に伴う調査報告－』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第11集
61_和歌山県教育委員会 1984 『鳴神地区遺跡発掘調査報告書-一般国道24号バイパス関連遺跡発掘調査-』
62_財団法人和歌山市文化体育振興事業団1994『鳴神Ⅴ遺跡発掘調査概要報告書－和歌山市都市計画道路松島本渡線建設に伴う調査報告－』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第８集
63_和歌山市教育委員会2014『太田・黒田遺跡　第13・19・20次発掘調査報告書』
64_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2024『太田・黒田遺跡第97次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第26集
65_財団法人和歌山市文化体育振興事業団2002『太田・黒田遺跡第52次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第33集
66_財団法人和歌山市文化体育振興事業団2001『太田・黒田遺跡第45次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第27集
67_財団法人和歌山市文化体育振興事業団2002『太田・黒田遺跡第48次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第30集
68_財団法人 和歌山市都市整備公社2009『太田・黒田遺跡 第59次発掘調査報告書』和歌山市都市整備公社発掘調査報告書　第２集
69_財団法人和歌山市文化体育振興事業団2005『太田・黒田遺跡第55次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第38集
70_和歌山市教育委員会1976『太田・黒田遺跡範囲確認調査(和歌山港～鳴神線)概要』
71_財団法人和歌山市文化体育振興事業団1995『太田・黒田遺跡第26次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第13集
72_財団法人和歌山市文化体育振興事業団2002『太田・黒田遺跡第48次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第30集
73_公益財団法人和歌山県文化財センター2012『和歌山県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業に係る埋蔵文化財関連資料整理概報』－和歌山県内6遺跡の概要報告書－』
74_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2021『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報－令和元（平成31）年度（2019年度）－
75_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2023『秋月遺跡第25・26次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第16集
76_財団法人和歌山県文化財センター1994『秋月遺跡－向陽高校危険校舎改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
77_財団法人和歌山市文化体育振興事業団2002『秋月遺跡第9次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第34集
78_公益財団法人和歌山県文化財センター 2011 『秋月遺跡（県第９次調査）-県立向陽叩高等学咬体育館建替事業に伴う発掘調査報告書-』公益財団法人和歌山県文化財センター
79_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2020『友田町遺跡第13次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第15集
80_財団法人和歌山市文化体育振興事業団『友田町遺跡第2・3次発掘調査概報ー店舗建築に伴う調査ー』
81_宮田啓二1979「城北・加太・有功地区の遺跡と遺物」『和歌山市文化財総合調査報告(2)』
82_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2019『鷺ノ森遺跡第8・11・13・15次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第11集
83_和歌山市2024『和歌山城跡第34次発掘調査報告書』
84_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2021『津秦Ⅱ遺跡第27次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第20集
85_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2023『津秦Ⅱ遺跡第４次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第３集
86_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2018『井辺遺跡第23・27・30・33・34・36・42次・津秦Ⅱ遺跡第9・10・14次発掘調査報告書－松島本渡線道路建設に伴う発掘調査－』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書　第10集
87_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2023『津秦Ⅱ遺跡第４次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第３集
88_和歌山市文化スポーツ振興財団2020『井辺遺跡 第56次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書　第17集
89_財団法人和歌山市文化体育振興事業団2006『井辺遺跡第7次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第40集
90_大野嶺夫1968「和歌山市井辺遺跡の岡崎団地より出土の後期弥生式土器」『古代学研究』第51号
91_公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団2021『井辺遺跡第62次発掘調査報告書』和歌山市文化スポーツ振興財団発掘調査報告書第18集
92_和歌山県文化財センター 2014 『井辺遺跡、神前遺跡－都市計画道路松島本渡線(神前南)道路改良工事に伴う発掘調査報告書－』
93_和歌山市教育委員会1965『井辺弥生式遺跡発掘調査報告』社会教育資料（24）
94_財団法人和歌山市文化体育振興事業団2005『井辺遺跡第6次発掘調査概報』和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第39集
95_公益財団法人和歌山県文化財センター 2014 『神前遺跡－和歌山橋本線道路改良工事に伴う発掘調査報告書－』
96_公益財団法人和歌山県文化財センター 2017 『寺内古墳群,相方遺跡－和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線(仮称)和歌山南スマートインターチェンジ建設事業,海草振興局建設部庁舎移転外事業に伴う発掘調査報告書－』
97_(公財)和歌山県文化財センター－ 2011 『坂田遺跡発掘調査報告書-県道三田三葛線道路改良工事に伴う発掘調査-』
98_和歌山市教育委員会2011『和歌山市内遺跡発掘調査概報－平成21年度－』
99_前田敬彦2009「吉備慶三郎氏採集考古資料について（その３）-和歌山市関戸遺跡-」『和歌山市立博物館研究紀要23』
100宮田啓二1968「和歌山市関戸遺跡について」『古代学研究』第50号
101_公益財団法人和歌山県文化財センター 2020『和田岩坪遺跡－和歌山平野農地防災事業名草排水機場建設工事に伴う発掘調査報告書－』
102_公益財団法人和歌山県文化財センター 2025 『和田岩坪遺跡－和歌山平野農地防災事業名草排水機場建設工事に伴う第２次発掘調査報告書－』
103_財団法人和歌山県文化財センター 1997 『溝の口遺跡発掘調査報告書-団体営農道整備事業椋の木線建設にともなう発掘調査報告書-』
104_海南市教育委員会1978『亀川遺跡発掘調査概報』
105_海南市教育委員会1980『岡村遺跡確認調査概報』
106_海南市教育委員会1997『海南市内遺跡発掘調査概報』平成8年度
107_海南市教育委員会1998『海南市内遺跡発掘調査概報-平成9年度-』
108_海南市教育委員会2004『海南市内遺跡発掘調査概報』平成15年度
109_財団法人和歌山県文化財センター 1990 『岡村遺跡発掘調査報告書』財団法人和歌山県文化財センター
110_公益財団法人和歌山県文化財センター 2023 『且来Ⅴ遺跡、且来Ⅵ遺跡-秋月海南線道路改良事業に伴う発掘調査報告書-』
111_海南市教育委員会1995『海南市内遺跡発掘調査概報』平成6年度
112_海南市教育委員会1995『県道小野田内原線道路改良工事にともなう発掘調査報告書－』
113_海南市文化財調査研究会1992『且来Ⅵ遺跡発掘調査概報-県道小野田内原線道路改良工事に伴う発掘調査-』
114_（財）和歌山県文化財センター 1991 『鳥居遺跡発掘調査概報-JR紀勢本線海南駅連続立体交差事業に伴う発掘調査-』
115_下津町史編纂委員会1974「城山遺跡」『下津町史』史料編上
116_財団法人和歌山県文化財センター 1992 『下津二中校庭遺跡-下津第二中学校浄化槽改修に伴う下津二中校庭遺跡発掘調査概報-』
117_下津町教育委員会1983『下遺跡第3次発掘調査概報』
118_下津町教育委員会1984『下遺跡第4次発掘調査概報』
119_財団法人和歌山県文化財センター1988『粟生遺跡-県道有田・高野線改良工事に伴う縄文時代遺跡発掘調査概報-』
120_有田川町教育委員会2012『田殿尾中遺跡発掘調査報告書』有田川町文化財調査報告書第9集
121_有田川町遺跡調査会2008『旧吉備中学校校庭遺跡－有田川町公共下水処理施設建設に伴う発掘調査報告１－』
122_有田川町遺跡調査会2009『旧吉備中学校校庭遺跡－地域交流センター・水の公園建設に伴う発掘調査報告－』
123_有田川町遺跡調査会2009『旧吉備中学校校庭遺跡－町道明王寺庄線設置工事・公共下水処理施設建設に伴う発掘調査報告－』
124_有田川町遺跡調査会2009『旧吉備中学校校庭遺跡第5次発掘調査－町道明王寺庄線設置工事・公共下水処理施設に伴う発掘調査報告－』
125_和歌山県教育委員会 1985 『野田・藤並地区遺跡発掘調査報告書-海南湯浅道路建設に伴う関連遺跡発掘調査-』
126_有田川町教育委員会2023『野田地区遺跡発掘調査報告書-分譲地造成工事に伴う発掘調査報告-』有田川町教育委員会文化財調査報告書第22集
127_公益財団法人和歌山県文化財センター 2012 『藤並地区遺跡－県道吉備金屋線道路改良工事に伴う発掘調査報告書－』

128_公益財団法人和歌山県文化財センター 2023 『新堂遺跡－一般国道42号有田海南道路建設事業に伴う発掘調査報告書－』
129_和歌山県教育委員会1971『地の島遺跡発掘調査概報』
130_有田市郷土資料館2023『有田市郷土資料館年報』
131_有田市教育委員会1964『紀伊有田地ノ島遺跡の調査』有田文化財調査報告第1輯
132_広川町教育委員会1969『鷹島遺跡発掘調査概報』
133_由良町1995『由良町誌　通史編上巻』
134_社団法人和歌山県文化財センター1985『大引遺跡発掘調査概報』
135_財団法人和歌山県文化財センター1990『吉原遺跡-県道柏・御坊線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』
136_公益財団法人和歌山県文化財センター 2017 『吉原遺跡－都市防災総合推進事業に伴う発掘調査報告書－』
137_公益財団法人和歌山県文化財センター 2024 『前田遺跡－県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書－』
138_公益財団法人和歌山県文化財センター 2023 『小浦Ⅰ遺跡・小浦Ⅱ遺跡－中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書－』
139_御坊市遺跡調査会1988『広域営農団地農道整備事業に伴う岩内古墳群他埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅱ
140_御坊市遺跡調査会1987『広域営農団地農道整備事業に伴う岩内古墳群他埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅰ
141_御坊市遺跡調査会1981『尾ノ崎遺跡』埋蔵文化財調査報告書第1集
142_財団法人和歌山県文化財センター 1996 『小松原Ⅱ遺跡－都市計画街路駅前吉原線街路工事に伴う発掘調査－』
143_公益財団法人和歌山県文化財センター 2016 『小松原Ⅱ遺跡・湯川氏館跡－湯川中学校改築工事に伴う発掘調査報告書－』
144_和歌山県文化財研究会1977『下富安遺跡発掘調査概報』
145_公益財団法人和歌山県文化財センター 2024 『東郷遺跡－江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う発掘調査報告書－』
146_御坊市教育委員会1983『富安Ⅰ遺跡他発掘調査概報』
147_御坊市遺跡調査会1995『中村地区遺跡』
148_続日高郡誌編集委員会1975『続日高郡誌』下巻
149_御坊市遺跡調査会1983『東大人遺跡』
150_財団法人和歌山県文化財センター1994『蛭田坪遺跡-御坊駅前新川橋街路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概要-』
151_南部町教育委員会2003『大目津泊り遺跡発掘調査概報』
152_財団法人和歌山県文化財センター2006『高田土居城跡・徳蔵地区遺跡・大塚遺跡－県道上富田南部線道路改良工事に伴う発掘調査報告書－』
153_財団法人和歌山県文化財センター 2005 『徳蔵地区遺跡－近畿自動車道松原那智勝浦線(御坊～南部)建設に伴う発掘調査報告書－』
154_財団法人和歌山県文化財センター 2003 『徳蔵地区遺跡－国道424号線道路改築事業に伴う発掘調査報告書－』
155_財団法人和歌山県文化財センター2006『高田土居城跡・徳蔵地区遺跡・大塚遺跡－県道上富田南部線道路改良工事に伴う発掘調査報告書－』
156_御坊市文化財調査会・南部町教育委員会2002『大塚遺跡-町道芝東吉田線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-』
157_清家章編2021『磯間岩陰遺跡の研究』田辺市教育委員会・科学研究費磯間岩陰遺跡研究班
158_近藤義郎1964「古目良遺跡」『田辺文化財』8
159_田辺市1994『田辺市史』第4巻
160_公益財団法人和歌山県文化財センター－ 2015 『目座遺跡,八丁田園遺跡,塗屋城跡,大古Ⅱ遺跡,稲成Ⅰ遺跡,安宅本城跡,田ノ口遺跡,岩崎大泓遺跡,岩崎大泓Ⅱ遺跡－近畿自動車道紀勢線事業に伴う発掘調査報告書－』
161_田中元浩2021「和歌山県白浜町綱不知岩陰遺跡出土資料－浦宏氏収集資料の図化成果（その３）-」『紀伊居考古学研究』第24号
162_白浜町1980『白浜町誌』本編下巻
163_田中元浩2018「和歌山県白浜町日向浦遺跡（貝殻畠貝塚）出土資料－浦宏氏収集資料の図化成果（その２）－」『紀伊考古学研究』第21号
164_白浜町1986『白浜町誌』本編上巻
165_京都大学埋蔵文化財研究センター1978「和歌山県瀬戸遺跡の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報』昭和52年度
166_白浜町教育委員会1980『脇ノ谷古墳発掘調査報告書』
167_公益財団法人和歌山県文化財センター－ 2013 『立野遺跡－近畿自動車道紀勢線事業に伴う発掘調査報告書－』
168_公益財団法人和歌山県文化財センター 2024 『里野中山城跡、結城城跡、浦屋敷跡－すさみ串本道路建設事業に伴う発掘調査報告書－』
169_和歌山県教育委員会1992『県詳細分布遺跡の発掘調査』
170_安井良三 1969 『笠嶋遺跡』笠嶋遺跡発掘調査報告書刊行会
171_財団法人和歌山県文化財センター 1991 『笠嶋遺跡-串本中学校校舎建築に伴う発掘調査報告書-』
172_財団法人和歌山県文化財センター2004『藤倉城跡・川関遺跡－那智勝浦道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
173_新宮市教育委員会 1979 『紀伊阿須賀遺跡-第2次発掘調査-』
174_新宮市教育委員会 1982 『紀伊阿須賀遺跡-第3・4・5次発掘調査-』
175_前田敬彦2006「和歌山市三葛採集の考古資料について」『和歌山市立博物館研究紀要20』

＜研究ノート＞

和歌山県の漁撈習俗について（1）
研究史の整理と少しの事例報告

藤森寛志

はじめに

和歌山県は、近畿地方の南に突き出た紀伊半島の西南部に南北に細長く位置し、北は大阪府、東は奈良県と三重県に接し、西は紀伊水道を挟んで徳島県と向かい合い、南は太平洋を臨み、約651㎞に及ぶリアス式海岸状の地形を有する当県は、温暖な気候を利用して、水産業のほか農林業などを主体としている。

当県の海域は瀬戸内海と太平洋に二分され、それぞれの海域に応じて各種の漁業が営まれている。瀬戸内海海域では主に小型底びき網漁業（対象：タチウオ・やエビ類）、機船船びき網漁業（対象：シラス・イカ類）、一本釣漁業（対象：マダイ・アジ類・サバ類）などが営まれている。

一方、太平洋海域では、潮岬沖合を流れる黒潮本流の影響を強く受け、カツオ・マグロ類を対象としたひき縄釣漁業・沿岸小型かつお竿釣漁業・はえ縄漁業、イサキやマダイ、ブリ類を獲物とする一本釣漁業のほか、まき網漁業・定置網漁業・棒受網漁業（対象：アジ類・サバ類）、イセエビなどを対象とする刺し網漁業等、多様な漁業が営まれる。令和５年（2023）の和歌山県の海面及び内水面漁業・養殖業の生産量は、16,171トンで全国では34位であった。全国的に上位を占めている魚種は、イセエビが101トンで全国３位、タチウオが311トンで全国５位、イサキが161トンで全国７位、シラスが1,598トンで全国８位、サワラ類が319トンで全国９位となっている。（和歌山県農林水産部水産局　2025）

では、上記のような豊富な漁業資源を有する和歌山県において、民俗学的な研究はどれほど行われてきたかというと残念ながらその数は非常に少ないといえよう。和歌山県内の漁撈に関する研究再開の嚆矢となったのが、令和３年（2021）に当館で開催した秋期特別展「海に挑み、海をひらく」であった。

本特別展以降、当館では、和歌山県における漁業研究の基礎資料と位置付けて良い、近現代に編まれた『紀州漁業絵巻』や『旧藩時代に於ける漁業制度調査資料』、『日本漁民事績略』の内容の分析を進めており、『旧藩時代に於ける漁業制度調査資料』や『日本漁民事績略』は資料のすでに紹介がなされている（蘇理 2025）。

また、当館の再編整備事業の一環として和歌山県内の漁撈習俗ついての調査を和歌山県の各振興局及び各地の漁業協同組合の協力のもと実施し、県内の漁撈習俗の蓄積に努めているところである。

本稿では漁師によって古くから和歌山県内で行われてきた漁法や技術、伝承、使用道具、信仰を総括して漁撈習俗として扱うこととし、当館の再編整備事業において現在取り組んでいる調査のなかで得た成果をもとに文献と各地の漁撈習俗を紹介する。

１．文献にみる和歌山県の漁撈習俗

和歌山県の漁業に関する歴史的な文献は先に挙げたものであるが、当県の漁業の変遷を見る上で欠かすことができないものが和歌山県立図書館が所蔵する『紀州漁業絵巻』全３巻である。本絵巻は、明治23年（1890）に東京の上野公園で開催された第３回内国勧業博覧会へ出品するために「実業者に就き聞き得たる所」を記録し、描かれたものとみられ、紀伊半島沿岸の漁法を図を伴って紹介している。当時の和歌山県では、明治時代に入ってからも、古くからの漁法が引き続き行われていたことから、江戸時代の漁法を知る貴重な資料である。本絵巻は優れた絵画資料であることは周知のことであるが、そこに記載されている漁法について、網を張るときの船の数や網の広さ、使用方法、獲ることができる魚の種類、操業時期に至るまで

詳細に記されているのが最大の特徴である。

『紀州漁業絵巻』1巻の凡例には、本書に記載される網の原料について言及されており、周防・安芸・丹波・越前等で産する苧を使用したこと、網に装着するアバ（浮子）は桐あるいは杉で製作されたこと、アバを付ける縄は苧または棕櫚かワラで作られアバ縄と呼んだこと、網に付する錘となるイワは、ヤともいい、石あるいは陶器を用い、それらを装着する縄をイワ縄・ヤ縄と呼ぶことなどが記されている。

本絵巻に掲載される漁法は1巻には、第1号「ボケ網」から第9号「ワラ網」まで、2巻には、第10号「手繰網【ウタセ網】」から第18号「細魚網」、3巻は第19号「捕鯨」から構成されている。残念ながら捕鯨を除き、これらの漁法が行われていた地域情報が記載されておらず、本絵巻から操業されていた地域の特定は困難である。

しかし、明治時代の漁法が描かれていることは非常に貴重なことで、例えば第2巻に描かれる「鮝地引」は実施地域は記載されていないものの網の使用方法について、「イロ見の指揮により両船に分積したる所の網を投し指揮の方針に従つて漕き終に陸に達せしむ」とあり、網を投げて指揮役の指示のもと浜に向かって船を漕ぐことが詳細に記されている。また、陸地に達しなかった場合のことも記載され、丁寧な聞き書きをもとに描画されていることが窺える。このハマチを地曳網で獲る漁法については嘉永4年（1851）に出版された『紀伊国名所図会』後編第五巻に「和田浦鮝とりの図」

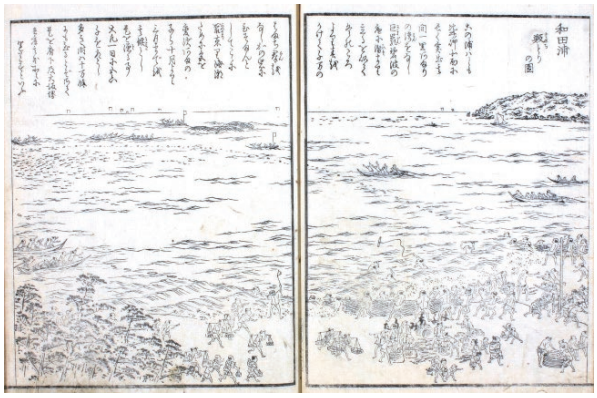


写真1『紀伊国名所図会』後編第五巻「和田浦鮝とりの図」（国立国会図書館デジタルコレクションより）

として見ることができる。同様に「捕鯨」についても詳細な記載が見られ、本絵巻は、江戸時代から続く漁法が明治時代中期に和歌山県内で操業されていたことを現在に伝える良質な資料である。各巻に記載される漁法については表1に以下のとおりまとめたので参考にされたい。

表1『紀州漁業絵巻』に掲載される漁法

『紀州漁業絵巻』1巻				
号数	漁法	組織	主な捕魚	季節
1	ボケ網	船：1艘 乗組：4人	小鰺	4月～10月
2	竪網 掛網	船：1艘 乗組：1、2人	鰕	寒中を除く
3	鮝網	網船；2艘 伝馬船：2艘 乗組：16人、20人 陸引：20人、30人	鮝	8月～5月
4	縛網	船：5艘 乗組：20、25人	鮪、鰹、鯖 鰆、鯛、鰺	季節なし
5	枡網	船：1艘 乗組：1人	鮗	—
6	中高 アングリ	七尺網船：2艘 附船：2艘 伝馬船：2艘 乗組：20人、30人	鰡、鮗	9月～4月
7	鰡漁敷網	船：38艘 乗組：188人	鰡	9月～1月
8	ゴツソリ網 ヅル網	船：2艘 乗組：6人、10人	鰡、鮗 黒鯛、白鯛	9月～4月
9	ワラ網	船：5艘 乗組：20人、25人	鰯	季節なし
『紀州漁業絵巻』2巻				
号数	漁法	組織	主な捕魚	季節
10	手操網 ウタセ網	船：1艘 乗組：4人	鱠、鱧、鰕 烏賊 ヱブタ 鱶、鰈	陰暦 8月～3月
11	四艘張網	網船：4艘 伝馬船：3艘 火焚船：2艘 乗組：25人、35人	鰺、鯖 イサキ	4月～10月
12	鮝地引	船：5艘 乗組：20、30人	鮝	8月～3月
13	イサキ網	船：9艘 乗組：31人	イサキ	4月～9月
14	高沖網	網船：2艘 付船：2艘 伝馬船：2艘 乗組：25人 陸引：60人、70人	鯛、鱶 魴、鯒	—
15	鰡網	船：11艘 乗組：35人	鰡	—
16	捕網	船：5艘 乗組：20、25人	鮪、鰹、鮫	—
17	敷網	船：6艘 乗組：20、25人	鮪、鰹、鮫	—
18	細魚網	船：5艘 乗組：32人	細魚 サヨリ	9月～2月
『紀州漁業絵巻』3巻				
号数	漁法	組織	主な捕魚	季節
19	捕鯨	勢子船：7艘 乗組：1艘15人 網船：8艘 乗組：1艘13人 持左右船：5艘 乗組：1艘11人 樽船：1艘 乗組：11人	鯨	—

※本表中では魚偏に半と表記される漢字をイサキと表記する

２．民俗語彙としての漁業

研究蓄積の少ない和歌山県内の漁撈習俗であるが、昭和初期にかけて民俗語彙と漁業者の言葉が収集され、まとめられている。

よく知られているのが、昭和 13 年（1938）に民間伝承の会から出版された柳田国男と倉田一郎との共著『分類漁村語彙』が挙げられる。民俗語彙は、昭和９年（1934）から昭和 14 年（1939）にかけて郷土生活研究所によって行われた山村と海村の調査報告のなかで、方言とは異なり、当該地域の民俗資料の詳しい説明を内包する語を民俗語彙として区別して表記したことに始まり、全国的な比較研究の資料としても用いられる。昭和初期は、全国各地で膨大な民俗語彙が収集された時期であり、和歌山県内でも昭和５年（1930）に刊行された大田栄太郎による『和歌山県方言』其１・２や昭和８年（1933）の和歌山県女子師範学校による『和歌山県方言』が上梓されている。

そのような語彙収集のなかで『分類漁村語彙』は、全国各地の漁村で用いられる民俗語彙を船、漁場、漁法、漁具、信仰など 34 の項目に分類し、収集したもので和歌山県内の語彙も掲載されている。『分類漁村語彙』において和歌山県の漁業者の言葉として多く引用されてるのが木下虎一郎による「紀州漁夫の言葉」であった。

著者の木下虎一郎は、明治 36 年（1903）田辺市出身で神奈川県と和歌山県の水産試験場に勤め、昭和８年（1933）から北海道水産試験場で浅海増殖や海藻研究、ホタテガイ採苗試験などに従事した人物である（山田 1966）。木下は「紀州漁夫の言葉」のほか、昭和３年（1928）に神奈川県内を対称とした「漁村に用いられる特殊の言葉に就て」を発表している。

木下が昭和６年（1931）に発表したのが『方言資料』第１輯に収められる「紀州漁夫の言葉」であった。その冒頭で木下は和歌山県内の漁業者の言葉について「本県に転じてからも前記調査にならい折に触れ書きとめた」ものが「紀州漁夫の言葉」であると述べている。木下によって収集された「紀州漁夫の言葉」には、五十音順で 440 件の漁業者の民俗語彙が収録されており、これらの言葉は現在でも調査で聞くことのできるものが多く散見する。本書の入手が容易でないこともあるため長くなるが、掲載される魚名を除く民俗語彙を表２にまとめ一覧として紹介する。

表２　『紀州漁夫の言葉』に収録される民俗語彙

No.		語彙	解説
1	あ	アカミ	魚群（ナブラの濃厚なるもの）
2		アカ	魚屑
3		アツパ	弁当
4		アガリ	漁業の切上げの事
5		アサマジミ	明け方薄明りの時
6		アブキ	波の餘波
7		網代	網に対する配当
8		アカシ	灯明
9		アテル	大漁した事
10		網ヲ持ツ	網を揚げる事（大謀網にのみ用ふ）
11		アワ子	魚の卵巣
12		青子	鰮類（衣奈地方）
13		アヲビ	船と陸とをかけ渡す板
14		アムミ	船と陸とをかけ渡す板
15		アービ	鮑（御坊、田辺）
16		アヲビ	鮑（南部）
17		アイシホ	沿岸潮流
18		アケラ	沖（有田郡）
19		アカモン	赤物の意にて魚の赤色のもの
20		アマリイル	潜水する
21		アマニイル	潜水する
30	い	イ	魚商符牒　九（和歌浦）
31		イナサ	南東風
32		イナサマゼ	南東風
33		入り潮	沖より地方に入る潮
34		イジ	「コヤマ」と同じ
35		一ノ銛	鯨に一番に銛を入るるをいう。
36		イヲ	魚
37		イヨ	魚
38		イリ	炒魚
39		イリジヤコ	炒魚
40		イリナゴ	炒魚
41		イヨグシ	魚串
42		イヲグシ	魚串
51	う	ウチミ	鯨の臍
52		ウネ（畝）	鯨の下腮より腹皮の畝立ちて皺みたる処
53		ウチラシ	魚の胃中の餌料（田辺）
54		ウツ	貝類を剥身すること（和歌浦）
55		ウー	魚商の帖簿に書く符号　五（田辺）
58	え	エンバ	鯨の鬚の付根
59		エサ	餌料
60		エソ	餌料
61		エテ	周参見地方の漁夫は海上にて猿の語を忌みかくいう
62		餌床	鰹、鮫等に追われ鰮等の水面に浮上れる魚群
63		エビノス	かいろうどうけつ　Euplectella（瀬戸鉛山）
69	お	オ	魚商符牒　五（和歌浦）
70		オバキ	鯨の尾鰭
71		オバケ	鯨の尾鰭
72		オサ	鯨の歯
73		オキギモノ	漁夫の沖で着る着物
74		オキアハセ	漁夫の沖で着る着物
75		オル	魚群の沈下すること

No.		語彙	解説
76		オキアガリ	漁事終りて親方よい馳走になること
77		岡廻り	岡仕事するもの
78		表廻り	舟の表にて仕事するもの
79		オクイキ	魚行商人
81		オミ	海
82		オヤヂ役	鰹漁船の「ともし」に同じ
83		沖デガナイ	時化で出漁出来ぬこと
84		オキドメ	出漁を止めること
85		オワキラマ	舟の不浄場（田辺）
86		オミキイレル	不漁続きのとき大漁の舟同様祝って漁夫等の元気をつける
91	か	片皮	鯨の丸切の両脇の皮
92		カノコ	鯨の黒皮白皮共凡て皮を取集たるをいう。
93		カゴモチ	魚行商人（串本）
94		カコ	乗組魚夫
95		カタフネ	隙船
96		カシキ	■（食＋刃）炊
97		カツ	漁商符牒　四（田辺）
98		ガレン	漁商符牒　五（和歌浦・日高郡）
99		ガシン	飢饉（印南）
100		鰹日和	春の東風の吹く日（田辺）
101		カンゴ	篭
102		カヤル	孵化する
103		カツブシ	鰹節
104		カキウチ	牡蛎剥身庖丁
105		カセ	舟を止めるに用うる長さ三間位の棒にしてこれを海底にゆり込み建て舟を止める（和歌浦）
114		ガニ	蟹
127	き	キタ	北風
128		キタゴチ	北東風
129		キリダシ	魚の切屑
130		キモ	魚の肝臓
131		キヅキ	流水につける魚群
132		キバル	無理をすること
133		切換へ	一漁期終り次漁期に移るとき
134		キワ	魚商符牒　九（和歌浦・日高郡）
135		ギス	魚商符牒　参（田辺）
136		キユ	漁商の帖簿に書く符号　九（田辺）
140	く	クサリジオ	赤潮
141		下リ	東に流れる潮
142		下リ出シ	東に流れる潮の沖に出るもの
143		下リ入レ	東に流れる潮の地方に入るもの
144		黒皮	鯨の外皮
145		下リ鯨	西より東に行く鯨
146		クヂラゴ	鯨に追われた鰛群に鰹のついた魚群
147		クヂ	訴訟
148		クロ	周参見付近の漁夫は海上にて牛の語を忌み斯くいう
149		クロツポ	印南、田辺附近の漁夫は牛を斯くいう
150		クズシ	焼蒲鉾（田辺）
151		クヒステ	田辺地方に於ける鰛焚入網の雇用制度にして配当の少なき場合は漁夫の生活の保証として米代、家賃等の幾分を経営者が払う。
152		クサイカ	「するめいか」の油揚【鯛餌料】（瀬戸鉛山）
154		ゲンナホシ	不漁のとき祝って漁夫の元気をつけること
155	こ	コチ	東風
156		コヤマ	鰹釣糸の沈子より釣針迄の間
157		ゴチヨロウシ	鰹釣船にて餌料を撒く者
158		コモットイ	細い綱
163	さ	サ	漁商符牒　壹（和歌浦）

No.		語彙	解説
164		サヘヅリ	鯨の舌
165		ザラ	楕円形の魚を入れる篭
166		サブタ	荷物の瀬取船
167		三番口	鰹釣船にて餌料を撒く者「二番口」次に位置する者
168		サメツキ	鮫に追われた魚群
169		サキカケ	釣餌を釣針にさす方法　鯛釣のとき餌蝦の第六腹を切り取り第五腹節の切断口から釣針をさしその針の先をかくれる様に切取れる大六腹を取つける（瀬戸鉛山）
170		サイナ	漁商符牒　七（和歌浦・日高郡）
171		サンナ	漁商の帖簿に書く符号　参（田辺）
177	し	シ	漁商符牒　七（和歌浦）
178		潮吹	鯨の鼻孔
179		シヤチマハシ	鯱に追われた魚群
180		シヲル	魚群の沈下すること
181		シロ（代）	配当
182		シロワケ	勘定
183		シコミ	仕入
184		シヤノー	延縄の「セキヤマ」のこと
185		シヲザイ（潮在）	潮目
186		潮昇り	沖合に於て船が潮流に左右せられぬ様に操ること
187		シラ子	魚の卵巣
188		シラ	沖より吹く風（田辺）
189		シメル	魚を蓄養して置くこと
190		シヲムキ	貝類を剥身したままにて淡水に入れさるもの（和歌浦）
191		ジヤラ	楕円形の魚を入れる篭
192		シヲ	漁商符牒　五（田辺）
207		簀ノ子（スノコ）	鯨の畝皮厚三四分計りありて其内赤身に白味勝の肉ありこれをいう
208		スビキ	干満に関らず港の中にて潮の上げ下げの激しきとき
209		スシナ	鮨にする魚
210		スウ	漁商の帖簿に書く符号　四（田辺）
213	せ	船頭	鰹釣船の左側にあり指揮するもの
214		ゼニ	鰺科魚類の稜鱗（田辺）
215		セゴシ	骨ぐるみ料理したる小魚の刺身
219	そ	ソコ	雇用制度、機関士等雇入の場合、最低賃金を決め配当金がそれ以上の時は代で与え以下のときは最低賃金を支給す、田辺地方の鰛焚入網の場合の最低賃金は参拾円
220		ソク	漁商符牒　壹（和歌浦・日高郡）
221		ソコリ	最干潮
224	た	樽ヲ入レル	船主又は船頭の知人より出漁を祝って酒を船に下れること
225		高引キ	漁獲高より油、食費等を差引くこと
226		出し潮	沖に出る潮
227		出し上り	「上り出シ」に同じ
228		タルミ	満潮と干潮との間
229		タチ	海の深さ
230		タテヤマ	鰹釣糸の竿より沈子迄の間
231		タラシ	海錨
232		龍ガ下ル	龍巻が起る
233		タマ	魚を抄（すく）う網
234		ダンベ	荷物の瀬取船
235		ダイナ	沖（衣奈）
236		ダイナン	沖（印南）
237		タレ	漁商符牒　七（田辺）
238		ダリ	漁商符牒　四（和歌浦・日高郡）
239		タニ	漁商の帖簿に書く符号（田辺）

No.		語彙	解説
246	ち	チョッツケ	初漁のこと
247		チヱ	漁商の帖簿に書く符号　七（田辺）
248		チヨロ	長さ四間肩巾四尺位の小舟（和歌浦）
250	つ	突船	銛を以て鯨を突く船（太地）
251		ツクリ	刺身（田辺）
252		ツシ	漁商符牒　九（田辺）
257	て	テツケ	船主が乗組員に前渡する金
258		手取リ	水揚げより一切の手数料を引けるもの
259		テツギ	延縄の枝縄のこと
260		デアイ	沈下せし魚群の浮上ったもの
261		テングリ	手繰
262		テングリアミ	手繰網
263		デンヂ	漁商符牒　弐（田辺）
265	と	ト	漁商符牒　参（和歌浦）
266		トロミ	魚群
267		ドンサ	漁夫が沖で着る着物
268		トモ廻り	船の艫にて仕事するもの
269		トリヤマ	魚群の上で鳥群の飛び廻るをいう
270		トモシ	鰹釣船の艫の船頭と対照の位置にあるもの
271		トモトリ	船頭頭
277		トコ	延縄の幹縄
278	な	ナカニシ	北西風
279		ナマス	刺身
280		ナブラ	魚群
281		ナダノハシ	延縄の地方の端
282		ナガ	印南地方の漁夫は海上にて蛇の語を忌み斯くいう
283		ナイバ	競潮域
284		ナゴ	稚魚
285		納屋守	鰹節製造場の主任（西牟婁郡）
286		南蛮焼	焼蒲鉾「くずし」に同じ（田辺）
292	に	ニシ	西風
293		ニガシヲ	赤潮
294		二番口	鰹釣船にて「ヘノリ」の次に位置する者
297		ニゴ	魚の頭、内臓の臭のするものを魚を捕る目的の為め使用する場合にいう（新庄・田辺・南部）
298	ぬ	ヌタ	濁り
300	ね	寝鰹	漁獲せし鰹を置き忘れ腐敗せしめしもの（田辺）
303	の	上リ	西に流れる潮
304		上リ出シ	西に流れる潮の沖に入るもの
305		上リ入レ	西に流れる潮の地方に入るもの
306		ノウ（縄）代	延縄漁業の縄に対する配当
307		ノツコミ	入港
308		ノウフネ	延縄船
309		上リ鯨	東より西に行く鯨（太地）
310		ノジメ	活き置きたる魚に対し然らざる魚をいう（日高郡、塩屋、松原）
311	は	ハミ	魚群
312		ハミキヲ持ツ	小魚を追う魚群の状態
313		ハヤテ	急に強風の襲うこと
314		ハイカラセン	発動機船
315		ハダ	魚鱗（串本・田辺）
316		羽指	鯨の突船の総管（太地）
317		ハサナハ	海苔簀を建込む際簀場の両端に張る三十間計りの棕櫚縄
318		バタン	漁商符牒　六（田辺）
319		バンド	漁商符牒　八（和歌浦・日高郡）
320		バマ	漁商の帖簿に書く符号　八（田辺）
334	ひ	ヒゲ	鯨の歯
335		日ジケ	天候の悪しきこと

No.		語彙	解説
336		日和申し	漁夫の主だった連中が発議で飲酒したくなったとき何等かの口実をまうけ飲酒すること
337		ヒカス	時化の時漂蹋すること
338		ヒソコリ	最干潮
339		ビシ	沈錘
340		ヒヨ	釣鈎に垂下する用に供する糸條
341		火ガマイ	漁夫は死人を出せし家にては火を共にせず若し共にせし時は「火がまひ」と称し七日間出漁せず
349	ふ	フサン	欠勤
350		フサン引	欠勤した日の給料を差引くこと
351		フナカタ	乗組員
352		フナザマ（舟様）	船の神様（西牟婁郡有田）
353		船代（フナシロ）	船に対する配当
354		船止め	何かの事情の為め一勢に申合せ出漁せぬこと
355		フナ祝ヒ	正月二日船主の所で馳走すること
356		ブチナガス	船を漂蹋すること
357		ブリ	漁商符牒　弐（和歌浦・日高郡）
365	へ	ヘソ	魚の心臓
366		ヘノリ	鰹釣漁船にて船のへさきにあり最も釣巧者のもの
367		ヘベリコ	鯰の仔（日高郡）
372	ほ	ホネオリ	特別賞典
373		ボツツリ	提篭
374		ボテ	魚行商人（串本）
375		本潮	黒潮
376		ボーシ	漁商符牒　壹（田辺）
377		ホコサシ	釣餌の装釣法　鯛、鰯等を釣るに釣鈎を餌蝦の頭胸甲の殻の脇より触状突起に向い内臓に触れぬ様にさす方法
383	ま	マジミ	薄明りの時
384		マゼ	南風
385		マンナホシ	不漁の船を大漁の船同様に祝をなし漁夫に元気をつけること
386		マガイ	絹糸（釣糸）
387		マシ	印南地方の漁夫は海上にて猿の語を忌み斯くいう
393	み	水揚ゲ	漁獲高
394		水ヲノマス	貝の剥身を淡水に入れ肉を膨ますこと（和歌浦）
396	む	ムシリ	「てんぐさ」採集に用ふる器具
402	も	モンビ	盆、正月祭典等の休日
403		モグリ	潜水夫
404		モ	漁商符牒　六（和歌浦）
409	や	山ノ皮	鯨の頭の皮
410		ヤマゼ	南西風
411		ヤマゼ	釣糸（鰹釣に限る）
412		ヤリコミ	入港
413		ヤリダシ	漁場に向け往航
414		ヤエン	田辺地方の漁夫は海上にて猿の語を忌み斯くいう
415		ヤミ	漁商符牒　参（和歌浦・日高郡）
416	ゆ	ユウマジミ	夕方の薄明の時
417		ユワ	岩
418		ユヲ	魚
420		ユリコミ	海苔簀を建てる際地底に穴をあける樫棒
421	よ	ヨコタ	魚籠
422		ヨナイ	田辺附近の鰛焚入網に於ける雇用制度漁獲高の如何に関らず奨励の意味にて毎月五円宛給与す

No.		語彙	解説
425	ら	ランポ網	焚入網
426	り	リ	漁商符牒　弐（和歌浦）
427		リヨウアガリ	漁業の切揚げ
428		リヤン	漁商の帖簿に書く符号　弐（田辺）
429	ろ	ロ	漁商符牒　八（和歌浦）
430		ロンジ	漁商の帖簿に書く符号　六（和歌浦・日高郡）
431		ロマ	漁商の帖簿に書く符号　六（田辺）
433	わ	ワタ	魚の内臓
434		ワタ	漁商符牒　八（田辺）
435		ワ	漁商符牒　四（和歌浦）
436		ワッパ	弁当の容器
437		ワイタ	東北より吹く暴風（日高郡松原）
438		ワイ	沿岸流潮
439		若者	衣奈地方の漁夫は海上にて■（彳＋勺）の語を忌み斯くいう

次に『分類漁村語彙』に掲載される民俗語彙であるが、本書に収められる語彙は原典をそのまま載せておらず編者による解説が加えられている。概ね内容に差異が認められないので「紀州漁夫の言葉」に載らない語彙を一覧として掲出する。

表３　『分類漁村語彙』に収録される民俗語彙

語彙	解説抜粋	項目
サカミ	熊野の下里あたりでいう一種の漁船の名。	1：船の種類
ヤンノウ	熊野でもヤンノゥというには鮪船である。	1：船の種類
ズンド	紀州太地や志州の海女の間などで行われる船の名。この船はシキ（船底）の上にカヂキとタナとのある五枚板の船である。	1：船の種類
サイシブネ	紀州日高郡の一部で渡し舟のことをいう。	1：船の種類
セドリブネ	和歌山地方でいう語。艀舟のことある。	1：船の種類
カンコ	船中の生州を熊野・伊勢・三河などの漁村ではカンコと呼ぶ。	2：船の各部
シラ	紀州の西牟婁郡辺で沖から吹く風。	13：風名
トサカゼ	西南風の名。紀伊の一部ではトサマゼ・トサマカゼの語があり、やはり西南の風をさしている。	13：風名
タルミ	又ショタルミ。駿河の海辺や、紀州西牟婁郡の漁村などに此語がある。満潮・干潮ともに暫く動かずに休む時刻のこと。	14：潮汐
アヒシホ	南紀の海に向いた浦々では、沿岸を流れる潮をアヒシホとよぶ。	14：潮汐
ナイバ	またナエバともいう。熊野灘から紀南地方の浦々で用いられる詞、ひとしく潮のせりあう所をさしている。	14：潮汐
セラヒ	熊野では反対の風が行きあった折の日和をそう呼ぶ。	15：波・天候
ノタ	相州三浦や紀州あたりの浜で海底から立つ濁りをノタという。	15：波・天候
ドウラン	紀州日高郡では、シラタ雲の上りの強い時はヤマデ又はドゥラン風が吹く。ドゥランは浪の高からぬに音高く海水動揺する意。	15：波・天候
ソバエ	瀬戸内海から紀伊西岸や九州の西と南などへかけて、時雨をソバエ、又スバエとも謂う。	15：波・天候
ネノヲ	海上の龍巻のことを、紀州日高郡の海ぞいではネノヲという。	15：波・天候
ノウソウ	紀伊西牟婁郡の海上で、白鮫をノゥソゥブカという。	18：魚介
ウタウタヒ	和歌山ではホラフキという。近くの和歌浦でシャミセンというのは、この魚には数條の褐色の線が側線に沿うて通っている為であろう。	18：魚介
サゴシ	鰆の大きなものをサワラ、小さい物をサゴシとよび、なは巻鮓の材料にされている。南紀田辺あたりの語。	18：魚介
ママカリ	和歌山辺では鰶の子をハラカタという。	18：魚介
ヒラコ	又はヒラゴイワシ。紀州から瀬戸内伝いに真鰯をそういう。	18：魚介
オホカメユワシ	紀州東牟婁郡辺でいう片口鰯の名。	18：魚介
リュウグゥノコマ	紀州西牟婁郡の浦々で、龍の落し子をかような美しい名を以て称している。	18：魚介
カンゴモ	紀州有田郡の海辺で「やどかり」の名。	18：魚介
サギドウジ	紀州西牟婁郡の海で海蛇の名。	18：魚介
エビス	鮫つきの鰹群を、熊野の海ではエビスと称している。	20：魚群
カバシ	紀州東牟婁では、単に魚などを誘う事を　カバスという。	21：釣
ウヲヤキ	漁火。紀州東牟婁の漁村でそういう。	21：釣
サエラブネ	熊野下里のサエラブネは、秋から翌春にかけて出る四艘一組の漁法で、オブネとサカミ各一艘から成る。オブネは網船である。	22：網
セコブネ	熊野太地浦その他の捕鯨に用いる船の名。	26：捕鯨
コロシブネ	紀州の太地では捕鯨用の勢子船を殺船という。	26：捕鯨
ヲジリ	紀州太地の捕鯨詞。	26：捕鯨
ナザシ	捕鯨には弘く行われた詞。	26：捕鯨
ヤマダンナ	山見の指揮者。	26：捕鯨
セコサイ	一丈餘の竹に天目をつけた采を紀州太地ではこうよぶ。	26：捕鯨
イッポンジオ	熊野太地の捕鯨にいう詞。	26：捕鯨
ケンキリ	勢子船がケンヲキルとて、六尺柄のついた大中小の剣を代るがわる打ち込む。	26：捕鯨
モッソウガケ	紀伊太地浦の鯨漁でいう語。	26：捕鯨
テガタキリ	紀伊太地浦捕鯨用語。	26：捕鯨
ヲサ	南紀熊野地方で鯨の歯にこの名がある。	26：捕鯨

語彙	解説抜粋	項目
サエズリ	紀州の日高や西牟婁などの諸郡の水辺では鯨の舌をそういう。	26：捕鯨
タツバ	熊野太地浦の捕鯨仲間では、鯨の鰭をタツバという。	26：捕鯨
ゼビ	紀伊の太地では鯨の腰部の上方の名。	26：捕鯨
ウチミ	紀伊の東西牟婁郡でいう鯨の臍の名。	26：捕鯨
モオジ	鯨が潜游している時、その水面に極めて微かな水の動きを感じる。之を熊野太地ではモォジという。	26：捕鯨
バンリョウ	熊野の下里あたりで鰯などをはかる竹で編んだ大籠をそういう。	27：漁船什器
ヘノリ	紀州から駿河・上総あたりの鰹釣船で、その船首に居て釣る者を称する語。	28：労務組織
ゴチョロシ	紀伊の西牟婁の鰹釣舟で、餌をまく者にこの名がある。	28：労務組織
アタリ	南紀地方で地曳網の配当をそういう。	29：漁獲分配
ノジメ	紀州で活かして置く魚に対して、そうせぬ魚をノジメといっている。	30：加工販売
シャクナラシ	紀州の塩浜作業で、舟ふみの後にモンダレ杓を以て滴下するモンダレ台の中に入れ、其杓を以て更に台中の砂をならすのを杓ならしという。	32：塩浜作業
モンダレ	播州木場や紀州の紀三井寺附近の塩浜などで、シタアナに入っている稀薄な鹹水をそういっていた。	32：塩浜作業
ゲンナホシ	南紀西牟婁郡では、不漁のとき祝をして漁夫を元気づけることをそういうと説いている。	33：信仰事相
エビスサマ	熊野の漁船は帰って来て岸に近づくと、先づ海中のエビス様に御礼として、魚の初穂を捧げるという。	33：信仰事相
メスリ	紀伊の湯浅の海では、メスリとて傷ついて泳いでいる魚は拾わぬものと信じられておる	33：信仰事相
コサメ	紀州でいう魚名。日高郡で鯢魚（あめ）、東西牟婁郡と日高郡の一部とでヤマメをいう。	付録：内陸漁業
キリクチ	岩魚。紀和の交でいう語。	付録：内陸漁業
カニクヒ	紀州で大鰻をそういう。	付録：内陸漁業

海洋学者の宇田道隆は、東京水産大学（現東京海洋大学）教授になるまで漁業と海洋との深いかかわりを研究し、その実証手法として漁業者（漁師）と直接面談し、その聞き取りのなかから、魚群集団の動きと海況、その変動パターンを克明に集めてきた。その成果が宇田の死後、『海と漁の伝承』にまとめられ上梓されている。『海と漁の伝承』第２編「海域・地域別伝承」では、日本沿岸を七海区に分け、各海域の潮の特徴と漁業の様子について民俗語彙を交えて詳細に著している。

例えば、串本町古座の漁撈習俗について昭和 11 年（1936）と昭和 31 年（1956）の調査をもとに記し、とくに「三月の腐れ潮　赤味帯びたよごれシホが来ると漁悪く、イカなど釣れず、魚が浮く」（昭和 11 年記録）、「黒潮が遠く岸を離れ、沿岸潮流が西へ逆流する上るシオの（昭和 10 年のような）年はこれまでにない不漁」（昭和 31 年記録）とあるように潮が漁に与える影響などを詳細に述べている。このような宇田による漁業者への聞き取り年代を明記する漁撈習俗の集積は、民俗語彙収集だけではその漁撈習俗の実態を掴むことが困難であるなか、非常に重要かつ貴重な民俗資料である。

３．和歌山県内の潜水漁業

次に実際の漁業者による聞き取りのデータを用いた事例を紹介する。前章で紹介した『紀州漁業絵巻』をはじめとした諸文献には和歌山県内で行われる船や網を用いた漁業についての記述が多く、日高郡や東西牟婁郡で行われてきた潜水漁業については民俗語彙にある「アマニイル」、「アマリイル」のみでその様子を窺い知ることはできない。唯一、『紀伊国名所図会』後編第五巻の「三尾浦」の挿図に両手に大きな貝を持つ海士や海に浮かぶ樽（浮樽）が描かれており、和歌山県内の江戸時代の潜水漁業が唯一、描かれたものであろう。

当県の潜水漁業に漁撈習俗については、田辺悟

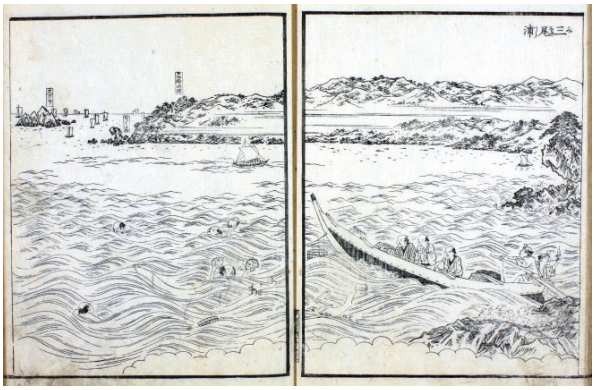


写真２『紀伊国名所図会』後編第五巻「三尾浦」の海士（国立国会図書館デジタルコレクションより）

による『日本蜑人伝統の研究』に美浜町三尾と新宮市三輪崎の潜水漁業について触れている。昭和52年（1977）に調査に訪れた田辺によれば和歌山県日高地域で潜水漁業が行われているのは美浜町三尾、由良町衣奈・白崎、日高町比井、御坊市南塩屋・名田、印南町印南・切目、みなべ町岩代・南部などであった。また、和歌山県における漁撈習俗の研究蓄積がないことを田辺は「この地域の裸潜水漁にかかわる調査・研究はこれまでみるべきものがなく、その実態は明らかでない」と指摘している。田辺は、本書のなかで三尾と三輪崎の漁業暦を示すとともに使用している道具を写真で紹介している。三尾では貝を採取する道具である「ノミ」と「小ノミ」、採取物を入れる「タル」に付ける網袋などを当地での呼称と使用方法について記している。管見の及ぶ限り、当県の潜水漁業について話者情報を明示した調査報告は田辺のもの以外、確認されていない。田辺の指摘とおり自治体で編まれる自治体史においても潜水漁業にちいて触れられてこなかった。

本章では、話者名をイニシャル表記として、御坊市名田町下楠井、新宮市三輪崎、太地町太地の潜水漁業の事例を報告する。

【事例①】場所：御坊市名田町下楠井

話者：T氏（昭和13年（1938）12月10日）

御坊市名田町下楠井は御坊市の南東部沿岸地域にある集落で、現在の漁業従事者数は２人。下楠井では、農業と漁魚を行う半農半漁の住人が多いなか話者であるT氏は15歳から漁業に専従し、主に釣漁と潜水漁業を行っていた。T氏の漁業暦は、10月から４月末まで刺網漁（イセエビ、ヒラメ）、４月末から７月まで釣漁（イサキ）、７月から９月にかけて潜水漁（アワビ、テングサ）、９月から10月まで釣漁（イサキ、アオリイカ）に従事した。

T氏によれば潜水漁業のことを「アマリ」に行くと称し、深いところに潜ったり、長時間潜ることができることを「アマリ」が強いといった。

使用した道具は、アワビを獲る「カイノミ」（全長24.8㎝、写真４）、先端が曲がっているものでトコブシを掻き出す「カケソ」（全長42.7㎝、写真４）、水中眼鏡を「メッパ」、錘を「ナマリ」、採集物を入れる網袋を「フクロ」といった。フクロは、口の大きいのは貝、小さいのはテングサを入れた。潜水漁業で使用する錘には、竿秤で使用する分銅をそのまま使用したり、分銅にボール紙を巻き、さらに鉛で重くしたものを使用した。下楠井では深い海に潜る人もおり、その場合は船で沖まで出て、潜水と引き上げを担当する二人で行った。

写真３　カイノミ

写真４　カケソ

【事例②】場所：新宮市三輪崎

話者：Yさん（昭和12年（1937）１月８日）

新宮市三輪崎は新宮市の東部沿岸地域に位置する。60年以上、潜水漁業にのみ従事しているYさんは現在、三輪崎で唯一の女性の潜水漁業従事者。20歳の頃から海女として漁に出ている。最初はテングサやヒジキなどを採取し、次第に深く潜るようになりアワビやナガレコ（トコブシ）、サザエを獲るようになった。

Yさんの母と祖母も海女だったという。祖母が串本町出雲から三輪崎に嫁ぎ、そのまま海女を続けていた。三輪崎では、潜水漁業を「アマイリ」、海に潜らず磯でノリやテングサなどを採取する作業を「アサリド」といった。

三輪崎漁協に属している海女や海士などの潜水漁業従事者は「海士組（カイシグミ）」というグループに所属しなければならなかった。最盛期には、男女ともに18人ほどが潜水漁業に従事していたという。「海士組」には三輪崎の海で潜水漁業に従事する際の規則があり、アワビやトコブシを獲

る際にはカギノミは使用しないこと、ウェットスーツの足ヒレは着用しないなどが定められているという。

漁に際しては、孔島まで歩いて海に入った。孔島には、漁でウェットスーツ（Ｙさんはダッコちゃんと呼称）を着用するようになるまで、海女の待機場所として「コヤ」が作られた。コヤは女竹で円形に柵を作り、中央に炉を作って火を焚いた。女竹はそれぞれが持ち寄った。昭和 50 年頃までは使用していた記憶があるという。小型船（テンマ）で運んでもらって漁にでることもあったが、その際はお金を払った。

潜水時間は昔は制限がなかったというが、ウェットスーツを着用して潜水漁業に従事するようになると、採取時間が制限されるようになり、１時間ごとの計２回となった。これに伴い、海から出入りする合図役として「ハタアゲ（旗揚げ）おばさん」を海士会で雇った。

【事例③】場所：東牟婁郡太地町太地

話者：Ｉ氏（昭和 61 年（1986）３月 17 日）

太地町太地は太地町の中央部に位置し、太地港は。捕鯨の発祥として知られる。Ｉ氏は昭和 61 年（1986）３月 17 日生まれで、19 歳から祖父を継ぎ、潜水漁業などに従事。平成 22 年（2010）からイセエビ漁も始めた。

写真５　潜水漁業用具一式（三輪崎）

Ｉ氏は、現在、潜水漁業従事者によって組織される海士組合に所属。組合員数は 40 人。潜水漁業のことを「モグリ」と呼ぶ。潜水漁業の時期は、４月（クチアケと呼ぶ）から８月 31 日まで。クチアケは、組合が決めるため特定の日ではない。漁日は、年間で 45 日間と定められており、大潮の時期に５日潜るので月 10 日程度の操業となっている。

採取物は、アワビ、トコブシ、サザエであるが、近年アワビとサザエは激減し、トコブシを主にしている。６月１日から８月 31 日までテングサの採取が可能となる。漁の時間は 10 時から 14 時まで漁協組合員のみが採取できる。テングサは浅い場所から引っかけて採取する。

潜水漁業の道具について、太地ではカギ状の採取用具は使用禁止。ヘラ状のものを「ベラボウ」（全長 21.3 ㎝、写真６左）、「ノミ」、「コノミ」（全長 19.2 ㎝、写真６右）、浮子は「ブイ」（径 43 ㎝、写真７）と呼ぶ。採取物を入れる網は、ブイにつける網袋を「フキヌキ」、「アキヌケ」、腰に前に装着するものを「コシブクロ」、「アミブクロ」と呼称。メガネはワッパメガネ、ナガレコとアワビのサイズを測る道具は「計測盤」として漁協で販売されている。網を修理する網針を太地では「アバレ」という。

Ｉ氏は、９月から３月にかけてイセエビ漁に従事。組合では操業期間が９月 16 日から３月 31 日まで定められているが、実際は 10 月の祭りを合図に操業が始まる。月に 15 日ほど操業。２月が禁漁

表４　Ｙさんの漁業暦（三輪崎）

採取物	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
アワビ・ナガレコ							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
サザエ							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■									
赤ウニ																										■	■	■	■	■						
黒ウニ	■	■	■	■	■	■	■	■	■																						■	■	■	■	■	■
ナマコ	■	■	■																															■	■	■
テングサ				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
イソノリ	■	■	■	■	■	■	■	■	■																						■	■	■	■	■	■
ヒジキ				■	■	■	■	■	■	■	■	■																								

期間となっている。

エビアミ組合は「本置（ホンオキ）」と「伝馬船（テンマセン）」の２組に分けられている。本置は、現在は５人１組、２艘の船で操業しており、売り上げも５人で分配される。本置では、船外機を用いる小型漁船での操業は認められていない。網を置きに行く時間は 14 時前後で、揚げる時間は 4 時。

一方、テンマセンは現在７人で操業。船外機を用いる小型漁船での操業が認められている。孝也氏によると、テンマセンを何年かつとめると本置に加入することができたという。

４．おわりに

以上、和歌山県内の漁撈習俗の研究実績と日高郡と東牟婁郡の潜水漁業の聞き書きについて紹介した。令和７年度に行った調査は潜水漁業だけでなく、各漁港の特徴的な漁法などに及んだ。それらの成果の報告及び比較研究は、後日の課題としたい。

写真６　ベラボウ（左）　コノミ（右）

写真７　ブイ

最後に、本調査に御協力いただき、貴重なお話を聞かせていただいた漁業従事者の皆さま、各漁業協同組合、御坊市教育委員会、新宮市教育委員会に深く感謝申し上げます。

【参考文献】

池田佳祐・萩野谷正宏　2022 「雑賀崎の漁業史（１）―一本釣り漁師への聞き取り調査から―」『和歌山県立紀伊風土記の丘研究紀要』第 10 号

池田佳祐・萩野谷正宏　2024 「雑賀崎の漁業史（2）―一本釣り漁師への聞き取り調査から―」『和歌山県立紀伊風土記の丘研究紀要』第 12 号

池田佳祐・萩野谷正宏　2025 「雑賀崎の漁業史（3）―一本釣り漁師への聞き取り調査から―」『和歌山県立紀伊風土記の丘研究紀要』第 13 号

宇田道隆　1984 『海と漁の伝承』 玉川大学出版部

木下虎一郎　1931 「紀州漁夫の言葉」『方言資料』第１輯　廣文社

倉田一郎・柳田国男　1938 『分類漁村語彙』民間伝承の会　1975 に国書刊行会より復刻

蘇理剛志　2025 『日本漁民事績略』にみる紀州漁民の活動『和歌山県立紀伊風土記の丘研究紀要』第 13 号

田辺悟　1990 『日本蜑人伝統の研究』法政大学出版社

農林省水産局編　1934 『舊藩時代の漁業制度調査資料』（水産調査資料第三輯）

萩野谷正宏　2021 「漁師から学ぶ紀伊半島沿岸の海の生業と文化」『令和３年度秋期特別展図録海に挑み、海をひらく―きのくに七千年の文化交流史―』和歌山県立紀伊風土記の丘

山田幸男　1966 「故木下虎一郎博士の追憶」『藻類』第 14 巻第 2 号

和歌山県立紀伊風土記の丘　2021 『令和３年度秋期特別展図録　海に挑み、海をひらく―きのくに七千年の文化交流史―』

和歌山県農林水産部水産局　2025 『和歌山の水産』

＜活動記録＞

重要文化財和歌山県大日山35号墳出土品
三分割焼成の家形埴輪・胡籙形埴輪保存修理報告

和歌山県立紀伊風土記の丘・公益財団法人元興寺文化財研究所

１．保存修理事業の概要

（１）事業の経緯

大日山35号墳は、和歌山県和歌山市の特別史跡岩橋千塚古墳群に所在する県内最大の前方後円墳（全長105m）であり、平成15年度から17年度までの発掘調査により、多数の埴輪、須恵器が出土した。

これらのうち、東西の造り出し及び墳丘から出土した主要な埴輪25点及び須恵器6点、附の埴輪残欠10点、須恵器残欠2点からなる一括は、平成28年８月17日に和歌山県大日山35号墳出土品として重要文化財に指定された。

本件のうち、特に埴輪は特徴的な資料が揃う。入母屋造の家形埴輪は、9本の円柱をもつ高床式建物を模しており、最上段の上屋根、中央の下屋根・身舎、最下段の高床・基部の三部材に分けて焼成されている。この三分割焼成による家形埴輪で全体の形状が判明した例は、当古墳と、大阪府今城塚古墳、奈良県天理市小墓古墳のみである。一方、頭部の両側前後に顔を表現した両面人物埴輪、翼を広げた鳥形埴輪等、強い独自性が認められる資料があり、畿内地域とその近縁地域との関係を考えるうえで重要である。埴輪には他にも、巫女、盛装男子、武人、力士、双脚輪状文形冠帽を被った人物などの人物埴輪、水鳥形、牛形、猪形、馬形、犬形などの動物埴輪、大刀形、胡籙形、靫形、蓋形などの器財埴輪があり、種類が豊富である。また、東西造り出しに据え置かれた大甕、甕、高坏および坏などの須恵器がある。本件の埴輪は、樹立位置が明確かつ種類も豊富であることから埴輪群像の表す情景の復元性が高く、埴輪群と分かれて設置された須恵器とともに、古墳墳丘上における葬送儀礼の実態を復元するうえで、高い学術的価値を有している。

また、本県が所有する重要文化財に指定された考古資料であり、かつ岩橋千塚古墳群の象徴的な出土品であるため、現在に至るまで和歌山県立紀伊風土記の丘（以下、紀伊風土記の丘という。）で活用されてきた。

これらの埴輪の接合・復元は、重要文化財指定以前の平成15年度から24年度にかけて直営で実施したために、平成29年頃から接着剤（セメダイン）や補填材の急硬セメントの劣化が一部で認められるようになった。特に三分割焼成の家形埴輪、胡籙形埴輪、馬形埴輪は補填材等の劣化の進行により、実資料部分の剥落や破損が危惧された。補填材等の劣化は経年によるとみられ、その範囲が全体に及んでいるため部分的な補修では効果が期待できないことから、抜本的な解体修理が必要な状況であった。また、急硬セメントがセメント色であるため視覚的な違和感が存在することから、補填材の補彩も重要な課題であった。さらに、三分割焼成の家形埴輪は支持具の不安定性や、設置作業の複雑性も課題の一つであった。

これらの課題解決には、文化庁の指導助言のもと、考古資料の重要文化財保存修理実績をもつ専門業者への委託により保存修理事業を行う必要があると判断した。このうち、三分割焼成の家形埴輪及び胡籙形埴輪は、自重があり破損の恐れが最も高く、公開や他機関への貸与等の活用頻度に鑑みて、令和４年度から３か年度での保存修理に着手することとした。本報告は、その保存修理事業の概要報告である。

（２）事業の概要

保存修理事業は、緊急性を要する埴輪を対象に、令和４年度から10年度に実施することとし、保存修理の完了後、令和10年度開館予定の和歌山県立考古民俗博物館（仮称）で活用する予定である。

年次計画は、令和４年度から６年度に、三分割焼成の家形埴輪（上屋根１点、下屋根・身舎１点、高床・基部１点）、胡籙形埴輪１点を実施し、さらに、令和７年度から９年度に馬形埴輪２点を、令和９年度・10 年度に猪形埴輪１点、双脚輪状文形冠帽を被った人物埴輪２点、力士埴輪１点を対象に保存修理を実施することとした。

２．令和４・５・６年度保存修理事業の概要

（１）令和４・５・６年度事業の経過

令和４年度に三分割焼成の家形埴輪１点及び胡籙形埴輪１点を対象とする重要文化財和歌山県大日山 35 号墳出土品保存修理業務を発注するにあたり、対象資料の最適な保存修理手法の提案を得るために公募型プロポーザル方式により事業者を選定することとし、令和４年９月 16 日に契約候補者選定委員会を実施した。

なお、事業概要及び実施体制は以下のとおりであり、文化庁及び有識者の指導を受け実施した。本事業は、文化庁保存事業費補助金国宝・重要文化財美術工芸品保存修理抜本強化事業を活用している。また、保存修理事業の情報発信のため、保存修理状況のホームページへの掲載とともに、チラシ等の紙媒体の配布を各年度に行った（図 1）。

事業年度

令和４・５・６年度

業務の名称

重要文化財和歌山県大日山
35 号墳出土品保存修理業務

契約期間

令和４年９月 29 日から
令和７年３月 21 日まで

契約金額

令和４年度　3, 921, 500 円
令和５年度　3, 870, 900 円
令和６年度　3, 820, 300 円

受託事業者

公益財団法人元興寺文化財研究所（以下、「元興寺文化財研究所」という。）

事業実施主体

和歌山県教育委員会
　和歌山県立紀伊風土記の丘

指導・助言

文化庁文化財第一課文化財調査官
　横須賀倫達

オブザーバー

和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課

有識者助言

豊島直博（奈良大学文学部教授）（令和４年度）
古谷毅（独立行政法人国立文化財機 構京都国立博物館研究員）（令和４年度）
廣瀬覚（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室長）（令和４・５年度）
高橋克壽（花園大学文学部教授）（令和５年度）

（２）令和４・５・６年度事業の経過

保存修理事業は、公募型プロポーザル方式における元興寺文化財研究所による提案及び仕様書にもとづき、（１）対象資料の輸送・搬出入、（２）修理前の調査、（３）修理方針の検討、（４）解体、（５）クリーニング、（６）強化処置、（７）接合検討、（８）接合・復元、（９）補彩、（10）保管台座・支持具の製作、（11）修理後の調査、（12）対象資

図１　保存修理事業の周知用チラシ（令和６年度）

料の輸送・搬出入の工程で実施することとした。

令和４年度　上記工程のうち、（１）対象資料の輸送・搬出入、（２）修理前の調査、（３）修理方針の検討、（４）解体、（５）クリーニング、（６）強化処置、（７）接合検討を実施した。期間中は、文化庁、和歌山県教育委員会及び元興寺文化財研究所による文化庁修理指導を計２回、和歌山県教育委員会と元興寺文化財研究所による協議を１回開催し、修理方針の検討や修理状況の確認等をおこなった。

令和４年 10 月 20 日
　保存修理対象資料を元興寺文化財研究所へ輸送・搬出入
令和４年 11 月１日
　第１回保存修理事業文化庁修理指導
令和５年２月 22 日
　和歌山県教育委員会・元興寺文化財研究所間協議
令和５年３月 14 日
　第２回保存修理事業文化庁修理指導

令和５年度　令和４年度に引き続き（７）接合検討、（８）接合・復元を実施した。期間中は、文化庁修理指導を２回、有識者を招聘し実施した現地指導を１回開催し、修理状況の確認や復元形状の協議等をおこなった。

令和６年７月 11 日
　第１回保存修理事業文化庁修理指導
令和６年 12 月８日
　第２回保存修理事業文化庁修理指導
令和６年２月 27 日　有識者現地指導

令和６年度　令和５年度に引き続き（８）接合・復元を実施したのち、（９）補彩、(10) 保管台座・支持具の製作、(11) 修理後の調査、(12) 対象資料の輸送・搬出入を実施した。期間中は、文化庁修理指導を３回、和歌山県教育委員会及び公益財団法人元興寺文化財研究所による協議を１回開催し、修理状況の確認や復元形状の確認等を実施した。

令和６年６月５日
　第１回保存修理事業文化庁修理指導
令和６年９月 20 日
　第２回保存修理事業文化庁修理指導
令和６年 12 月 20 日
　和歌山県教育委員会・元興寺文化財研究所間協議
令和７年２月 26 日
　第３回保存修理事業文化庁修理指導
令和７年３月 29 日
　保存修理対象資料の紀伊風土記の丘への搬入、完了報告書の受理

なお、事業完了後の令和７年４月より紀伊風土記の丘資料館の常設展示で公開し、保存修理事業の完了及び公開について報道機関への資料提供を実施した。

３．対象資料の所見と課題

（１）三分割焼成の家形埴輪

所見　９本の円柱をもつ高床式建物を模した入母屋造の家形埴輪で、上屋根、下屋根・身舎、高床・基部の三部材に分けて焼成された三分割焼成の家形埴輪である。

上屋根は、大棟及び破風の上部を欠損している。大棟上部には４箇所の堅魚木剥離痕跡が残存し、そのうち３箇所は接合関係が判明している。千木は、形状や線刻表現等から同一個体の可能性のある破片資料が３点認められるが、本体との接点は認められない。千木は上端部中央に切りこみがあり、２条一括沈線によって施文されている。

平側には鰭飾り状の棟覆が格子状に取り付けられている。妻側には透かし孔が認められ、方柱状を呈する棟持柱が接続する。棟持柱には２条一括沈線により施文される。

下屋根上部は、上屋根設置のための平坦面を作り出し、妻側に盾状の線刻を施した棟持柱の下部が取り付く。平側には、２条一括沈線と刺突文が施された障泥板が貼り付く。また軒先部にも、２条一括沈線の文様が施される。下屋根に接続するとみられる身舎は、上部が欠損して下屋根との接点はないため、身舎の壁体の高さは不明である。身舎は、壁の四隅と、四壁の中央に粘土板を貼り

付けて柱が表現されている。柱には２条一括沈線と刺突文による盾状の線刻が施される。出入り口あるいは窓は、各壁に２ヶ所ずつ設けられる。内面には、四隅と壁中央に縦位の補強帯が貼り付けられる。

高床・基部は、高床、９本の円柱からなる総柱、基部から構成される。このうち円柱は、高床に接する部分が存存するにとどまるため、その高さは不明である。基部は方形であり、柱を挿入するための円形の孔が９ヶ所と、円形孔の間に穿たれた透かし孔が４箇所のうち３ヶ所が残存する。

三分割焼成の家形埴輪は、全体像の把握が可能なものとしては今城塚古墳出土に次ぐ大型資料であり、高い学術的価値を有している。

既往の復元　平成15年度から24年度に和歌山県教育委員会が対象資料の整理及び復元を直営で実施するとともに、支持具の委託製作をおこなった(写真2)。

上屋根は、残存する堅魚木３本と上屋根との接合関係が判明したが、接着剤を用いた接合は実施せず、分離可能な状態とした。千木は、同一個体の可能性があるものの、本体との接点は認められないことから、一体による復元を実施していない。千木を欠損した状態での上屋根の復元高は34.4㎝である。また、上屋根妻側に接続する棟持柱についても、本体と一体による復元をおこなわず、これと組み合わさる下屋根妻側の棟持柱下部の上部に載せ、両者の中空部分に棒状の支持具を差し込んで固定する方法を採用した。

下屋根・身舎は、欠損により両者の接点は認められないことから、一体による復元を実施せず、組み上げについては支持具を用いる方法を採用した。支持具を用いた下屋根・身舎の復元高は60.0㎝である。高床・基部は、高床より延びる９本の柱を復元して一体としたが、基部とは別置の取扱いとした。両者の組み合わせについては支持具を用いることとし、支持具を用いた高床・基部の復元高は38.4㎝である。

以上の復元は、補填材として急硬セメント（デンカ製キューテックス及び軽量材）を用いた。支持具は、平成23年度に専門業者（株式会社吉田生物研究所）へ委託して製作した。支持具の構造は、高床・基部の下を木製台座で支持するとともに、台座に差し込んだ４本の支柱により上部を支える構造とした（写真2)。また、上屋根と下屋根、身舎と高床の実資料が接触する位置には、荷重を軽減する目的で各々の形状に合わせたシリコーン及びポリカーボネート板により支持した。

以上により復元を完了した対象資料は、平成23年度から令和４年度まで紀伊風土記の丘資料館の常設展示で公開した。

課題　接合に使用したセメダイン及び補填材の経年劣化の結果、埴輪本体と補填材の間に空隙が複数確認される状況であった。さらに、下屋根の補填材には亀裂が発生していたことから、さらなる劣化の進行や破損が危惧される状態であった。また、支持具は上屋根、下屋根、身舎を載せるポリカーボネイト板を各々ステンレス製支柱で支える３段構造であったために設置作業の複雑さや不安定性が課題であり、より安定性を確保した支持具製作の必要性があった。さらに、補填材の補彩も重要な課題である。以上のとおり、補填材等の強度、支持具の安定性、彩色の三点の課題が顕在化していたため、抜本的な解体修理の必要性が生じていた。

（２）胡籙形埴輪

所見　胡籙形埴輪は、背板部及び収納部の残存状況は良好であるが、円筒部は底部が欠損する点も含めて残存状況は良好でない。

背板部の上半部表面に５本の矢羽の線刻がある。裏面には、円筒部から伸びる補強突帯が中央と左右に張り付けられる。表面の外周は突帯を貼付し、その突帯上を３点一括刺突文で施文する。収納部は、上端の突帯に背板部外周と同じく３点一括刺突文が施される。収納部外面には直弧文風の文様が施され、勾玉状金具や紐状の結び目を表現した貼り付けが認められるが、勾玉状金具の片側は剥離欠損している。円筒部は中ほどよりやや下位に突帯が貼り付けされる。底部は欠損しており形状は不明であり、底部を欠いた状態での復元高は

89.2㎝である。

胡籙形埴輪は、人物埴輪の部材等を除き単体で全体像が判明した例として国内で唯一であり、高い学術的価値を有している。

既往の復元　平成17年度から20年度に和歌山県教育委員会が対象資料の整理及び復元を直営で実施した（写真４）。全体の形状を復元したが、欠損する円筒部の底部については復元を実施していない。復元にあたっては、家形埴輪と同様に補填材として急硬セメントを用いている。また、復元後の平成20年度から令和４年度に紀伊風土記の丘資料館の常設展示で公開した。

課題　本体の収納部において、接合に用いたセメダインの経年劣化により、接合部の隙間が生じている。また、実資料の一部に焼成時に生じたとみられる亀裂が認められるが、対象資料の強度に影響を与える可能性があった。さらに、公開では簡易な支持具等を使用していたが、より安定性を確保した支持具製作の必要性があり、また補填材の補彩も課題であった。以上のとおり、接合部や対象資料の強度、支持具の製作、彩色の三点の課題が顕在化していたため、解体修理の必要性が生じていた。

４．保存修理事業における各工程の概要

（１）対象資料の輸送・搬出入

対象資料の保管施設である紀伊風土記の丘において、事前点検を実施後に梱包を行い、美術品専用車で、元興寺文化財研究所総合文化財センターへ輸送・搬出入を実施した。また、対象資料との接合検討や復元の参考とするため、同一個体の可能性の高いと判断した破片資料や、同一個体とは断定できないが、今回再検討を要する別置破片資料（コンテナ16箱）についても併せて輸送・搬出入を行った。

（２）修理前の調査

対象資料の保存修理前の写真撮影を行うとともに、現状について調査を行い記録を作成した。三分割焼成の家形埴輪は上屋根、下屋根、身舎、高床、基部がそれぞれ独立して接合･復元されており、上屋根につく堅魚木や棟持柱の破片は接合されていない。また、基部と既存支持具の木製台座上のシリコーンが密着し、容易に外れない状態にあった。また、本体と補填材との間に隙間が生じている箇所があり、過去に補填材に亀裂が生じたことにより応急的な処置がなされた箇所も認められる。

胡籙形埴輪は、接着剤の劣化が著しく、接合部に隙間が生じた状態であり、実資料に亀裂が認められる箇所もあった。

（３）修理方針の検討

修理前の調査をもとに考古学的・科学的見地から修理方針の検討を行った。

三分割焼成の家形埴輪について、上屋根と未接合の堅魚木等の破片は一体に接合・復元すること、下屋根・身舎は一体に接合・復元する方針で進めるが、壁の向きや高さの検討が必要であること、高床と基部を一体に接合・復元するかは、別置破片の調査も含め今後の修理の過程で検討することとした。また、現状で基部と既存支持具の台座が密着している要因を調査したうえで、本修理で新調する台座の素材や形状を令和５年度以降に検討することとした。

胡籙形埴輪の復元について、復元高や突帯の位置等は岩橋千塚古墳群出土の器財埴輪の円筒部の例等を調査し検討を行うこととした。

（４）解体

小型グラインダーやデザインカッターを用いて復元部を切削すると同時に、接合部にアセトンを注入し接着剤を膨潤させて解体を行った。アセトンで容易に膨潤しない箇所は、ヒートガンで加熱して接着剤を軟化させて行った。解体中は対象資料の周りをブロックやレンガ等で覆い、またクランプで破片を押さえるなどして、瓦解する事故を防ぐための養生をして作業を行った。

続いて目視で把握できない亀裂や、破片と補填材との界面、破片の接合関係を確認する目的で、Ｘ線透過撮影を実施した。その後、撮影したＸ線画像で亀裂等を確認しながら細部の解体を行った。

基部については、台座上のシリコーンと密着し

た状態であったことから、より慎重に解体を実施

表１　Ｘ線透過撮影の条件

Ｘ線発生装置	フィリップス社製 Ｘ線透過試験装置 MG225 型
画像読取装置	富士フィルム株式会社製 FCR　AC-7　HR
画像表示ファイル装置	富士フィルム株式会社製 VF-C1
Ｘ線二次元分布計測器	富士フィルム株式会社製 イメージングプレート UR-1 型

した。解体後に対象資料を観察した結果、実資料と復元部ともにシリコーンが部分的に密着した痕跡が確認された。痕跡は限定的であり、荷重のかかる部位に密着したと考えられた。

（５）クリーニング

破片の断面に残った接着剤や補填材はアセトンで膨潤させるか、デザインカッター等を用いて物理的に除去した。表面に付着した補填材の汚れは、純水に浸して竹串や小筆等を用いて除去した。

（６）強化処置

実資料の状態に応じて、破片の断面にアクリル樹脂（パラロイドB-72/ダウ・ケミカル日本株式会社）6%酢酸エチル溶液を２～３回塗布し、その後同10%溶液を１回塗布し強化処置を行った。

（７）接合検討

解体した破片の接合関係を精査し再検討を行った。検討の結果、当初から接合・復元がなされていた破片は、いずれも接合関係に不整合な点は見られず、若干の調整は必要なものの位置を大幅に変更することなく接合が進められると考えられた。令和５年度第１回文化庁協議において破片をすべて展開し、接合関係の確認を行った。

また、対象資料とあわせて別置破片資料（コンテナ16箱）の接合の有無の検討をおこなった。破片資料は、整理作業時に①同一個体の可能性の高いと判断した破片資料、②同一個体とは断定できないが、今回再検討を要する破片資料、③個体識別困難だが家形埴輪の可能性のあるものとして抽出した破片資料の三つのランクより構成される。

これらの接合の検討を実施した結果、下屋根に２点、身舎に３点、高床に４点が新たに接合することが明らかとなった。

（８）接合・復元

アクリル樹脂（パラロイドB-72/ダウ・ケミカル日本株式会社）40%アセトン溶液を接着剤として破片の接合を行った。破片を自在に挟めるよう改良を加えたクランプや布製のベルト等の補助具を用いて、必要に応じて破片を動かして形状を確認しながら組み上げを進めた。また、エポキシ樹脂（EPOXY RESIN XN1264A・HARDENER XN1264B、EPOXY RESIN XNR6504・HARDENER XNH6504 /ナガセケムテックス株式会社）で欠損部を補いながら復元を行った。

対象資料の接合・復元については、文化庁修理指導や有識者を交えた検討会で協議を重ね、方針を決定した。詳細は次章のとおりである。

（９）補彩

アクリル樹脂絵具（アクリラガッシュ/ホルベイン工業株式会社）で復元部に補彩を行った。仕上がりは、観覧者が補填材による復元部と分かるような程度の古色仕上げとした。

(10) 保管台座・支持具の製作

三分割焼成の家形埴輪　上屋根と下屋根・身舎の間に設置する上段支持具及び、下屋根・身舎と高床・基部の間に設置する中段支持具は、三次元計測のデータを基に、各設置面に沿う形状のものを製作した（図2）。これらの支持具には大きな荷重が掛かるため、経年により実資料と癒着する可能性のある既存支持具で使用されたシリコーン樹脂の使用は避け、ウレタン合成木材（サンモジュール/三洋化成工業株式会社）を機械切削して製作した。

棟持柱は、上屋根側の部位と下屋根・身舎側の部位が上下に組み合わさりひとつの棟持柱を表す構造をなすが荷重がかからないことから、棟持柱の各接合面の形状に沿う支持具を、三次元計測データを基に、シリコーン樹脂で作製した。なお、使用するシリコーン樹脂は、析出物の少ないノンブリードタイプのもの（KE-1310ST/信越化学工業株式会社）を使用した。

上屋根側の棟持柱を下屋根・身舎側の棟持柱上に設置した際に、落下を防止する目的で、両者の中空部にアルミパイプを差し込む方法を採用し、

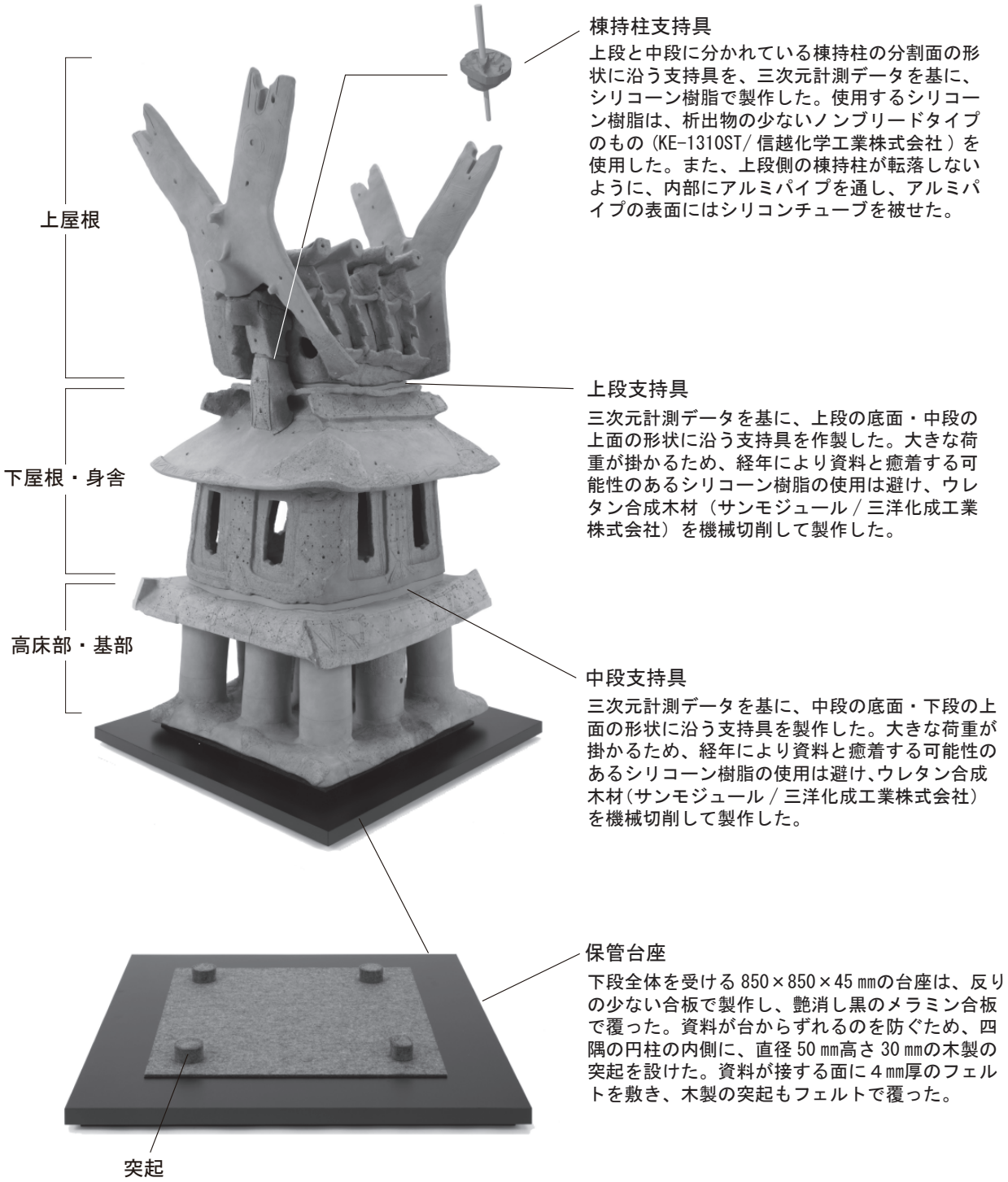


図２　三分割焼成の家形埴輪　保管台座・支持具仕様

アルミパイプの表面にはシリコーンチューブを被覆させた。

対象資料を設置する保管台座は、反りの少ない合板で製作し、艶消し黒のメラミン合板で覆った。また、台座からのずれを防止するため、四隅の円柱の内側に直径50㎜高さ30㎜の木製の突起を設け、対象資料が接する面に４㎜厚のフェルトを敷き、木製の突起もフェルトで覆った。

胡籙形埴輪　保管台座は、ベークライトで製作し、対象資料底面が接する部分には、シリコーン樹脂製の支持具を設置した。この支持具には対象資料の横ずれを防ぐため、内側に高さ20㎜の円柱状の立ち上がりを設けた。使用するシリコーン樹脂は、析出物の少ないノンブリードタイプのもの（KE-

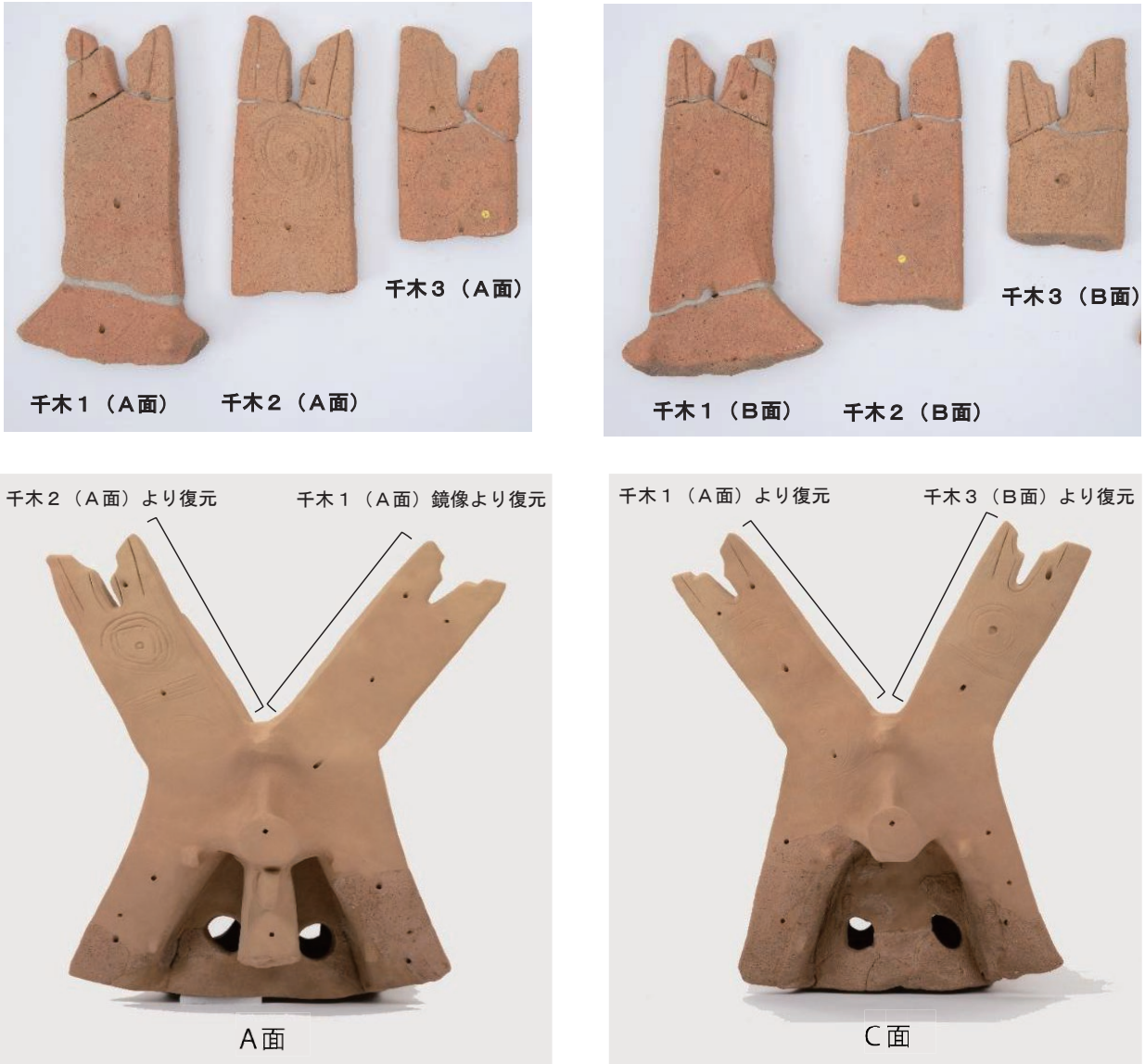


図３　三分割焼成の家形埴輪　上屋根千木の復元方法の検討（上段:出土した千木１～３、下段:復元）

1310ST/ 信越化学工業株式会社 ）を使用した。

対象資料は重心の位置が高くバランスが悪いため、底部のシリコーン樹脂製支持具に加え、対象資料背面を捕らえるステンレス製の支持具を製作した(写真 73・74)。この支持具を保管台座に固定された角パイプに差し入れて固定することで上部を支える構造とした。ステンレス製の支持具と対象資料が接する部分はシリコーン樹脂製のチューブとシートでカバーした。

(11) 修理後の調査

対象資料の修理前の状況や色調、全体の形状などと比較し点検・確認を行った後、写真撮影を実施した。あわせて保存修理報告書の作成を行った。

(12) 対象資料の輸送

元興寺文化財研究所・総合文化財センターにおいて対象資料を適切に梱包し、美術品専用車で輸送を行った。紀伊風土記の丘へ搬入後、点検をおこなった。また、別置破片資料（コンテナ 16 箱）を併せて搬入した。

５．三分割焼成の家形埴輪の復元方法

三分割焼成の家形埴輪の復元については、有識者や文化庁修理指導を踏まえて、各部位の復元方法を決定した。詳細は以下のとおりである。本保存修理事業で修理後、支持具部分を除いた復元高は 152 ㎝である。

（1）上屋根

接合関係　接合・復元にあたり、別置破片資料の接合関係の検討を実施したが、新規の接合は認められなかった。

復元　平側からみて大棟が水平とする方針で全体形状の復元を実施し、同時に、破風の形状や平面形における角度、復元である千木及び棟木の位置等を検討した。

千木　大日山35号墳東造り出しからは、対象資料と同一個体の可能性がある大型の千木の破片資料が出土した（図３－千木１～千木３）。当該千木は両面（発掘調査報告書ではA面・B面と表記）に線刻により文様が施される。有識者現地指導において検討した結果、同古墳東造り出しからは千木を有する形態の家形埴輪が対象資料を除いて出土してないこと、いずれの破片の先端部の形状、穿孔位置、施文の状況のいずれもが類似し別個体を想定することが困難なことから、対象資料と接点は認められないが、同一個体の可能性を前提とした保存修理方法を検討することとした。また、千木の先端の形状や文様等から配置を検討し、形状を模して復元を行う方針とした。

千木の配置は、全体形状の判明している千木１のA面を基準とし、重圏文を表側とすること、先端の対となる突起のうち長い突起を外側に配置させる方針で、千木２・３の配置を決定した。復元した千木４か所のうち残る１箇所は、千木１を参考に復元した。

堅魚木　４本の堅魚木のうち、３本が残存する。これらの配置は本修理前と変更はなく、欠損する1点は残存する破片を参考に復元した。これらは、修理前の分離可能な状態ではなく、本体に接合させる方針とした。

棟覆　残存する破片や剝離痕等から検討し、欠損部分についてはすべて復元した。

棟持柱　妻側の一方（C面）には棟持柱の破片が残存する。修理指導では当該破片を大棟に接合して復元することも議論されたが、重量のある破片のため修理後も長期に安全を担保することが難しいことから、従前の復元方法と同様に本体には接合させず、専用の支持具で固定する方針とした（4.(10) 参照）。もう一方（A面）には棟持柱は残存していないが、残存する棟持柱（C面）を参考に復元した（図３）。

棟木　棟木は欠損する。棟木の復元にあたり、大日山35号墳東造り出しから出土した棟木（図６）が、その法量や質感から対象資料の可能性があると判断し、形状を模して復元する方針とした。

線刻・穿孔　破風と千木の破片にはわずかに線刻が確認できるが、欠損した部分の文様は推測が難しく、線刻の復元は行わなかった。穿孔は残存部から推測が可能な範囲で復元した。

（2）下屋根・身舎

接合関係　別置破片資料の接合関係を検討した結果（図4）、下屋根の軒先部の破片資料２点がA面とB面で新規に接合した。ただし、後者は従前の復元の接合関係を再検討した結果、２条一括沈線の文様単位幅が従前の復元位置では適切ではないと判断し、可能性のあるA面・D面のうち実資料の残存するA面へ復元位置を変更した。

身舎は、別置破片資料のうち、壁中央の柱部分に２点、突帯部分に１点の接合が新規に明らかになった（図4）。また、本修理前の身舎本体は形状に歪みが認められたため、接合関係を精査しながら再接合を実施したが、再接合後も歪みは認められていることから、製作・焼成時に起因するものと考えられる。

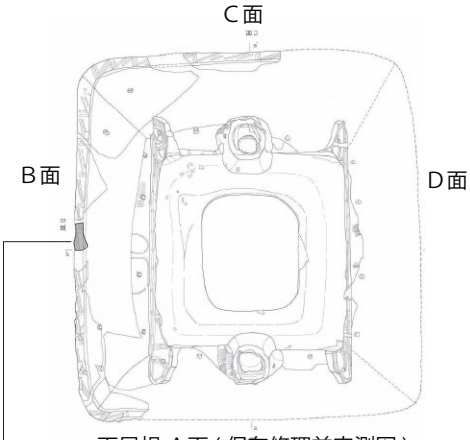
復元　下屋根の内面と身舎の壁の間は欠損しており接点は確認できないが、本修理の当初より一体で復元することで検討を進めた。復元にあたり、下屋根と身舎の各面の位置関係について再検討を実施したが、従前の復元に対して大きな変更を要する知見は見いだせなかったため、従前の位置関係を採用した。また、接合箇所のない身舎と下屋根の位置関係は、大阪府高槻市今城塚古墳出土三分割焼成の家形埴輪（家－２）の高さを参考とし、下屋根の軒の下辺と身舎の位置関係に着目して決定した。

下屋根の復元部の穿孔表現は、現存するB面右側の２点の穿孔位置を参考に左側２点の間隔を決定し、合計４点の表現とした。A・C・D面の穿孔

下屋根・身舎 A面

下屋根・身舎 C面

下屋根 A面



下屋根 A面 (保存修理前実測図)

高床 A面

高床裏面

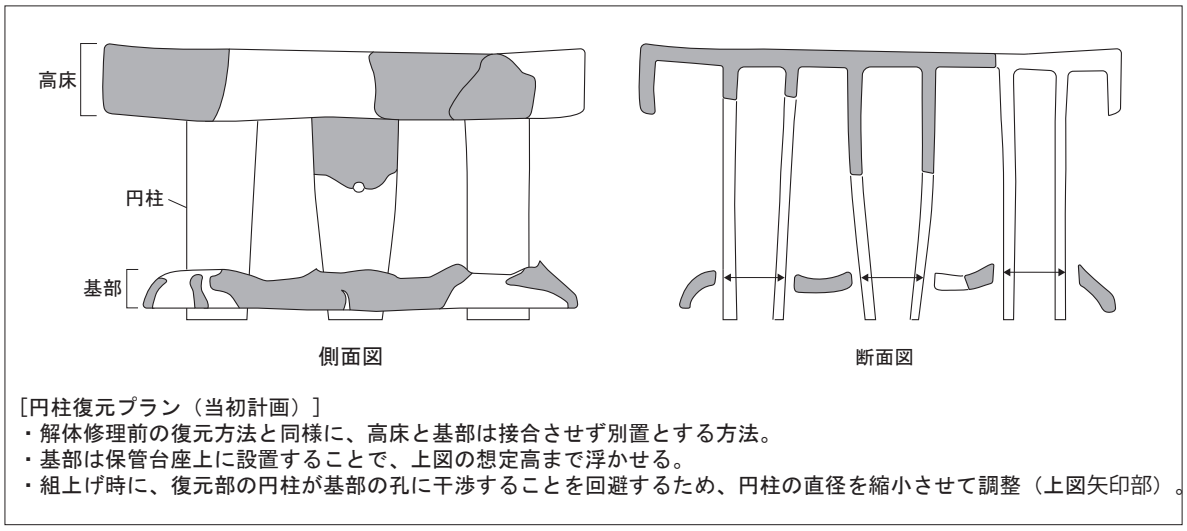
高床裏面

高床 A面

白線囲い表示部　：別置破片資料との接合検討の結果、新規に接合が判明した箇所

黒線網掛け表示部：接合検討により、別置破片との接合が判明した結果、従前の復元位置が適切でないと判断し、位置を修正

図４　三分割焼成の家形埴輪　新規に接合関係が判明した破片資料



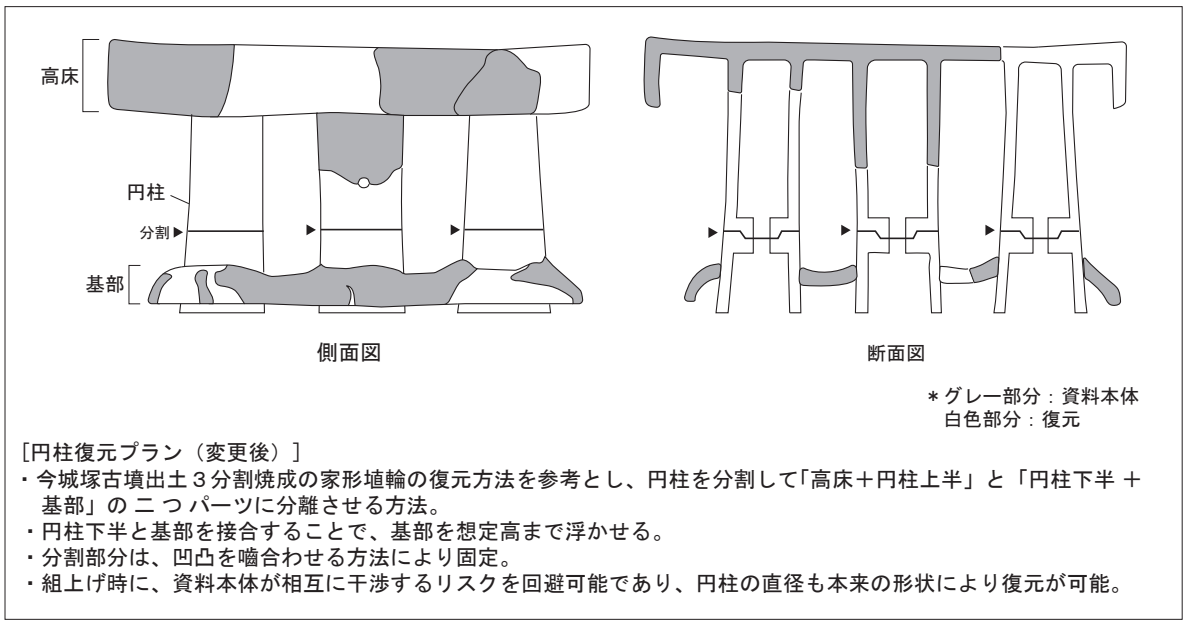


図５　三分割焼成の家形埴輪　高床・基部の復元方法の検討

表現も同様とした。

補強突帯　身舎内面には四隅と壁中央の一部に縦方向の補強突帯が残存するが、欠損した部分は復元をおこなわなかった。

（３）高床・基部

接合関係　別置破片資料から、高床において４点の新規の接合が明らかになり（図４）、これらを含めた接合・復元を実施した。

復元　基部は、接合箇所のない同一個体の破片資料を多く含むため、従前の復元においては円形の孔９ヶ所と、円形孔の間に穿たれた透かし孔４箇所の位置関係から、最も整合性のある位置関係により復元を実施している。今回の接合･復元に際し、これらの位置関係を再度精査し検討を実施したが、従前の復元に対して大きく変更を要しないと判断した。

さらに、高床の円柱と基部の円柱の位置関係を再検討した結果、円柱の配置状況を整理すると、従前の復元に対して高床を基準に基部を時計回りに90度回転させて、高床Ｂ面と基部Ａ面の組み合わさる位置が、最も整合性が高いと判断した。

高床と基部は、両者をつなぐ円柱が高床に接する部分に残存するにとどまるため、円柱の高さは不明である。そのため、復元高の決定については、対象資料の各部位のうち現存高が判明する棟木中心から上屋根下面までの高さと、下屋根の高さを

基準とし、今城塚古墳出土三分割焼成の家形埴輪（家-1及び家形－２）の各部位高の比較から、高床・基部の高さを検討した。あわせて、各資料の妻側・平側の立面形の比較検討等を実施した。これらの検討の結果、今城塚古墳出土三分割焼成の家形埴輪（家－２）の高さを基準とする復元が妥当と判断した。また、両者とも正方形に近い平面形態により復元する方針とするとともに、基部の下端が円柱の底部（床接地面）から約2.5cm浮いて円柱の下端が見えるよう復元する方針とした 。

円柱　円柱の復元にあたっては、当初計画では、高床と基部は一体とせずに別置とする復元方法を検討していたが（図５上段）、円柱部が基部の孔に干渉することを回避するために円柱の径を縮小させる必要があり、実態と異なる形状となることが課題であった。このため、円柱部の復元を上下に分割させ、両者を嚙み合わせ方法で固定する方針とした（図５下段）。円柱の分割位置は、円柱のやや下位で、強度を保つために円柱復元部の厚みは本来よりも厚く成形した。当該方法により、形状や強度、組み上げの運用面における課題を解消させた。

高床の鰭部　高床の鰭部は、端部を欠損し本来の形状が不明である。このため、残存部から推測が可能な範囲を復元し、従前の復元と同様に、不明部は復元せずに、端部を直線的に整える方針とした。

円柱の穿孔部　円柱の穿孔部は、B面の中央にのみ残存し、その他の円柱部における穿孔の有無は明らかではない。復元した円柱については、参考とした奈良県天理市小墓古墳出土三分割焼成の家形埴輪で１面のうち残存する２本で穿孔が認められるが、直角となる他面では穿孔が認められないこと、さらに大日山35号墳出土の同一個体とみられる円柱部破片資料には穿孔が確認されないことから、複数の穿孔が存在したとする根拠がない状況に鑑み、穿孔を表現しない方針とした。

６．胡籙形埴輪の復元方法

胡籙形埴輪の復元については、三分割焼成の家形埴輪と同様に有識者指導及び文化庁修理指導を踏まえて、各部位の復元方法を決定した。詳細は以下のとおりである。また、本保存修理事業で修理後の復元高は97㎝である。

なお、胡籙形埴輪の収納部の破片で、既往の接合時における固着が強固のため、解体が困難な部位が１箇所認められた。付近は既往の復元時に生じた破片間の隙間が認められたため、当初計画では解体後の再接合により修正する予定であったが、当該固着箇所の無理な解体は実施しない方針へ変更したため、隙間箇所については存置としている。

復元　従前の復元では、側面の形状において収納部の前面を直立させた結果、円筒部がわずかに後方に傾いた形状となっていた（写真４）。このため、修理においては円筒部を直立させる形状で復元する方針とした。

また、欠損する円筒部の底部について復元を実施した。復元にあたっては、円筒部の突帯位置を基準とし、収納部・円筒部の境界から突帯までの距離と、突帯から底部までの距離を等しいものと仮定して復元高を決定した。

底部突帯　底部突帯の復元にあたっては、岩橋千塚古墳群前山A58号墳出土の石見型埴輪における底部突帯の形状等を参考にし、かつ対象資料の円筒部に残存する突帯形状を加味した復元とする方針とした。

透かし孔　円筒部の透かし孔の有無は不明であり、表現の可否について検討した。その結果、対象資料の残存範囲では透かし孔が確認されないこと、および岩橋千塚古墳群の類例を検討した結果、伝花山地区出土石見型埴輪において透かし孔を有さない例が認められることから、復元にあたっては透かし孔の表現を採用しない方針とした。

７．総括

令和４年度から６年度の重要文化財和歌山県大日山35号墳出土品保存修理事業において、以上のとおり三分割焼成の家形埴輪及び胡籙形埴輪の保存修理を実施した。

三分割焼成の家形埴輪は、従前の接合関係の検

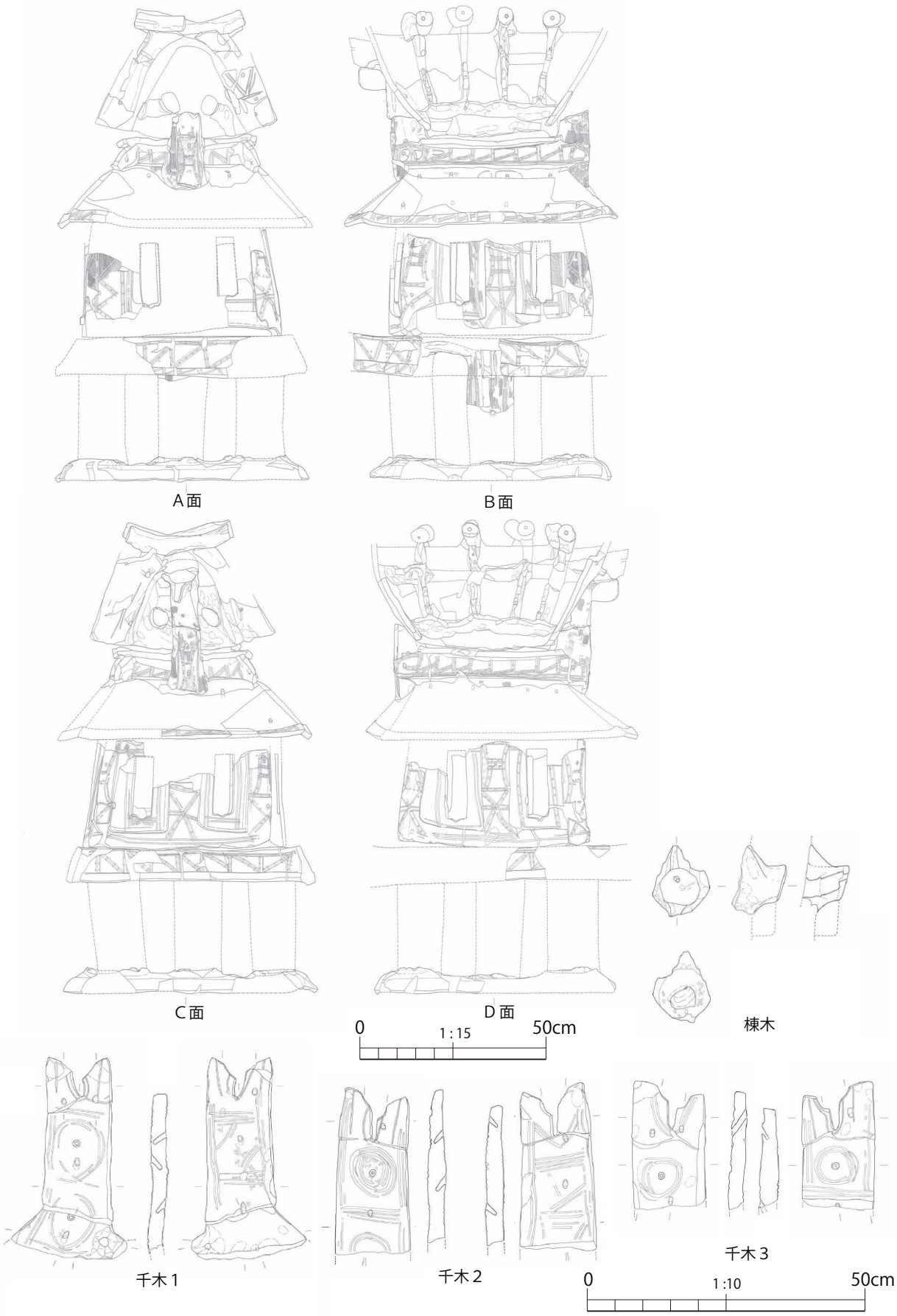


図６　三分割焼成の家形埴輪（保存修理実施前）・千木・棟木実測図　（和歌山県教育委員会 2013）

A 面

B面

C面

D面

0　1:15　1m

高床・基部は、復元にあたり、従前の復元（図６参照）における高床と基部の各面の配置関係を再検討し、円柱と基部の孔の位置関係から配置を修正した。修正後の各面の組合せは以下のとおりである。

A面：高床（A面）・基部（D面）
B面：高床（B面）・基部（A面）
C面：高床（C面）・基部（B面）
D面：高床（D面）・基部（C面）

図７　三分割焼成の家形埴輪　オルソ画像展開図（１）

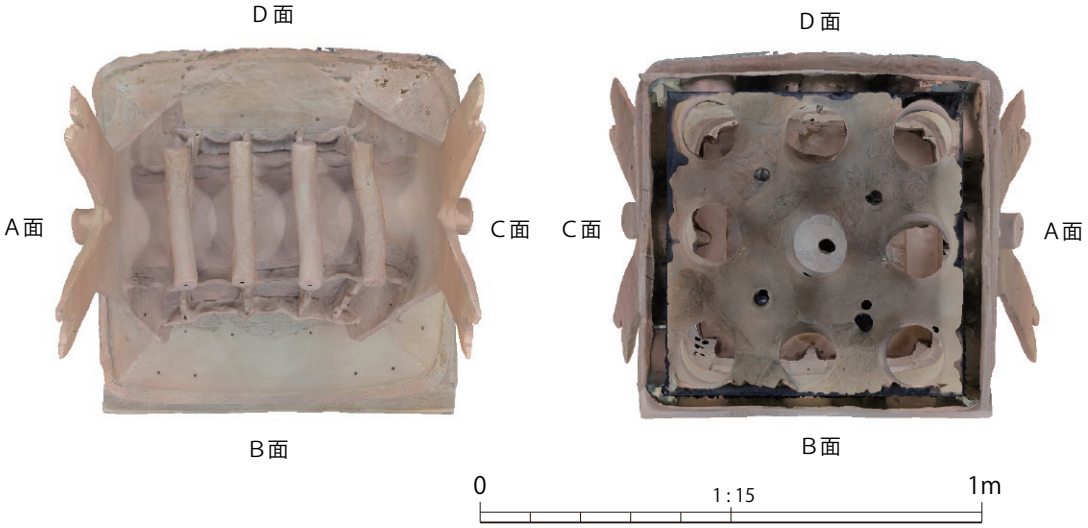


図８　三分割焼成の家形埴輪　オルソ画像展開図（２）

討の結果、軽微な変更を除いて修正箇所は認められなかった。一方、別置破片資料を対象に接合の再検討をおこなった結果、下屋根、身舎、高床の９箇所において破片資料９点の接合が新規に判明した。また、高床と基部との復元にあたっては、再検討の結果、両者の各面における組合せを修正することが妥当と判断した。上屋根の復元では、これまで復元を実施しなかった千木について、同一個体の可能性の高い破片資料を基に、形状の復元を実施した。

胡籙形埴輪は、底部の欠損部分の復元を実施するとともに、円筒部の側面形状を直立方向に修正させることで、全体の形状の復元を実施した。

両資料ともに復元部の補彩を実施したことも、大きな変更点である。復元部がわかる程度の古色仕上げとすることで復元部と実資料との色調のバランスをとった。これにより、視覚的な違和感を緩和させることができ、観覧者に色調を含めた全体像を提示することが可能となった。

支持具は、経年により実資料と癒着する可能性の低い素材を選択することで、従前の支持具における課題を解消するとともに、三分割焼成の家形埴輪では三次元計測データを基に各接合面の形状に沿う支持具を製作するなど、長期間の公開を安全に実施することが可能な方法を選択した。

以上により保存修理を完了した三分割焼成の家形埴輪及び胡籙形埴輪は、令和７年度に紀伊風土記の丘資料館の常設展示で公開を再開しており、今後も積極的な活用と情報発信に務めていく必要がある。

また、対象資料が出土した大日山 35 号墳は、県内最大の前方後円墳として特別史跡岩橋千塚古墳群の歴史的価値を理解するうえで不可欠である。出土した埴輪群は、強い独自性が認められるとともに、王陵と共通する家形埴輪や、九州及び瀬戸内、関東地域との関係性が指摘できる双脚輪状文形冠帽を被った人物埴輪等、積極的な交流の存在も確認できるなど、当古墳群の特質をよくあらわしている（和歌山県教育委員会 2025）。

したがって、これらの埴輪群の公開や情報発信をおこなうことは、有形文化財（考古資料）の価値を周知するにとどまらず、本県が保存と活用を実施する特別史跡岩橋千塚古墳群の価値を広く周知するうえでも重要である。

最後に、本報告は保存修理において従前の接合及び復元から変更した箇所や、発掘調査報告書掲載図面（和歌山県教育委員会 2013）との相違を明示し、あわせて変更の根拠を示すものである。これらの記録は、将来的な保存修理を行う際の参考資料となることが期待される。

以上の観点から、今後も重要文化財和歌山県大日山 35 号墳出土品の適切な保存を行い、本報告の

対象資料以外についても、保存修理事業を継続していく必要がある。

本報告は、１・3・7を萩野谷正宏（和歌山県立紀伊風土記の丘学芸課長）が、2・5・6を江野朋子（公益財団法人元興寺文化財研究所埋蔵文化財保存研究グループ主任研究員）と萩野谷が、４を江野と岡田一郎（公益財団法人元興寺文化財研究所文化財企画活用室研究員）が執筆し、藤井幸司（和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課課長補佐）、田中元浩（和歌山県立紀伊風土記の丘主査学芸員）との協議により作成した。

なお、図7・8・10に掲載したオルソ画像は、文化庁保存事業費補助金地域の特色ある埋蔵文化財活用事業を活用し、令和７年度埋蔵文化財３次元計測等業務として和歌山県が株式会社共和へ委託して取得したSfM/MVSによる三次元デジタルデータを使用している。

報告の作成にあたり、下記の方々と機関からご指導・ご協力を賜った。感謝申し上げます。

文化庁、公益財団法人和歌山県文化財センター、和歌山市、青柳泰介

【参考文献】

和歌山県教育委員会 2013『大日山35 号墳発掘調査報告書−特別史跡岩橋千塚古墳群　発掘調査・保存整備事業報告書２−』

和歌山県教育委員会 2025『岩橋千塚古墳群総括報告書Ⅰ』

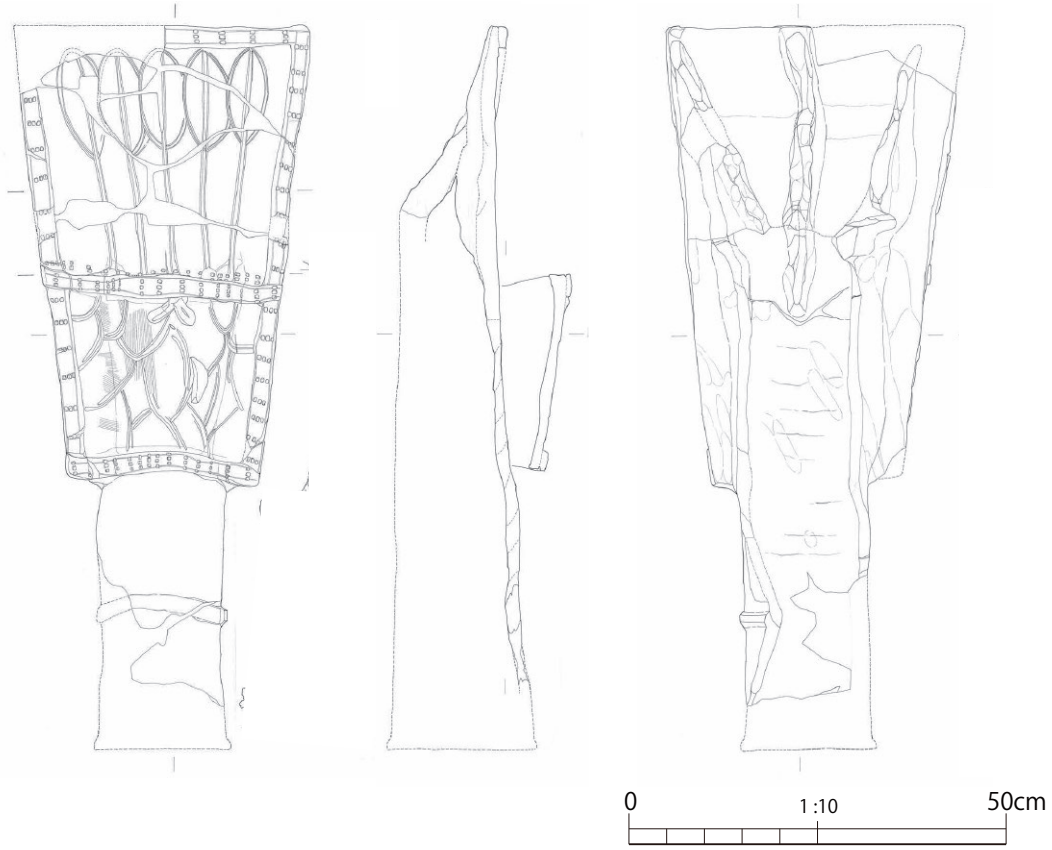


図９　胡籙形埴輪（保存修理実施前）実測図（和歌山県教育委員会 2013）

図 10　胡籙形埴輪　オルソ画像展開図

写真１　三分割焼成の家形埴輪　保存修理完了状況（令和７年撮影）

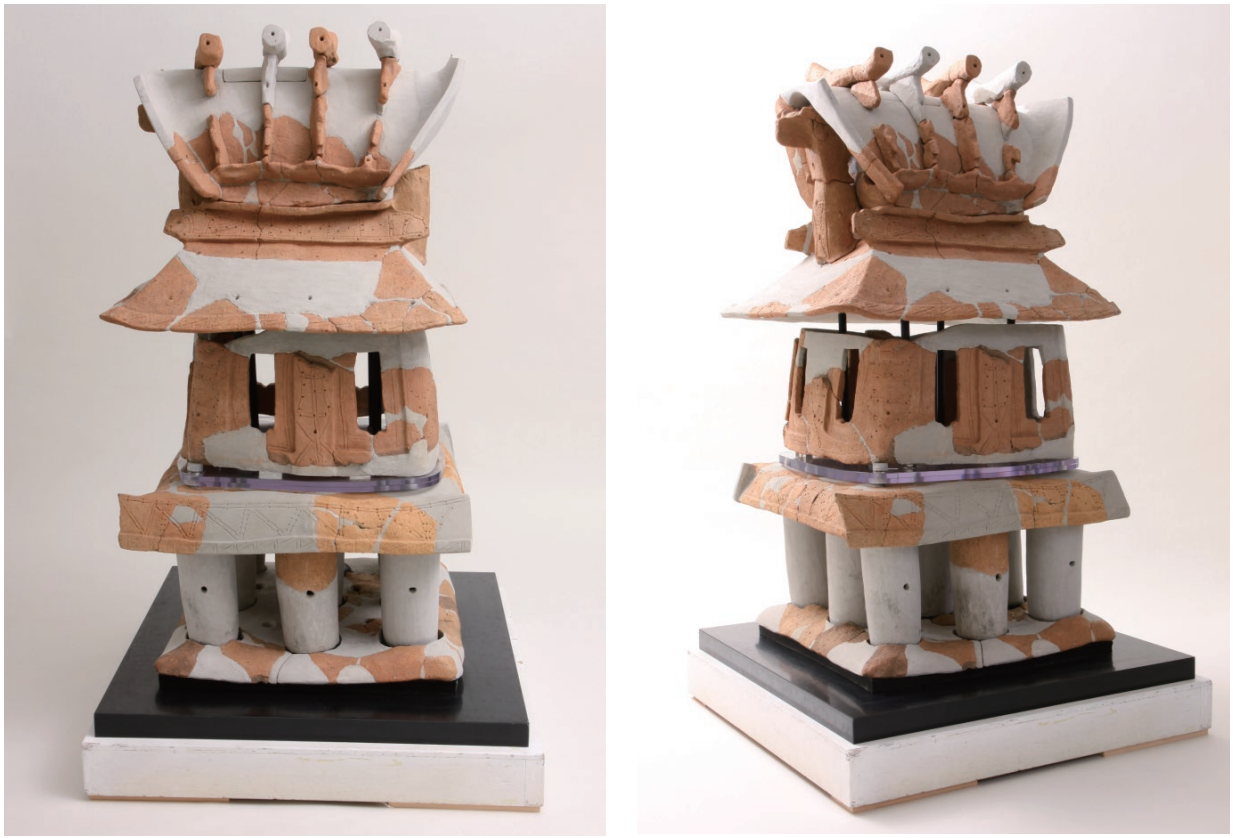


写真２　三分割焼成の家形埴輪　修理前状況（平成 23 年撮影）

写真３　胡籙形埴輪　保存修理完了状況（令和７年撮影）

写真４　胡籙形埴輪　修理前状況（平成 23 年撮影）

写真５　修理前の調査（家形埴輪・身舎）

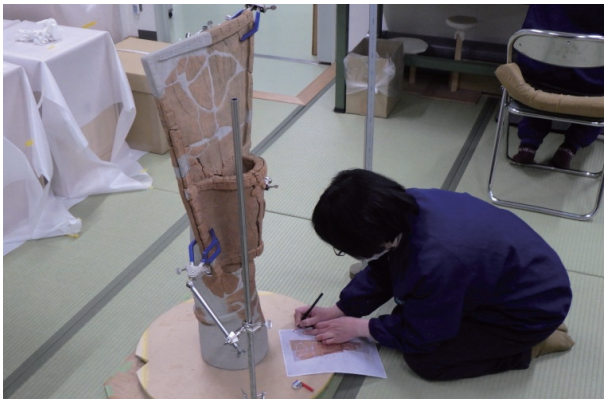


写真６　　修理前の調査（胡籙形埴輪）

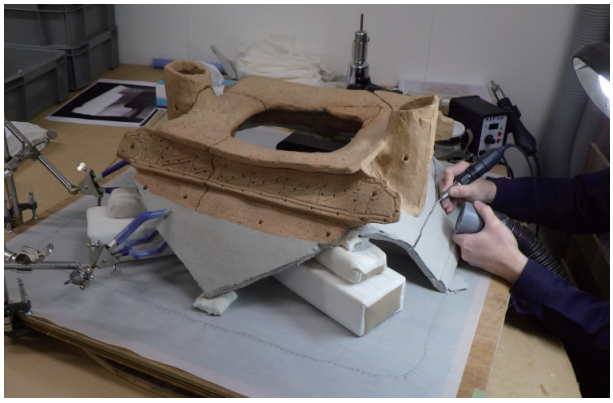


写真７　　解体（家形埴輪・下屋根）（１）

写真８　　解体（家形埴輪・下屋根）（２）

写真９　解体（胡籙形埴輪）（１）

写真 10　解体（胡籙形埴輪）（２）

写真 11　家形埴輪の基部と既存支持具の解体

写真 12　基部と既存支持具の密着状況

写真 13　細部の解体（家形埴輪・基部）

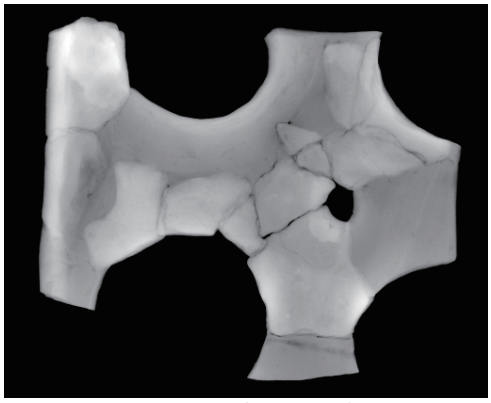


写真 14　X 線画像（家形埴輪・基部）

写真 15　細部の解体（家形埴輪・身舎）

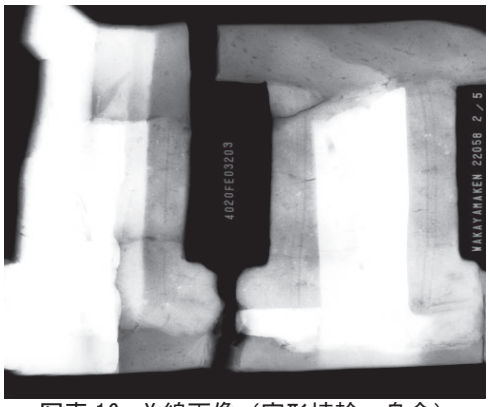


写真 16　X 線画像（家形埴輪・身舎）

写真 17　水洗いによるクリーニング（家形埴輪・身舎）

写真 18　強化処置（家形埴輪・身舎）

写真 19　接合検討（家形埴輪）

写真 20　文化庁協議における接合関係の確認

写真 21　破片の展開（家形埴輪・全景）

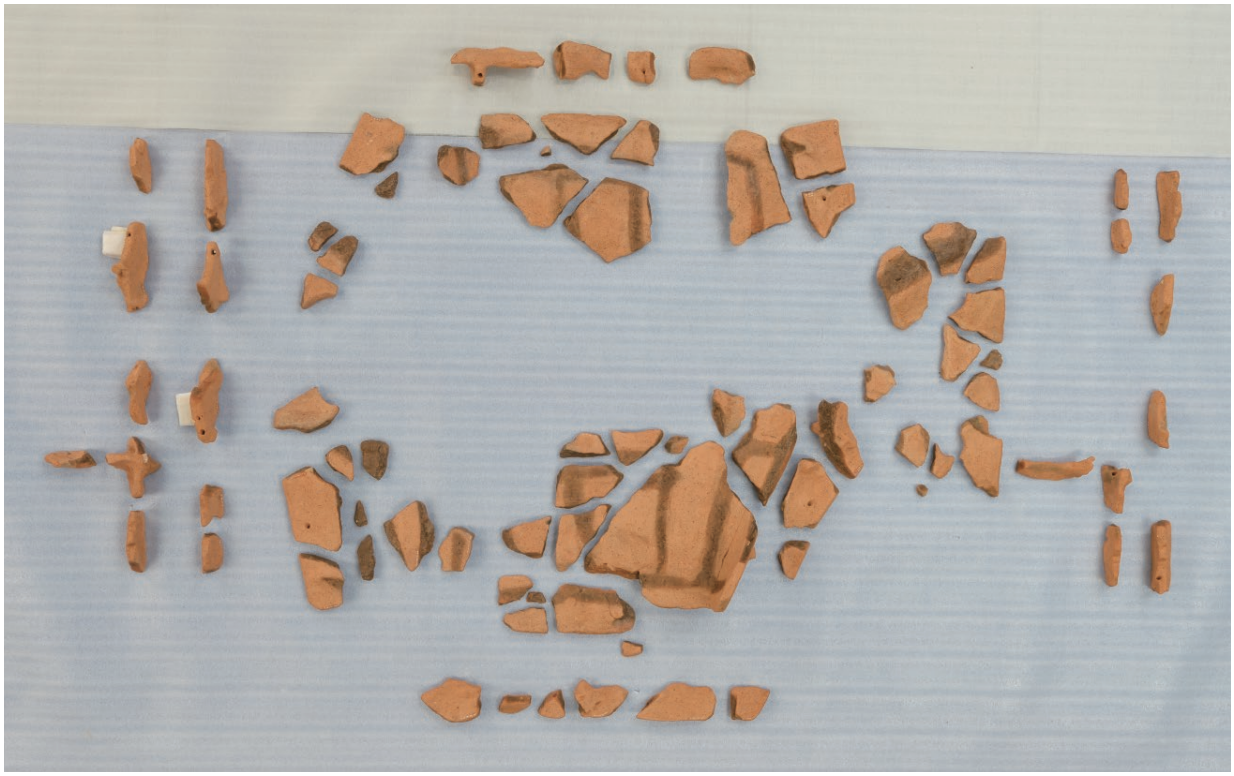


写真 22　　破片の展開（家形埴輪・上屋根）

写真 23　破片の展開（家形埴輪・下屋根・身舎）

写真 24　　破片の展開（家形埴輪・高床）

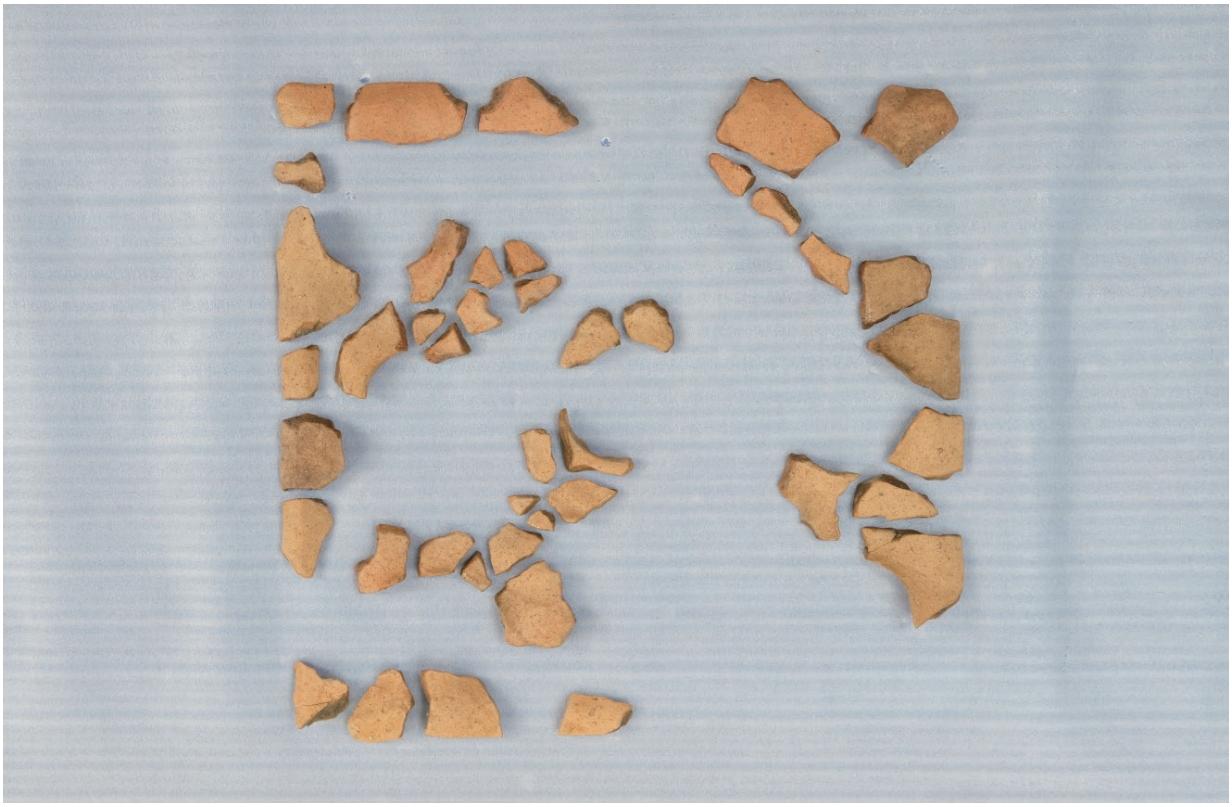


写真 25　　破片の展開（家形埴輪・基部）

写真 26　破片の展開（胡籙形埴輪）

写真 27　接合・復元（家形埴輪・上屋根）

写真 28　接合・復元（家形埴輪・下屋根）（１）

写真 29　接合・復元（家形埴輪・下屋根）（２）

写真 30　接合・復元（家形埴輪・身舎）

写真 31　接合・復元（家形埴輪・高床）（１）

写真 32　接合･復元（家形埴輪･高床）（２）

写真 33　接合・復元（家形埴輪・基部）

写真 34　接合・復元（家形埴輪・全景）

写真 35　有識者現地指導（令和５年度）（１）

写真 36　有識者現地指導（令和５年度）（２）

写真 37　千木と棟木の復元検討

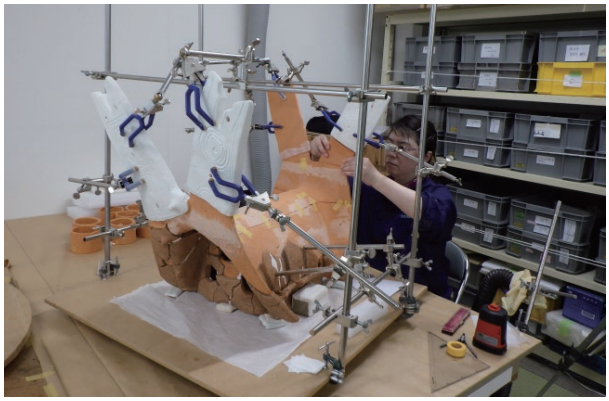


写真 38　千木の復元

写真 39　千木と堅魚木の復元

写真 40　棟覆の復元

写真 41　下屋根と身舎の接合・復元（１）

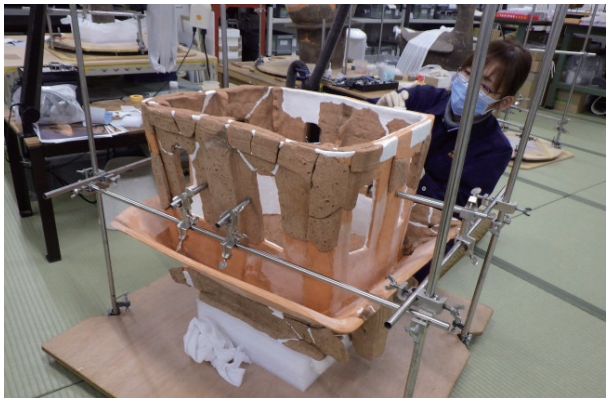


写真 42　下屋根と身舎の接合・復元（２）

写真 43　基部の復元

写真 44　基部と円柱下半の復元

写真 45　高床と円柱上半の復元

写真 46　高床の高さ及び円柱の傾きの検討（１）

写真 47　高床の高さ及び円柱の傾きの検討（２）

写真 48　円柱の復元

写真 49　高床・円柱・基部の復元

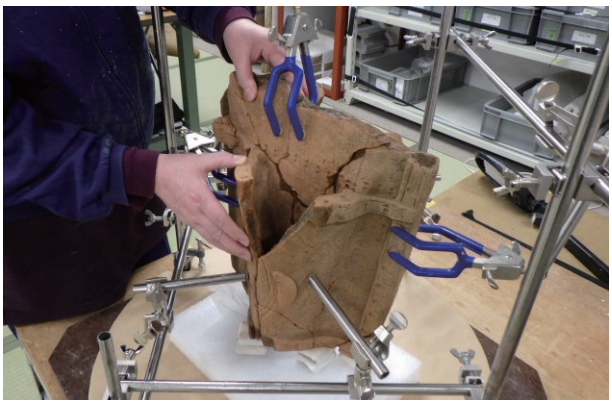


写真 50　接合・復元（胡籙形埴輪）（１）

写真 51　接合・復元（胡籙形埴輪）（２）

写真 52　接合・復元（胡籙形埴輪）（３）

写真 53　接合・復元（胡籙形埴輪）（４）

写真 54　文化庁協議（令和６年度第３回）

写真 55　補彩（家形埴輪）（１）

写真 56　補彩（家形埴輪）（２）

写真 57　写真撮影（１）

写真 58　写真撮影（２）

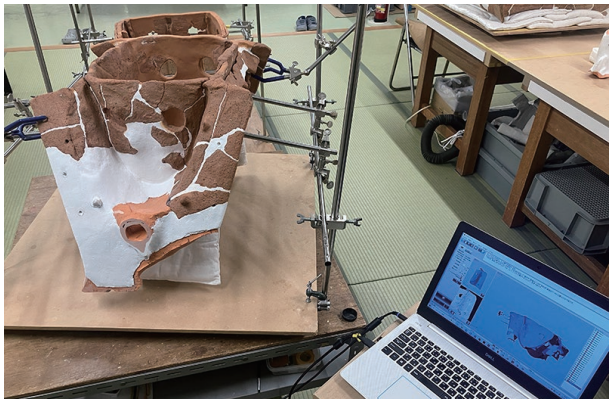


写真 59　三次元計測（家形埴輪）

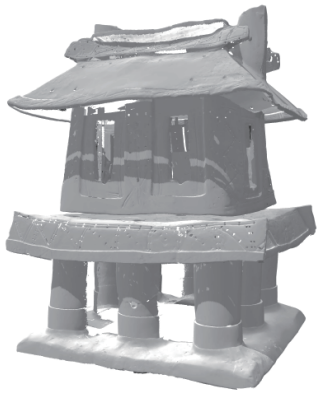


写真 60　三次元情報による位置関係検討

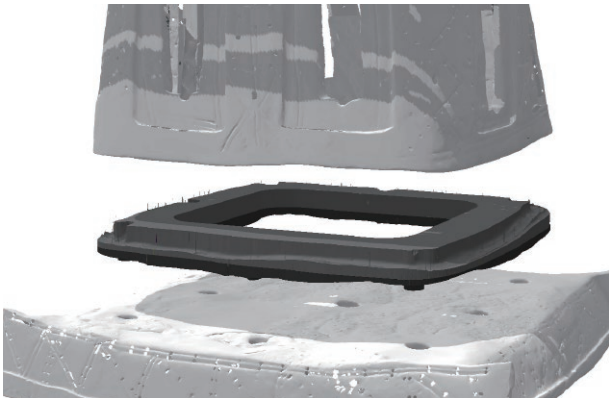


写真 61　三次元情報による中段支持具データ

写真 62　中段支持具用の切削品

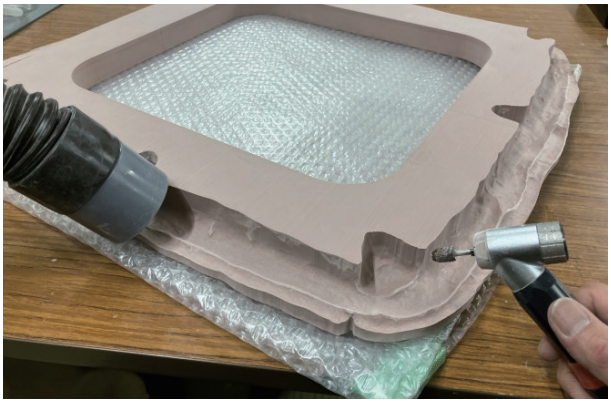


写真 63　切削品の微調整

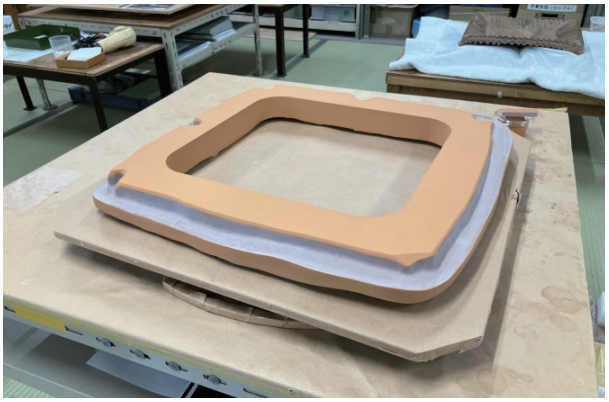


写真 64　切削品組上げ後の中段支持具

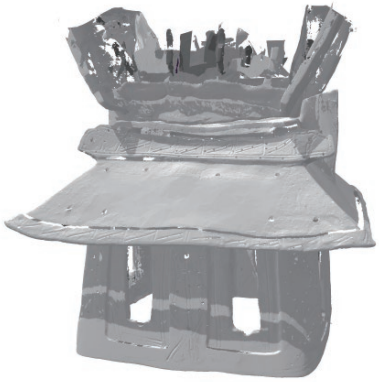


写真 65　三次元情報による位置関係の検討

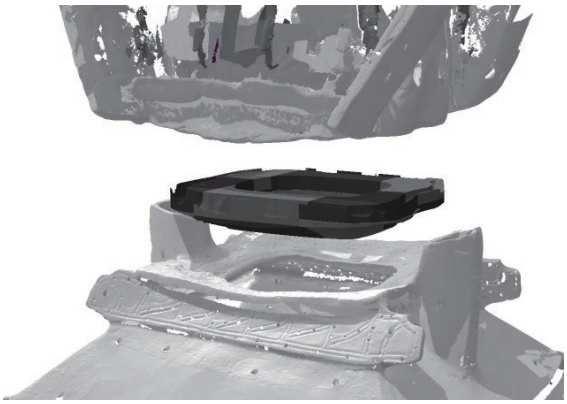


写真 66　三次元情報による上段支持具データ

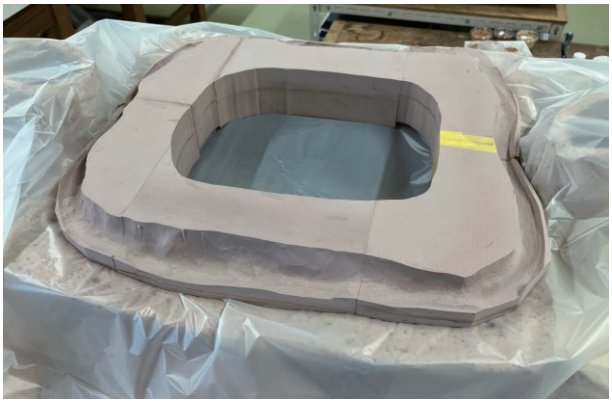


写真 67　上段支持具用切削品の組上げ

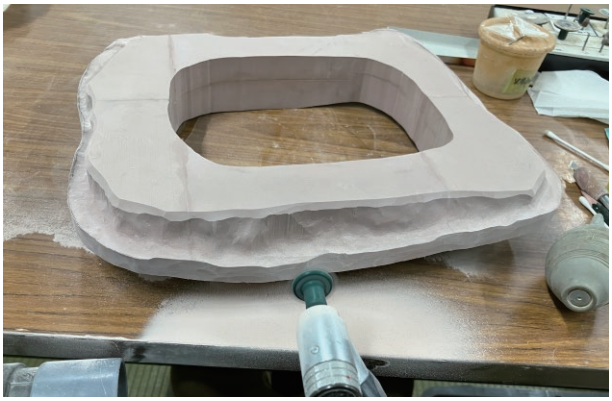


写真 68　切削品の微調整

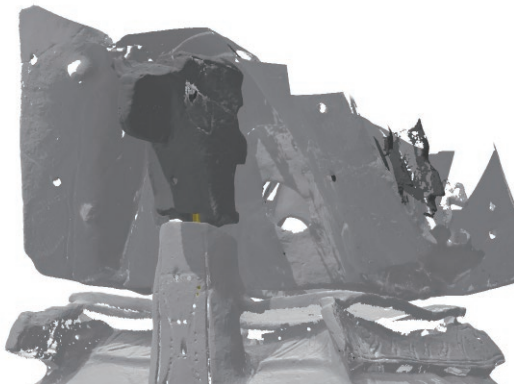


写真 69　三次元情報による棟持柱の位置関係の検討

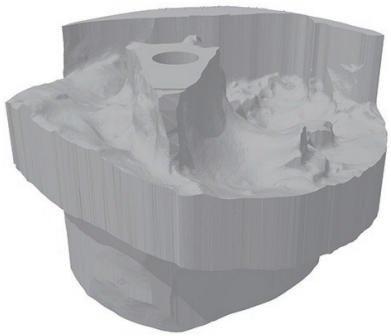


写真 70　三次元情報による棟持柱支持具データ作成

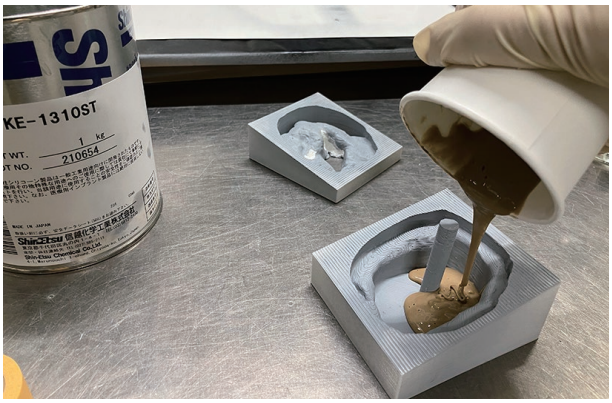


写真 71　棟持柱支持具のシリコーン樹脂注型

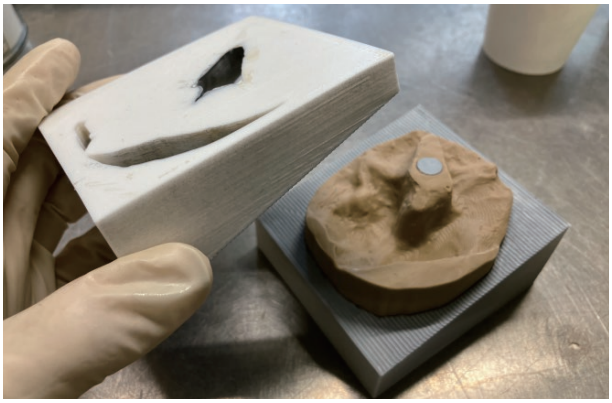


写真 72　シリコーン樹脂製支持具の脱型

写真 73　ステンレス製支持具の仮組

写真 74　ステンレス製支持具の組上げ

令和６年度　紀伊風土記の丘　年報　第 52 号
紀伊風土記の丘　研究紀要　第 12 号

発　行　日　令和８年３月 31 日
編集　発行　和歌山県立紀伊風土記の丘
和歌山市岩橋 1411
TEL 073-471-6123 ／ FAX 073-471-6120
印　　刷　株式会社おかだプリント